テキストの使い方と学習方法

はじめに

　このテキストは、これからパソコンを始める方、挑戦したけれど難しくて一度挫折した方に、楽しくわかりやすくパソコンをやっていただくように考えて作られたテキストです。

　１つ１つの操作に画像が付いているので、パソコン用語が分からなくても、操作できるようになっています。パソコン用語は理解できてから少しずつ覚えていきましょう。

テキストの学習にあたって

　まず、このテキストを使っていただくために、必ず下記のことは約束してください。そうでないとせっかく今からテキストを進めていただいても、身に付かず、時間の無駄になってしまいます。

●「実際の操作内容」の部分だけ操作する。マークや説明をしっかり見る

「完成例」は今から取り組む操作の確認です。
これだけを見ながら操作ができるわけではなく、完成例は操作後の状態を確認するものです。
このテキストでは覚えていただきたいことに、的を絞って説明していますので、
テキスト中のマークや説明を最低１回は読むように心がけましょう。
（テキスト内のマークの説明は次ページを参照してください。）

●操作は必ず順番に！　１回は操作しましょう

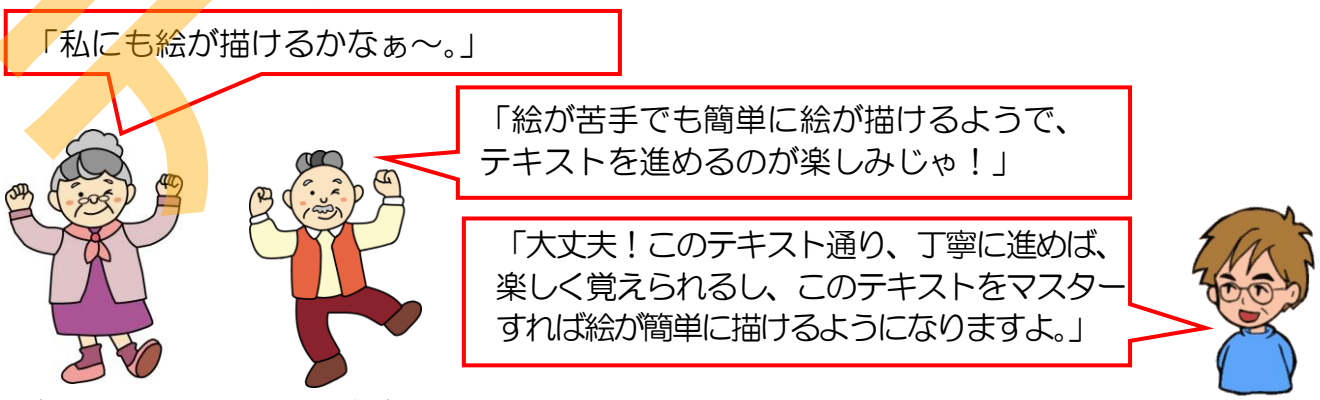
生徒様の中には、**ここはわかるから読み飛ばそうとされる方**や、**順番に書いてある操作を何個か飛ばして進めようとする方**がいらっしゃいますが、途中で操作がうまくいかず、大幅にやり直すことになります。パソコンは１つボタンが違ったり、必要な操作を飛ばしたり、１つ違う操作をするだけで全く違う結果になることがあります。１つ１つ丁寧に操作しましょう。

●わからないところをそのままにしない

パソコンを覚えるということは**「家づくり」**に似ています。１か所でもいい加減なところがあると欠陥住宅になり、家が倒壊するかもしれません。パソコンでもいい加減なところを作らず、わからないところをそのままにしないで繰り返しやってみたり、説明を読んだり、先生に聞いたりして学習し、各章ごとにある練習問題もしっかり取り組みましょう。

登場人物紹介

　このテキストには先生が１人と、中高年の方代表として生徒様が２人登場します。この３人と一緒にテキストを楽しくすすめていきましょう。



ウメさん
簡単なインターネットやメールはできるけど、ワードで絵を描くのは初めて。

タケさん
子供にパソコンを買ってもらったのがきっかけ。
パソコンは全くの初心者

くじら先生
「生徒さんに喜んでもらう、満足してもらう」がモットーのパソコンの先生

テキスト見本

テキスト内で使われているマークについて

1．（1）①などの見出し部分 ・・・・ここでは、これから行う操作がどういう意味を持った操作なのかを説明しています。

実際の操作内容 ・・・・実際に行う操作の方法を説明しています。

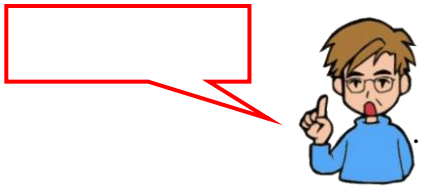
目標 ・・・・各操作で何を覚えてほしいかを説明しています。



・・・・・・・・・・・間違いやすい操作や、操作を行うにあたり特に注意してほしいことを説明しています。

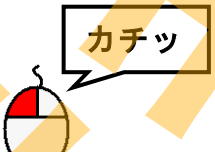
余裕があれば読んでね ・・・・・・・・パソコンの操作方法だけ覚えたい方は特に読む必要はありませんが、知っていると後々便利な情報や、役立つ情報を説明しています。

ご参考までに ・・・・・・・・パソコンを使っていると、こんな画面も表示される場合がありますよ。とか、こんな操作方法もありますよ。とか、学習に余裕があれば読んでいただければという情報を説明しています。


・・・・・くじら先生の吹き出し内は、各操作中のポイントや注意の中でも、特に読んで理解してほしい重要な箇所です。

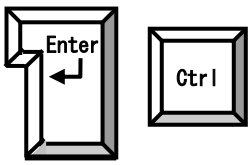
補足説明タイトル 参照ページ ・・テキストの流れには必要ありませんが、より詳しい内容の補足説明や別の操作方法を各章の最後に記載しています。余裕のない方は飛ばしていただいても大丈夫です。
（ただし各章ごとの練習問題で使う内容も若干含まれます。また、テキストをすべて終了されてから最後に読まれると、スキルアップにつながります。）

☆☆ここまでくれば練習問題○○で理解度を試してください。☆☆ ・・単元ごとの練習問題を用意しています。各単元での復習操作になりますので、単元ごとに理解度を試してください。このテキストでは全部で **5 ヶ所**あります。



・・・・・・・・・クリックの操作を行う箇所です。


・・・・・・・・・文字入力の操作を行う箇所です。



など ・・・・・・・・・該当するキーを入力する箇所です。
［Enter］キーや**［Ctrl］キー**以外のキー入力もありますので、マークと操作の指示に従ってください。

● **「クイックアクセスツールバー」**に**「新規作成」、「開く」、「クイック印刷」、「印刷プレビューと印刷」ボタン**が追加されていることを前提としています。（クイックアクセスツールバーのボタンの追加と削除は **P227** に表記しています）

●タッチパネルでの基本操作については、**P234** に記載しています。

非売品

このテキスト内で作成する絵の完成例

●テントウムシ



●テントウムシ（アート効果つき）

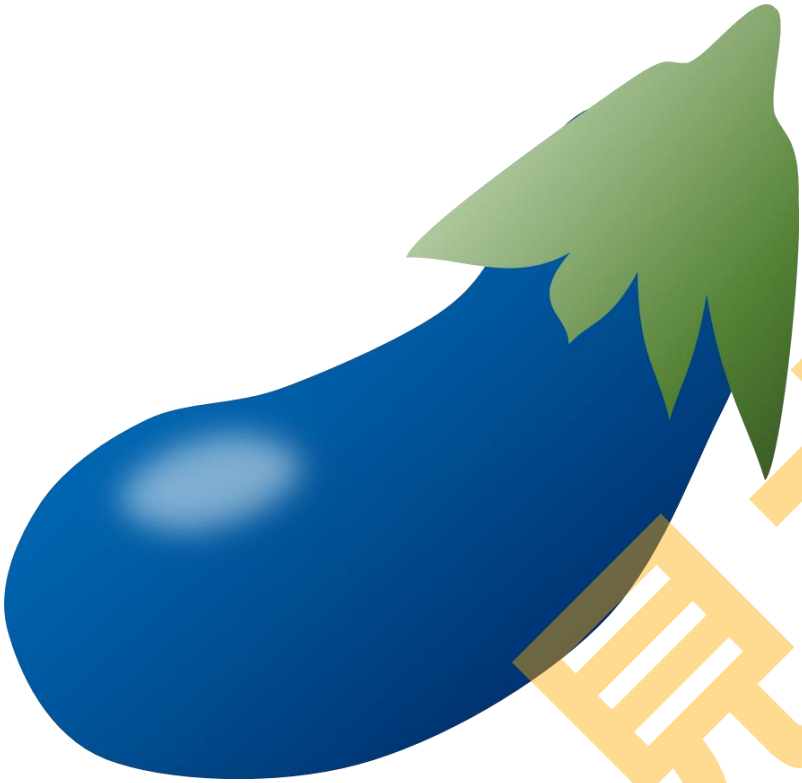


●お月さまと雲



本文テキスト

●なすび



●猫



本文と関係ない

目　次

1．ワードでおえかき……1
（1）ワードの機能を使って描いた絵……2
（2）テキストのあらすじ……3

2．図形の基本操作……5
（1）テントウムシの顔を描く……6
① 図形の挿入……6
② 図形の移動……9
③ 図形の削除……11
④ 元に戻す……13
⑤ 図形の塗りつぶし……14
⑥ 図形の枠線……16
⑦ 図形のコピー……19
⑧ 図形の回転……21
⑨ 図形のサイズ変更……25
⑩ 図形の変形……28
⑪ 図形の枠線の太さ……32
⑫ 図形のグループ化……34
（2）テントウムシの胴体を描く（図形の順序）……38
（3）テントウムシを保存……42
① ワードの保存……42
② 画像を PNG 形式で保存……47
●補足説明（その１）P54……54
●P40　図形を描きやすくする方法……54

3．アート効果で遊ぼう……55
（1）画像の挿入……56
（2）画像にアート効果を設定する……60
（3）ワードアートの挿入……64
（4）ワードアートにアート効果を設定する……70
●補足説明（その２）P75……75
●P60　アート効果一覧……75

4．図形の効果を利用して描く……76
（1）描きやすくするための準備……77
① 画面の設定……77
② 背景色の設定……80
（2）お月さまを描く……82
（3）お月さまに雲を描く……89
① ぼかしの設定……89
② 透明度の設定……91
（4）お月さまに星を描く……95
① 図形の効果の設定……95
② 書式のコピー……102
（5）背景を入れる（テクスチャ）……109

体験入門

5．線で描く 113
（1）ボタンの登録 114
（2）線を使ってなすびを描く 117
① なすびを描く（曲線） 117
② なすびの形を変更（頂点を使用） 121
③ なすびのへたを描く（フリーフォーム） 124
④ なすびのへたをなめらかに描く（頂点を中心にスムージングする） 127
⑤ なすびのへたをなめらかに描く（頂点を基準にする） 131
⑥ なすびのじくを描く（頂点の追加を使用） 136
⑦ なすびに色を塗る（グラデーションの設定） 141
●補足説明（その3）P155 155
●P139　頂点についての補足説明 155

6．写真を元に描く 156
（1）絵を描くための写真の挿入 157
（2）写真をもとに描きやすくするための準備（図形の既定値の変更） 164
（3）写真に沿ってふちどりする 168
① 始点と終点をつなげる（閉じたパス） 169
② 写真を非表示にする 174
③ カーテンを描く（頂点を中心にスムージングする） 179
④ カーテンを描く（頂点の位置をずらす） 183
⑤ オブジェクトに名前を付ける 190
（4）色を塗る 198
① ［選択］ウィンドウを活用して塗りつぶす 198
② その他の色（グラデーション）を利用して塗りつぶす 203
③ グラデーションの分岐点の追加 209
④ その他の色を利用して塗りつぶす 213
（5）仕上げ 218
① ［選択］ウィンドウを活用してグループ化する 218
② ［選択］ウィンドウを活用して図形を入れ替える 221
③ 挿入した写真を削除する 223
●補足説明（その4）P225～P226 225
●P160　色調の種類一覧 225
●P206　その他の色についての補足説明 226

◆クイックアクセスツールバーにボタンを追加・削除する 227

◆リボンの表示オプションの変更 229

◆テキストの手引き 230

◆タッチパネルの基本操作 234

◆索引 235

サンプル見本

1．ワードでおえかき

パソコンで絵を描くソフトもいろいろありますが、それらは、新たにソフトを購入しなければなりません。このテキストで紹介する「ワードでおえかき」は、皆さんがこれまで習ってこられたワードで絵を描くことができるので、とても手軽に始められます。



ワードって文書作成のソフトなのよね。絵も描けるの？

ウメさん



ワードで絵を描く？ってわしの中で結び付かんなぁ。

タケさん



ワードの中には、「図形」という機能があります。その「図形」を使って、絵を描いていきます。

くじら先生

ウ メ さ ん「なんだか難しそうだけど私にできるかしら・・・。」

タ ケ さ ん「そう言えば入門でペイントのソフトを使って絵を描いたなぁ。
あの時はパソコンを始めたばっかりで無我夢中で難しかったが、本当に簡単に絵が描けるのかのぉ～。」

く じ ら 先 生「このテキストは、簡単な操作からだんだん高度な事ができるように順序立てて作られているので、心配されなくても大丈夫ですよ。」

本配布テキスト

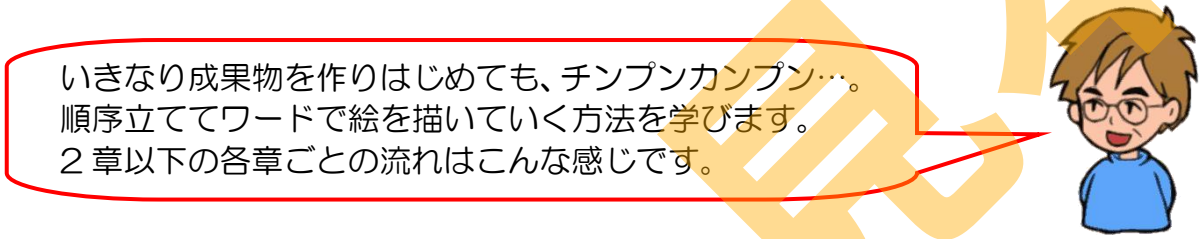
（１）ワードの機能を使って描いた絵



（２）テキストのあらすじ

このテキストでは、図形を使って**「テントウムシ」**、ぼかしなどの図形の効果を使った**「月と雲」**、図形の線を使って**「なすび」**、最後に総まとめとして写真を利用した**「猫」**を順番に描いていきます。
だんだんと難しくなっていきますが、１つ１つの積み重ねでどんどん成果物を作り上げていただきます。難しそうと思われるかもしれませんが、**このテキストは初心者の方、中高年の方のためにわかりやすく、やさしく書いています**から安心して読み進めていきましょう。
テキストを読み進めていくうちに、どうしてこんな機能を覚えなければいけないの？ と思われたら、**目次とともにこのあらすじも読み直してください。**

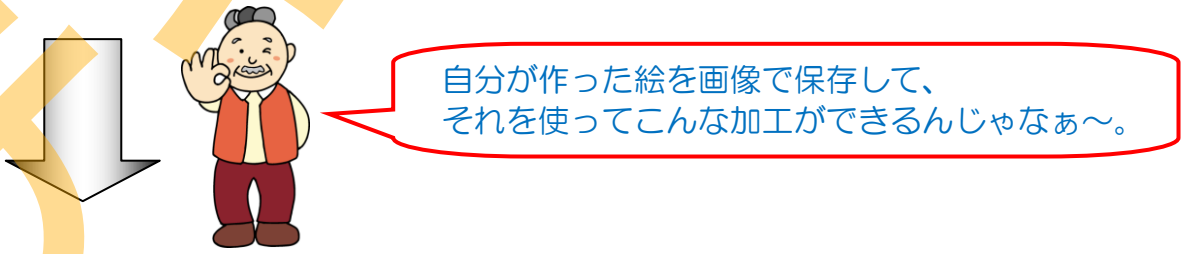
●テキストの流れ



２．図形で**「テントウムシ」**を描く



３．画像として保存したデータで**「アート効果」**を使い、画像を変更してみよう



体験版テキスト

4．図形の効果で「月と雲」を描く



ぼかしや、光彩など、さまざまな効果を付けることで絵が輝くのね～。

5．線を使って「なすび」を描く

ちょっと難しくなってきたけどコツをつかめばできるようになるんじゃなぁ～。



6．まとめとして写真を利用して「猫」を描く



写真を利用して猫が描けるなんて思わんかったのぉ～。



下書き

２．図形の基本操作

【テントウムシ 完成例】



図形で絵が描けるの？



タ ケ さ ん「本当に、図形で絵が描けるんかの？」

くじら先生「はい、描けますよ。もともと用意されている丸や四角の図形だけでも、結構いろいろな絵を描くことができるんです。」

ウ メ さ ん「このテントウムシって、図形だけでできているのかしら？」

くじら先生「そうですよ。簡単な図形を使っただけでも絵が描けるんです。」





本文イメージ

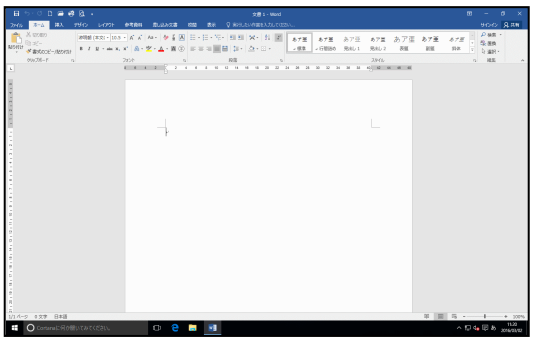
（１）テントウムシの顔を描く

① 図形の挿入

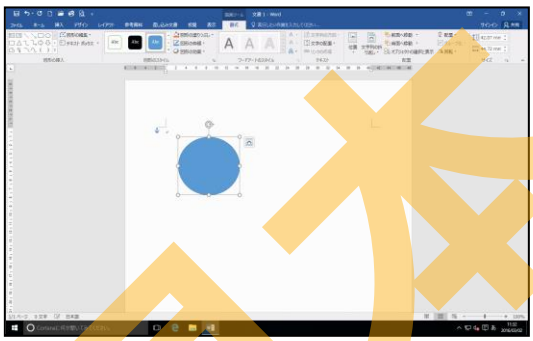
ここではテントウムシの顔の部分にあたる正円を描きます。

◆図形を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前

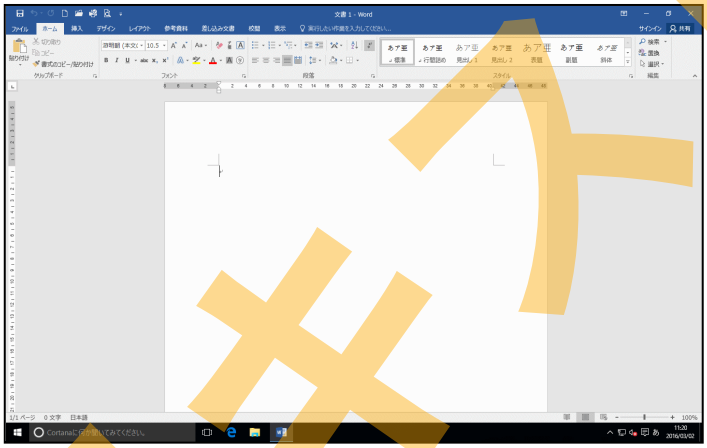


操作後

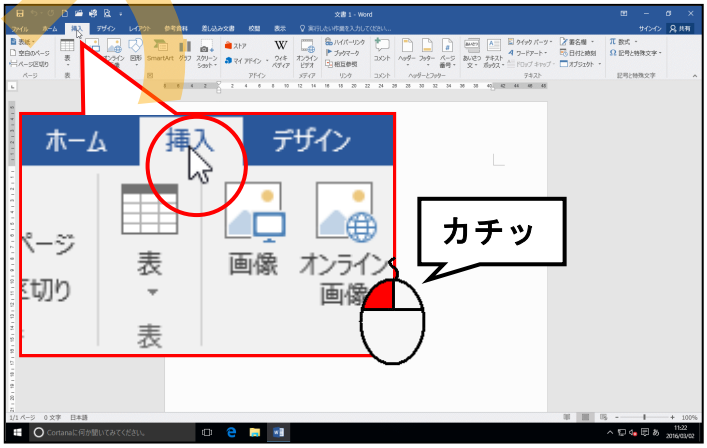




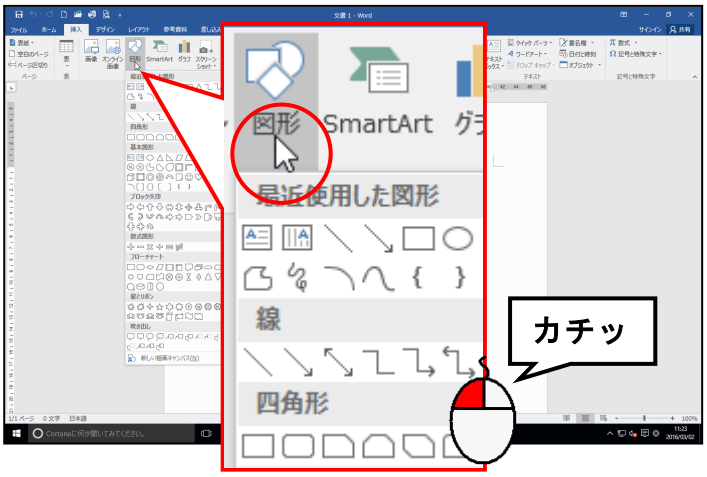
ワードを起動します。



［挿入］タブにポイントし、クリックします。



［図］グループにある［図形］ボタンにポイントし、クリックします。

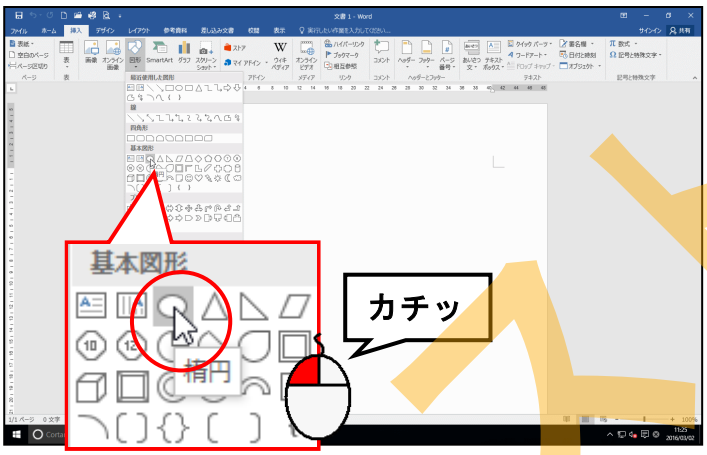


●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）



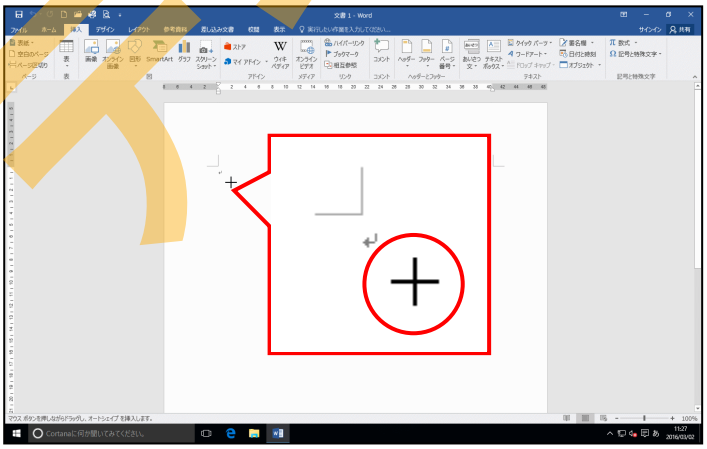


「基本図形」の［楕円］にポイントし、クリックします。



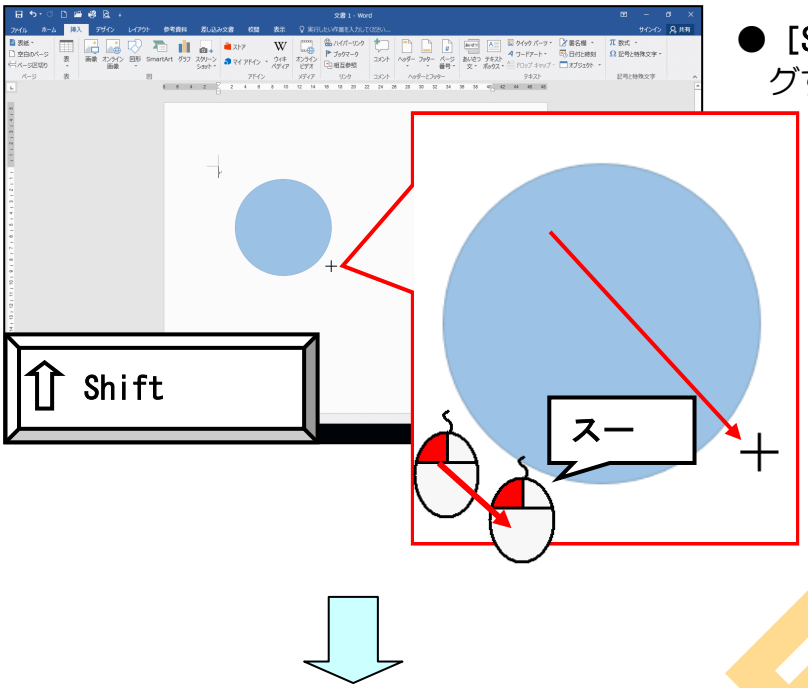
●図形一覧の［**最近使用した図形**］に「**楕円**」があれば、そちらをクリックしていただいても構いません。



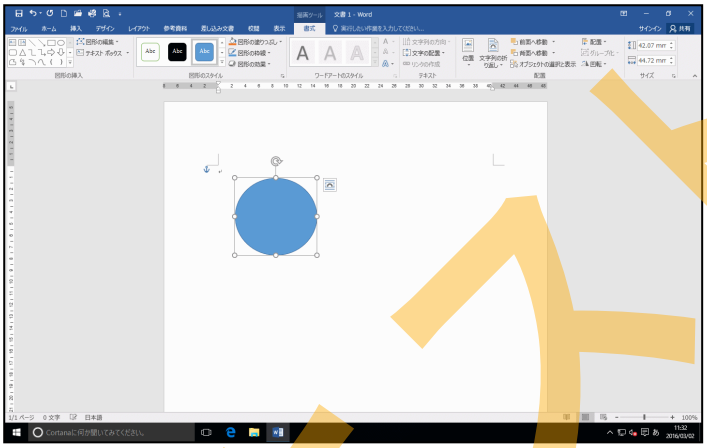


● ［**楕円**］**ボタン**をクリックすると、マウスポインターが ＋ の状態に変わります。

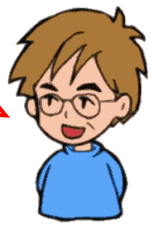
［Shift］キーを押しながら、右下に向かってドラッグします。



● ［Shift］キーを押しながらドラッグすると、正円が描けます。



テントウムシの顔を描くために、図形の楕円を使って、円を描きました。
ですが、このままの位置だと、この後テントウムシの体が描きにくくなってしまいます。
次のページからは、描いた図形を移動してみましょう。



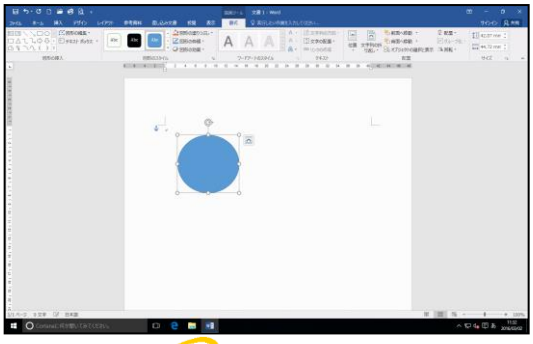
本試験対応

② 図形の移動

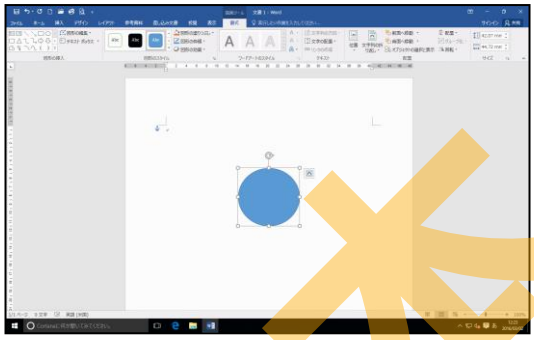
先ほど描いた円を、右下へ移動します。

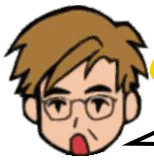
◆図形を移動する方法をマスターしましょう。

操作前



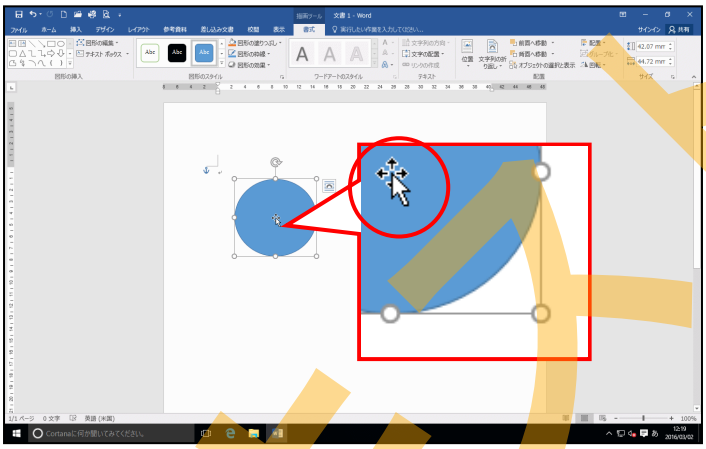
操作後





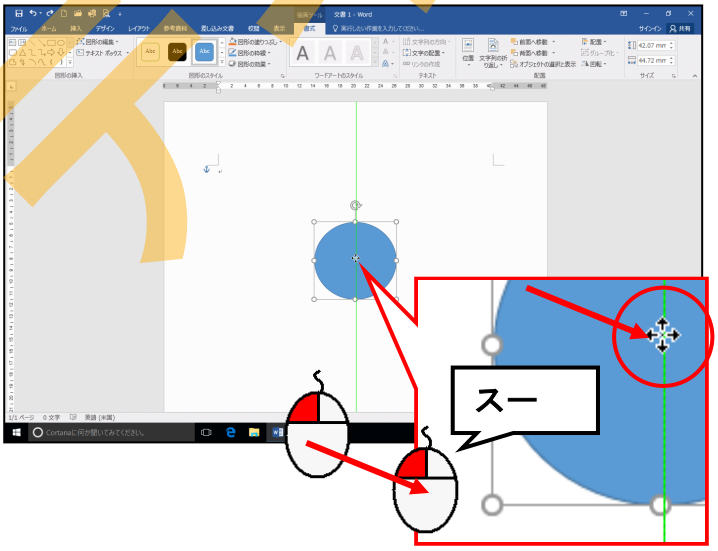
操作は下からです！

先ほど描いた円にポイントします。



●円にポイントすると、マウスポインターが ✥ に変わります。

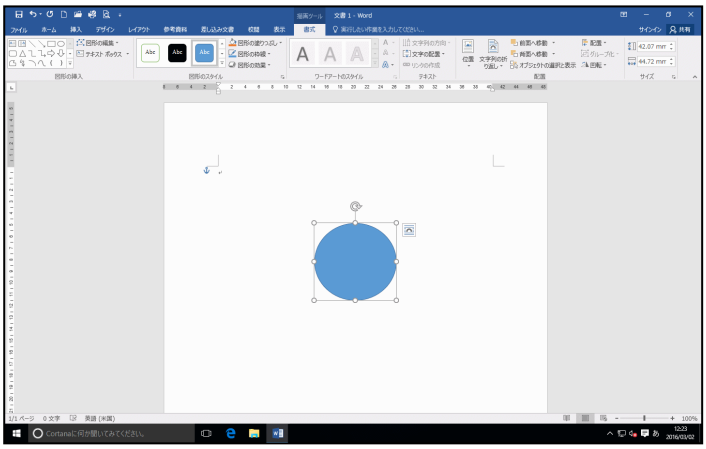
下の図を参考に、右下方向へドラッグします。



●マウスの左ボタンを押した段階ではマウスポインターは ✥ のままですが、図形を移動し始めると、マウスポインターが ✥ の形に変わります。

●左の黄緑色の線を**「配置ガイド」**といい、図形などを移動したり、サイズ変更をすると表示されます。配置ガイドはさまざまな場所で表示され、今回はページの左右中央に図形が配置されているので表示されています。中心に持っていきたい場合など目安になって便利です。

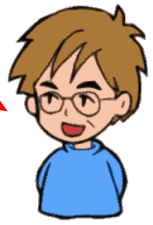
体験版



余裕があれば読んでね

●図形を上下左右に少しずつ動かしたい時は、**[→]、[←]、[↑]、[↓]キー**を押すと、図形の移動がスムーズにいきます。

テントウムシの顔を移動してみました。うまく移動できましたか？
移動の操作は、これからずっと使いますので、ここでマスターしておきましょう。
次は、描いた図形を削除してみましょう。



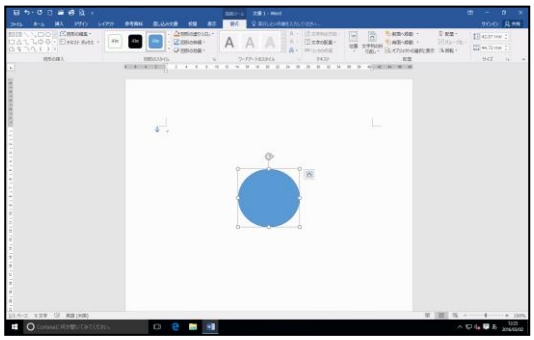
本テキスト

③ 図形の削除

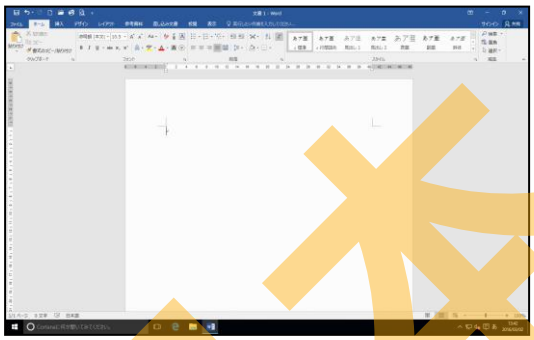
図形を多く描きすぎたり、いらなくなった場合に図形を削除する方法です。今回は、先ほど描いたテントウムシの顔を、削除してみましょう。

◆図形を削除する方法をマスターしましょう。

操作前

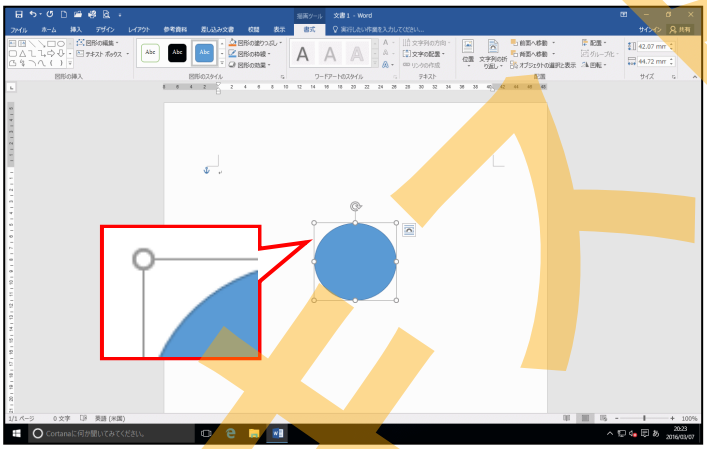


操作後





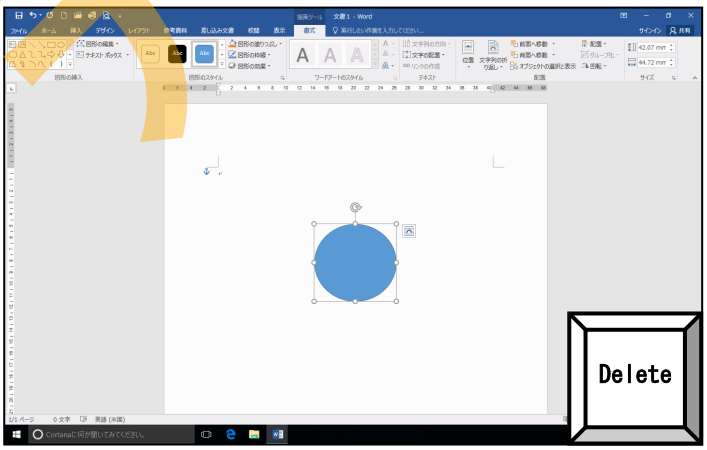
円が選択されていることを確認します。



●図形を削除する時は、削除したい図形を選択しておかないと削除できません。

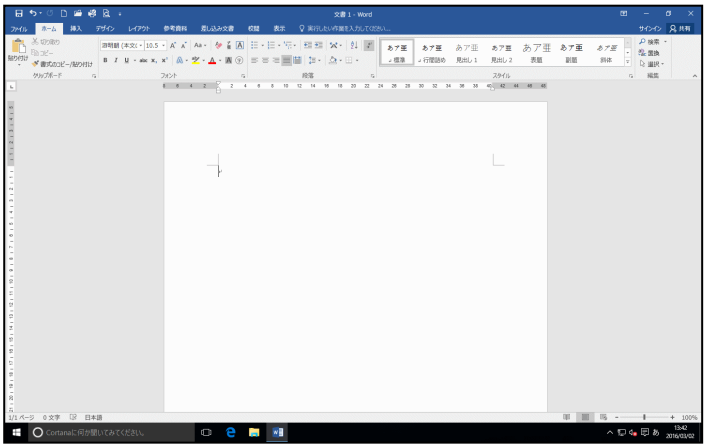
●図形が選択されていない方は、図形をクリックして選択しておきましょう。

図形が選択された状態で、キーボードの［Delete］キーを押します。



●図形が選択されている状態なら、**［Back Space］キー**を押しても、同じ結果になります。

仮配布



●選択した図形が削除されました。



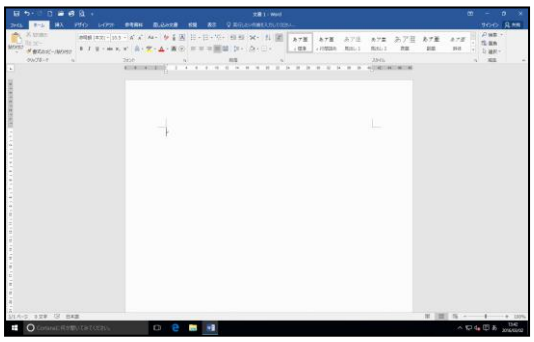
体験版

④ 元に戻す

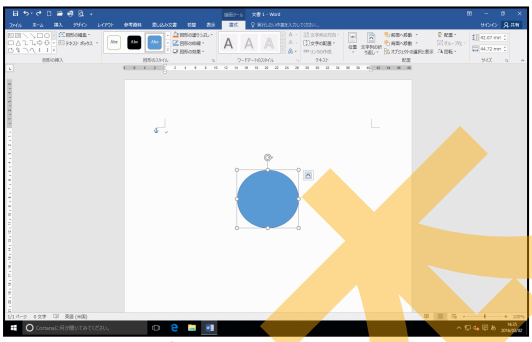
ひとつ前の操作に戻してみましょう。

◆元に戻す方法をマスターしましょう。

操作前

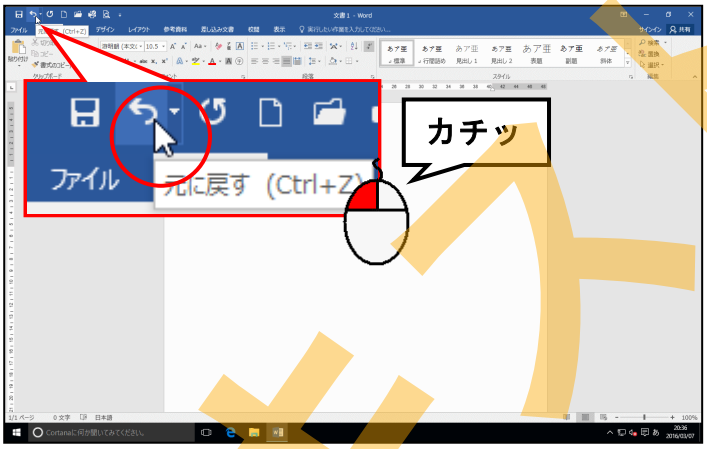


操作後

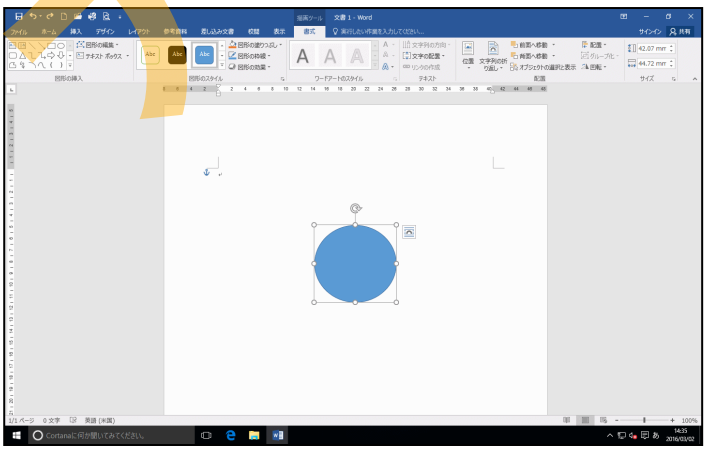




画面左上にある [元に戻す] ボタンにポイントし、クリックします。



●間違えて右横の **[繰り返し] ボタン**を押さないように注意しましょう。



今回は、「図形を削除した」ので、図形を削除する前に戻りました。このボタンを使うと、「図形を移動する」前や、「塗りつぶしの色を変える」前など、色々な操作を戻すことができます。失敗したなと思われた時は、このボタンを使いましょう。
ただし、**[元に戻す] ボタン**がグレーになっている状態のときは、それ以上元に戻せませんので注意してください。



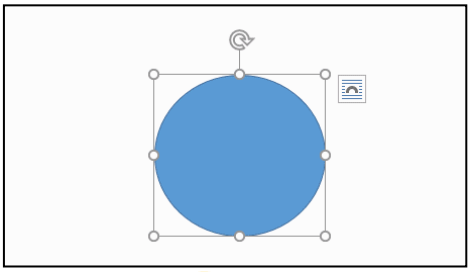
体験用

⑤ 図形の塗りつぶし

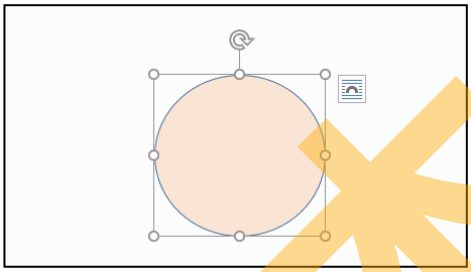
図形には色を設定することができます。ここでテントウムシの顔に色を設定してみましょう。

◆図形を塗りつぶす方法をマスターしましょう。

操作前

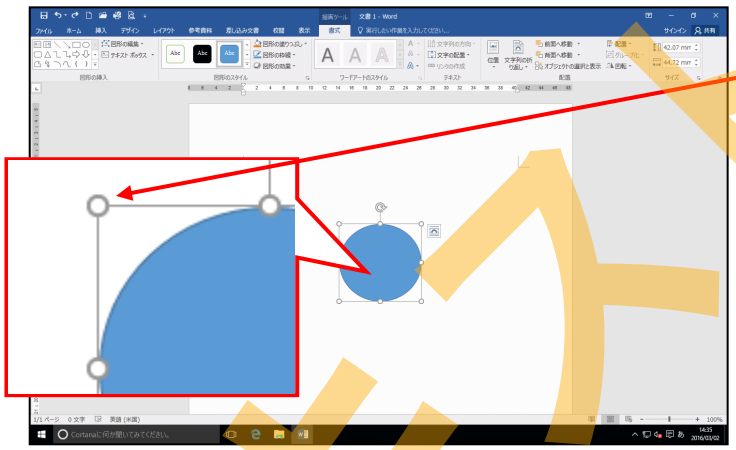


操作後





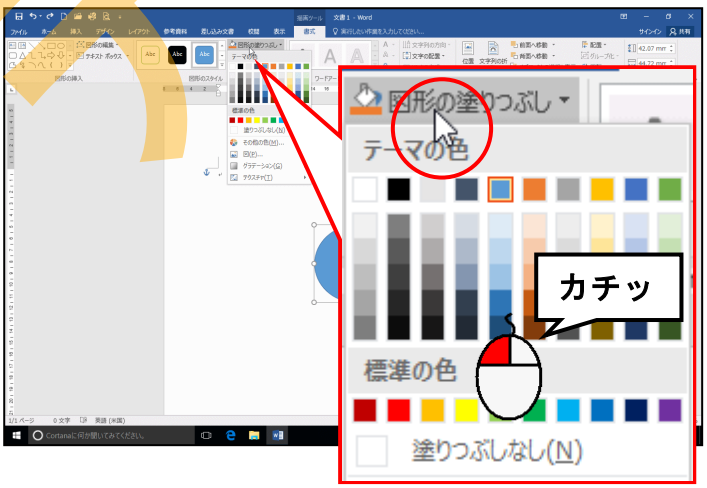
円が選択されていることを確認します。



●円が選択されていると、図形の周りに ○（**サイズ変更ハンドル**）が表示されます。左のようになっていない方は、図形をクリックして、選択しておきましょう。

●円に限らず、テキストボックス以外の図形は、最初に描いた時に、図形の塗りつぶしの色が青色になっています。

［図形のスタイル］グループにある 図形の塗りつぶし **［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。**



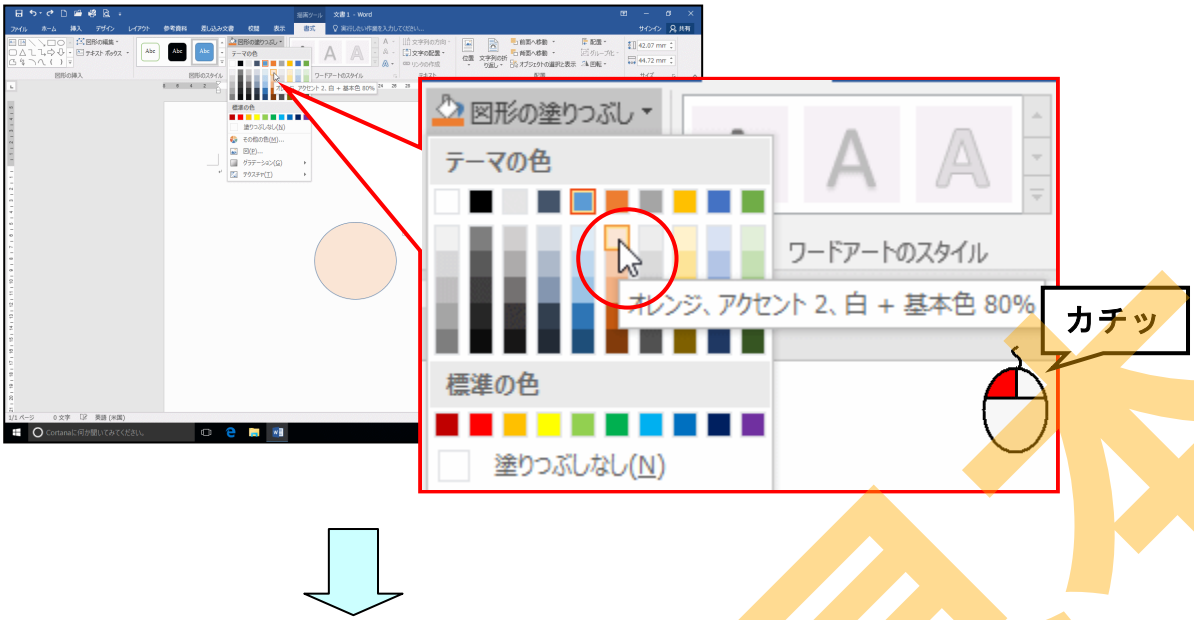
注意!

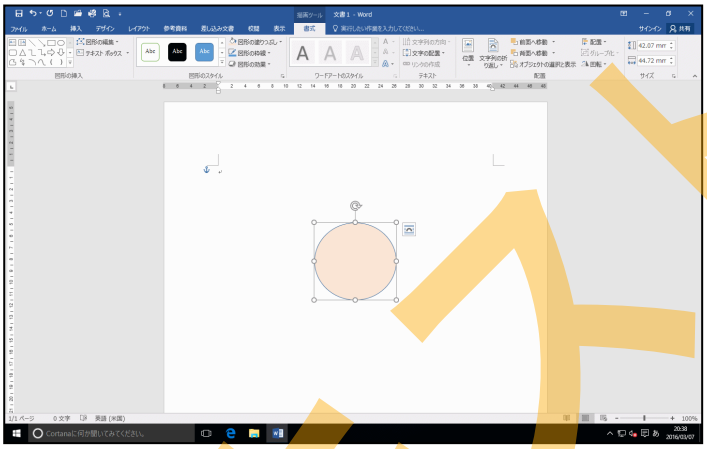
●［描画］ツールの［書式］タブが選択されていることを確認してから操作してください。選択されていない方は、画面中央上の［書式］タブをクリックしてください。

● をクリックすると、色の選択ができないので、図形の塗りつぶし をクリックしましょう。

体験版

表示された色の一覧から「オレンジ、アクセント 2、白＋基本色 80%」にポイントし、クリックします。





●図形の塗りつぶしの色が変わりました。

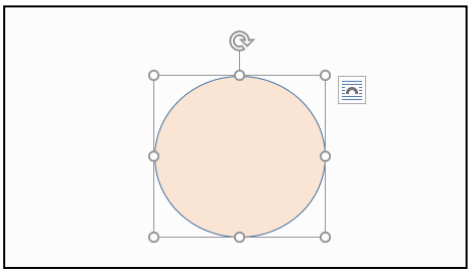
見本テキスト

⑥ 図形の枠線

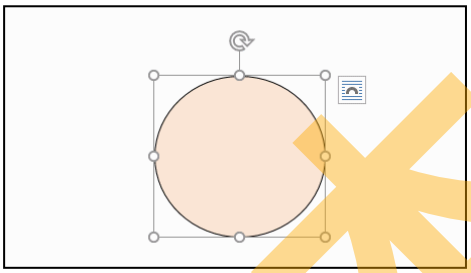
図形の枠線（ふちの色）も色を設定することができます。ここではテントウムシの顔の枠線の色を変更しましょう。

◆図形の枠線の色を設定する方法をマスターしましょう。

操作前

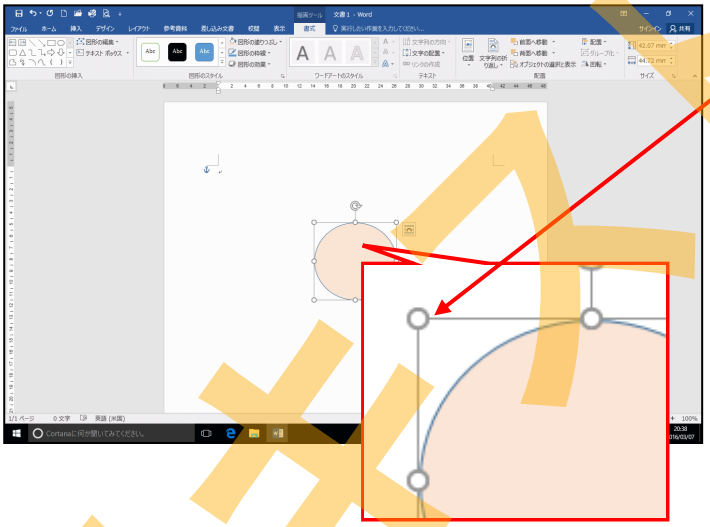


操作後



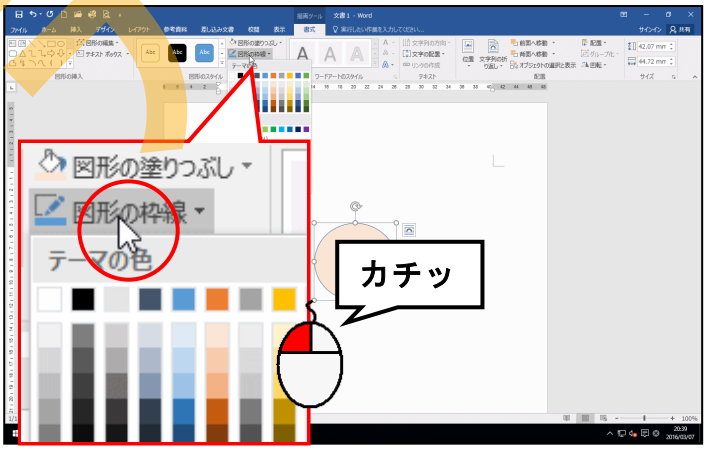


円が選択されていることを確認します。



●円が選択されていると、図形の周りに ○（**サイズ変更ハンドル**）が表示されます。左のようになっていない方は、図形をクリックして、選択しておきましょう。

［図形のスタイル］グループにある 図形の枠線 **［図形の枠線］ボタンにポイントし、クリックします。**



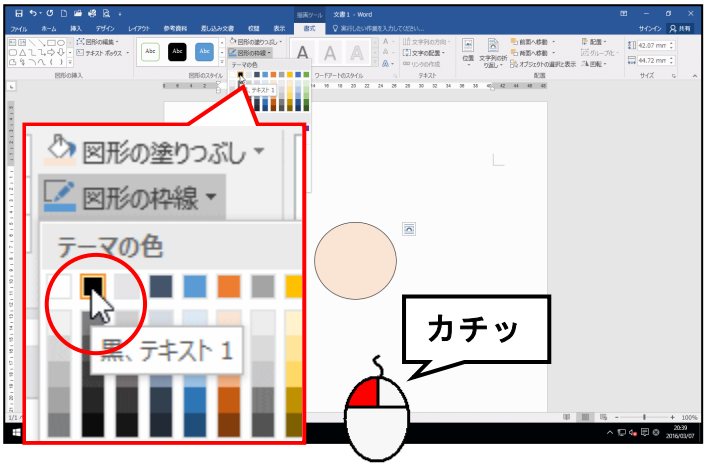
注意!

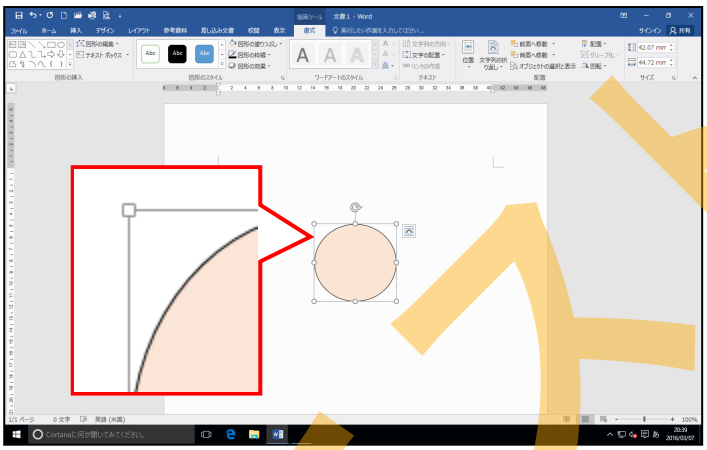
●**［描画］ツール**の**［書式］タブ**が選択されていることを確認してから操作してください。選択されていない方は、画面中央上の**［書式］タブ**をクリックしてください。

● をクリックすると、色の選択ができないので、図形の枠線 をクリックしましょう。

見本

表示された色の一覧から「黒、テキスト 1」にポイントし、クリックします。



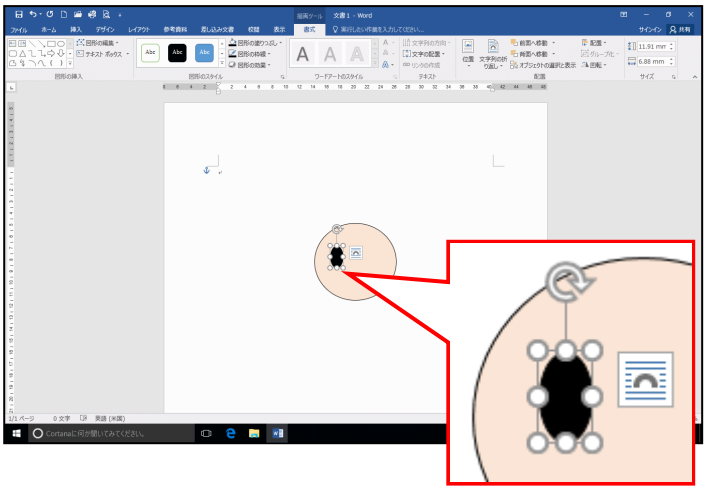


●図形の枠線の色が変わりました。

本試験イメージ

●次の操作の準備として、「テントウムシ」の左目と左頬の図形を描いておきましょう。

下の画面と同じように、テントウムシの左目を描き、図形の塗りつぶしの色を「黒、テキスト 1」に、図形の枠線の色を「黒、テキスト 1」に設定しましょう。

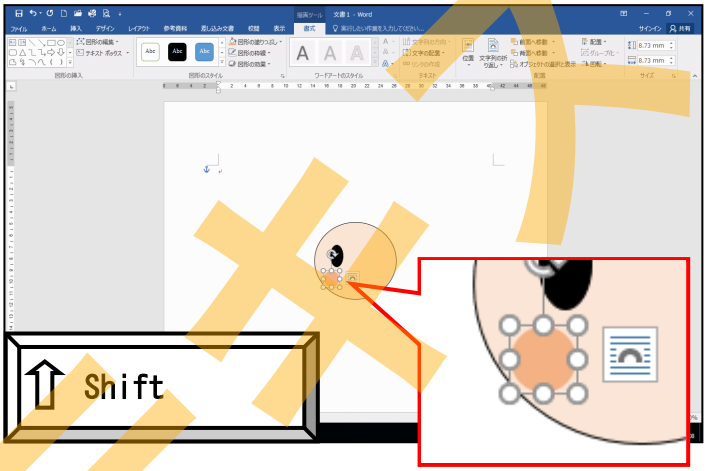


●図形の描き方を忘れた方は、P6 ① **図形の挿入**を参照してください。

●図形の塗りつぶしの設定方法を忘れた方は、P14 ⑤ **図形の塗りつぶし**を参照してください。

●図形の枠線の設定方法を忘れた方は、P16 ⑥ **図形の枠線**を参照してください。

下の画面と同じように、[Shift] キーを押しながらテントウムシの左頬を描き、図形の塗りつぶしの色を「オレンジ、アクセント 2、白＋基本色 40%」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。



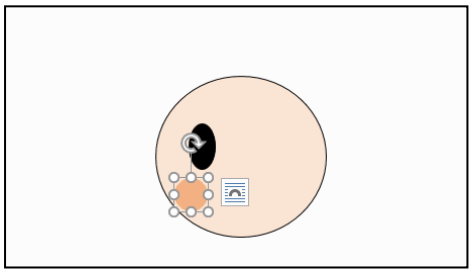
●**[Shift] キー**を押しながら左頬を描くのは、正円にするためです。

⑦ 図形のコピー

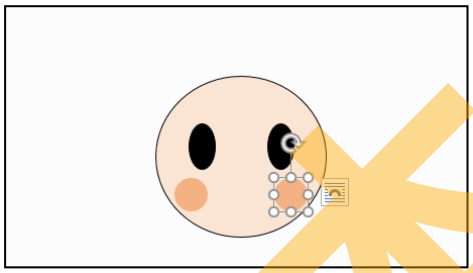
描いた図形と同じものを作成したいという場合は、図形をコピーすると便利です。
ここではテントウムシの目を右側にコピーしてみましょう。

◆図形をコピーする方法をマスターしましょう。

操作前

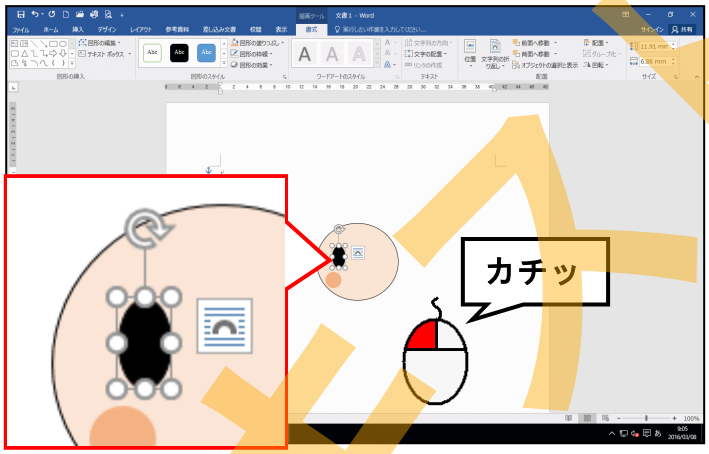


操作後





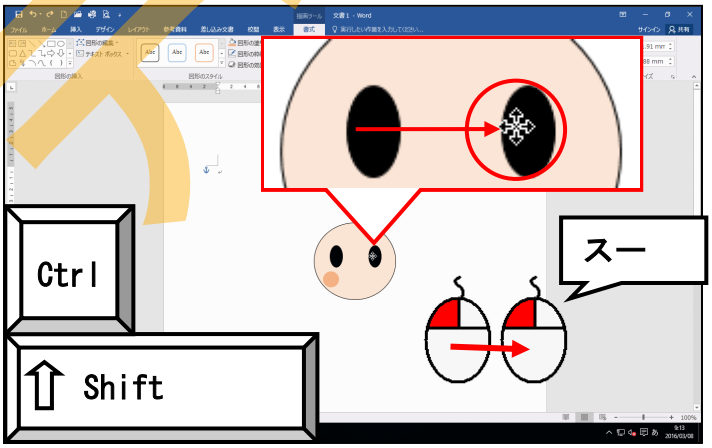
テントウムシの目にポイントし、クリックします。



●目の上にポイントすると、マウスポインターは の形になります。

●クリックすると、テントウムシの目が選択されます。

[Ctrl] キーを先に押し、続けて [Shift] キーを押しながら、右へドラッグします。



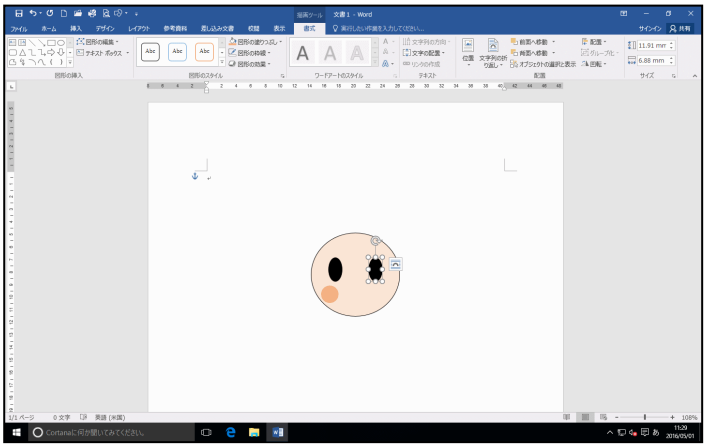
●単にコピーをするだけなら、**[Ctrl] キー**を押した状態でドラッグするだけで結構です。

● **[Shift] キー**を押すと、水平、垂直に図形をコピーできます。

●図形をコピーするときは、マウスの左ボタンを押すより先に **[Ctrl] キー**を押す必要があります。

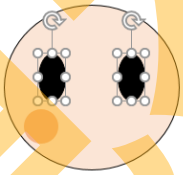


体験版

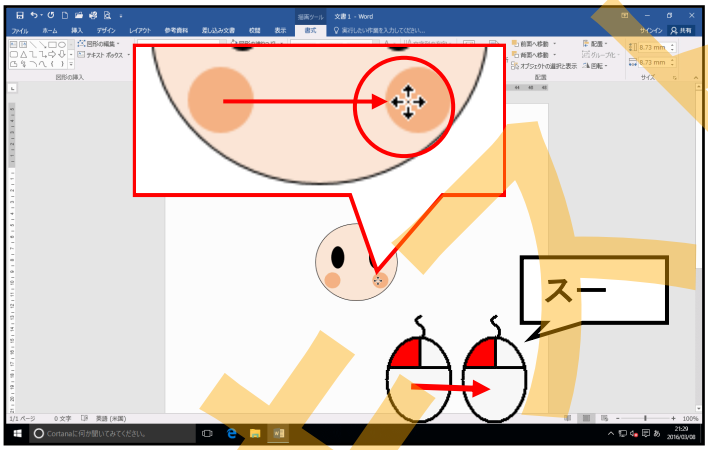


注意!

●図形を選択し（下図の場合は目）、**[Ctrl]キー**を押した状態でドラッグしてコピーする際、コピー後、下図のようにコピー元の図形も選択された状態の場合があります。その場合は、コピー後、図形の外でクリックして選択を解除してから次の操作に移りましょう。



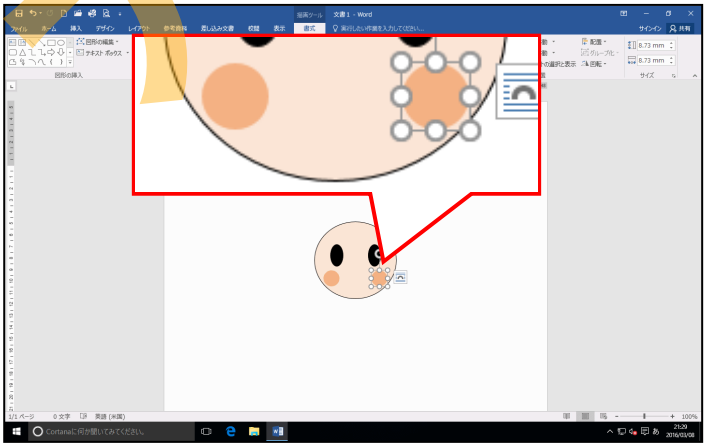
同様に、テントウムシの頬もまっすぐ右へコピーしましょう。



● **[Ctrl] キー**を押した状態で **[Shift] キー**を押すと、水平、垂直に図形がコピーできます。

余裕があれば読んでね

● **[Ctrl] キー**を押しながら **[D] キー**を押しても同じ操作になります。

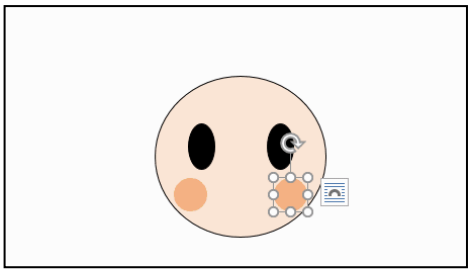


⑧ 図形の回転

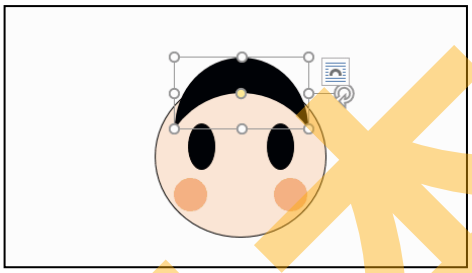
図形は回転することができます。最初に月の図形を挿入すると縦向きになります。
ここでは、テントウムシの頭の上に横向きにのせるために、**「月」**を回転させてみましょう。

◆図形を回転する方法をマスターしましょう。

操作前

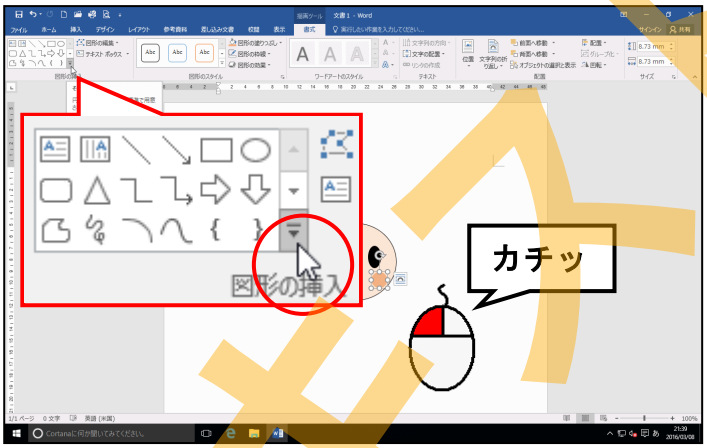


操作後



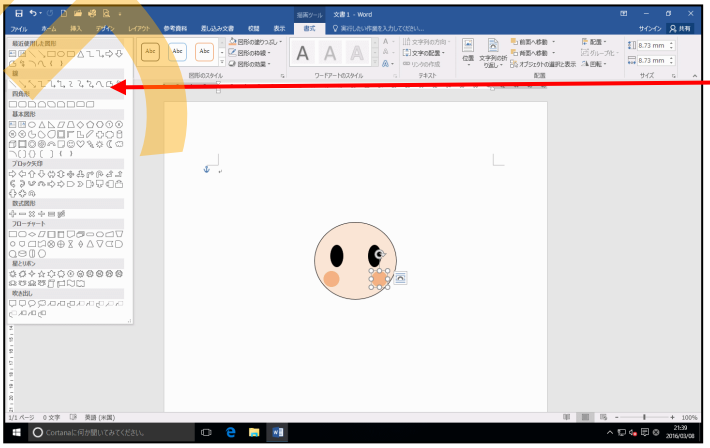


［図形の挿入］グループにある［その他］ボタンにポイントし、クリックします。



●P6 ① **図形の挿入**と同じように、**［挿入］タブ**の **［図形］ボタン**から目的の図形をクリックしても構いません。

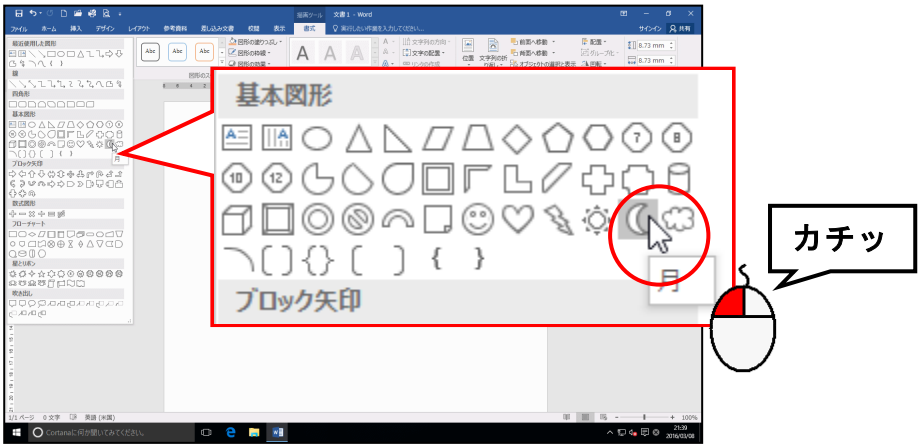
●ここからは、回転するための図形を作成します。

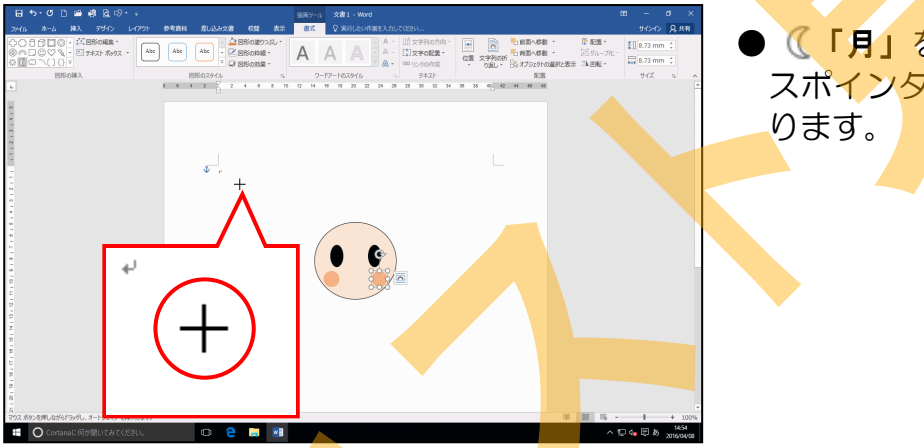


● **［その他］ボタン**をクリックすると、図形の一覧が表示されます。

本配布

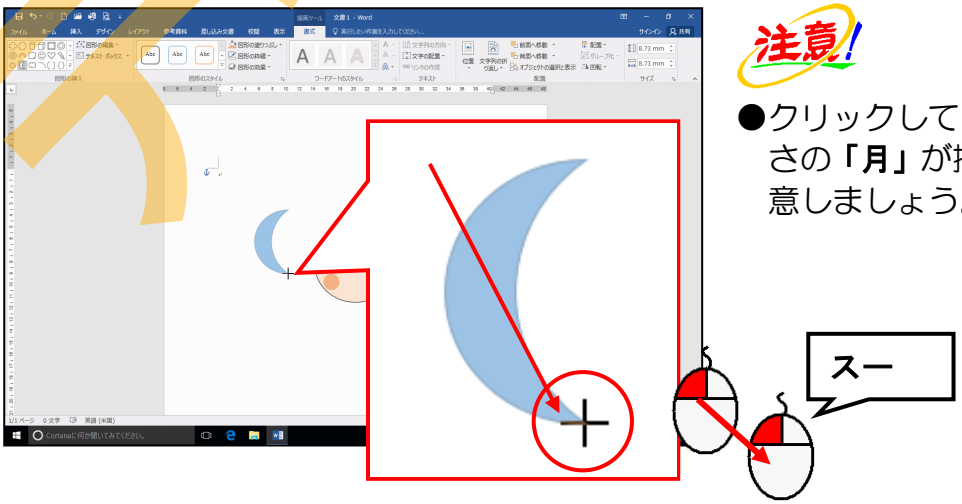
「基本図形」の☾［月］にポイントし、クリックします。





● ☾「月」をクリックすると、マウスポインターが ＋ の状態に変わります。

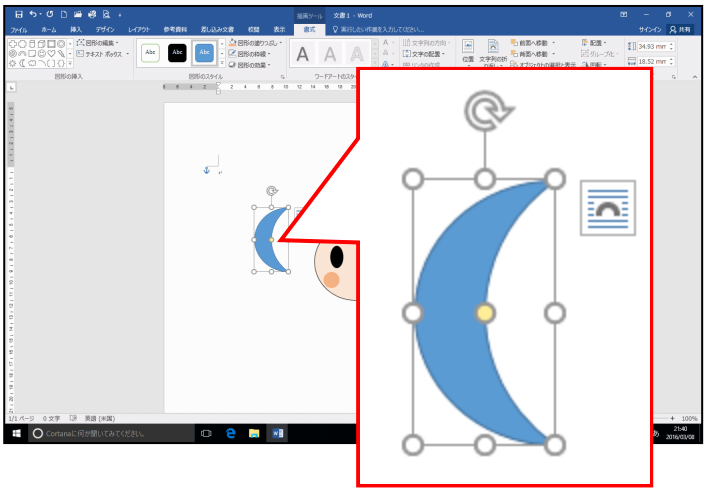
右下に向かってドラッグします。



注意!

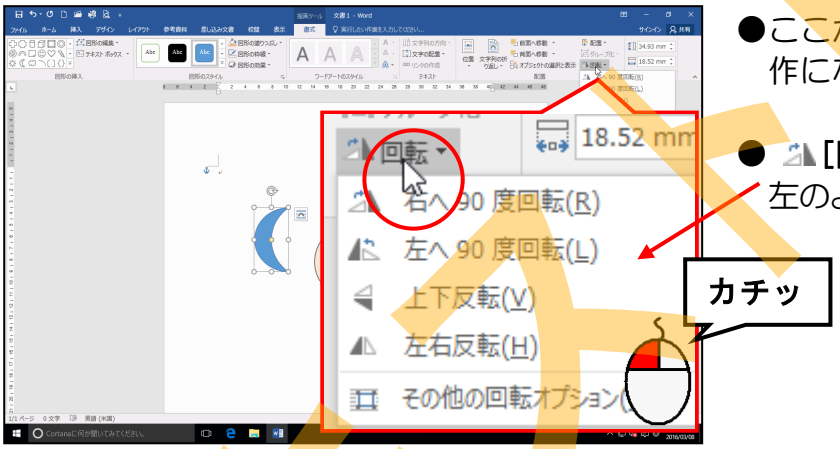
●クリックしてしまうと、既定の大きさの「月」が描かれてしまうので注意しましょう。

体験入学用



●マウスから指を離した時点で月が描かれます。

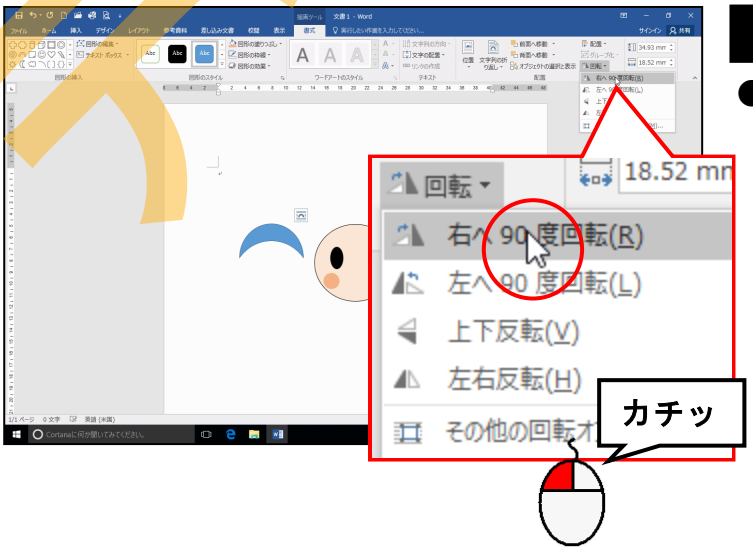
描いた「月」が選択されていること、描画ツールの［書式］タブが選択されていることを確認して、［配置］グループにある［回転］ボタンにポイントし、クリックします。



●ここから、実際に回転するための操作になります。

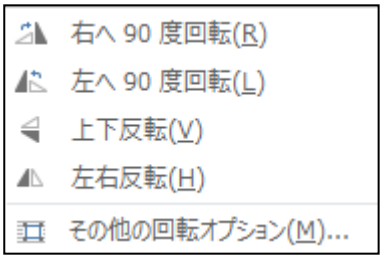
● **［回転］ボタン**をクリックすると、左のように一覧が表示されます。

表示された一覧から［右へ 90 度回転(R)］にポイントし、クリックします。

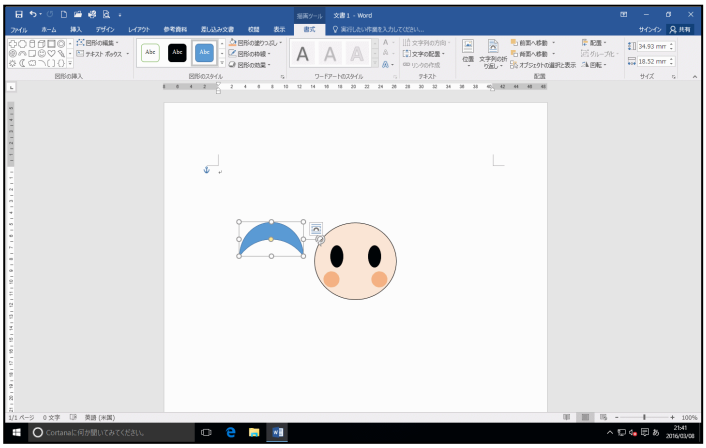


余裕があれば読んでね

●図形の回転には、下図のように４つの種類があります。



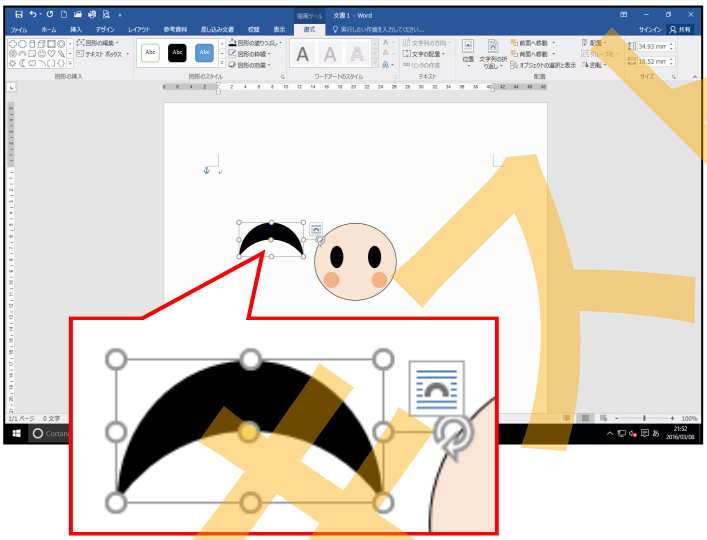
下書き見本



余裕があれば読んでね

●「月」の右にある灰色の ⟳ を**回転ハンドル**といいます。⟳ をドラッグすると、任意の角度に回転できます。

「月」の塗りつぶしの色を「黒、テキスト 1」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。



●図形の塗りつぶしの方法を忘れた方は、P14 ⑤ **図形の塗りつぶし**を参照してください。

●図形の枠線の設定方法を忘れた方は、P16 ⑥ **図形の枠線**を参照してください。

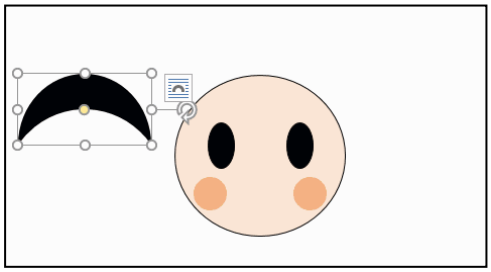
本配布テキスト

⑨ 図形のサイズ変更

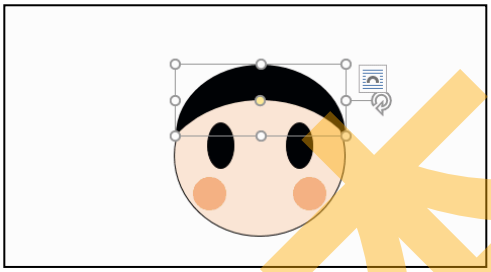
図形はサイズを変更することができます。ここでは、先ほどのテントウムシの頭の部分に当たる**「月」**の大きさを変更してみましょう。

◆図形をサイズ変更する方法をマスターしましょう。

操作前

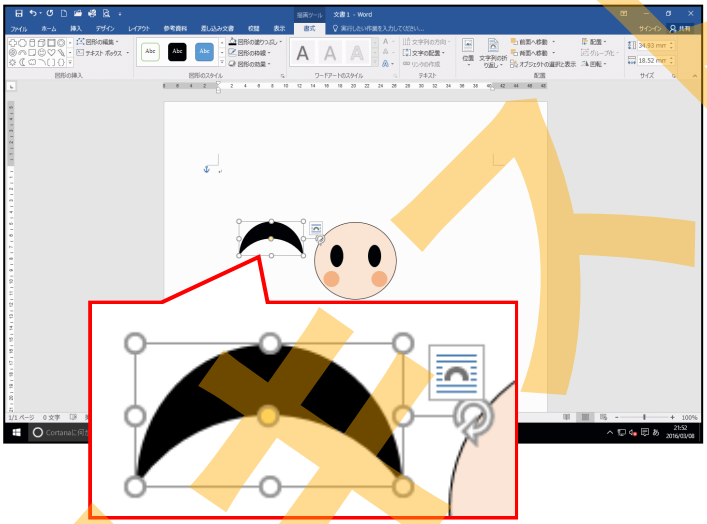


操作後



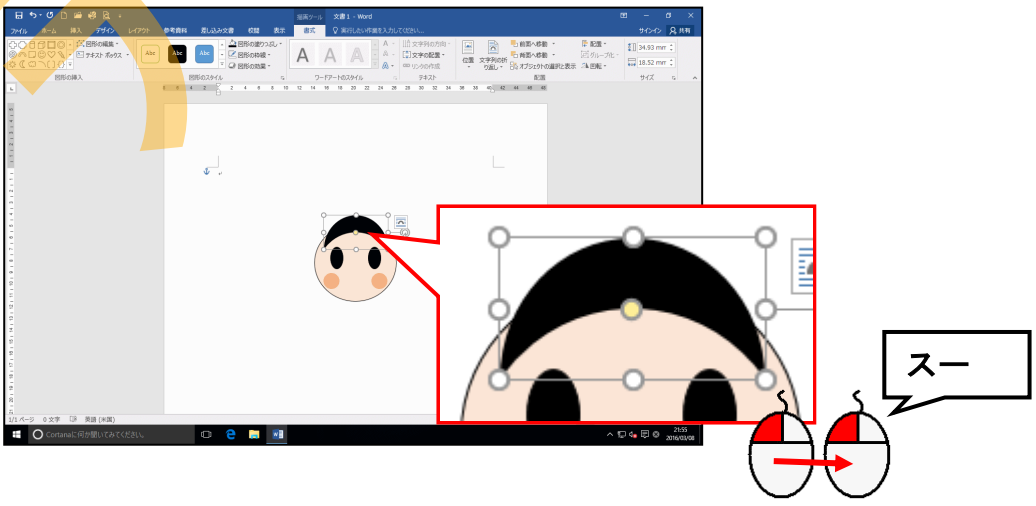


「月」が選択されていることを確認し、ポイントします。



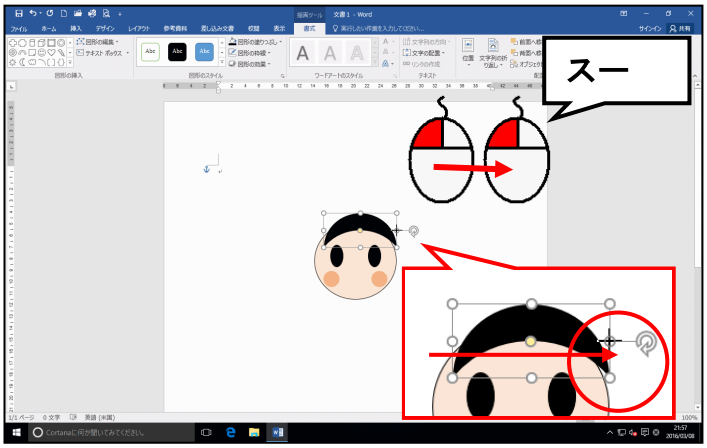
●**「月」**を選択すると、図形の周りに○**（サイズ変更ハンドル）**が表示されます。

そのまま右にドラッグし、顔の上に重ねます。



体験版

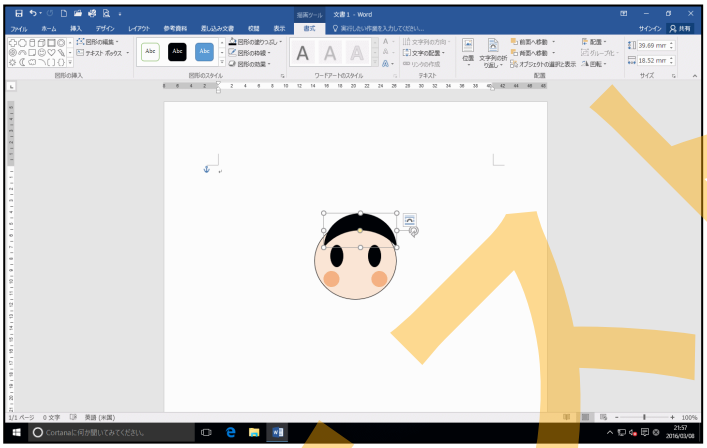
図形の右側中央にある ○ にポイントし、マウスポインターが ⇔ の状態になっていることを確認して、顔の幅と同じぐらいになるまで右方向へドラッグします。



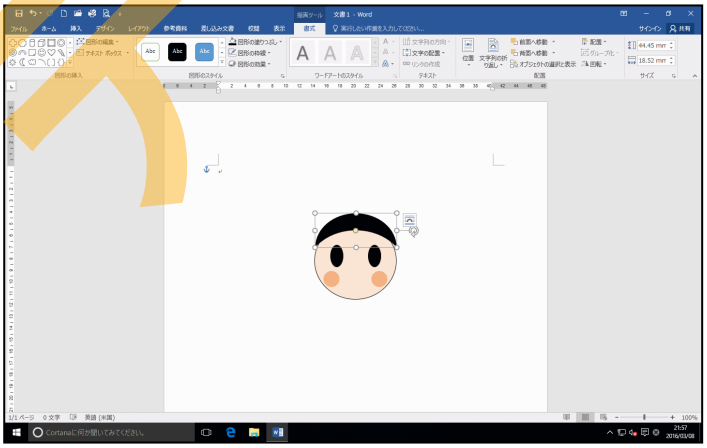
● ○（**サイズ変更ハンドル**）にポイントすると、マウスポインターは ⇔ の形になります。マウスポインターが ⇔ の状態でドラッグすると、図形の幅を変えることができます。

●ドラッグ中のマウスポインターの形は ＋ になっています。

●頭の部分が顔の幅よりも大きい方は、左側にドラッグして頭の部分を小さくしましょう。



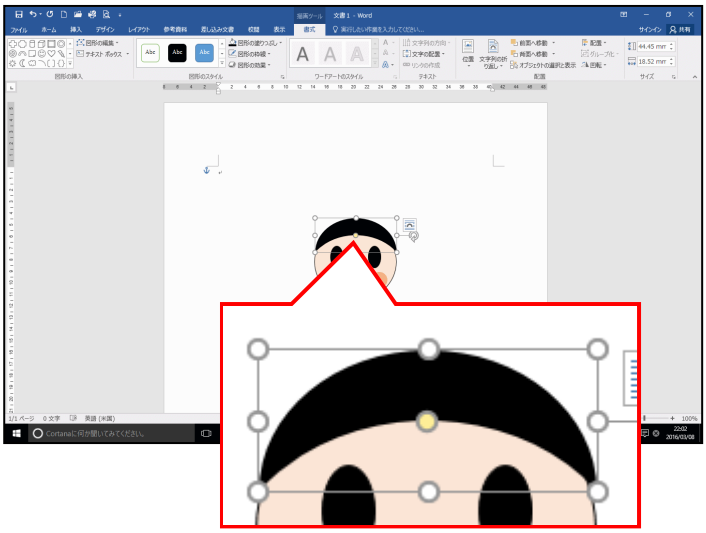
同様にして、図形の左側中央にある ○ にポイントし、顔の幅と同じぐらいになるまで左方向へドラッグして、図形を拡大しましょう。



●頭の部分が顔の幅よりも大きい方は、右側にドラッグして頭の部分を小さくしましょう。

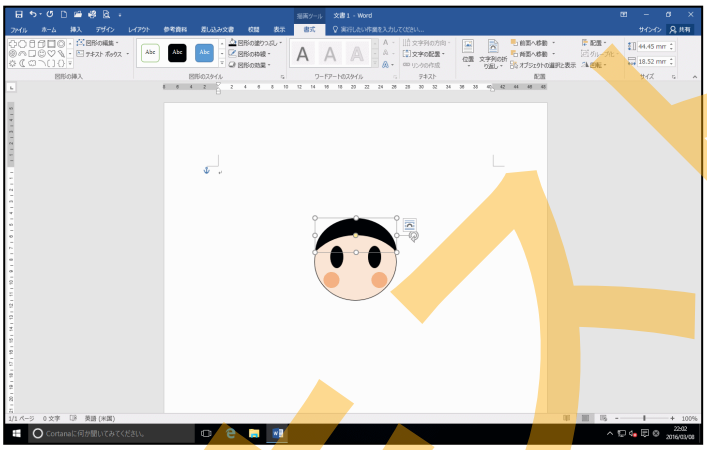
テキスト原本

下図のように「月」の図形を移動して、顔に重ねましょう。



●顔から月が離れている場合は、顔に重ねるために「月」を移動しましょう。図形の移動を忘れた方は、**P9 ②図形の移動**を参照してください。

頭の両端を合わせ、図形と図形の間にすき間が見えないように、大きさと位置を調整しましょう。



●頭の部分ができました。

●顔より少しはみ出たら、**「月」**を顔に収まる大きさに変更しましょう。

●図形を上下左右に少しずつ動かしたい時は、図形を選択した状態で、**[→]、[←]、[↑]、[↓]キー**を押すと図形の移動がスムーズにいきます。

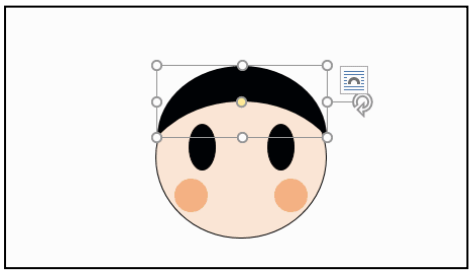
本紙テキスト

⑩ 図形の変形

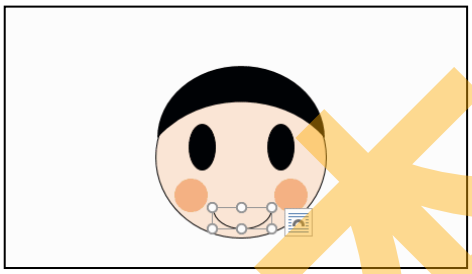
図形によっては変形できるものがあります。ここではテントウムシの口の部分である**「月」**を変形させてみましょう。

◆図形を変形する方法をマスターしましょう。

操作前

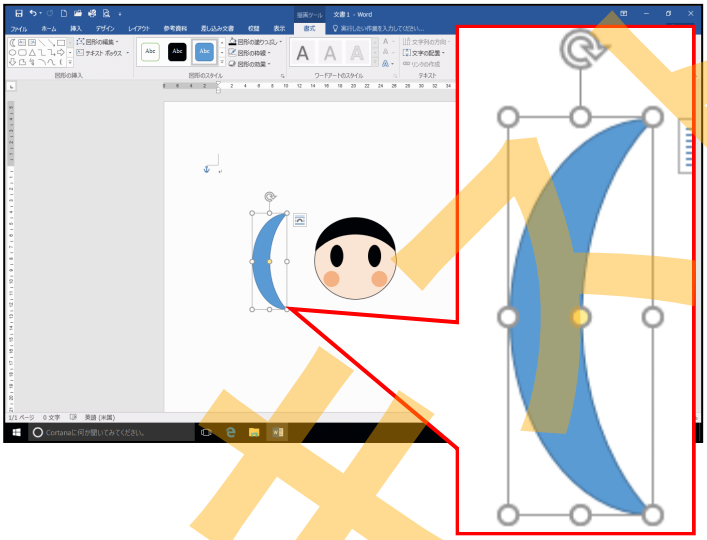


操作後



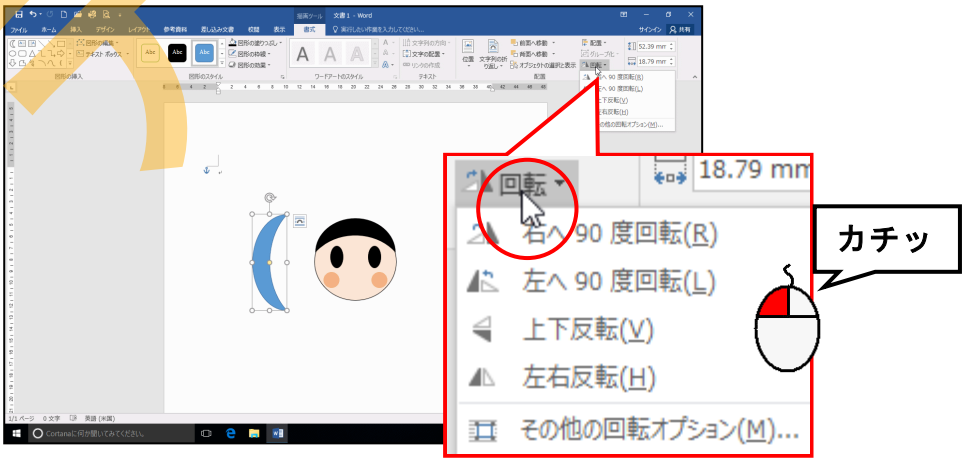


もう一度、図形の「月」を挿入し、大きめに描きます。



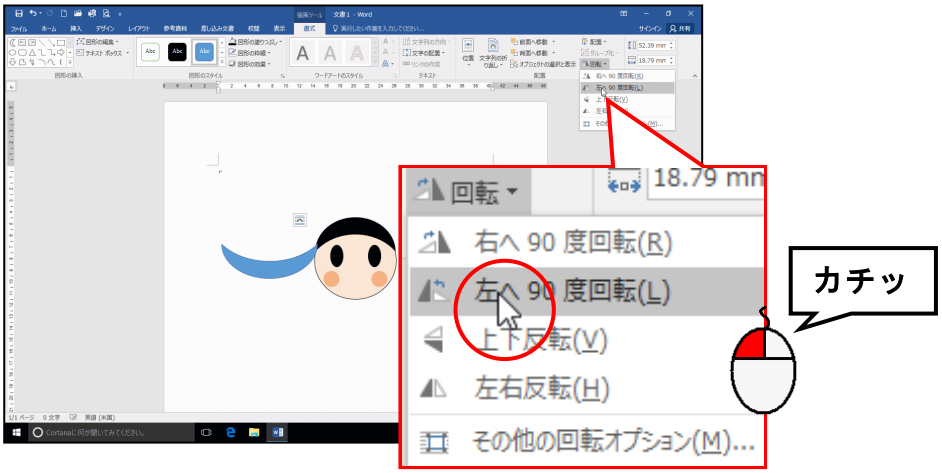
●「月」を小さく描いてしまうと、後で説明する ○（変形ハンドル）が表示されないので、大きめに描いておきましょう。

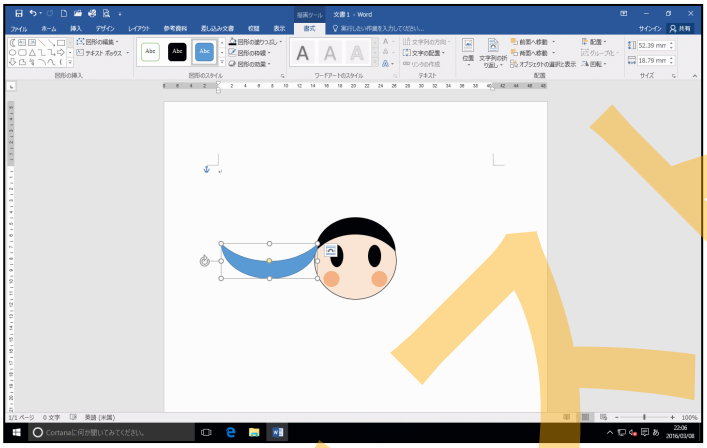
［配置］グループにある［回転］ボタンにポイントし、クリックします。



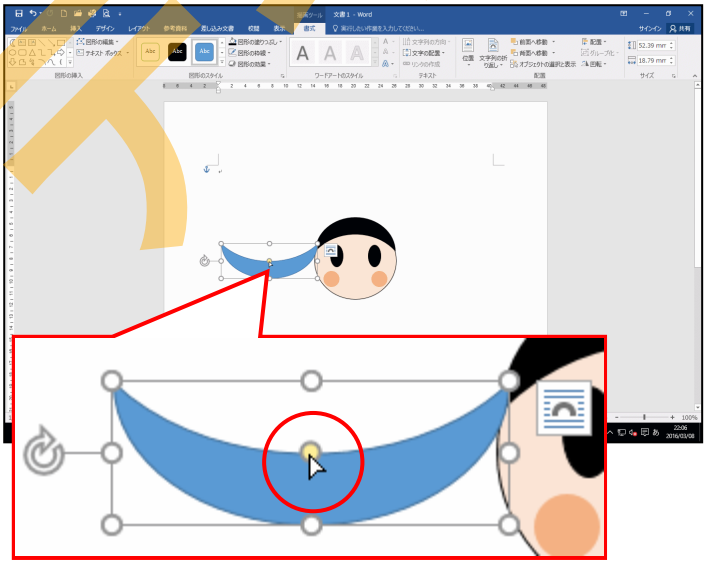
体験用

表示された一覧から［左へ 90 度回転(L)］にポイントし、クリックします。





○（変形ハンドル）にポイントします。



● ○（変形ハンドル）にポイントすると、マウスポインターは ▷ になります。

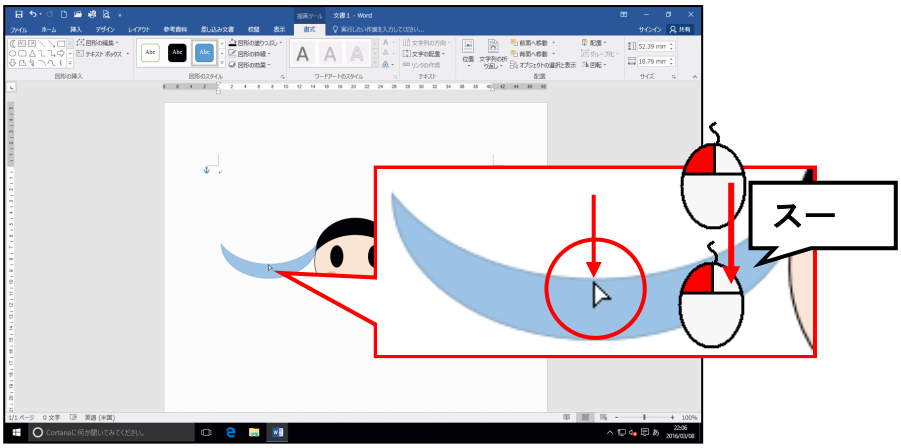
● ○（変形ハンドル）が表示された図形では、○ をドラッグすると図形を変形することができます。

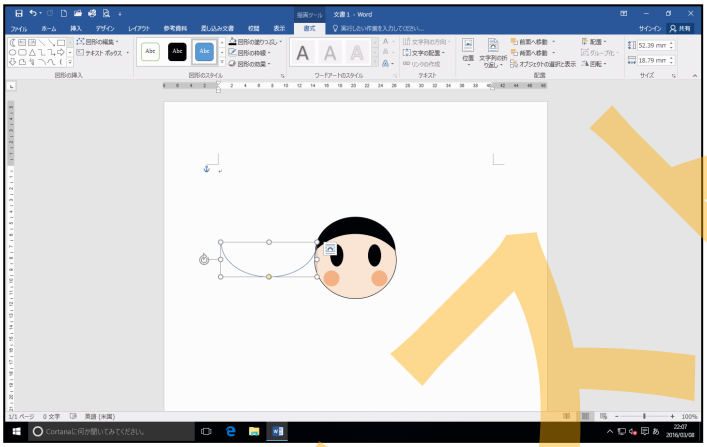
注意！

● ○（変形ハンドル）は、図形によって表示されるものとされないものがあります。

本紙テキスト

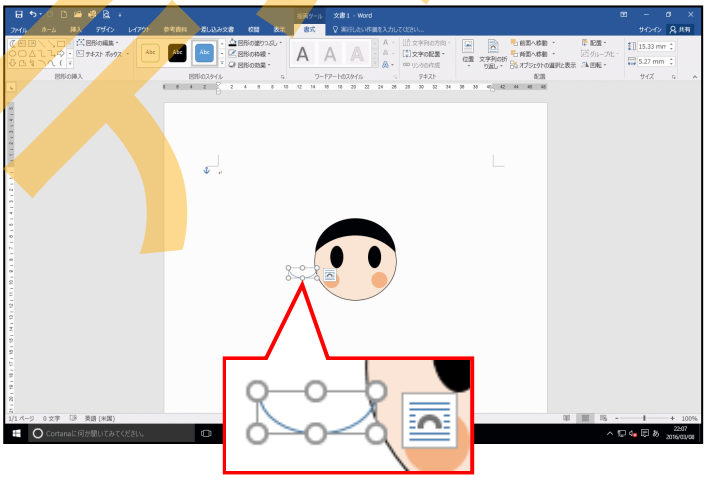
マウスポインターが ▷ になっていることを確認して、下へドラッグします。





●月の形が変形されました。

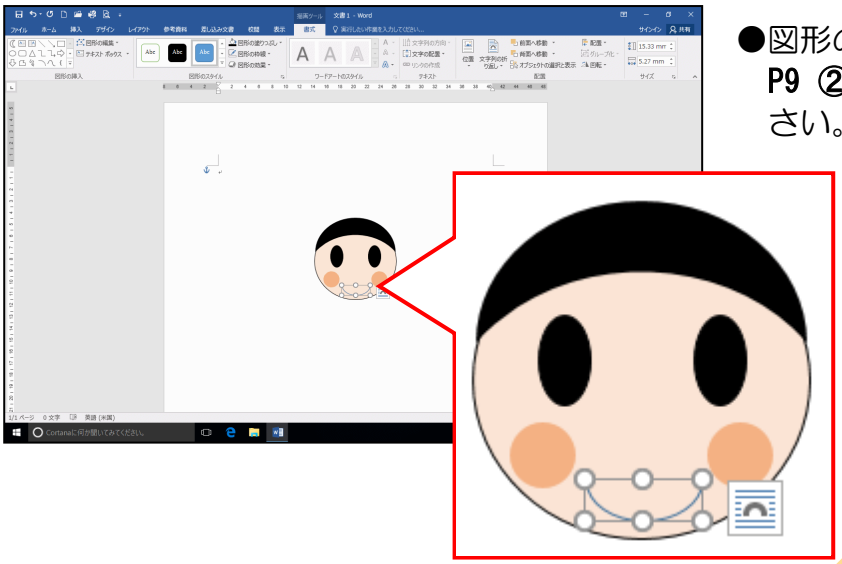
「月」を小さくします。



●図形のサイズ変更の方法を忘れた方は、P25 ⑨ **図形のサイズ変更**を参照してください。

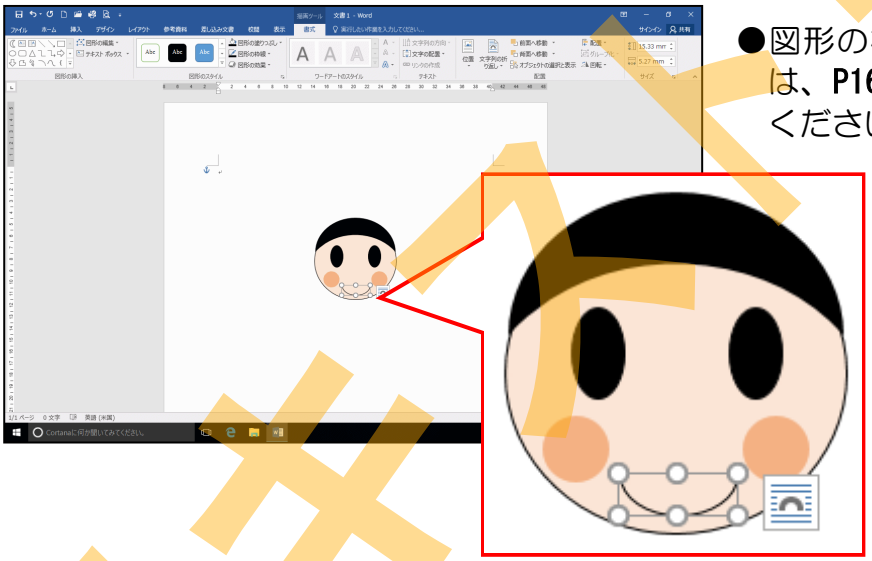
本テキスト

「月」を口の位置へ移動します。



●図形の移動方法を忘れた方は、**P9 ② 図形の移動**を参照してください。

「月」の図形の枠線の色を「黒、テキスト 1」に設定しておきましょう。



●図形の枠線の設定方法を忘れた方は、**P16 ⑥ 図形の枠線**を参照してください。

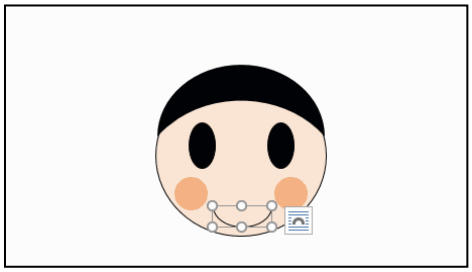
本配布不可

⑪ 図形の枠線の太さ

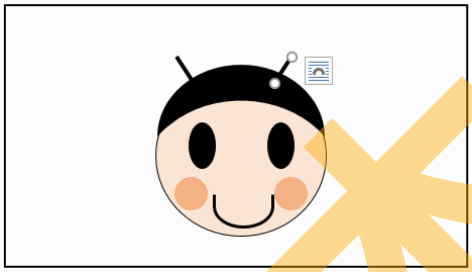
図形の枠線は、太さを変更することができます。ここではテントウムシの口を太くしてみましょう。

◆図形の枠線の太さを変更する方法をマスターしましょう。

操作前

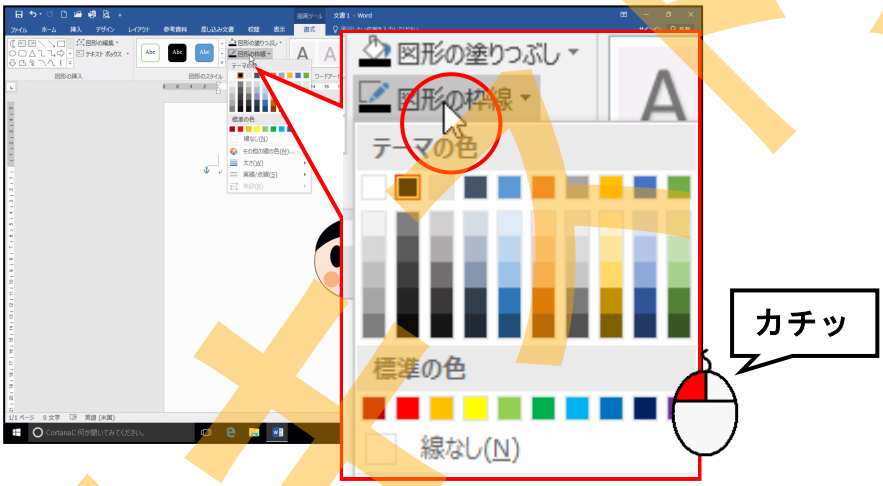


操作後

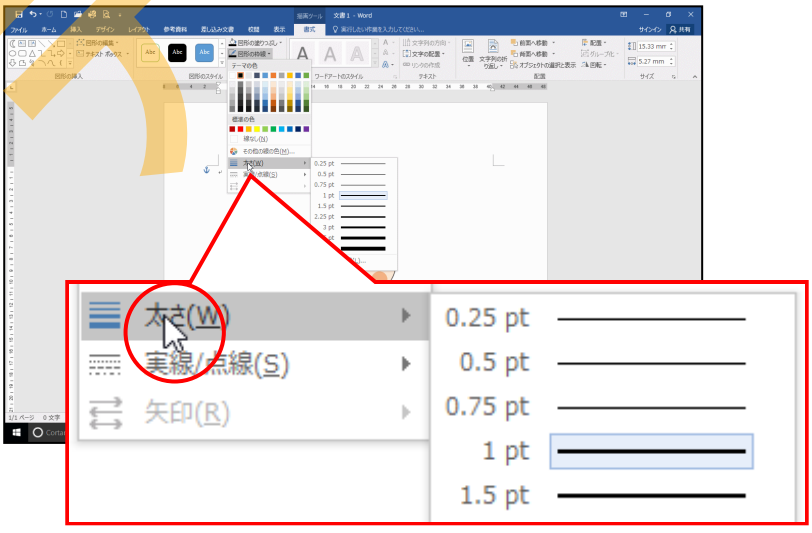




「月」の図形が選択されていることを確認し、［図形のスタイル］グループにある 図形の枠線 ［図形の枠線］ボタンにポイントし、クリックします。

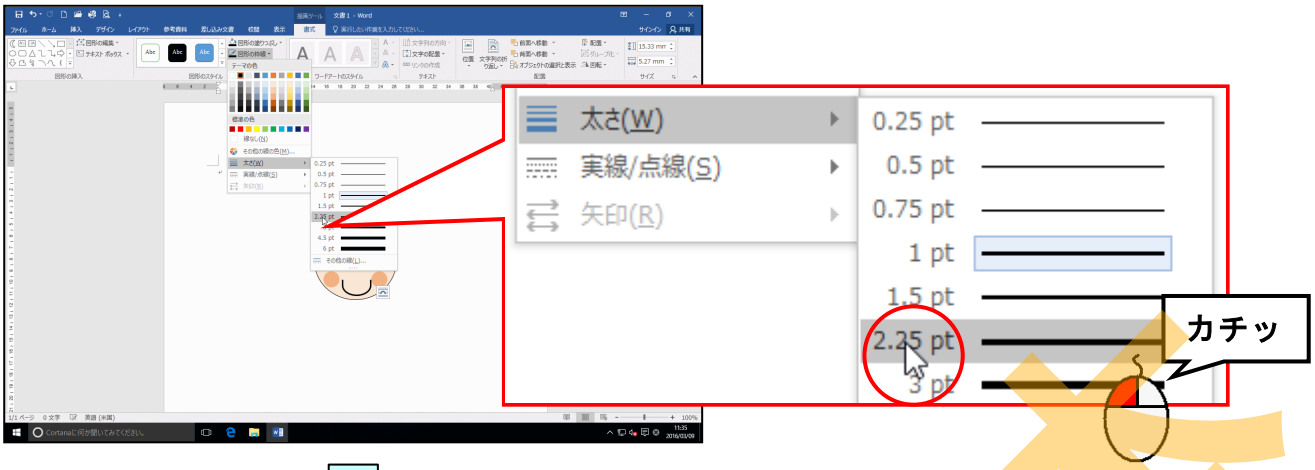


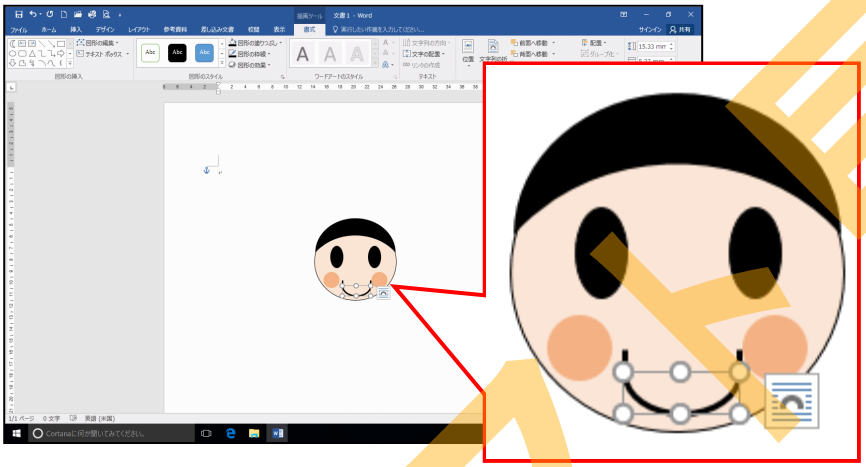
表示された一覧から［太さ(W)］にポイントします。



本文配布

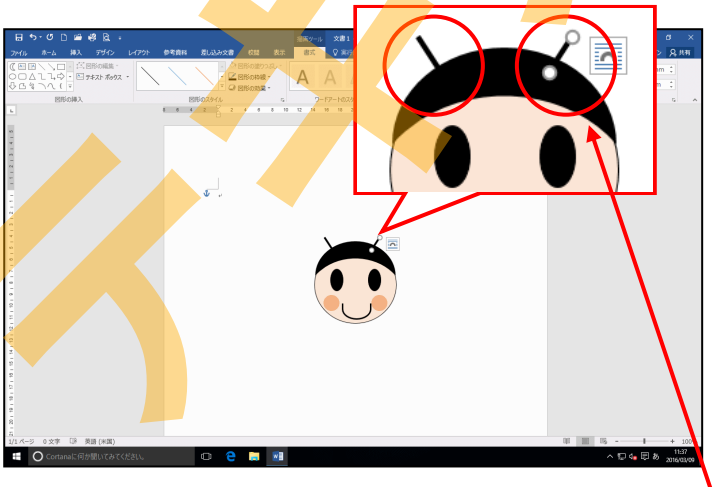
右側に表示された一覧から「2.25pt」にポイントし、クリックします。





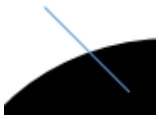
下図のように、頭の部分に「直線」で触角を描き、次のように設定しましょう。

・図形ー**「直線」**　・太さー**「3pt」**　・枠線の色ー**「黒、テキスト 1」**



手順

①右図のように図形の**「直線」**を使って、斜めに線を描きます。



②上記の太さ、枠線の色を設定します。

③線を右に水平にコピーします。

●図形のコピーを忘れた方は、P19 **⑦ 図形のコピー**を参照してください。

④コピーした右側の線を左右反転します。

●図形の回転を忘れた方は、P21 **⑧ 図形の回転**を参照してください。

⑤左のように位置を調整します。

注意!

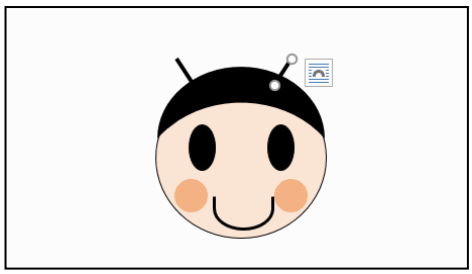
●図形を選択して**［Ctrl］キー**を押した状態でドラッグしてコピーする際、コピー後、コピー元の図形も選択された状態の場合があります。その場合は、コピー後、図形の外でクリックして選択を解除してから次の操作に移りましょう。

⑫ 図形のグループ化

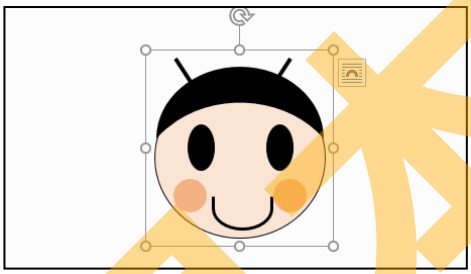
複数の図形を１つにまとめることを**「グループ化」**といいます。今の状態では、図形はバラバラの状態で、図形を移動するときに個々に移動しないといけません。一度に移動させるには１つにまとめる必要があります。テントウムシの顔を１つの図形にグループ化してみましょう。

◆図形をひとまとまりにする（グループ化）方法をマスターしましょう。

操作前

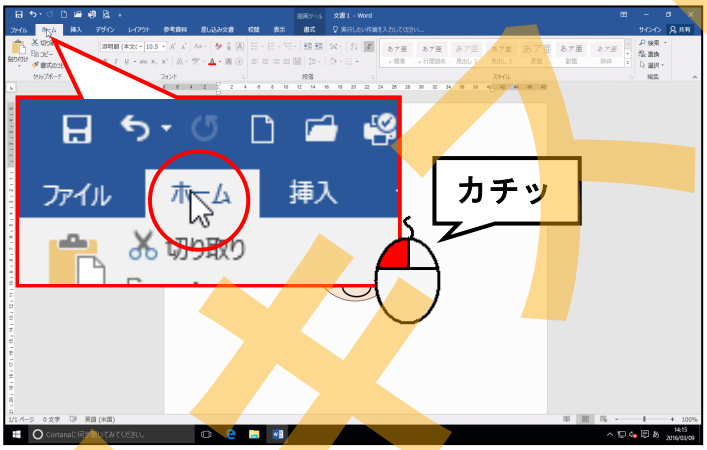


操作後



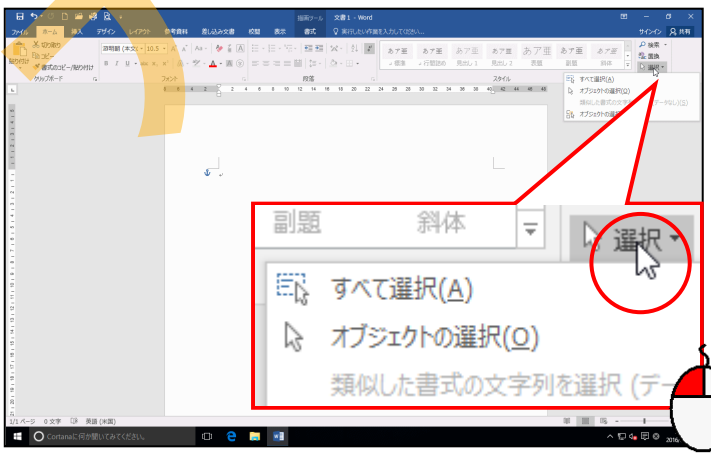


［ホーム］タブにポイントし、クリックします。



●［**ホーム**］**タブ**が表示されている方は、この操作は必要ありません。

［編集］グループにある 選択 ［選択］ボタンにポイントし、クリックします。

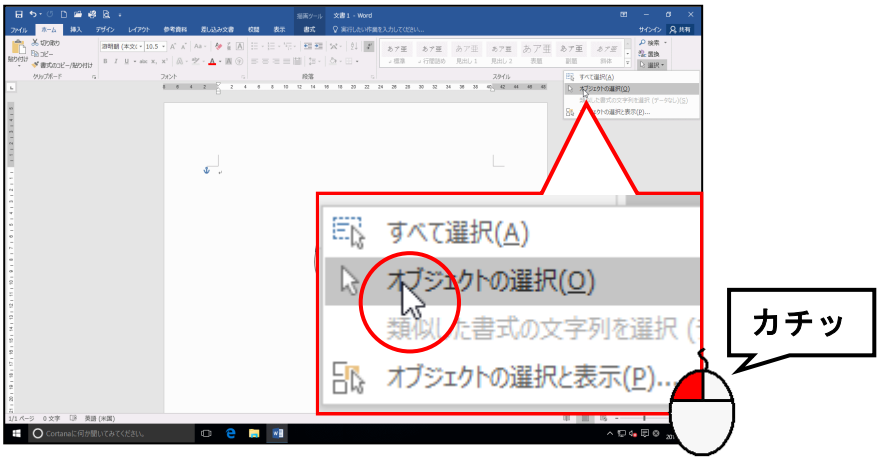


●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）

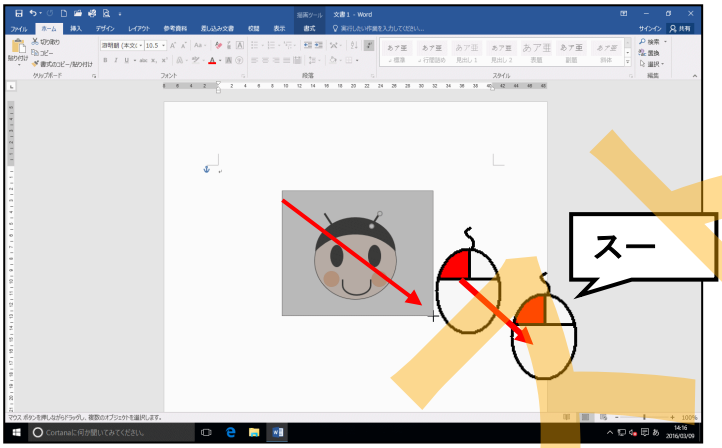


見本

表示された一覧から［オブジェクトの選択(0)］にポイントし、クリックします。

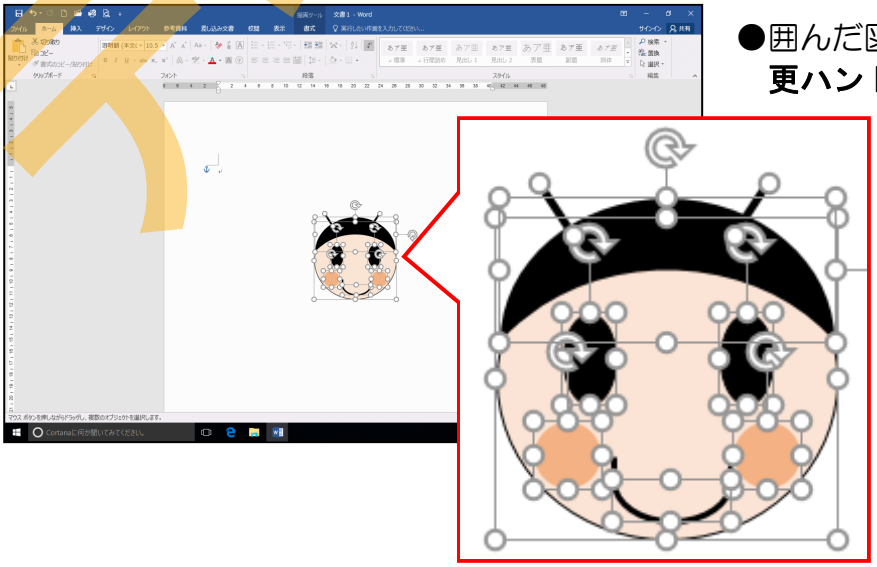


テントウムシ全体を囲むように、左上から右下に向かってドラッグします。



注意!

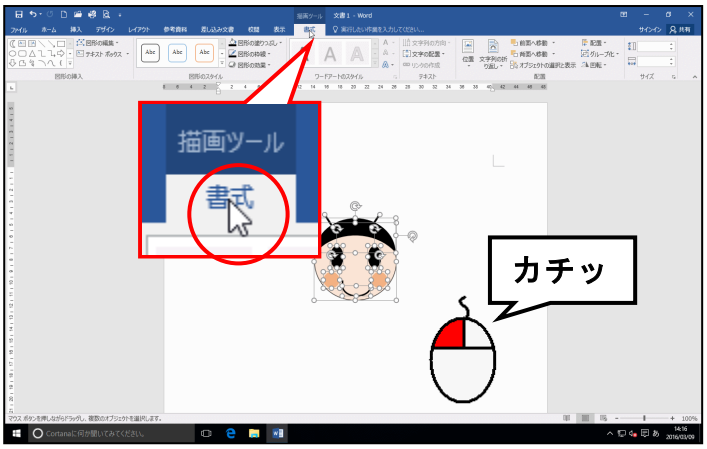
●ドラッグした時に、左のように灰色の四角形で囲まれた場所から、図形が少しでもはみだしてしまうと、その図形は選択されなくなるので、注意しましょう。



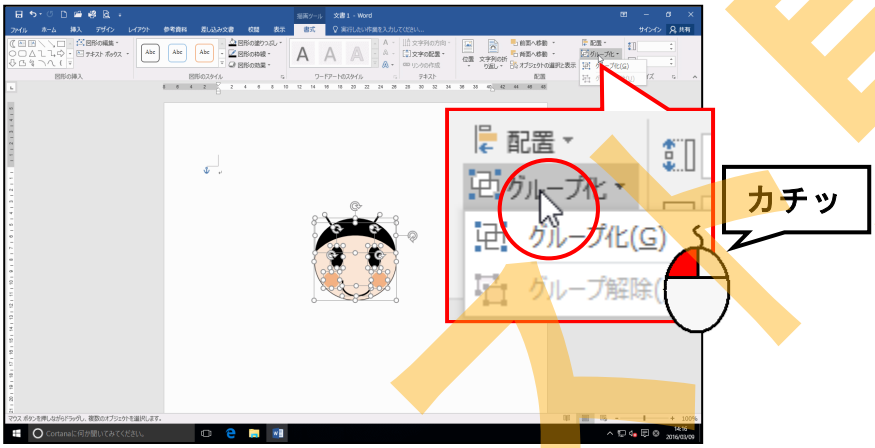
●囲んだ図形のすべてに ○（**サイズ変更ハンドル**）が表示されました。

本紙

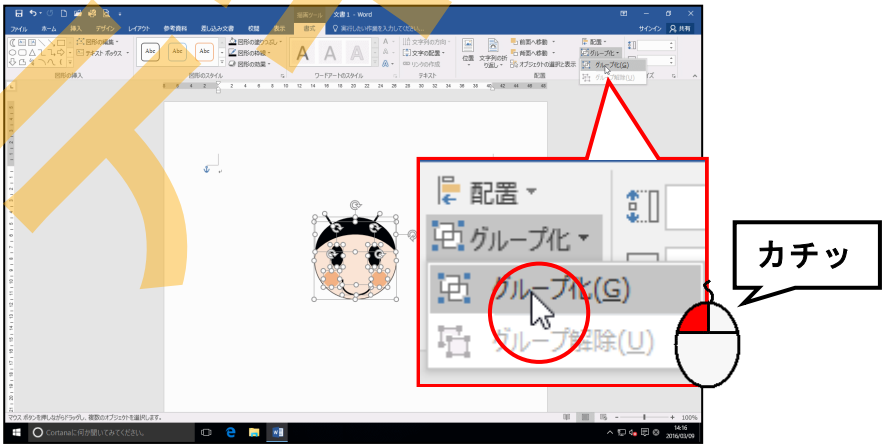
描画ツールの［書式］タブにポイントし、クリックします。

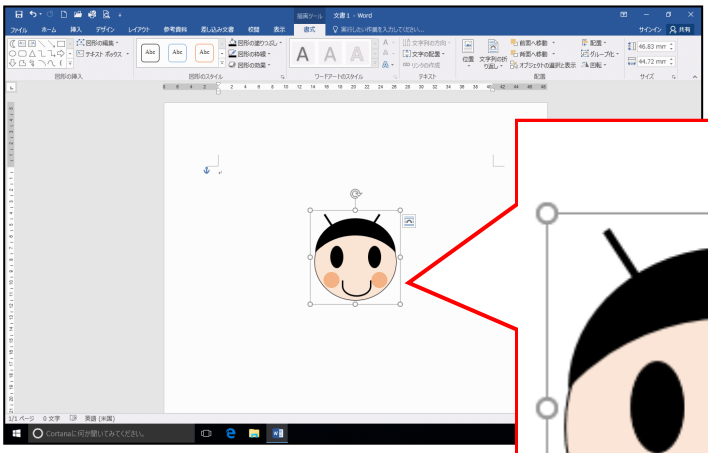


［配置］グループにある［グループ化］ボタンにポイントし、クリックします。



表示された一覧から［グループ化(G)］にポイントし、クリックします。





●［**グループ化(G)**］をクリックすると、
図形がひとまとまりになりました。



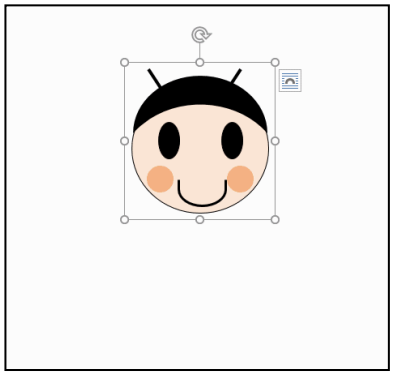
本テキスト

（２）テントウムシの胴体を描く（図形の順序）

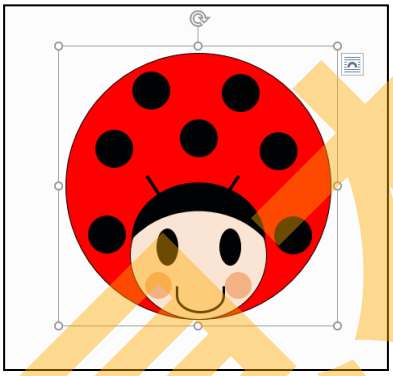
ここではテントウムシの胴体を描きますが、図形は描いた順番に重なっていきますので、テントウムシの顔より前に胴体が表示されます。図形の順序を入れ替えて、テントウムシの胴体の部分を、後へ移動しましょう。

◆図形の順序を変更する方法をマスターしましょう。

操作前

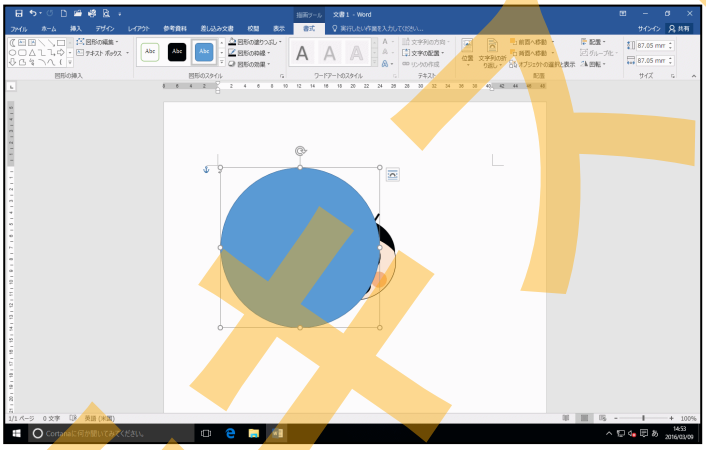


操作後





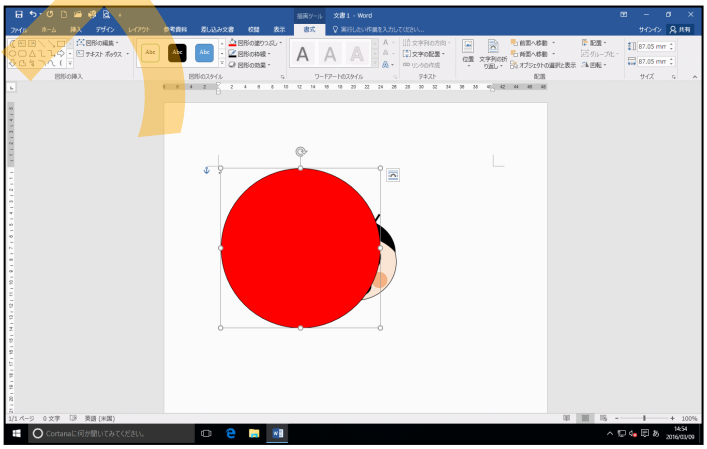
図のように、正円を描きます。



●図形の挿入の方法を忘れた方は、**P6 ① 図形の挿入**を参照してください。

●テントウムシの体を描きます。顔に重なっても、顔の後ろに入れ替えられますので、気にせず描いていきましょう。

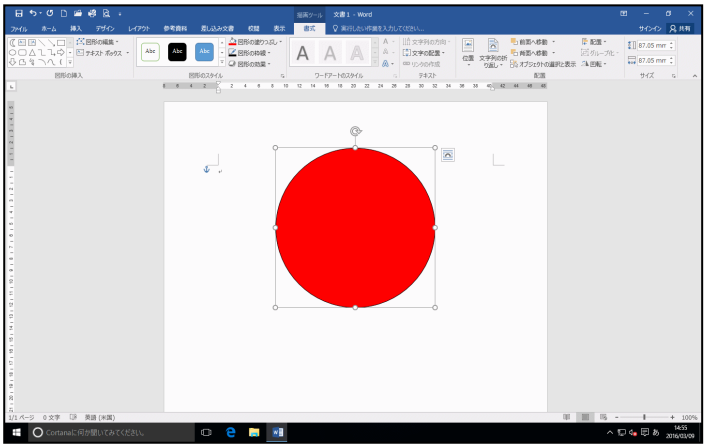
正円の塗りつぶしの色を「赤」に、図形の枠線の色を「黒、テキスト 1」に設定しましょう。



●図形の塗りつぶしの方法を忘れた方は、**P14 ⑤ 図形の塗りつぶし**を参照してください。

●図形の枠線の設定方法を忘れた方は、**P16 ⑥ 図形の枠線**を参照してください。

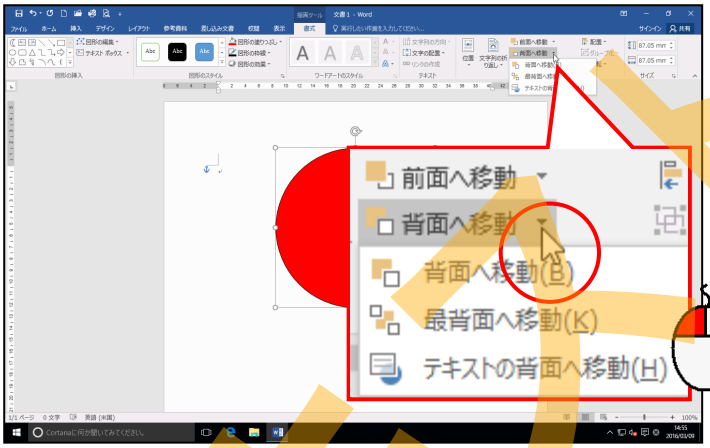
正円を、顔の上に移動します。



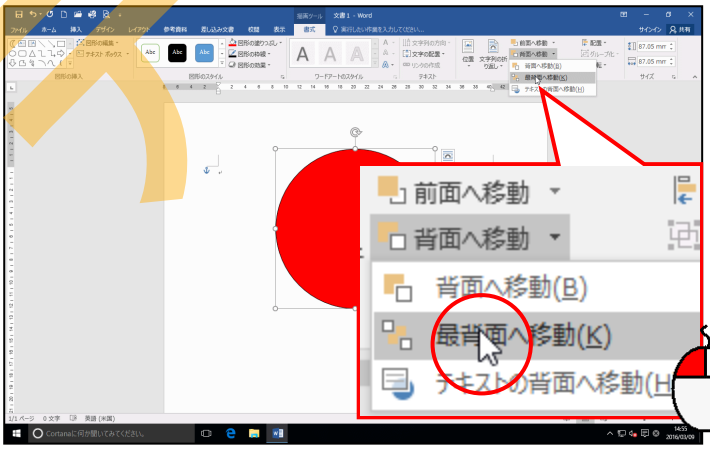
●正円を移動すると、顔が隠れてしまいました。消えてしまったわけではないので、気にせずそのまま進みましょう。

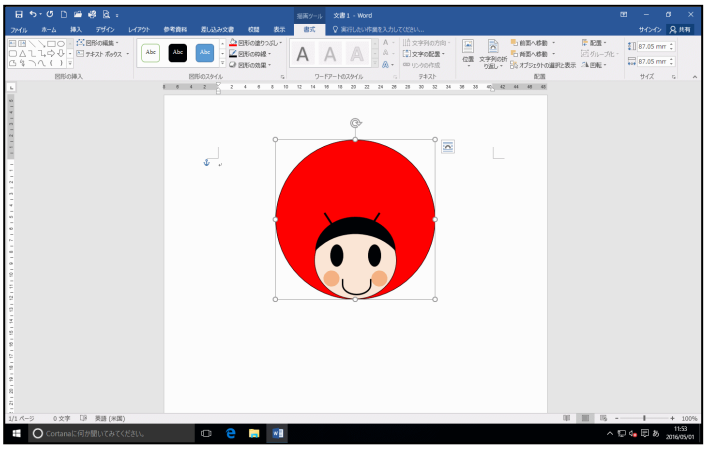


正円が選択されていること、描画ツールの［書式］タブが選択されていることを確認し、［配置］グループにある 背面へ移動 ［背面へ移動］ボタンの横の▼にポイントし、クリックします。



表示された一覧から［最背面へ移動(K)］にポイントし、クリックします。

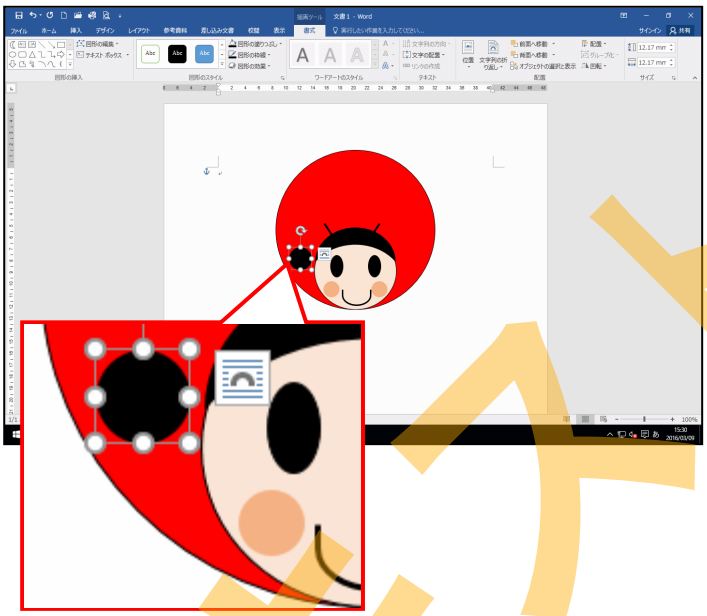




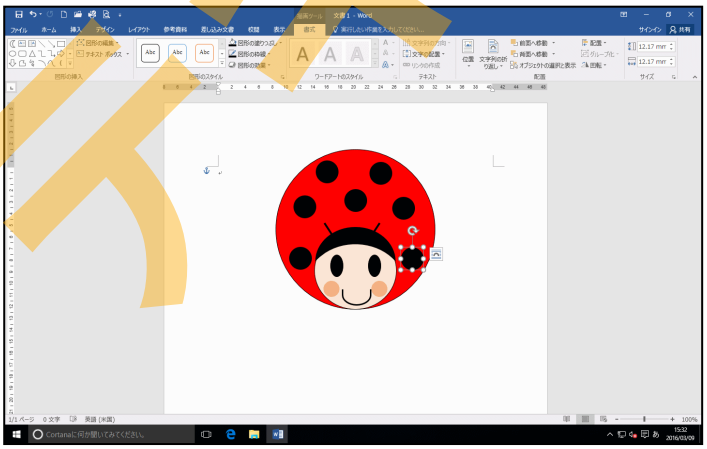
●［**最背面へ移動(K)**］をクリックすると、テントウムシの顔が赤い円の前面に表示されました。

●左のようになっていない方は、図形の大きさや位置を調整しましょう。

下図のように小さな正円を挿入し、塗りつぶしの色と、枠線の色を「黒、テキスト 1」に設定しましょう。



先ほど作成した図形をコピーして、下図のように増やしましょう。



●図形のコピーを忘れた方は、P19 ⑦ **図形のコピー**を参照してください。

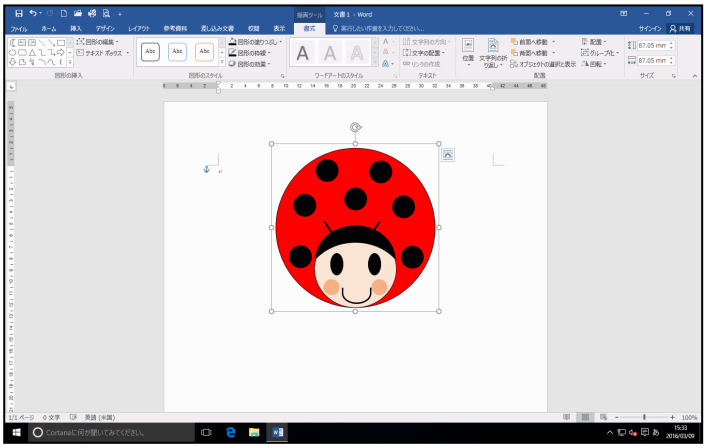


●図形を選択して［**Ctrl**］**キー**を押した状態でドラッグしてコピーする際、コピー後、コピー元の図形も選択された状態の場合があります。
その場合は、コピー後、図形の外でクリックして選択を解除してから次の操作に移りましょう。

図形を描きやすくする方法 P54

体験版

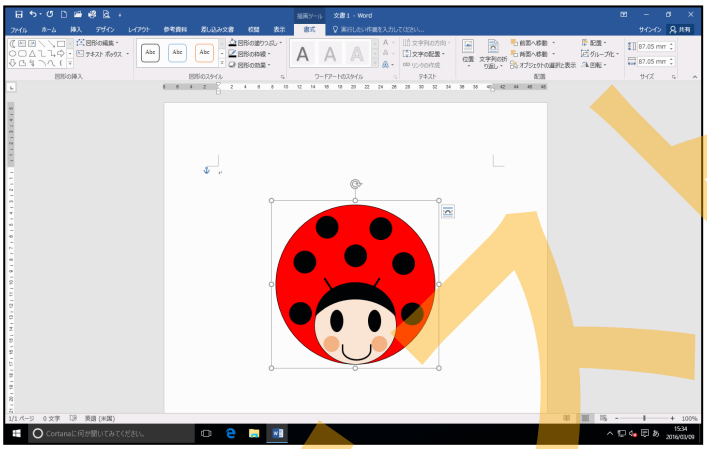
テントウムシをグループ化しておきましょう。



●最後に体と顔がグループ化されて１つになり、テントウムシが完成しました。

●図形のグループ化の方法を忘れた方は、**P34 ⑫ 図形のグループ化**を参照してください。

下図を参考にテントウムシを移動しておきましょう。



本テキスト

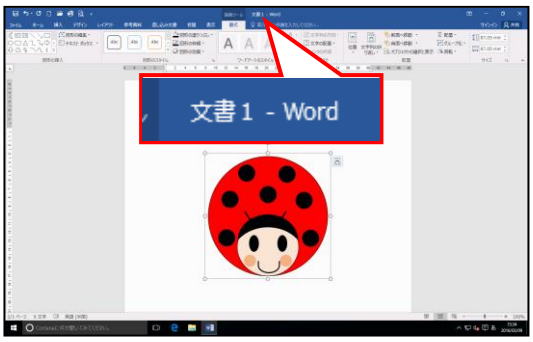
（3）テントウムシを保存

① ワードの保存

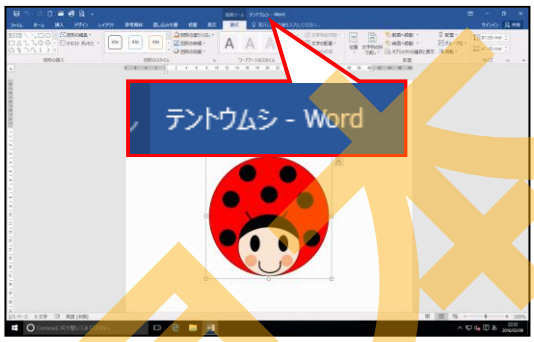
完成したテントウムシを保存しましょう。

◆画像を保存する方法をマスターしましょう。

操作前

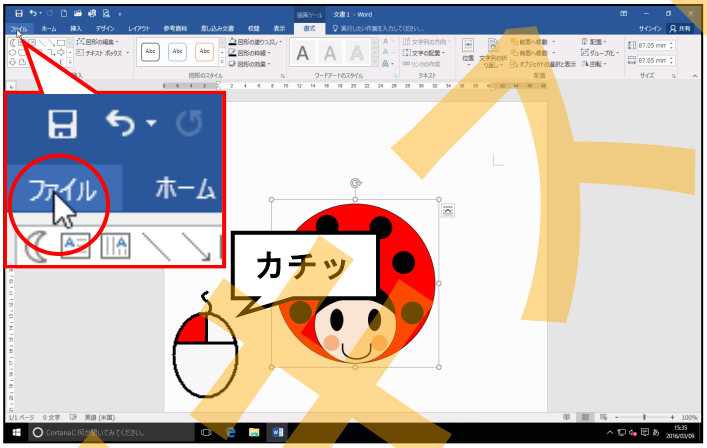


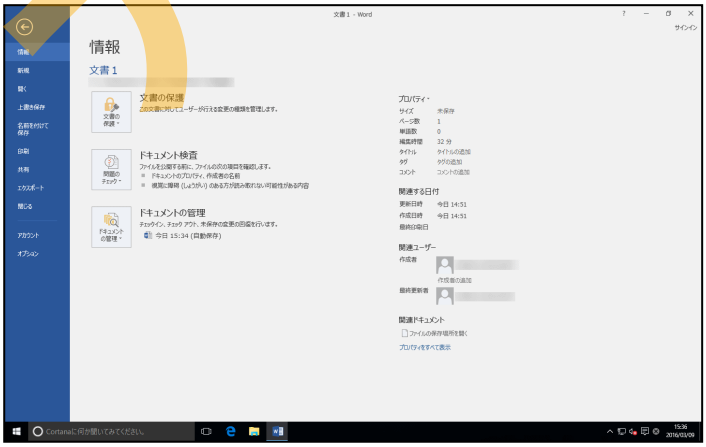
操作後



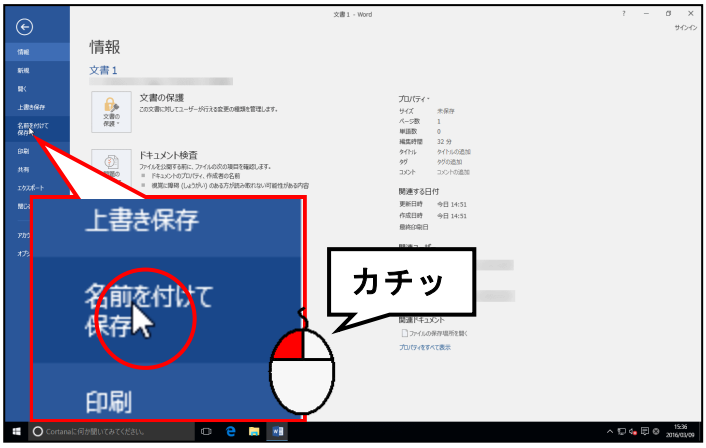


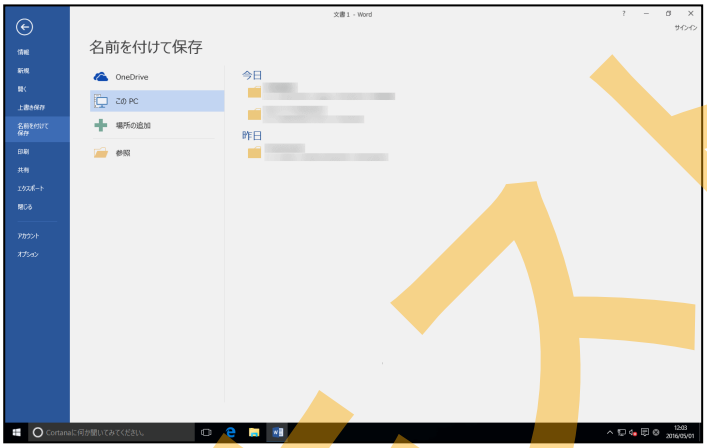
USB メモリーをパソコンに差し込み、［ファイル］タブにポイントし、クリックします。





左側の一覧から［名前を付けて保存］にポイントし、クリックします。

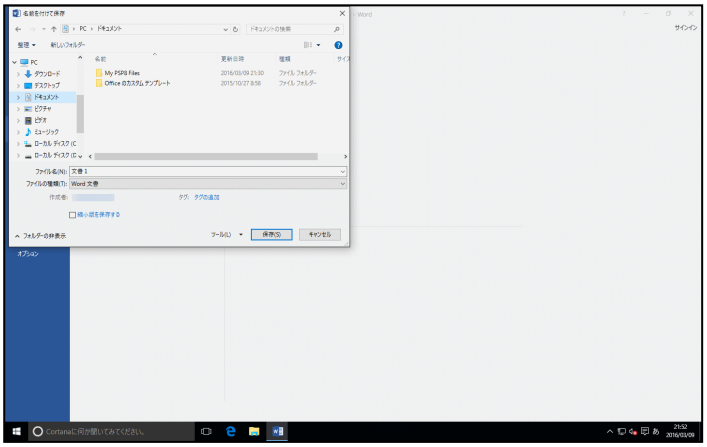




「参照」にポイントし、クリックします。



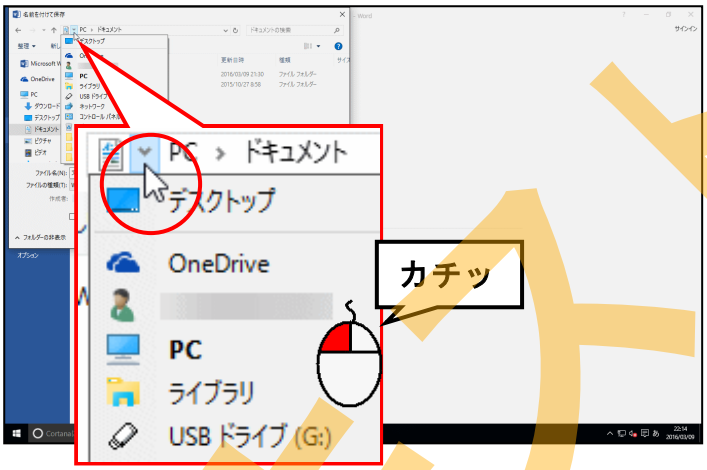
本紙不配



●「**参照**」をクリックすると、左のように［**名前を付けて保存**］**ダイアログボックス**が表示されます。

●お使いのパソコンによって、［**名前を付けて保存**］**ダイアログボックス**内のファイルやフォルダーの表示方法が左の図と違う場合があります。

「PC」の左にある › にポイントし、クリックします。

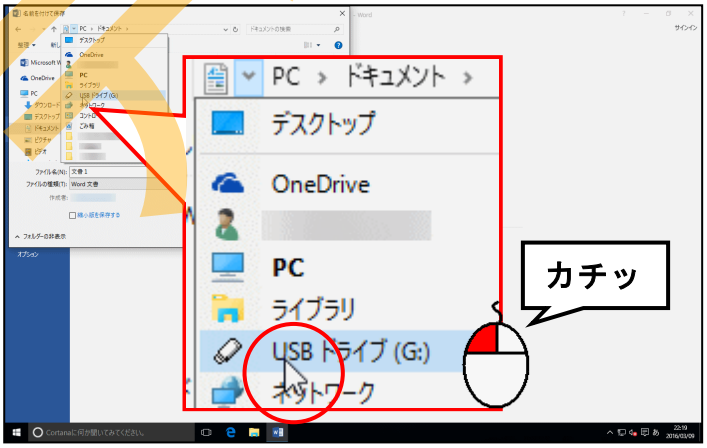


●「**PC**」の左にある › は、クリックした時点で、左のように ⌄ に変わります。

●下図のように表示される場合は、「**ユーザー**」の左側にある « をクリックします。



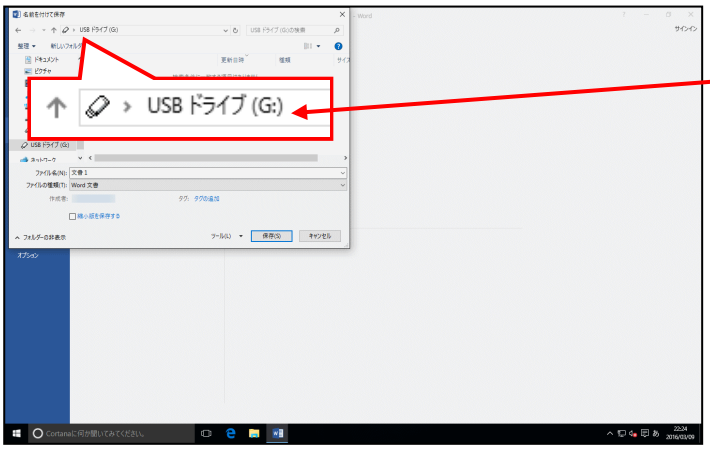
表示された一覧から［USB ドライブ(G:)］にポイントし、クリックします。



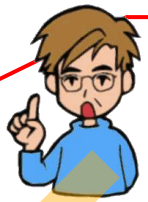
●今回は USB メモリーに保存するため、［**USB ドライブ(G:)**］をクリックします。

●お使いのパソコンによって、USB ドライブの後ろが「**(G:)**」とは限りません。

仮入居者用



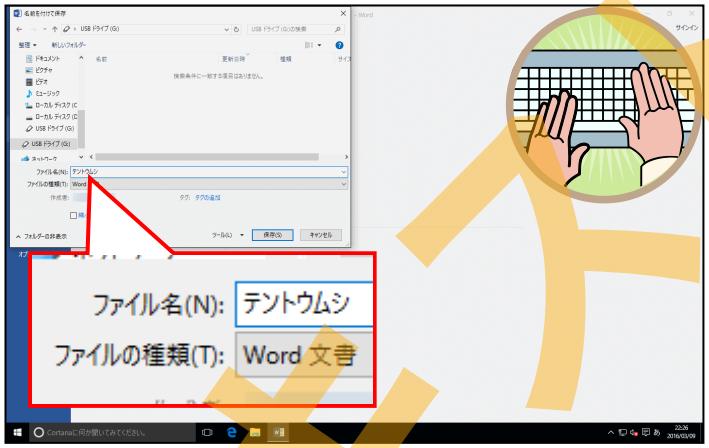
●「USB ドライブ(G:)」をクリックすると、［保存先］ボックスに「USB ドライブ(G:)」が表示されます。



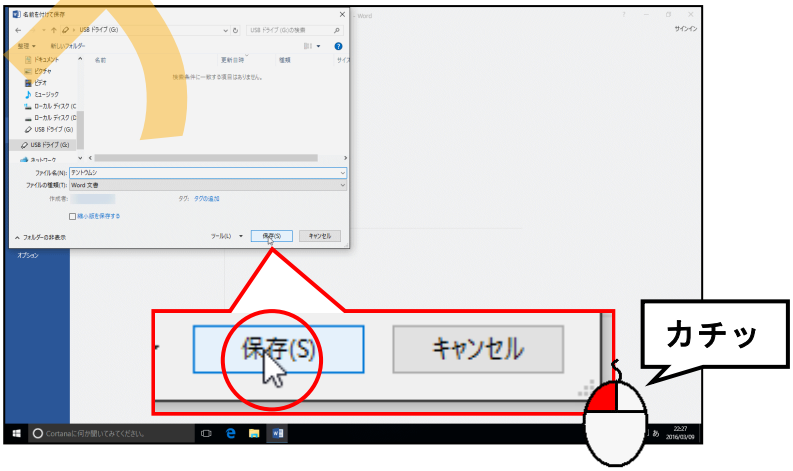
必ず確認を!!

●ここまで行った操作が、保存先の指定方法です。

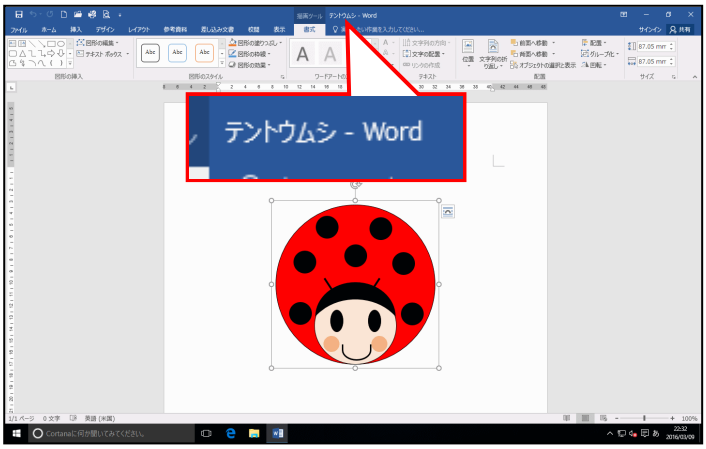
［ファイル名(N):］ボックスに入力されている文字を、「テントウムシ」に変更して文字を確定します。



［名前を付けて保存］ダイアログボックスの右下にある［保存(S)］ボタンにポイントし、クリックします。



下見本



次の操作のために、画面はそのままにしておきましょう。



本文テスト

② 画像を PNG 形式で保存

今の状態では、ワードでの保存になります。せっかく作品が完成したので、後にワードの文書でクリップアートのように利用するために、画像形式で保存してみましょう。
ここでは一旦「コピー」という操作を行い、コピーした画像を PNG という画像形式で保存する方法を説明します。

画像を PNG 形式で保存する流れ

(1) まずは、図形を選択し、コピーします。

(2) 次に、図として貼り付けます。

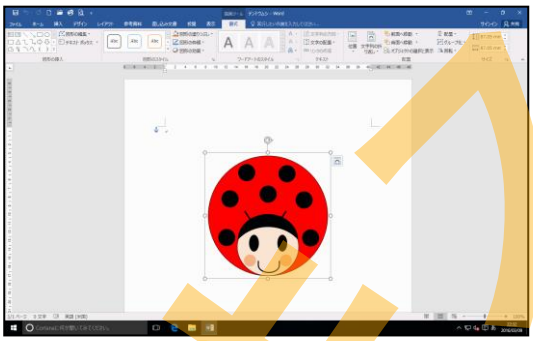
(3) そして、貼り付けたデータを PNG 形式で保存します。

(4) 保存後は、ワードを保存せずに閉じます。
※①**ワードの保存**で、一度ワードを保存していますね。
ここで上書き保存すると、(3) のデータも一緒に保存されてしまうためです。

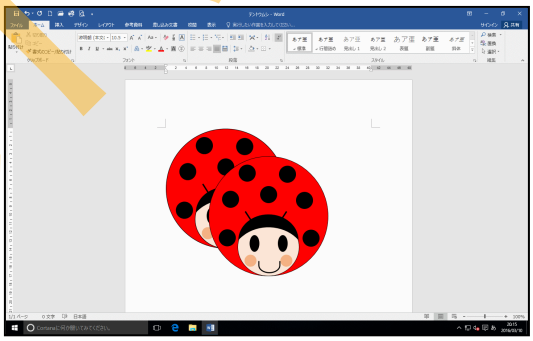


◆画像を PNG というファイル形式で保存する方法をマスターしましょう。

操作前

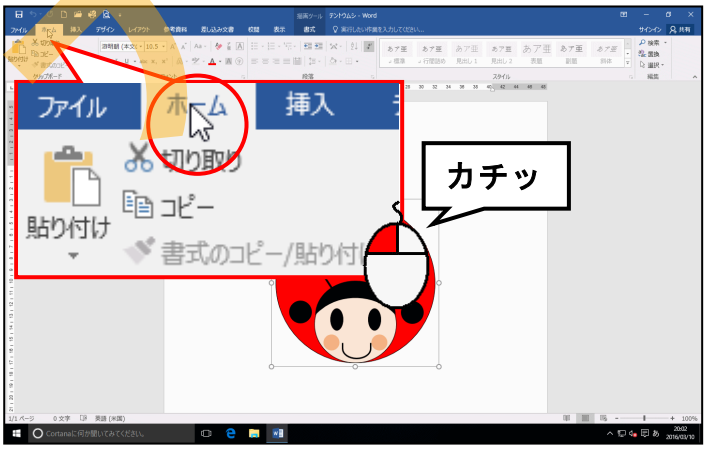


操作後





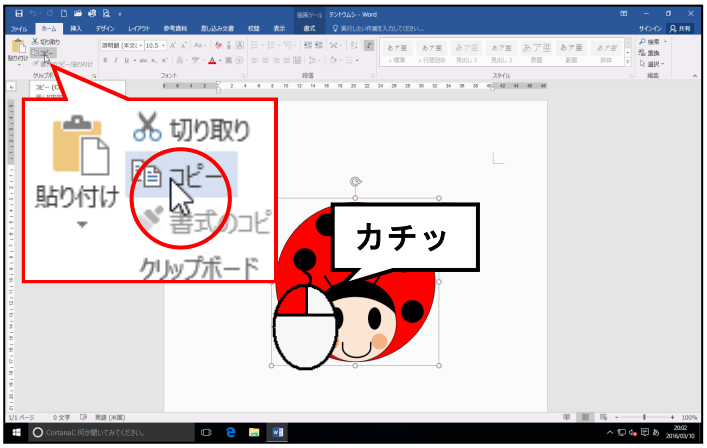
「テントウムシ」が選択されている状態で、［ホーム］タブをクリックします。



●ここからは、図形を選択し、コピーするための操作です。

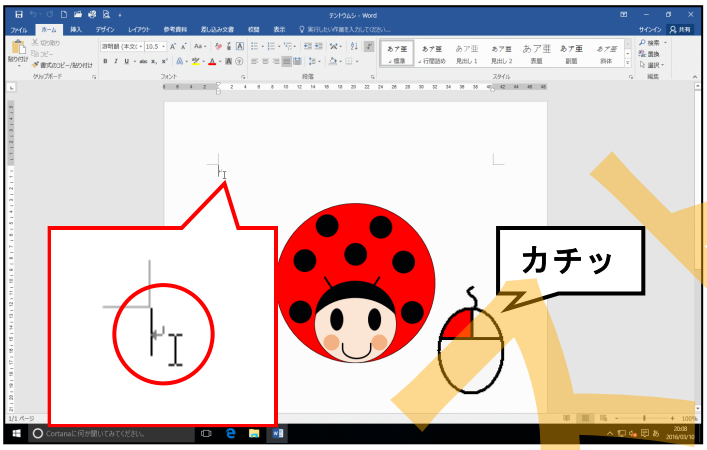
●テントウムシを選択すると、○ がテントウムシの周りに表示されます。

［クリップボード］グループにある［コピー］ボタンにポイントし、クリックします。



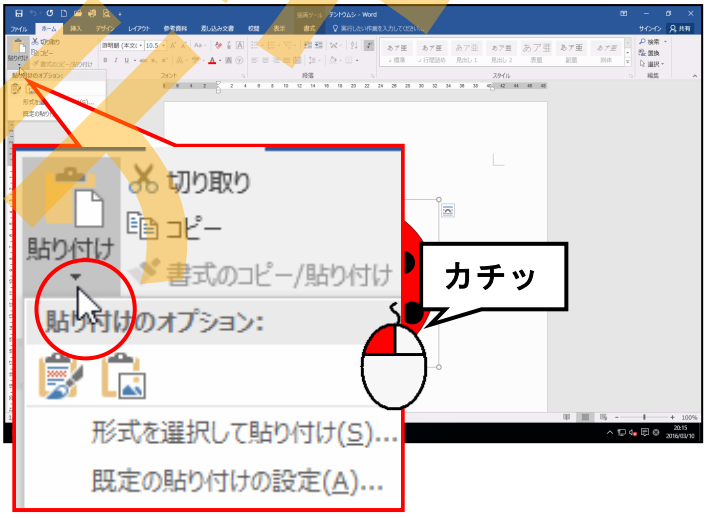
●先ほど作った図形のテントウムシを、画像として保存していきます。一度ワードを閉じなくても、このままの状態で操作していくことができます。

テントウムシ以外をクリックし、選択を解除しておきましょう。



●ここからは、図として貼り付けるための操作です。

［クリップボード］グループにある［貼り付け］ボタンにポイントし、クリックします。



注意!

●**［貼り付け］ボタン**にポイントすると、下図のようにボタンが２つに分かれます。必ず、貼り付け をクリックしてください。 をクリックしてしまうと、貼り付けに関するメニューが表示されません。

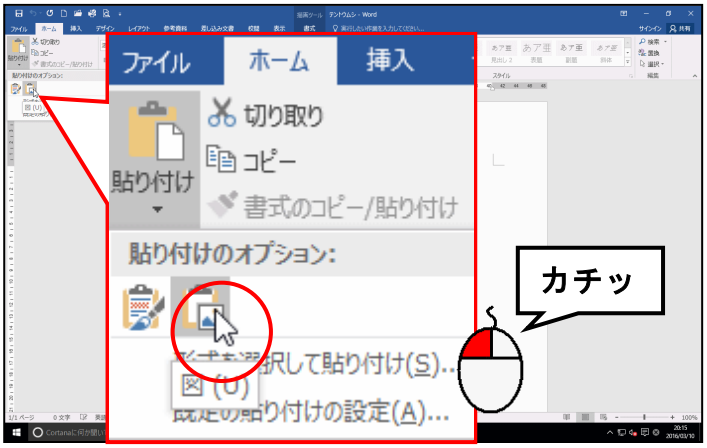


← ここをクリックします

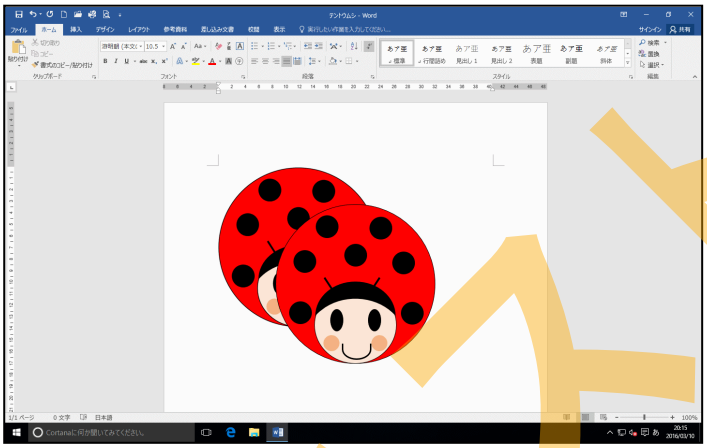


仮テスト見本

表示された一覧から［図(U)］ボタンにポイントし、クリックします。



● **［元の書式を保持］ボタン**と間違えないようにしましょう。



●これで、図形で作成したデータと図として貼り付けたデータと２つが画面上に作成されました。

●次からは、貼り付けたデータをPNG 形式で保存する操作です。

先ほど貼り付けたテントウムシの画像にポイントし、クリックします。



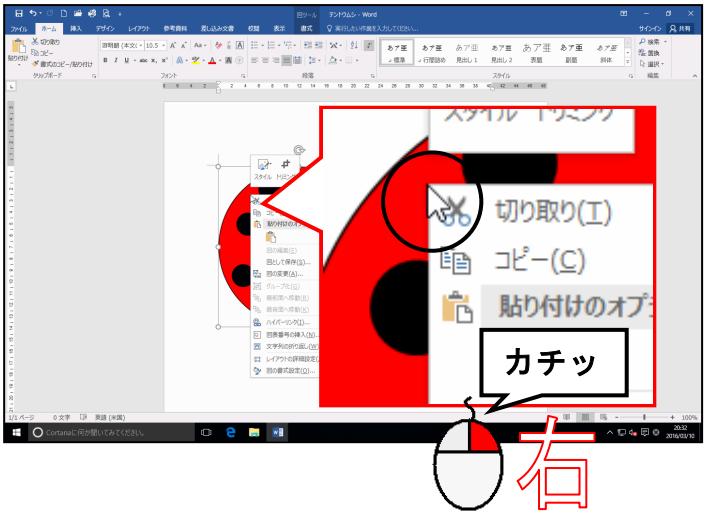
●見た目には違いが判りません。
それぞれのテントウムシをクリックしてみて、**［図］ツール**の書式タブが表示されていれば大丈夫です。もしも、**［描画］ツール**の書式タブが表示されている場合は、図形で描いた方のテントウムシが選択されていますので、選択し直しましょう。

図ツール 書式　**［図］ツール**　・・・画像

描画ツール 書式　**［描画］ツール**　・・図形

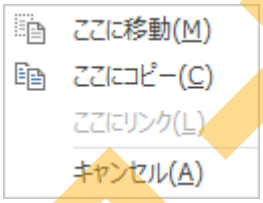
テキスト見本

テントウムシの画像の上で、右クリックします。

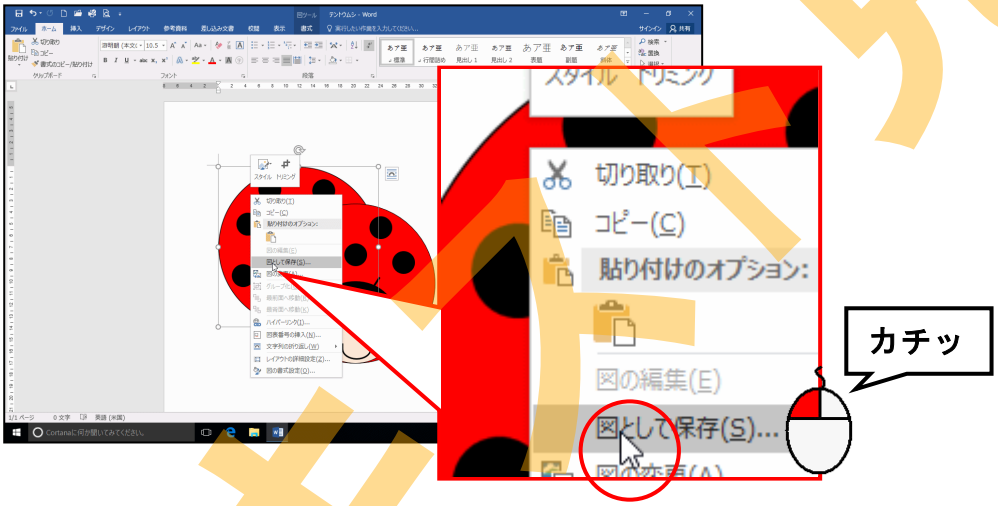


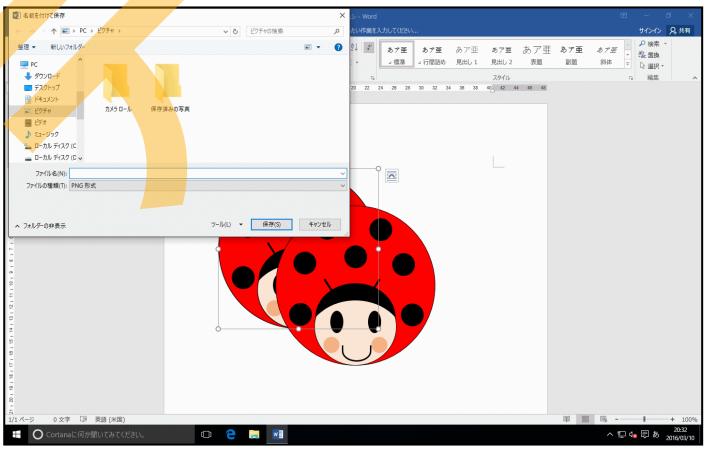
●テントウムシの画像の上で右クリックしましょう。違うところで右クリックすると、同じショートカットメニューが表示されません。

●右クリックするときに長押ししたり、動いてしまったりすると、マウスを離したときに下のような一覧が出てしまいます。



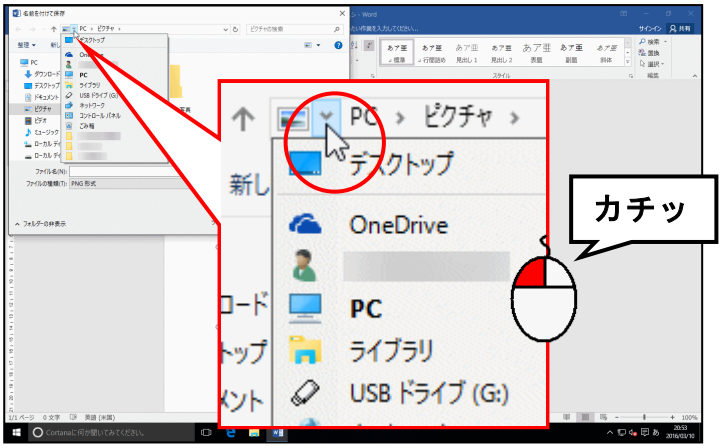
表示されたショートカットメニューから、[図として保存(S)...] にポイントし、クリックします。





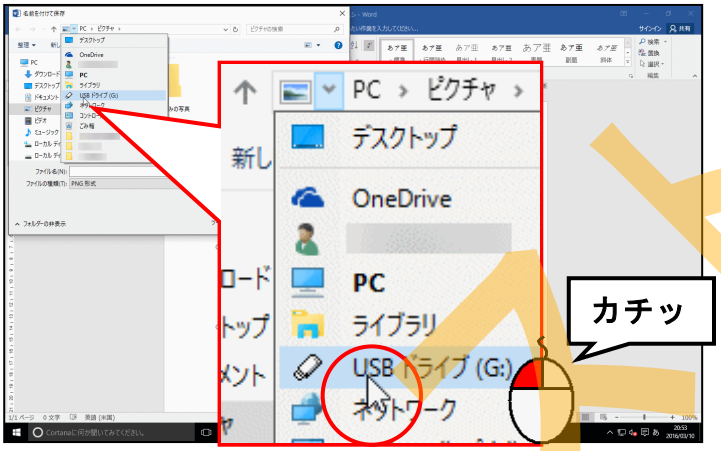
●**[図として保存(S)...]** をクリックすると、左のように **[名前を付けて保存] ダイアログボックス**が表示されます。

「PC」の左にある › にポイントし、クリックします。



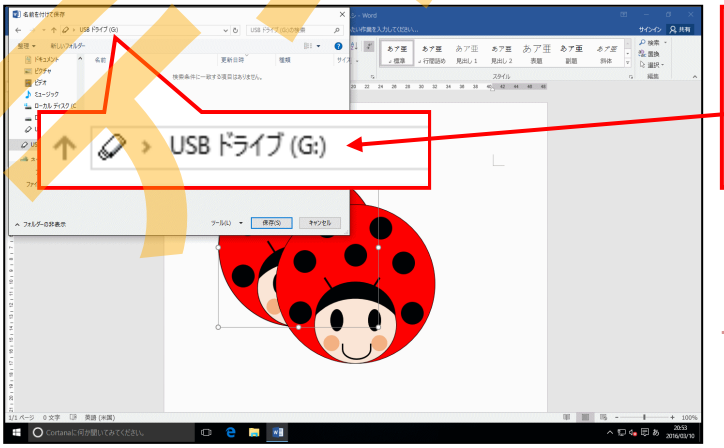
●「PC」の左にある › は、クリックした時点で、左のように ⌄ に変わります。

表示された一覧から「USB ドライブ (G:)」にポイントし、クリックします。



●今回はUSBメモリーに保存するため、**「USB ドライブ (G:)」**をクリックします。

●お使いのパソコンによって、USBメモリーの後ろが**「(G:)」**とは限りません。

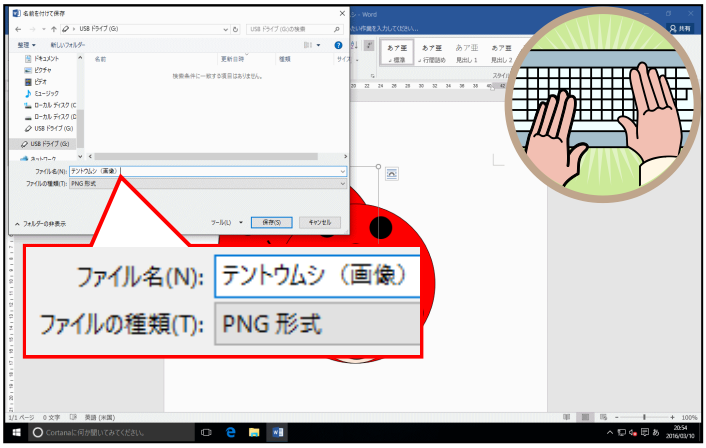


●USB **ドライブ (G:)**] をクリックして少し待つと、**[保存先] ボックス**に **[USB ドライブ (G:)]** が表示されます。

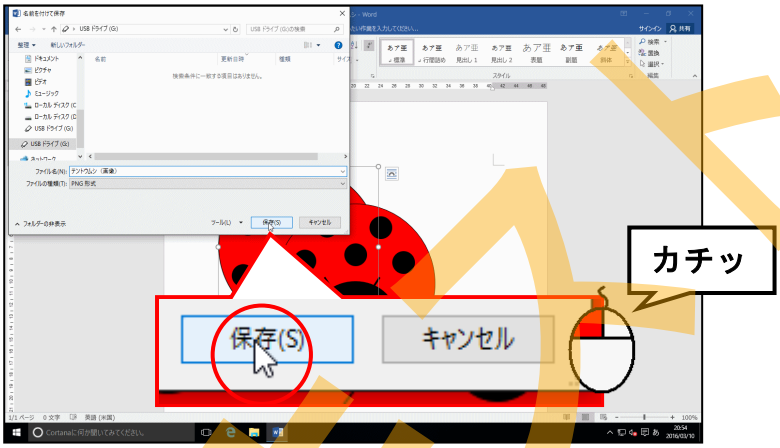


テキスト見本

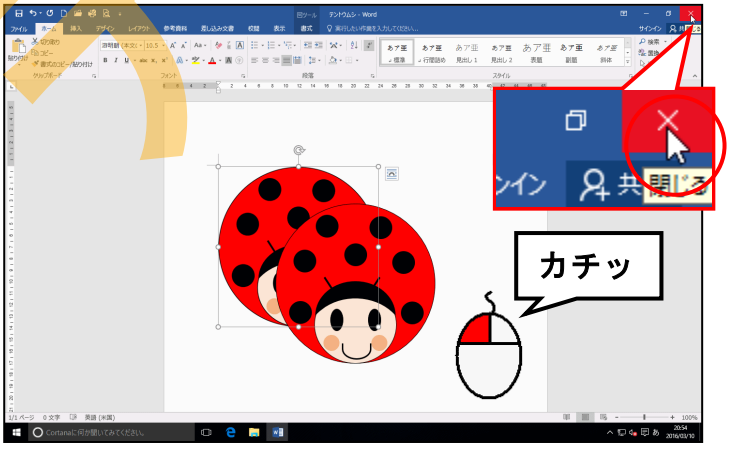
［ファイル名(N):］ボックスに「テントウムシ（画像）」と入力します。



［名前を付けて保存］ダイアログボックスの右下にある［保存(S)］ボタンにポイントし、クリックします。

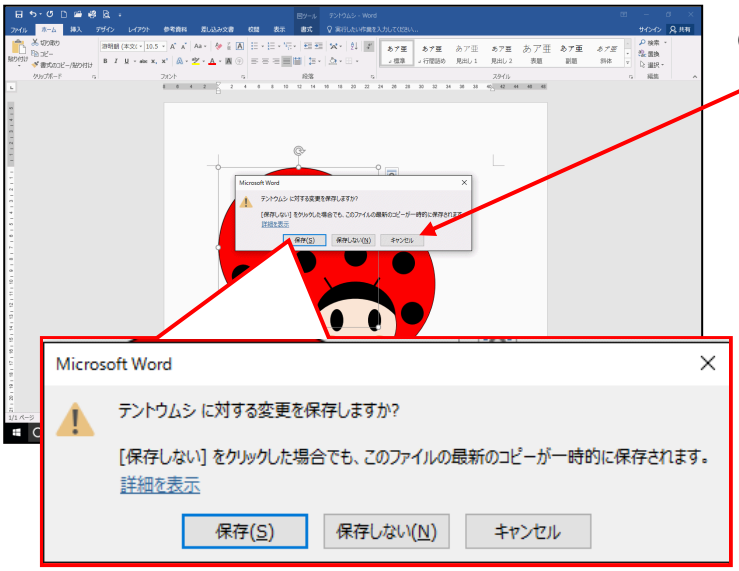


画面右上にある ［閉じる］ボタンにポイントし、クリックします。



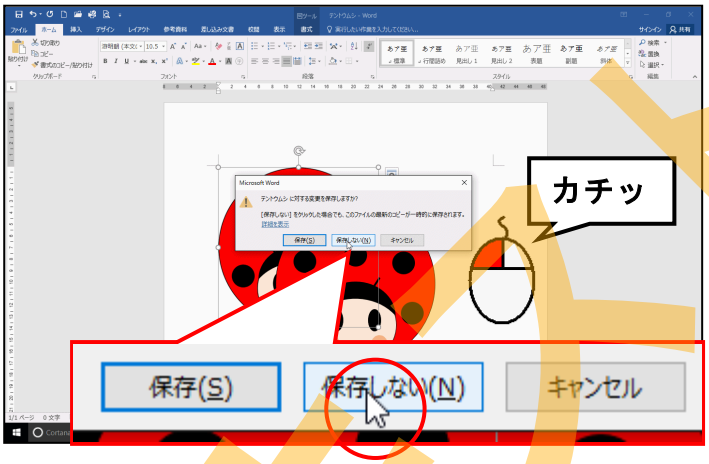
●ここからは、ワードを保存せずに閉じるための操作です。

本試験

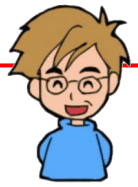


● [閉じる] ボタンをクリックすると、左のような保存の問い合わせに関するダイアログボックスが表示されます。これは、最後にワードを保存したときから、図として貼り付けるという操作（変更）があったため、『再度保存しておきますか？』と聞いてきている状態です。

［保存しない(N)］ボタンにポイントし、クリックします。

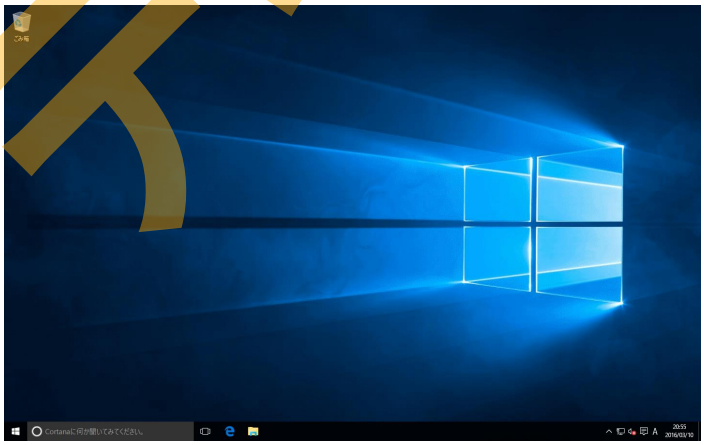


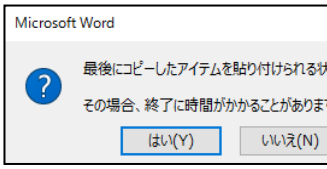
●ここで［保存(S)］ボタンを選んでしまうと、図形のテントウムシと、画像のテントウムシと、２つが重なった状態で保存されてしまいます。ここで［保存しない(N)］ボタンを選択しても、図形で作ったテントウムシの方は、先ほど保存していますので、ちゃんと残っていますから、心配はいりません。

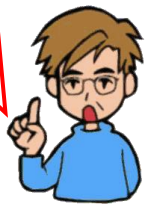


注意!

● ［保存しない(N)］ボタンをクリックして、下図のようなダイアログボックスが表示された方は、［いいえ(N)］ボタンをクリックしておきましょう。







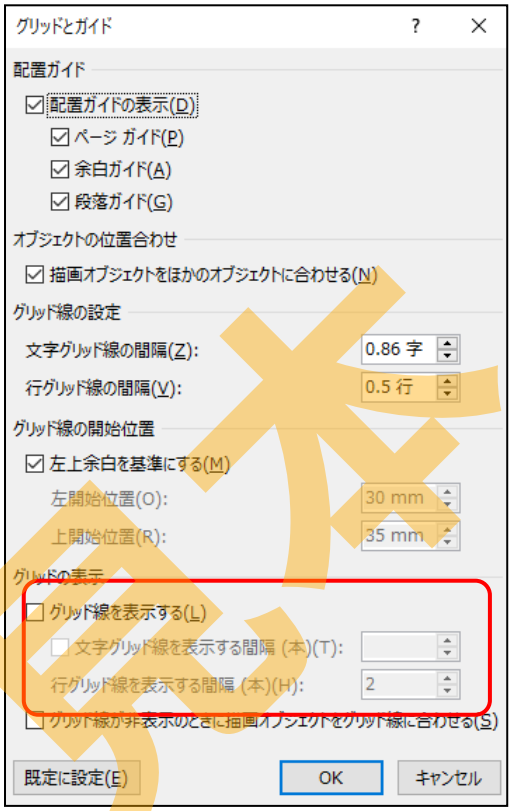
●補足説明（その１）P54

●P40　図形を描きやすくする方法

●グリッド線の表示

［レイアウト］タブの［ページ設定］グループ右下にある［ページ設定］ボタンをクリックして、表示される［ページ設定］ダイアログボックスの下中央にある［グリッド線(W)...］ボタンをクリックします。表示される［グリッドとガイド］ダイアログボックスの「グリッドの表示」の［グリッド線を表示する(L)］にチェックを入れます。［文字グリッド線を表示する間隔(本)(T):］にチェックを入れ、数値を入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

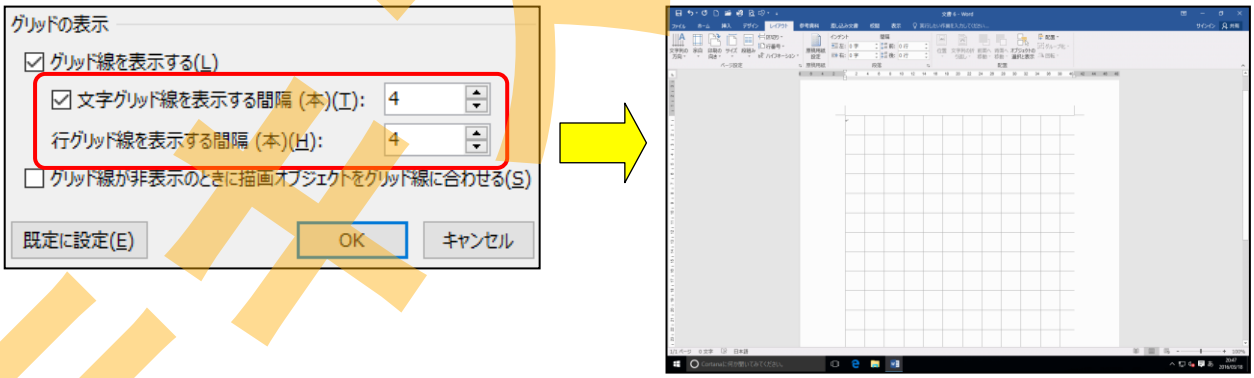
［ページ設定］ダイアログボックスが再度表示されるので、［ＯＫ］ボタンをクリックします。



●グリッド線の非表示

［表示］タブの［表示／非表示］グループにある［グリッド線］のチェックを外します。

実際に［文字グリッド線を表示する間隔(本)(T):］を「4」に設定し、［行グリッド線を表示する間隔（本）(H):］を「4」に設定すると、右下のようになります。



☆☆ここまでくれば練習問題 １ で理解度を試してください。☆☆

テスト用

３．アート効果で遊ぼう

【テントウムシ（アート効果） 完成例】



本紙とイメージ

スケッチ画みたいな絵に変わっちゃった！

ウ メ さ ん「先生、なんだか雰囲気が変わって、またかわいい感じになってるわ。」

タ ケ さ ん「このテントウムシは、さっきわしが描いたテントウムシかの？」



くじら先生「はい、そうですよ。さっきお２人が描いてくれたテントウムシに「アート効果」という設定をつけてみたんです。どうですか？また違ったかわいさでしょう？」

ウ メ さ ん「ほんと！色鉛筆で塗ったみたい！」

タ ケ さ ん「ワードで絵を描いた後、またこんな風に変えられるんか…。すごいもんじゃなぁ。」

くじら先生「そうでしょう！それでは、ウメさんもタケさんも一緒にチャレンジしてみましょう！」



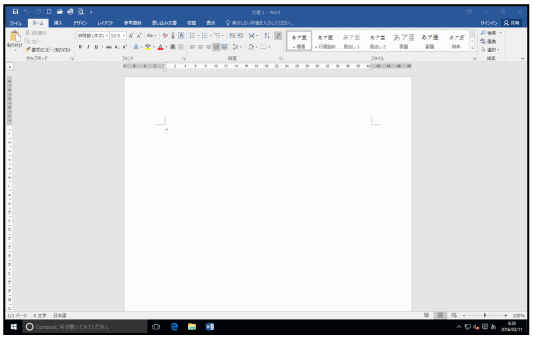


（１）画像の挿入

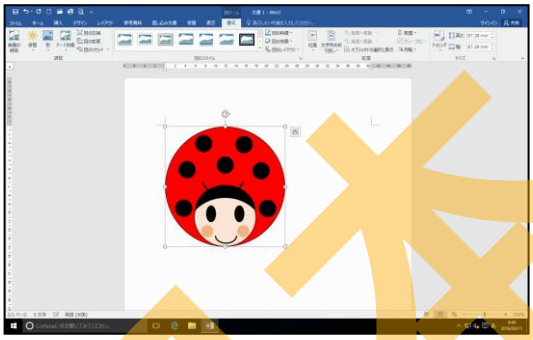
アート効果は、「画像」には設定できますが、「図形」には設定できません。まずは、先ほど画像として保存した**「テントウムシ」**を、新しいワードに挿入してみましょう。

◆画像を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前

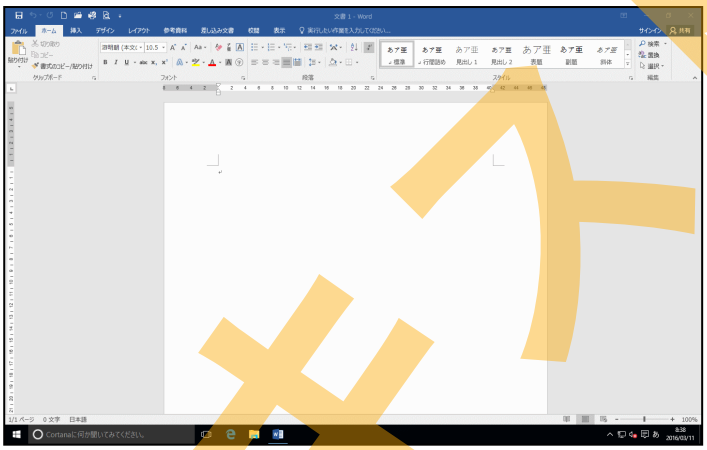


操作後





ワードを起動します。

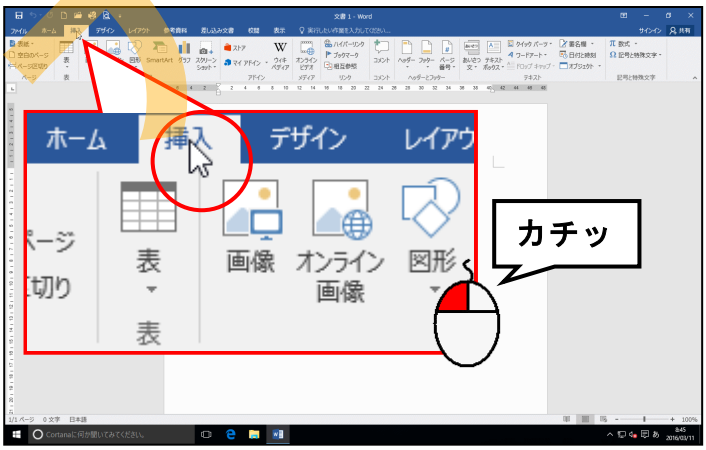


●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）





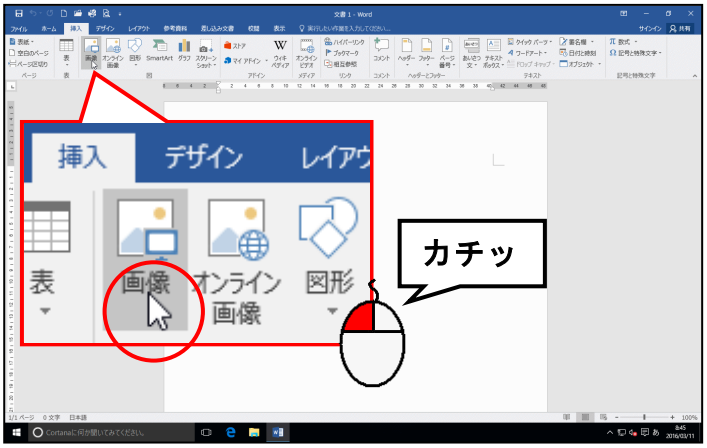
［挿入］タブにポイントし、クリックします。



●ここからは、USB メモリーに保存したテントウムシの画像を、ワードに挿入するための操作です。

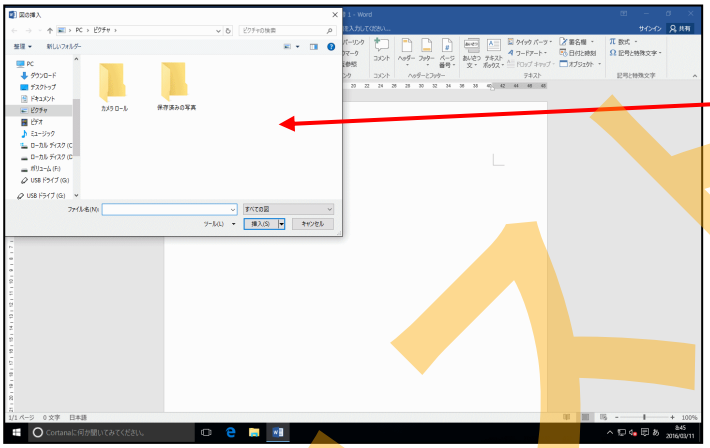
体験版

［図］グループにある［画像］ボタンにポイントし、クリックします。



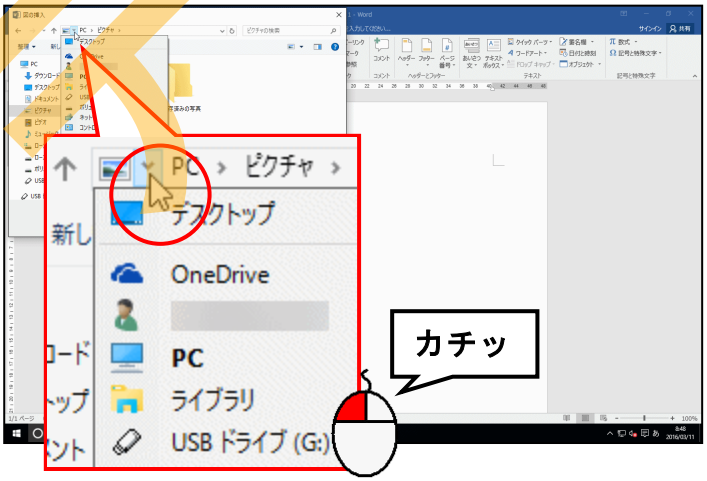
注意!

● ［オンライン画像］ボタンと間違えないようにしましょう。



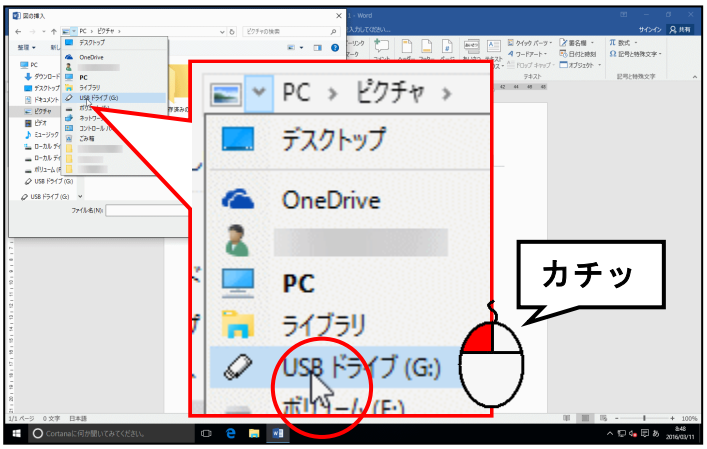
● ［画像］ボタンをクリックすると、左のように［図の挿入］ダイアログボックスが表示されます。

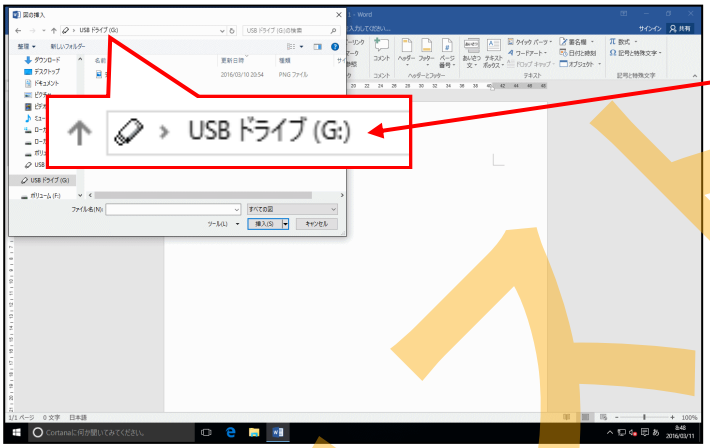
「PC」の左にある › にポイントし、クリックします。



見本テキスト

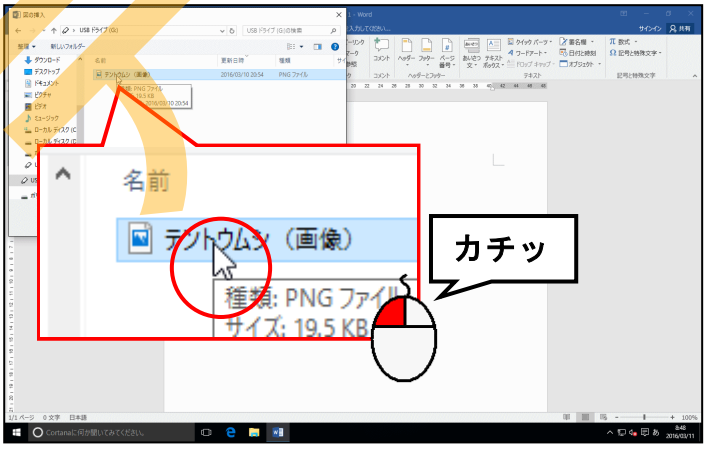
表示された一覧から「USB ドライブ（G:）」にポイントし、クリックします。





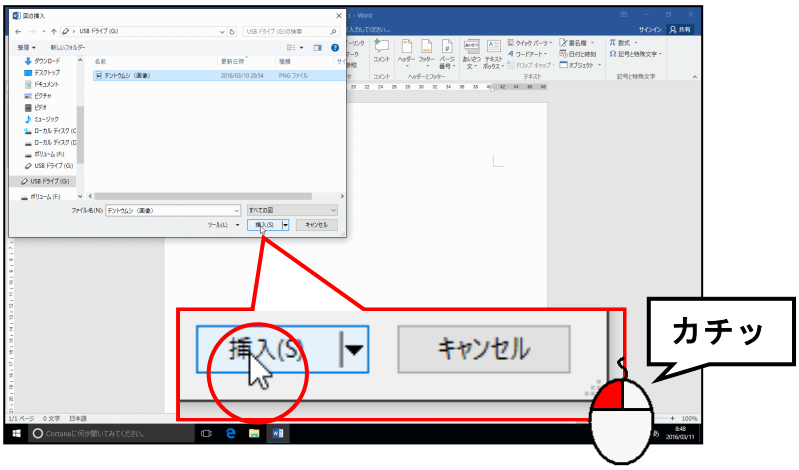
● **「USB ドライブ（G:）」**をクリックすると、**［ファイルの場所］ボックス**に**「USB ドライブ（G:）」**が表示されます。

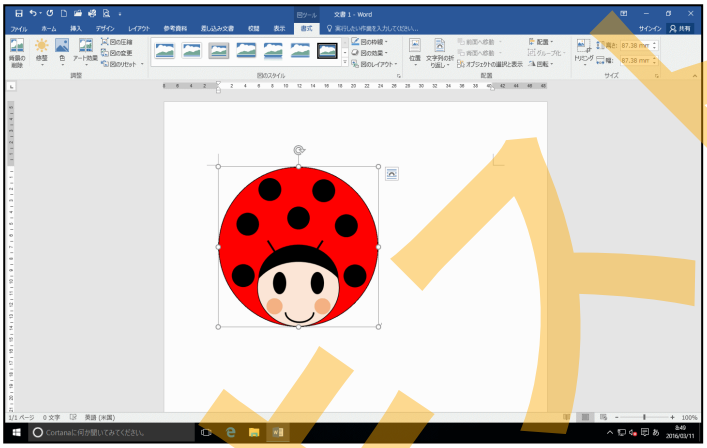
表示された画面上にある「テントウムシ（画像）」にポイントし、クリックします。



テスト用

［図の挿入］ダイアログボックスの右下にある［挿入(S)］ボタンにポイントし、クリックします。





●USB メモリーに保存していた画像を、ワードに挿入することができました。

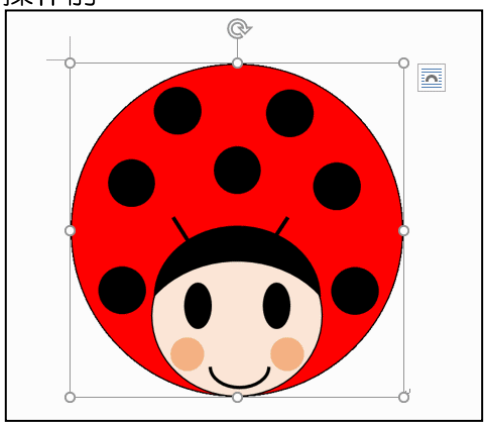
本配布テキスト

（２）画像にアート効果を設定する

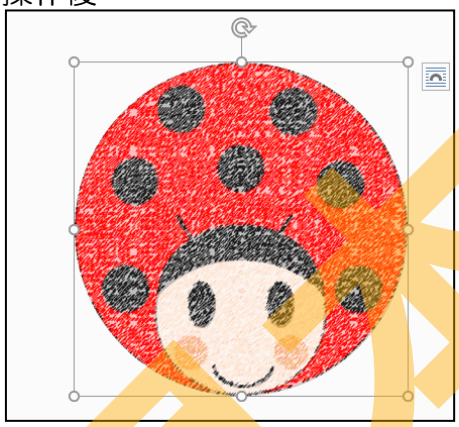
先ほど挿入した画像に、アート効果をつけてみましょう。

◆アート効果を設定する方法をマスターしましょう。

操作前

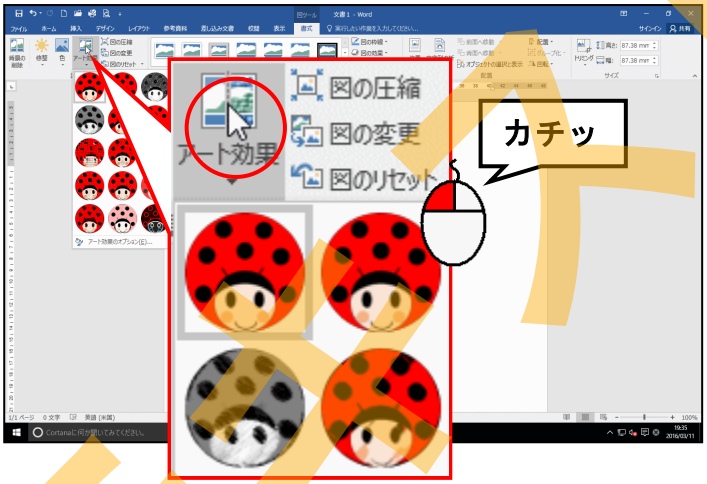


操作後





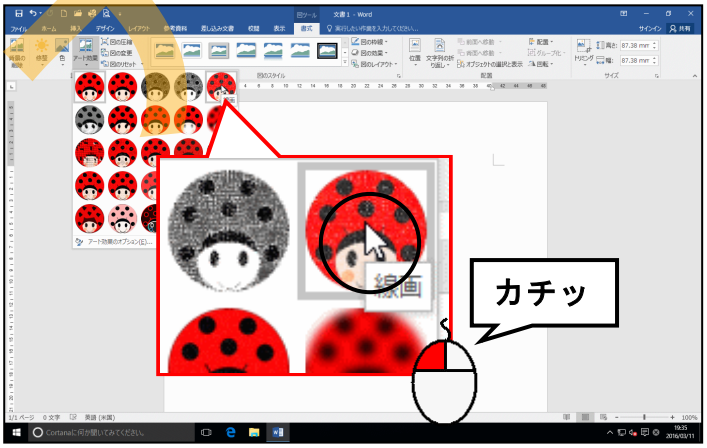
［調整］グループにある［アート効果］ボタンにポイントし、クリックします。



●［**書式**］**タブ**が選択されていない方は、「**テントウムシ**」の画像を選択し、［**書式**］**タブ**をクリックしておきましょう。

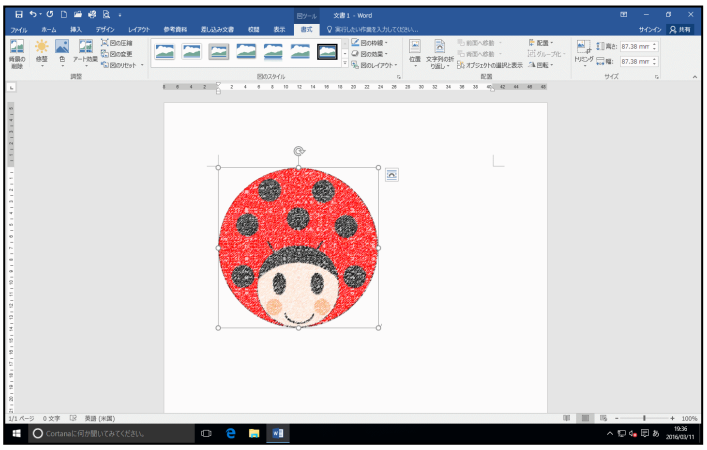
アート効果一覧 P75

表示された一覧から「線画」にポイントし、クリックします。



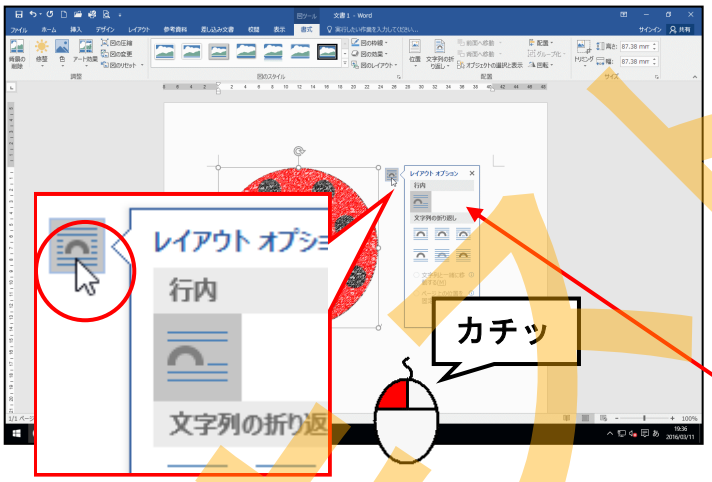
●ポイントすると、選択している画像にそれぞれのアート効果がプレビューで表示されます。

●今回は、「**線画**」という効果を設定しましょう。



●選択している画像が、線画の効果に変わりました。

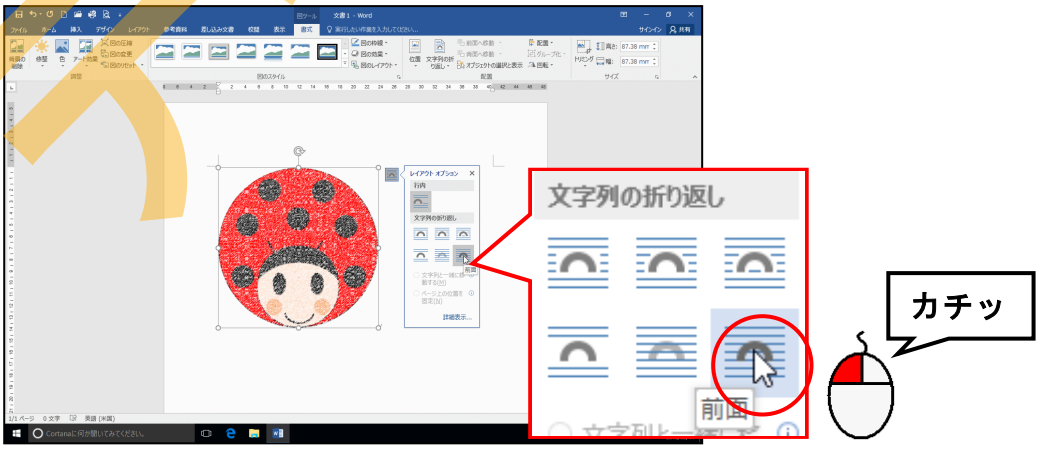
テントウムシの画像の右上にある［レイアウト オプション］ボタンにポイントし、クリックします。

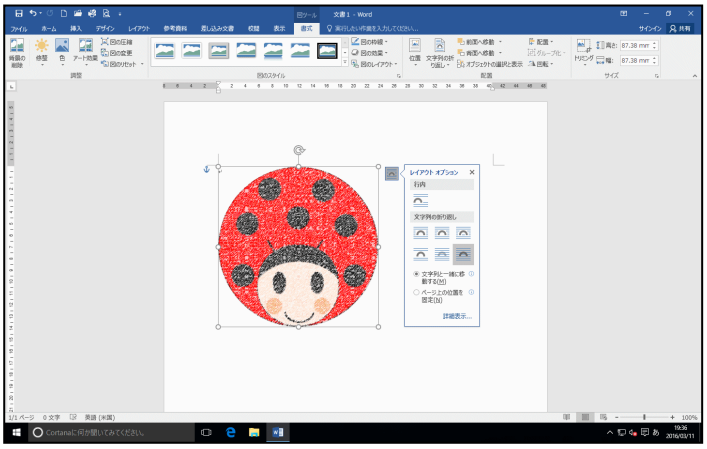


●このままでは、挿入した画像は**［文字列の折り返し］**の設定が**「行内」**になっているため、好きな位置に動かせません。
ここからは、**［文字列の折り返し］**を**「前面」**に設定するための操作になります。

● **［レイアウト オプション］ボタン**をクリックすると、左のようにレイアウトの種類が表示されます。

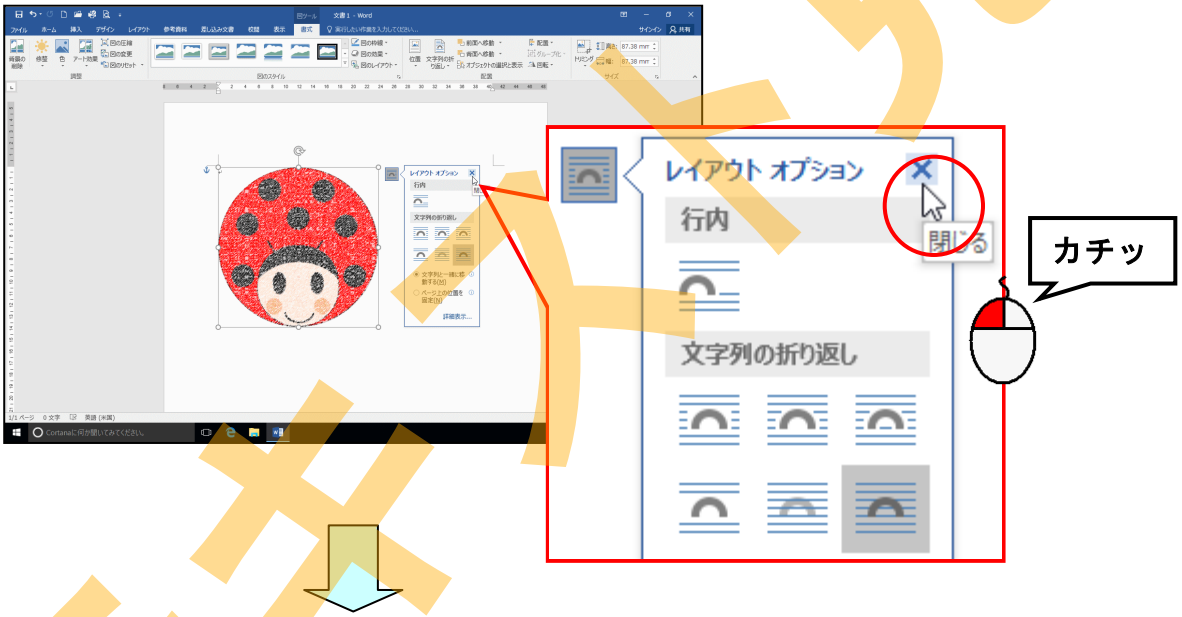
表示された折り返しの中から「前面」にポイントし、クリックします。

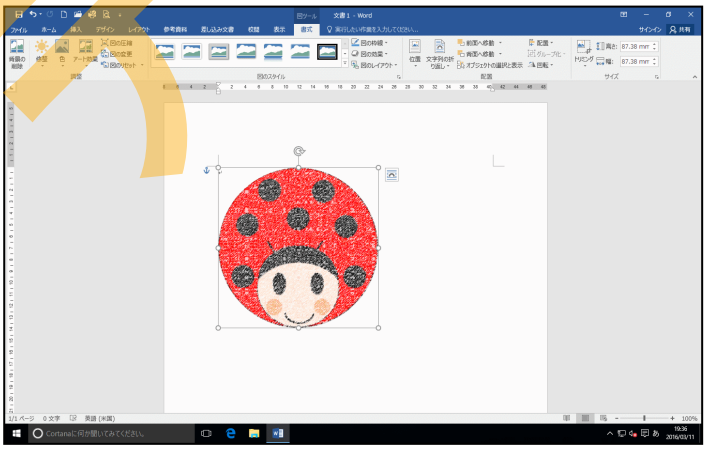




● **［文字列の折り返し］**が**「前面」**に設定されました。見た目には違いがわかりにくいですが、**［文字列の折り返し］**が**「行内」**の場合は、**「テントウムシ」**の画像の右下に ↵（改行マーク）が表示されます。

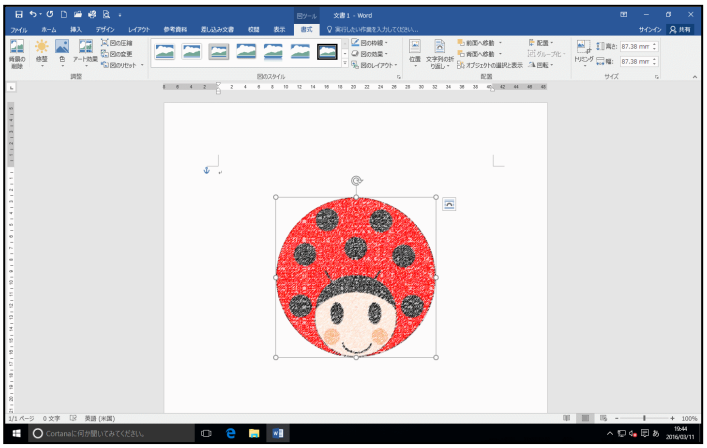
［レイアウト オプション］の ✕［閉じる］ボタンにポイントし、クリックします。





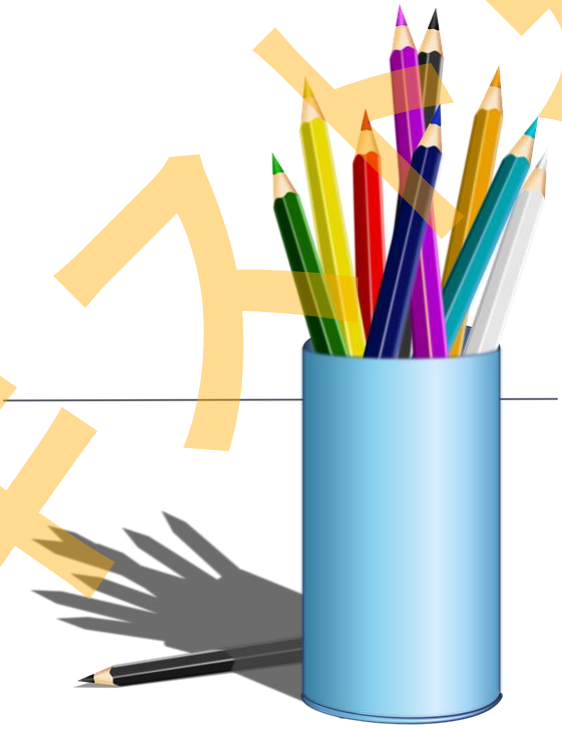
本見本

テントウムシの画像を、少し右下のほうへ移動しておきましょう。



●図形を移動させるのと同じ要領で、テントウムシの画像を動かしておきましょう。

●このあと、上の方にワードアートを挿入するので、上部を空けておきましょう。



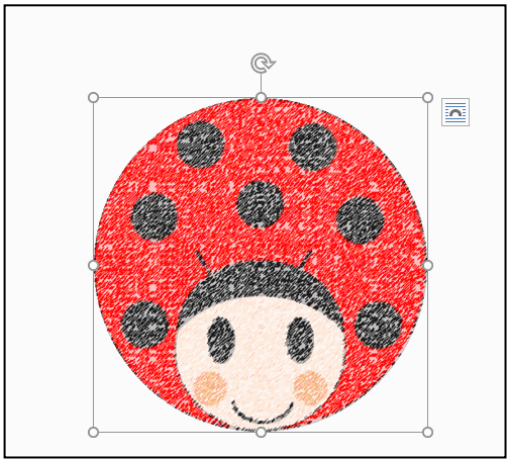
本配布テキスト

（３）ワードアートの挿入

このままではさびしいので、**「ワードアート」**を挿入して、見栄えよくしてみましょう。

◆ワードアートを挿入する方法をマスターしましょう。

操作前

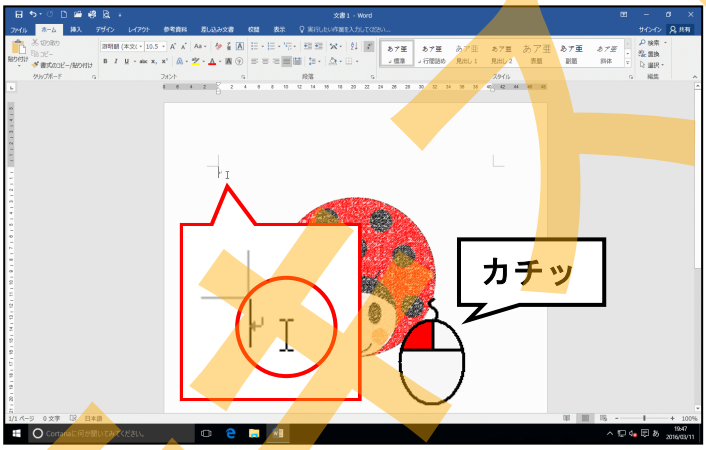


操作後



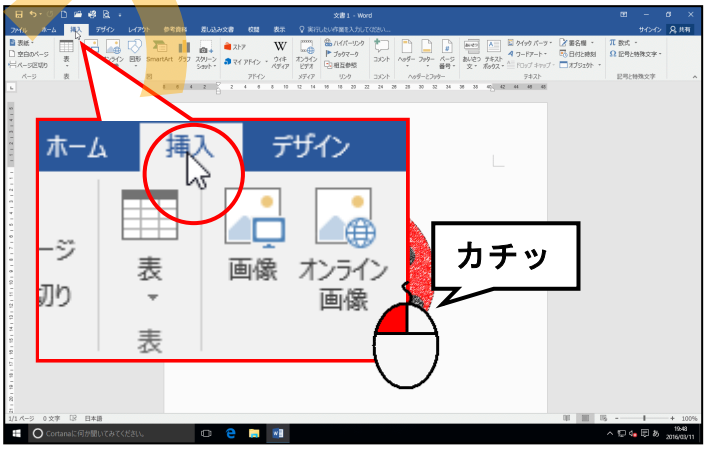


下図の辺りでクリックし、カーソルを表示させます。



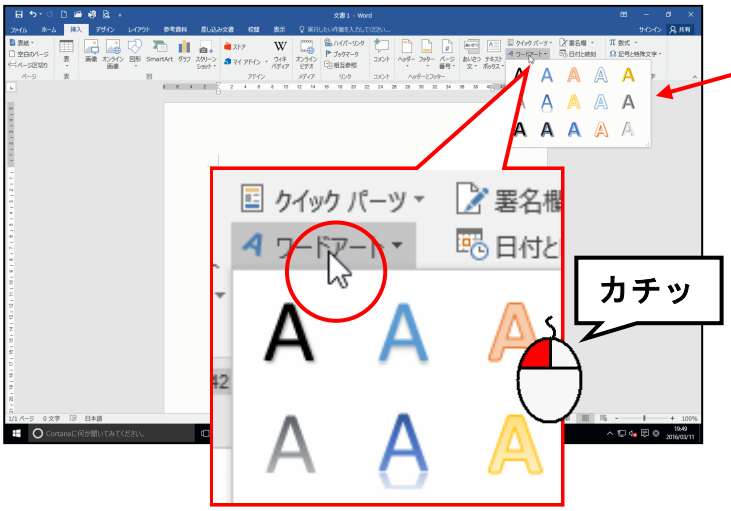
●**「ワードアート」**は、カーソルがある位置に挿入されます。

［挿入］タブにポイントし、クリックします。



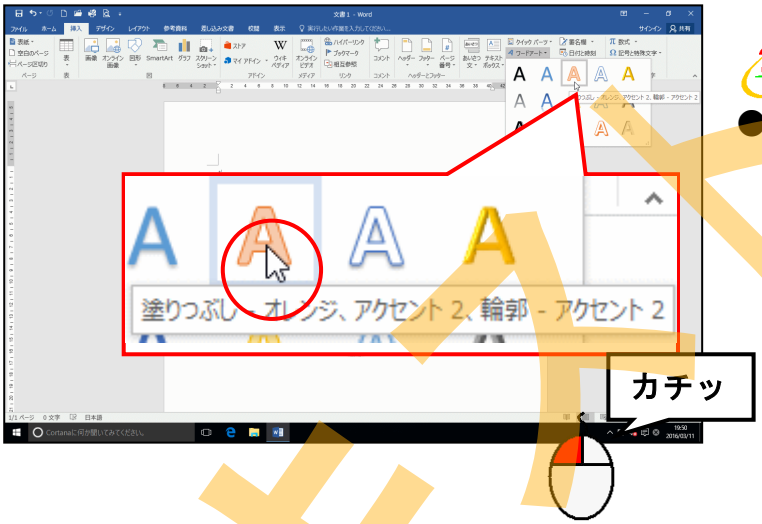
●ここからは、ワードアートを挿入するための操作になります。

［テキスト］グループにある［ワードアート］ボタンにポイントし、クリックします。



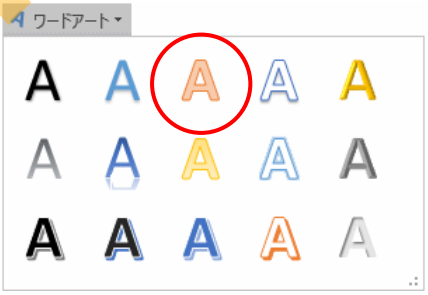
● ［ワードアート］ボタンをクリックすると、左のように［ワードアートギャラリー］が表示されます。

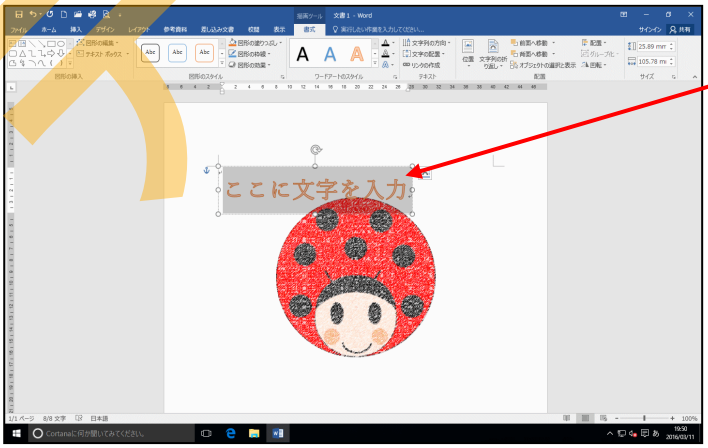
表示された［ワードアートギャラリー］の、「塗りつぶし-オレンジ、アクセント 2、輪郭-アクセント 2」（左から 3 列目の上から 1 行目）にポイントし、クリックします。



注意！

●お使いのパソコンによって、ワードアートスタイルの名称が違う場合があります。下図を参考に選びましょう。

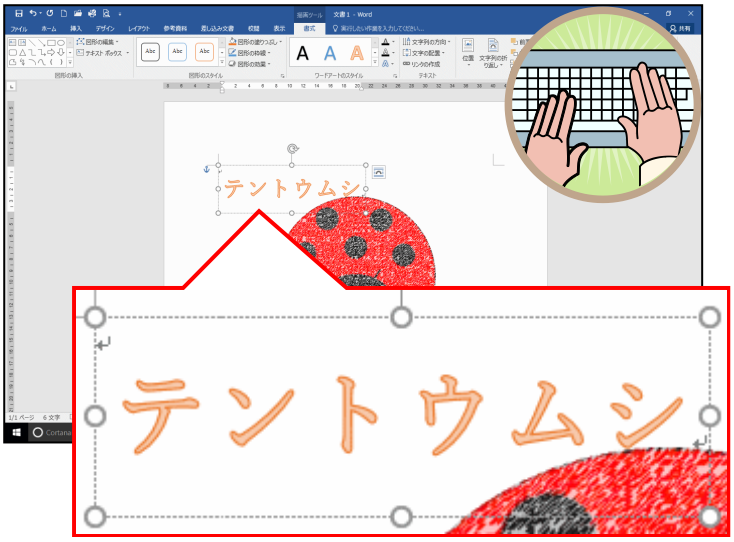




●ワードアートを選択すると、左のように文字を入力するボックスが表示されます。

本試験対策

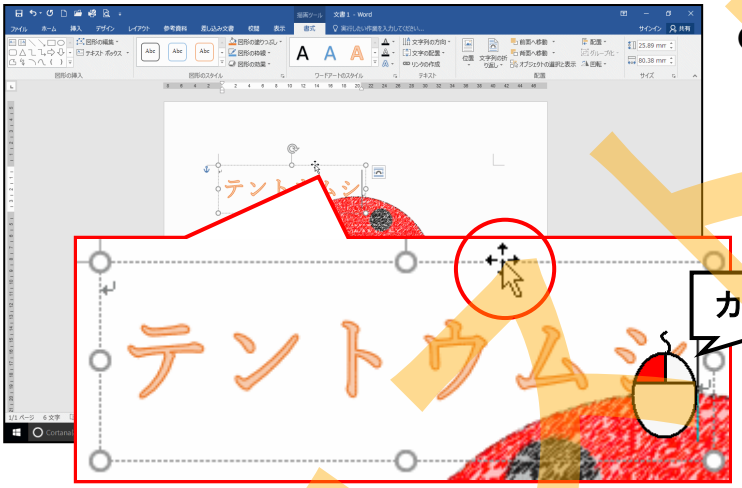
挿入したワードアートが灰色に反転している状態で、「テントウムシ」と入力します。



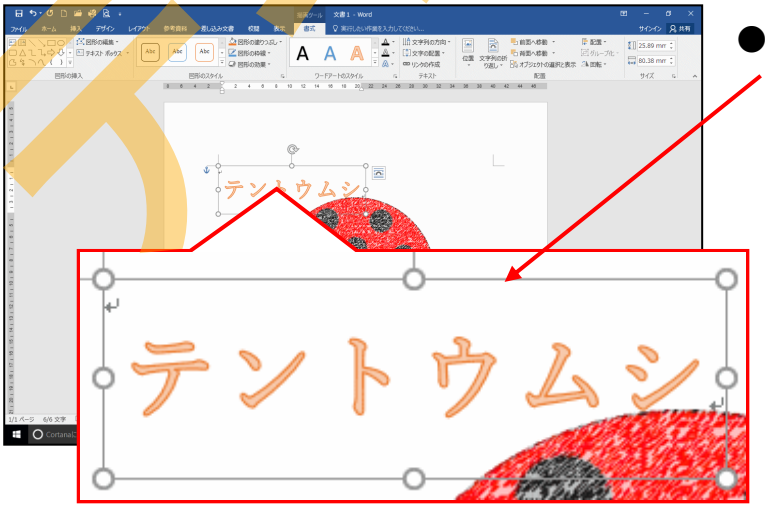
●**「ここに文字を入力」**の文字が灰色に反転していれば、そのまま文字入力すると、入力した文字がきちんと入りますが、カーソルが表示された状態で入力すると、下図のようになってしまいます。その場合は、いらない文字を消しておきましょう。



ワードアートの枠線（点線）にポイントし、クリックします。



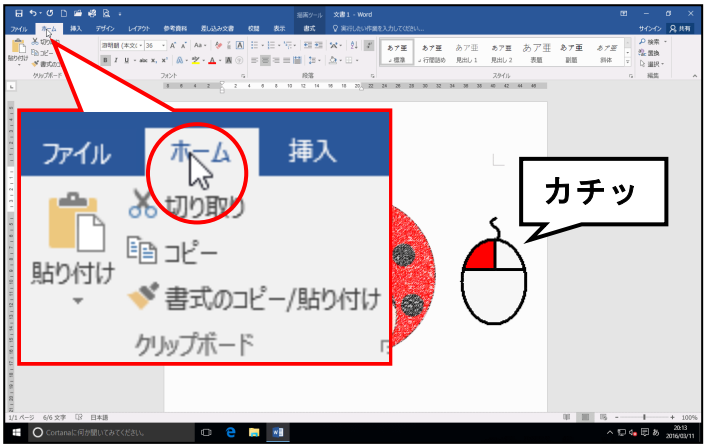
●ここからは、ワードアートの文字のフォントを変更するための操作になります。一度に文字のフォントを変更するためには、ワードアートを選択しておく必要があります。



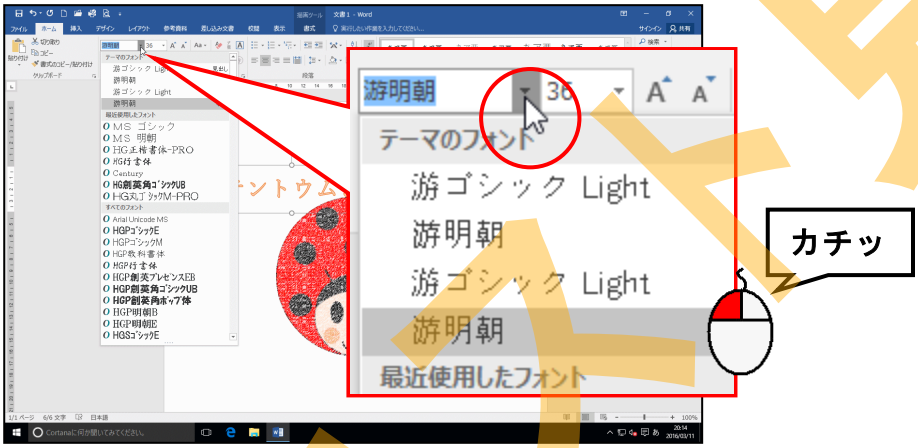
●ワードアートの枠線をクリックすると、枠線が点線から実線に変わります。

見本

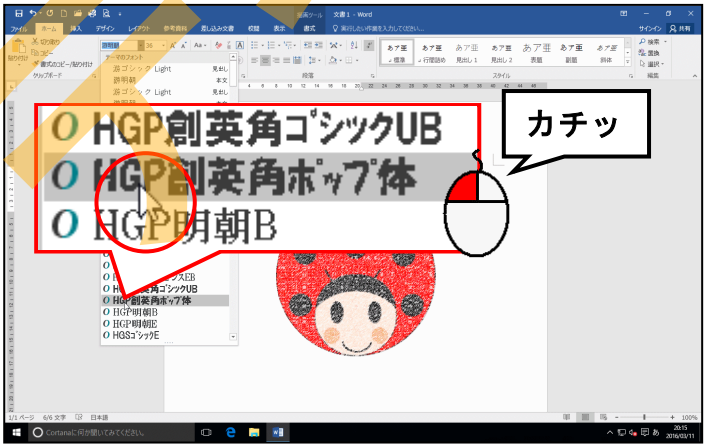
［ホーム］タブにポイントし、クリックします。



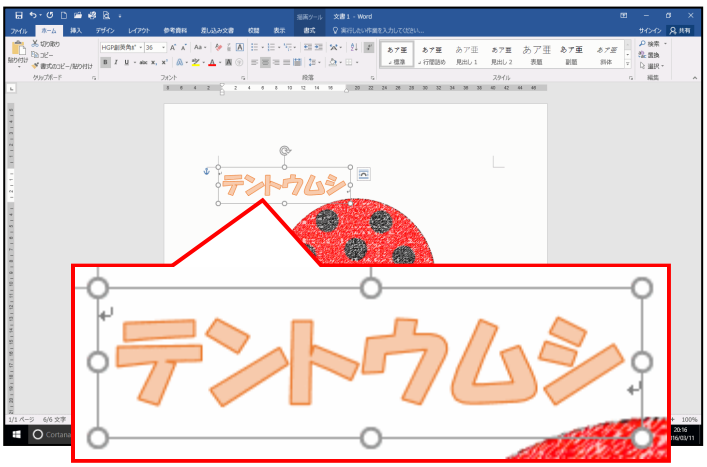
［フォント］グループにある 游明朝 (本文(［フォント］ボックスの▼にポイントし、クリックします。



表示された一覧から「HGP 創英角ポップ体」にポイントし、クリックします。

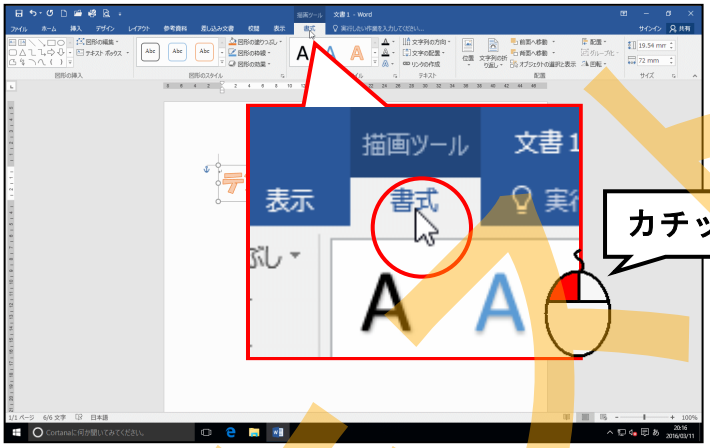


見本



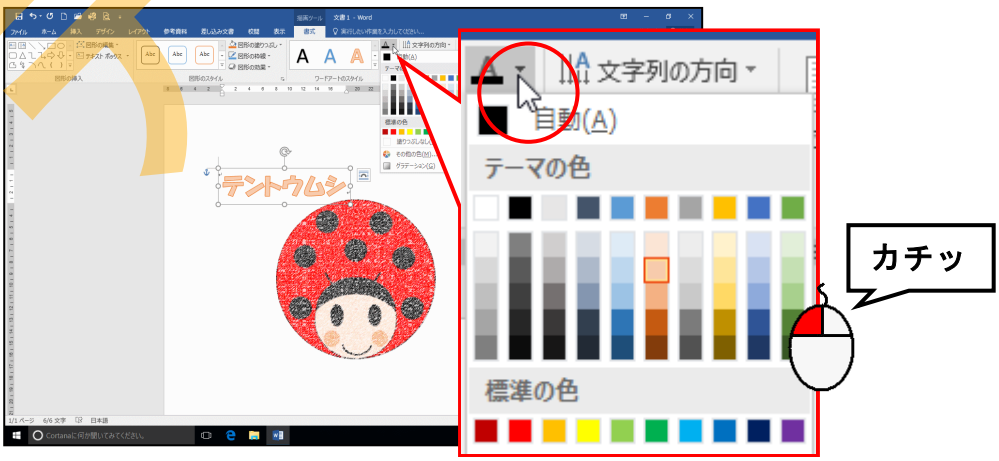
●フォントが**「HGP 創英角ポップ体」**に変更されました。

［書式］タブにポイントし、クリックします。



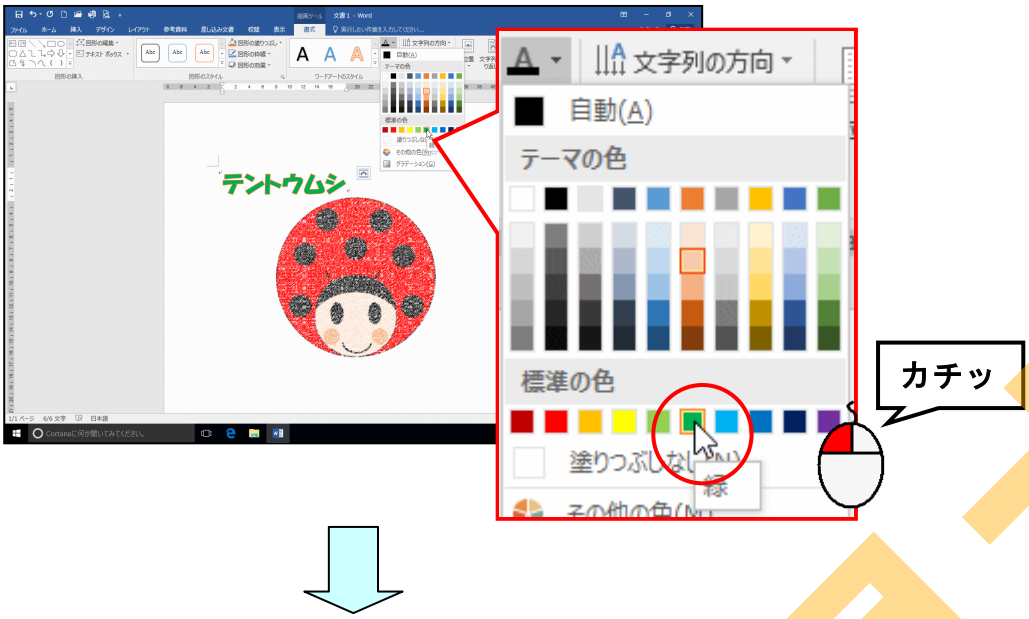
●ここからは、ワードアートの塗りつぶしの色を変更するための操作になります。

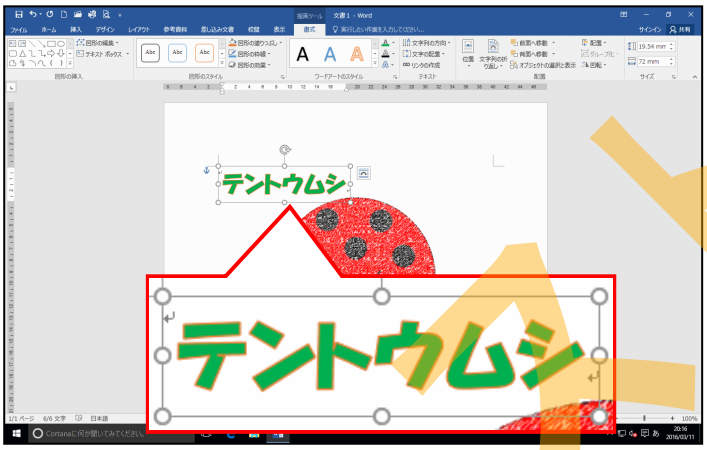
［ワードアートのスタイル］グループにある ▾［文字の塗りつぶし］ボタンの横にある▼にポイントし、クリックします。



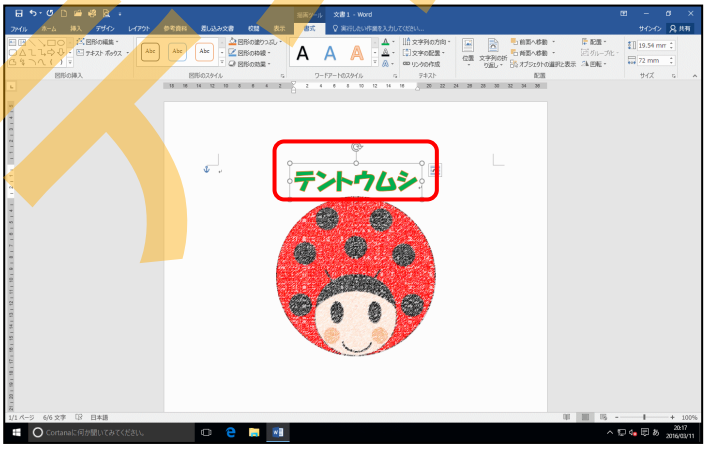
本紙

表示された一覧から「緑」にポイントし、クリックします。





ワードアートを、下図の位置に移動しておきましょう。



●ワードアートは、挿入直後は自動的に［**文字列の折り返し**］が「**前面**」になっていますので、図形を移動させる要領（枠線にポイントし、そのままドラッグする）でテントウムシの画像の上へ移動させておきましょう。

●次の操作でワードアートを画像として設定しますので、画面の左上を空けておきます。

本紙不許可

（4）ワードアートにアート効果を設定する

アート効果は、**「ワードアート」**そのままでは設定できません。先ほど挿入した**「ワードアート」**を、画像にしてからアート効果を設定してみましょう。

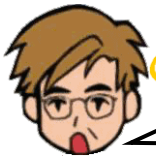
◆ワードアートにアート効果を設定する方法をマスターしましょう。

操作前



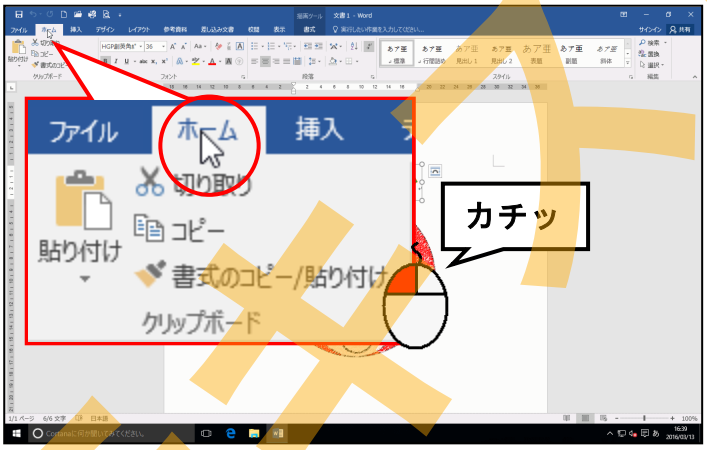
操作後





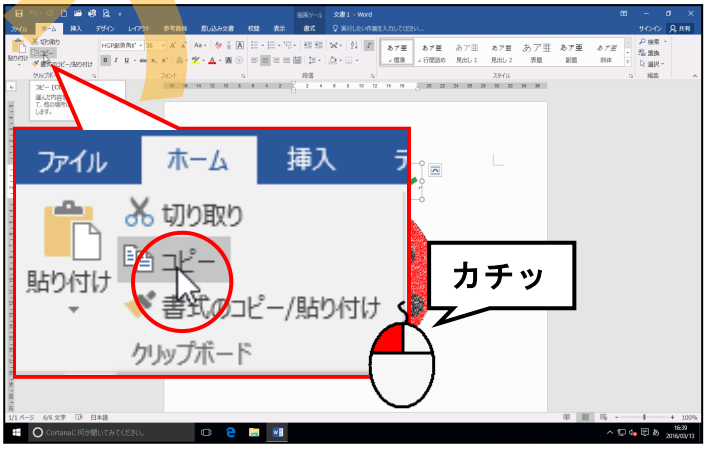
操作は下からです！

ワードアートが選択されていることを確認し、［ホーム］タブにポイントし、クリックします。

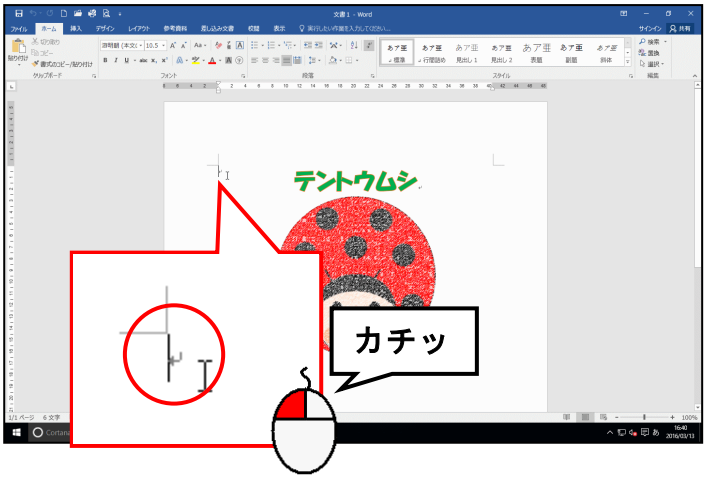


●ここからは、ワードアートを画像に変更するための操作になります。

［クリップボード］グループにある［コピー］ボタンにポイントし、クリックします。

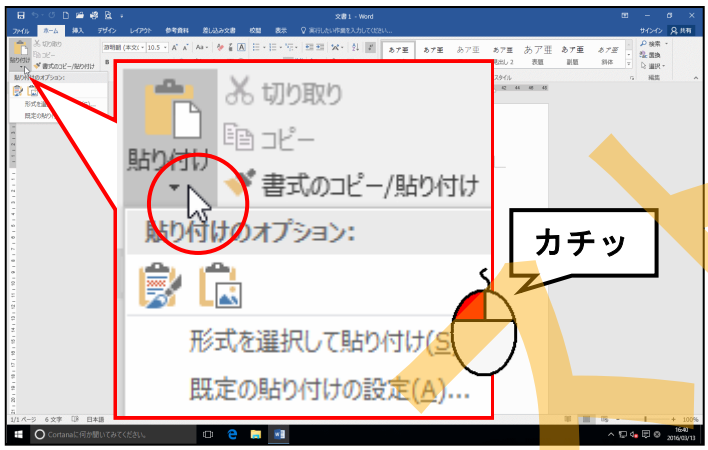


下図の辺りでクリックし、カーソルを表示させます。



●画像として貼り付ける際は、文字列の折り返しが**「行内」**という設定になります。そのため、カーソルのある位置に貼り付けられるので、画面上をクリックし、カーソルを表示しておくようにしましょう。

［クリップボード］グループにある 貼り付け ［貼り付け］ボタンにポイントし、クリックします。



注意!

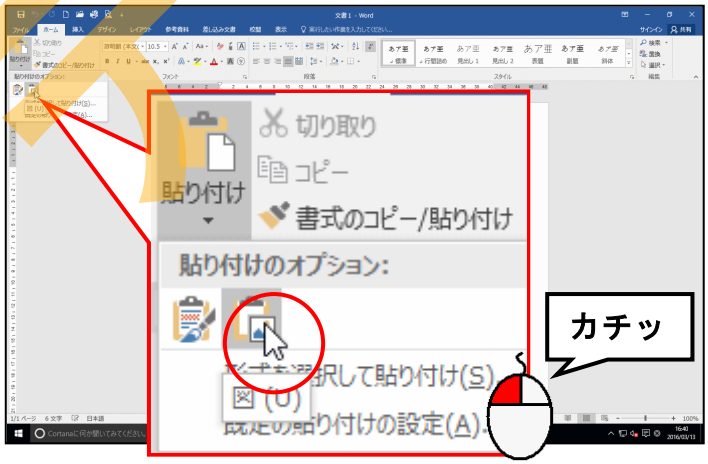
●**［貼り付け］ボタン**にポイントすると、下図のようにボタンが２つに分かれます。必ず、貼り付け をクリックしてください。 をクリックしてしまうと、貼り付けに関するメニューが表示されません。



← ここをクリックします

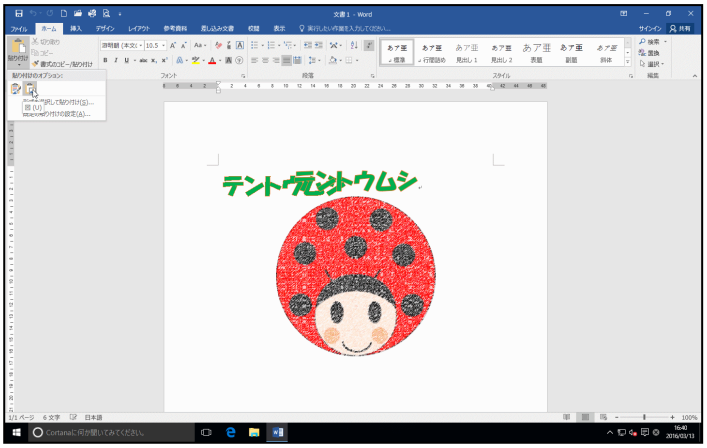


表示された一覧から ［図(U)］ボタンにポイントし、クリックします。



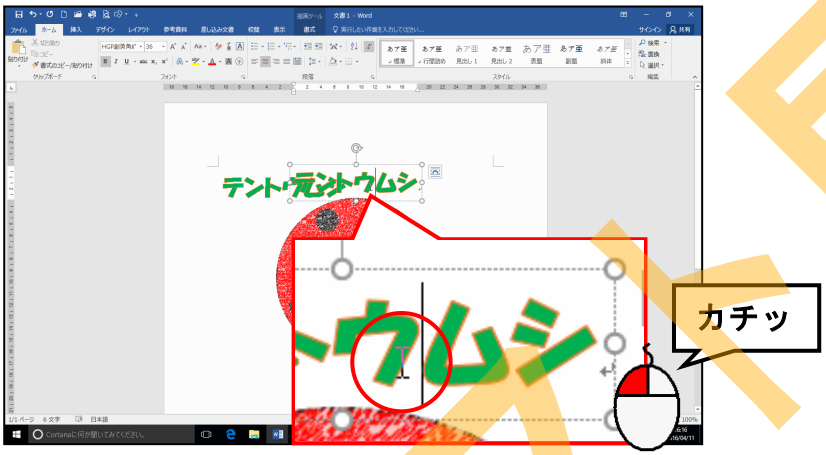
● **［元の書式を保持］ボタン**と間違えないようにしましょう。

見本

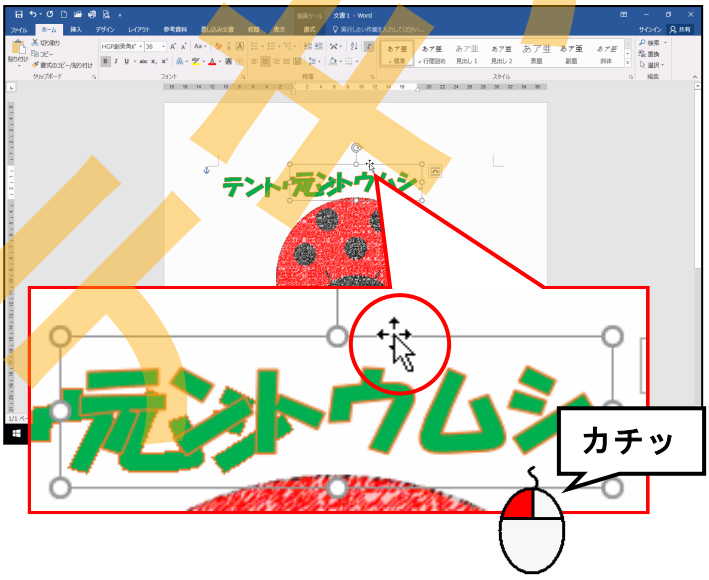


●ワードアートで作った文字と、画像として貼り付けた文字の ２ つが表示されます。

ワードアートで作った「テントウムシ」にポイントし、クリックします。



ワードアートの回りの枠線にポイントし、クリックします。



注意！

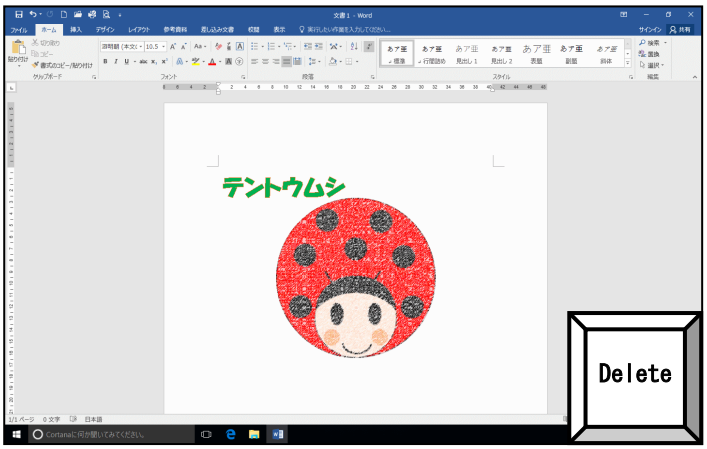
●点線の枠をクリックすると、実線の枠になり、ワードアートが選択された状態になります。

●ワードアートなのか画像化されたものなのか、見た目には違いが判りません。ワードアートを選択したときに、**［描画］ツール**の書式タブが表示されていれば大丈夫です。もしも、**［図］ツール**の書式タブが表示されている場合は、図として貼り付けたワードアートが選択されていますので、再度選択し直しましょう。

描画ツール 書式　**［描画］ツール**　・・　図形

図ツール 書式　**［図］ツール**　・・・画像

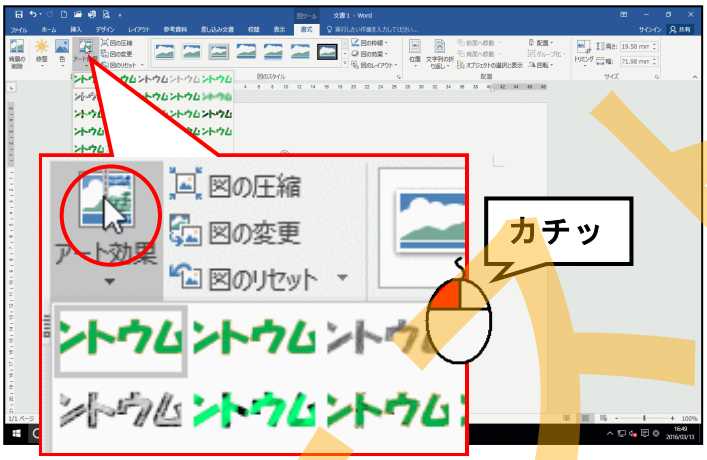
ワードアートが選択された状態で［Delete］キーを押します。



●ワードアートで作った文字は、今回は必要なくなりましたので削除します。

●ワードアートが選択されている状態なら、**［Back Space］キー**を押しても、同じ結果になります。

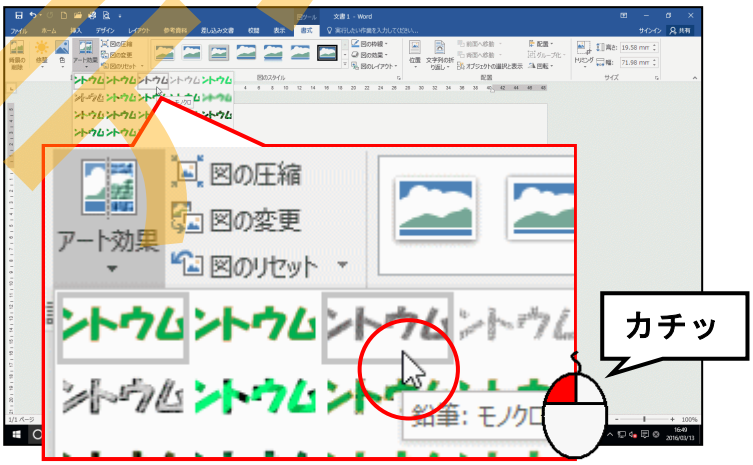
ワードアートの画像を選択し、［書式］タブに切り替え、［調整］グループにある［アート効果］ボタンをクリックします。



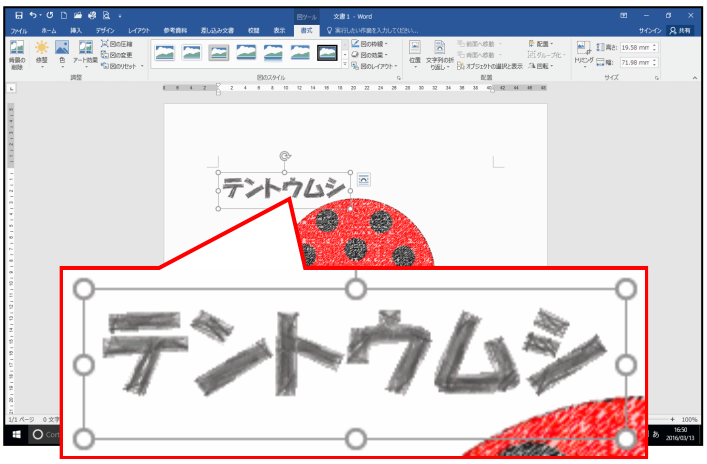
●ここからは、ワードアートの画像にアート効果を設定するための操作になります。

●**［書式］タブ**が表示されていない方は、ワードアートの画像を選択しておきましょう。

表示された一覧から「鉛筆：モノクロ」にポイントし、クリックします。

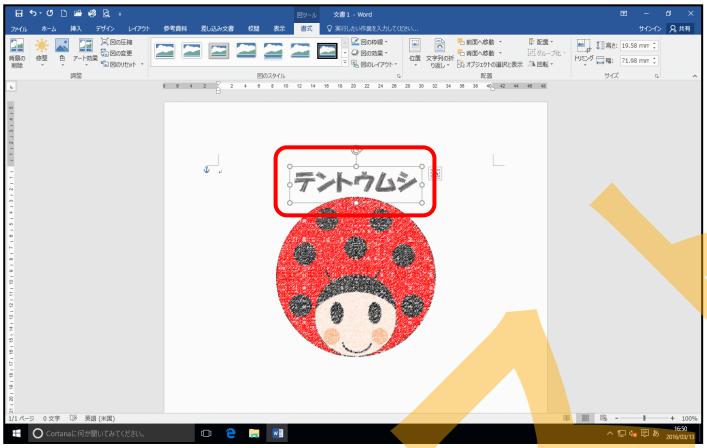


サンプル見本



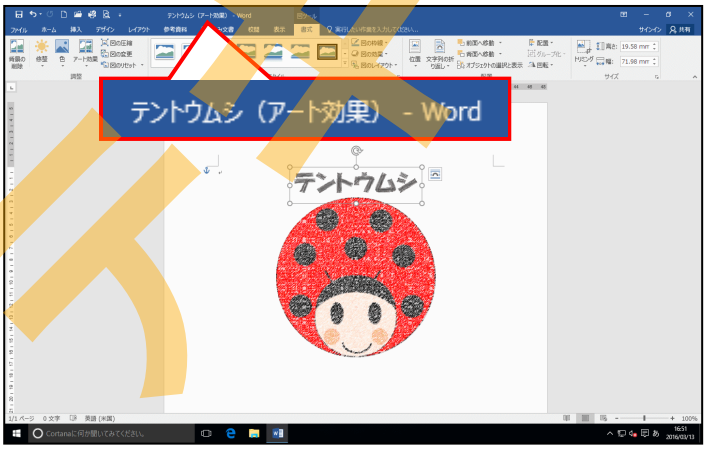
●「**鉛筆：モノクロ**」のアート効果が設定されました。

文字列の折り返しを「前面」に設定し、下図の位置へ移動しましょう。



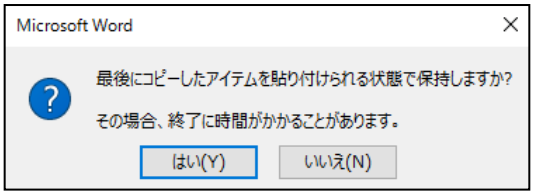
●文字列の折り返しの設定方法を忘れた方は、**P61** を参照してください。

「テントウムシ（アート効果）」と名前を付けて USB メモリーに保存しましょう。



注意!

●ワードを閉じる際に、下図のようなダイアログボックスが表示された方は、**［いいえ(N)］ボタン**をクリックしておきましょう。





ワードを閉じておきましょう。

テスト見本

●補足説明（その２）P75

●P60　アート効果一覧



1. なし
2. マーカー
3. 鉛筆：モノクロ
4. 鉛筆：スケッチ
5. 線画
6. チョーク：スケッチ
7. ペイント：描線
8. ペイント：ブラシ
9. 光彩：デフューズ
10. ぼかし
11. パッチワーク
12. 水彩：スポンジ
13. フィルム粒子
14. モザイク：バブル
15. ガラス
16. セメント
17. テクスチャライザー
18. 十字模様：エッチング
19. パステル：滑らか
20. ラップフィルム
21. カットアウト
22. 白黒コピー
23. 光彩：輪郭

体験入学

☆☆ここまでくれば練習問題 2 で理解度を試してください。☆☆

４．図形の効果を利用して描く

【月と雲 完成例】



体験版

こんなうっすらとした感じで描けるんだ～



ウ メ さ ん「ワードでこんなにうっすらとした絵が描けるのね。」

タ ケ さ ん「まだテキストがはじまって間がないのに、こんなに難しいことができるんか？　心配じゃ…。」

くじら先生「大丈夫。さっきまでは図形の塗りつぶしの色や枠線の色だけを使ってきましたが、ぼかしや透明度などの図形の効果という機能を使うと簡単にできるんですよ。」

ウ メ さ ん「すごく楽しみだわ。先生早くはじめましょう！」

くじら先生「はい。では楽しみながら進んでいきましょう！！」





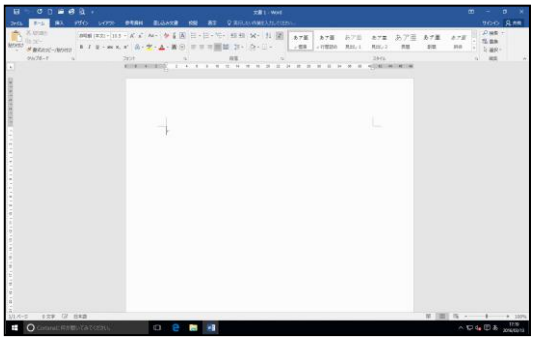
（１）描きやすくするための準備

① 画面の設定

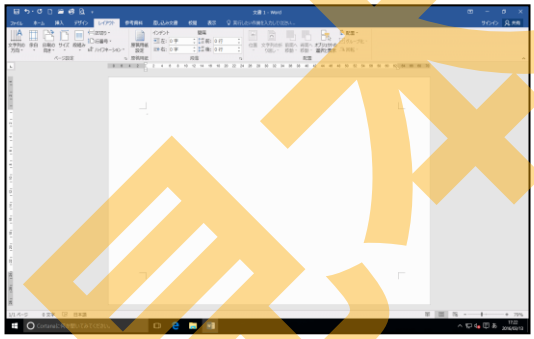
ワードの用紙の向きの初期設定は縦向きです。ここでは A4 の横向きを使用しますが、A4 の横の用紙の設定だと、全体が表示されない場合があります。画面全体が表示されるために倍率を変更してみましょう。

◆画面の倍率を変更する方法をマスターしましょう。

操作前

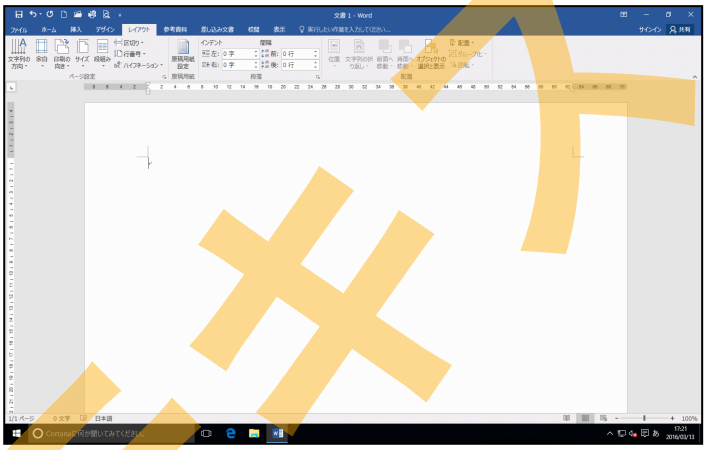


操作後



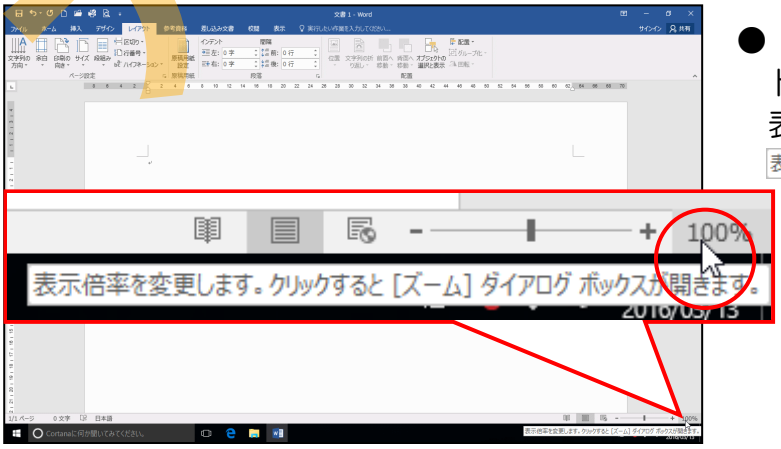


ワードを起動し、用紙の向きを横向きにします。



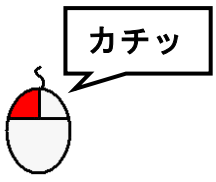
●用紙を横向きにするには、**［レイアウト］タブ**の**［ページ設定］グループ**にある **［印刷の向き］ボタン**をクリックし、**「横」**を選択します。

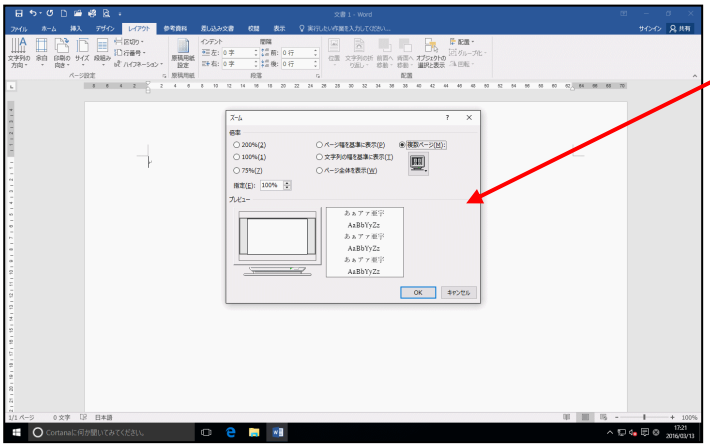
画面右下にある 100% ［ズーム］ボタンにポイントし、クリックします。



● 100% **［ズーム］ボタン**にポイントすると、次のようなメッセージが表示されます。

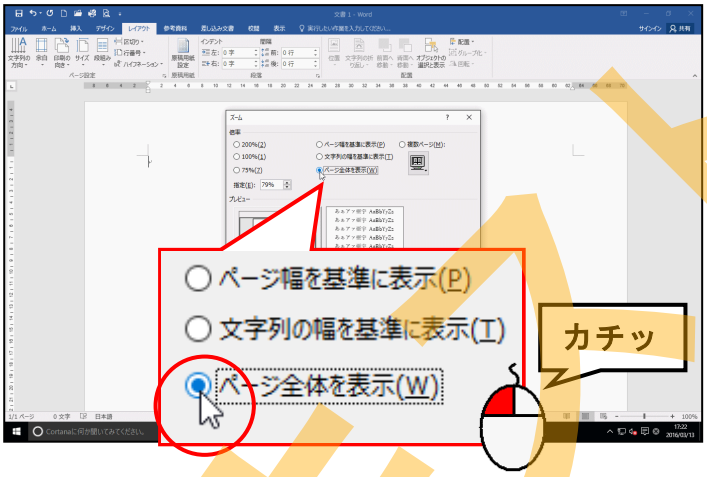
表示倍率を変更します。クリックすると [ズーム] ダイアログ ボックスが開きます。





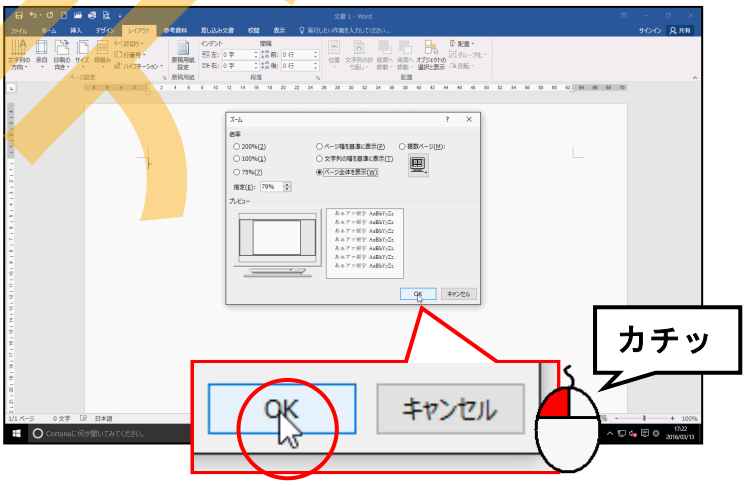
● 100% ［ズーム］ボタンをクリックすると、［ズーム］ダイアログボックスが表示されます。

［ページ全体を表示(W)］のチェックボックスにポイントし、クリックします。

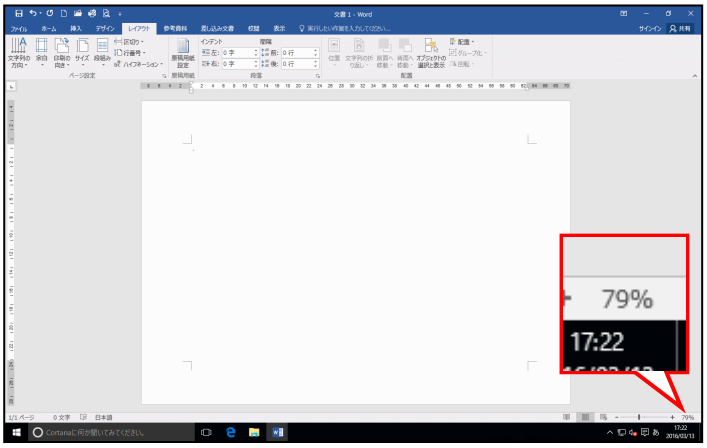


● ［ページ全体を表示(W)］をクリックすると、左に ◉ が表示されます。

［ＯＫ］ボタンにポイントし、クリックします。



下見本



●［ＯＫ］**ボタン**をクリックすると、表示倍率が縮小されて、ページ全体が表示されます。

●左の図では、表示倍率が 79% になっていますが、お使いのパソコンによって表示倍率は異なります。





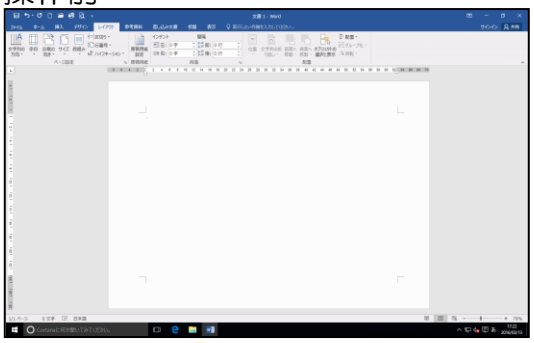
サンプル

② 背景色の設定

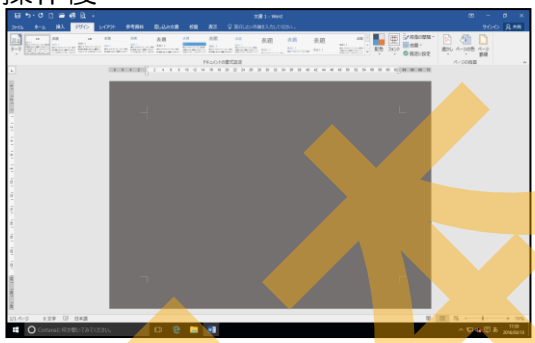
通常、用紙の色は白色になっています。ここでは、ぼかしの絵を描きますので、背景を暗くして絵がはっきりわかるように設定してから描きましょう。

◆背景色を設定する方法をマスターしましょう。

操作前

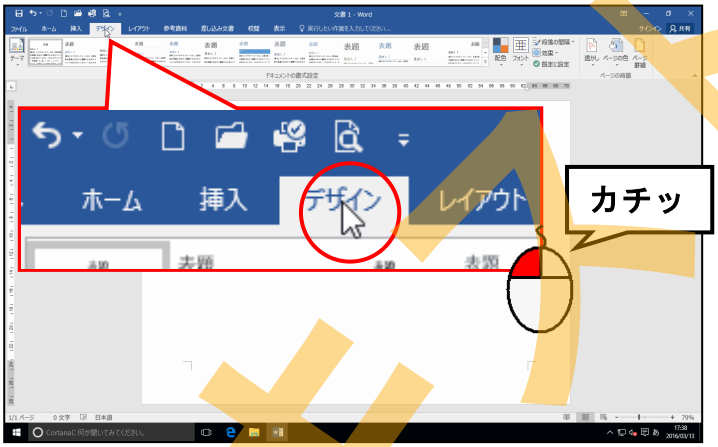


操作後



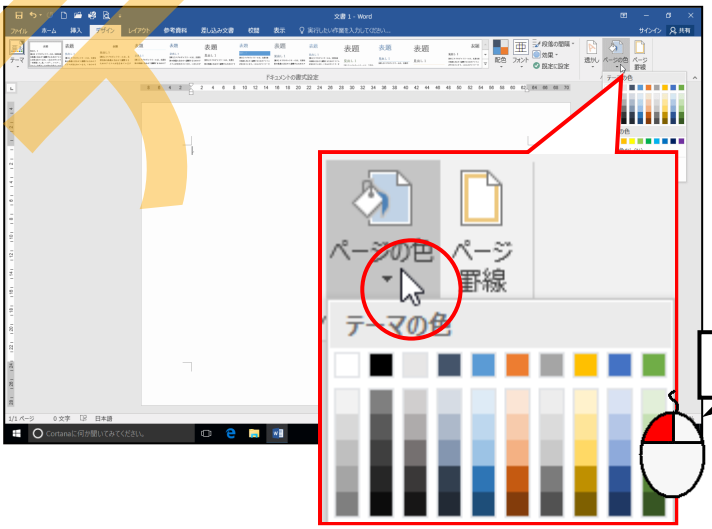


［デザイン］タブにポイントし、クリックします。



●**「背景色」**の設定は、**［デザイン］タブ**から行います。

［ページの背景］グループにある［ページの色］ボタンにポイントし、クリックします。



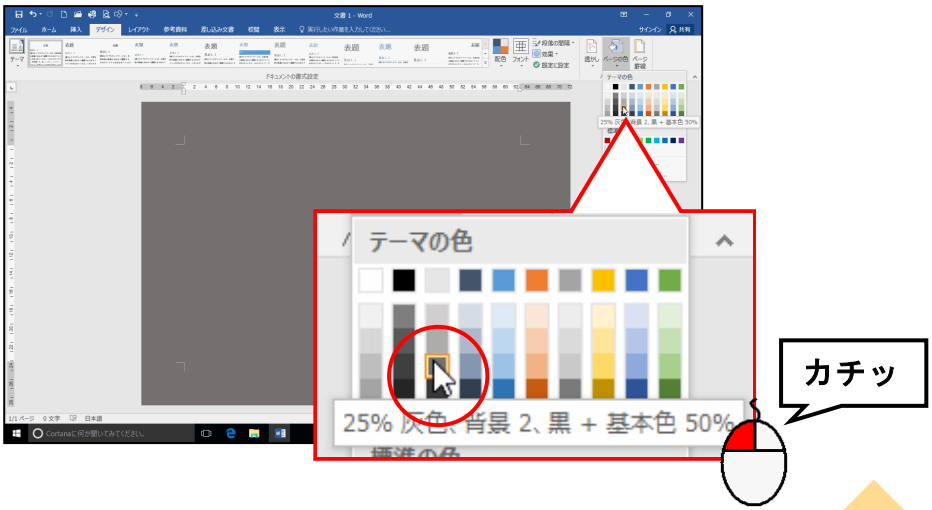
●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）

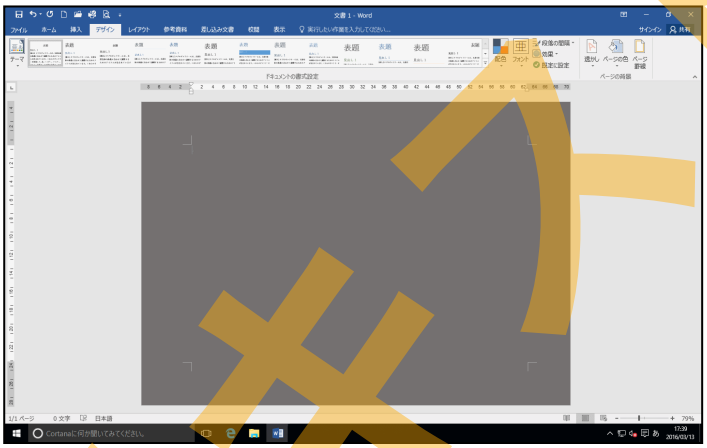




見本

表示された色の一覧から「25%灰色、背景 2、黒＋基本色 50%」にポイントし、クリックします。





●背景が**「25%灰色、背景 2、黒＋基本色 50%」**に設定されました。

本試験対策

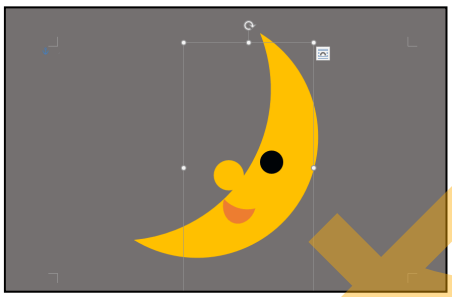
（２）お月さまを描く

◆回転ハンドルを使って図形を回転する方法をマスターしましょう。

操作前

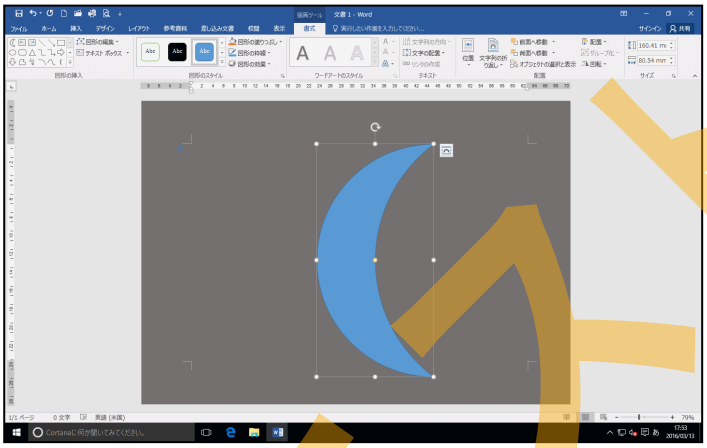


操作後

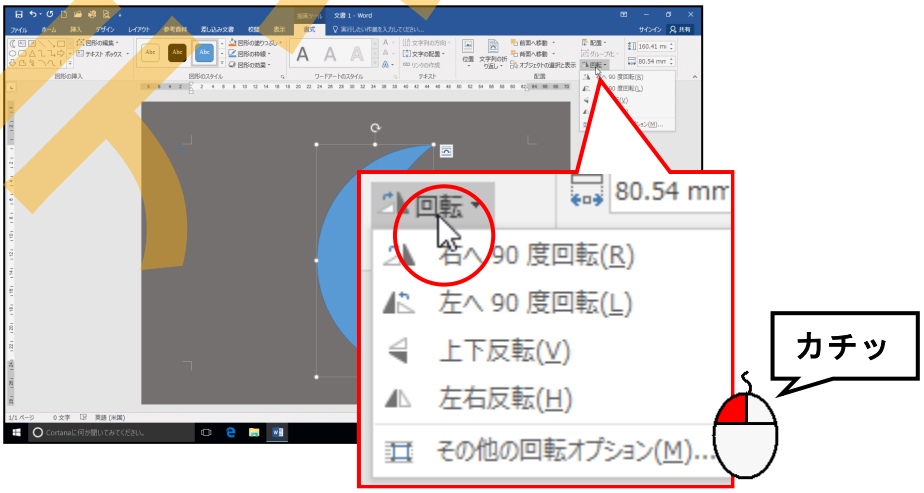




大きめに月を描きます。

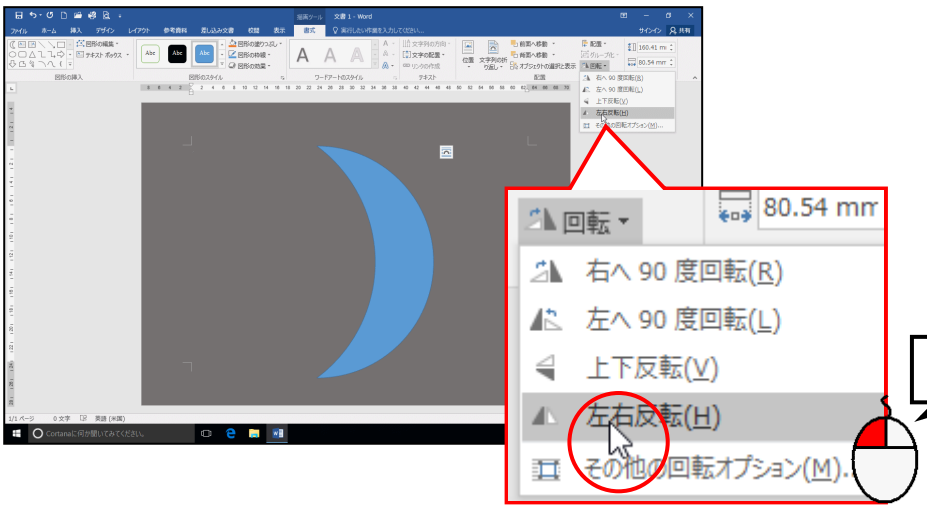


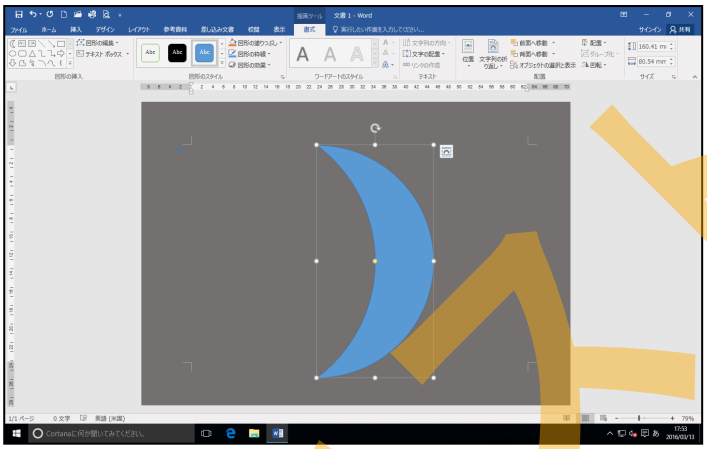
［配置］グループにある［回転］ボタンにポイントし、クリックします。



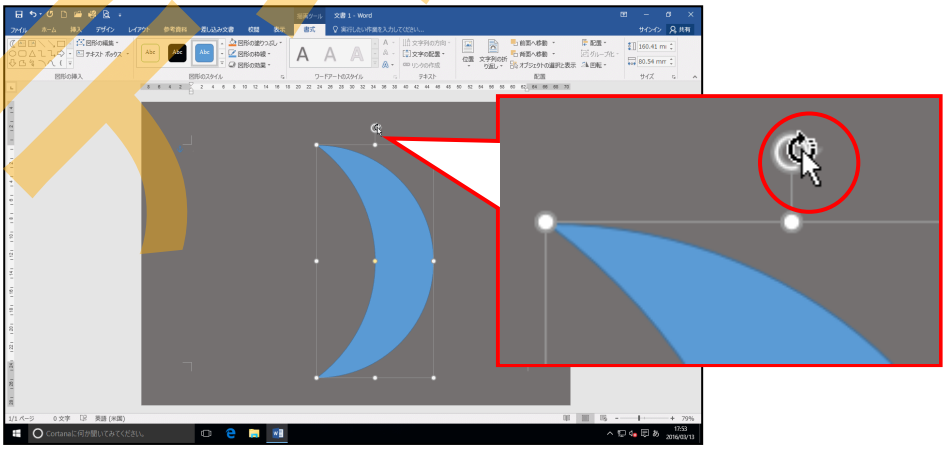
体験版

表示された一覧から［左右反転(H)］にポイントし、クリックします。



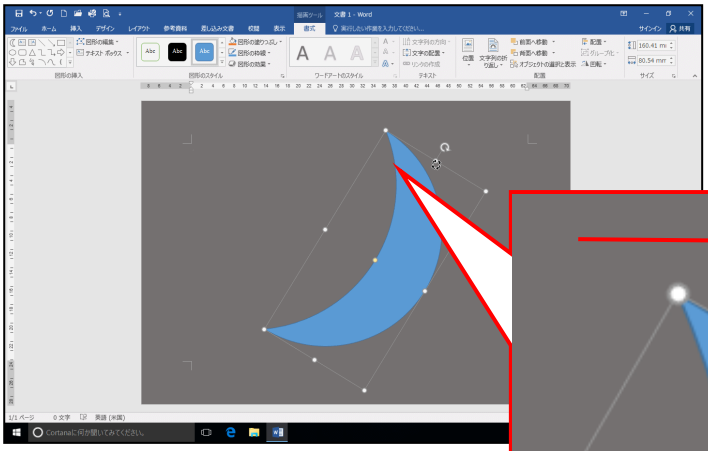


（回転ハンドル）にポイントします。

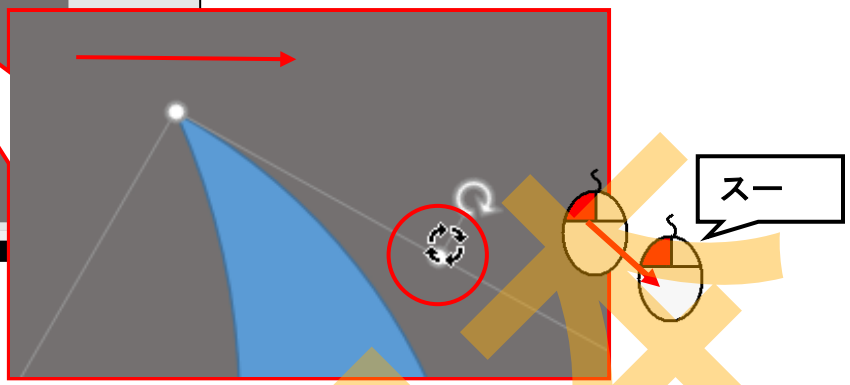


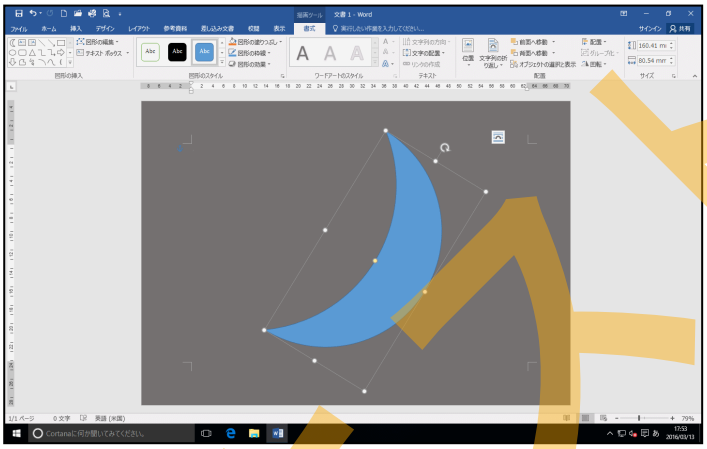
体験版

そのまま、（回転ハンドル）を右に向かって少しドラッグします。

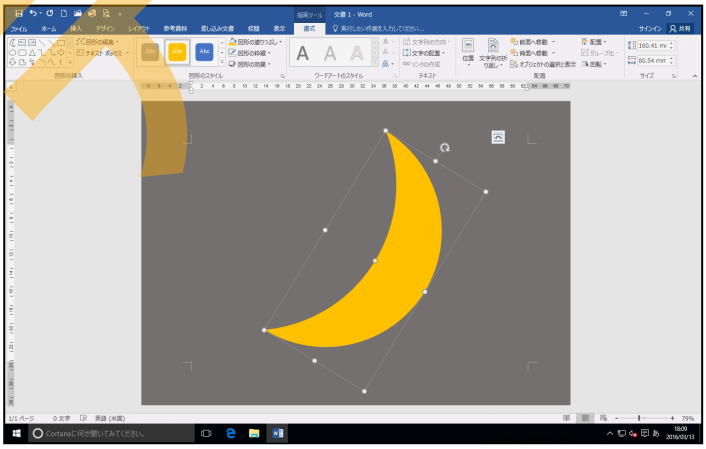


●マウスの左ボタンを押し、ドラッグし始めると、マウスポインターが に変わります。

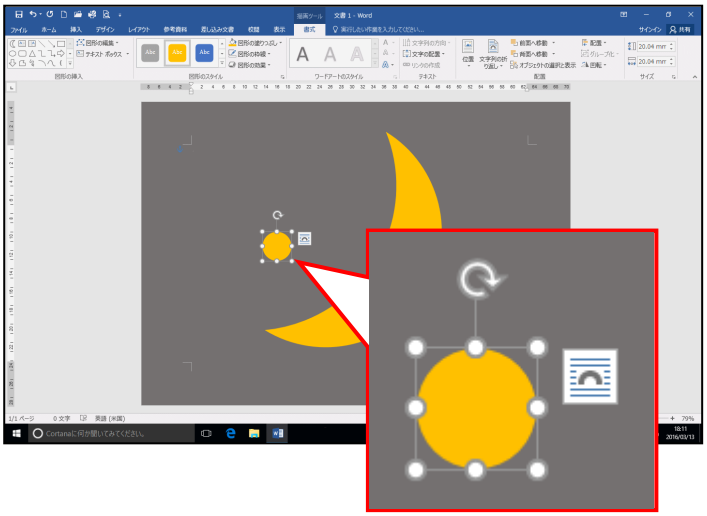




図形の塗りつぶしの色を「ゴールド、アクセント 4」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。

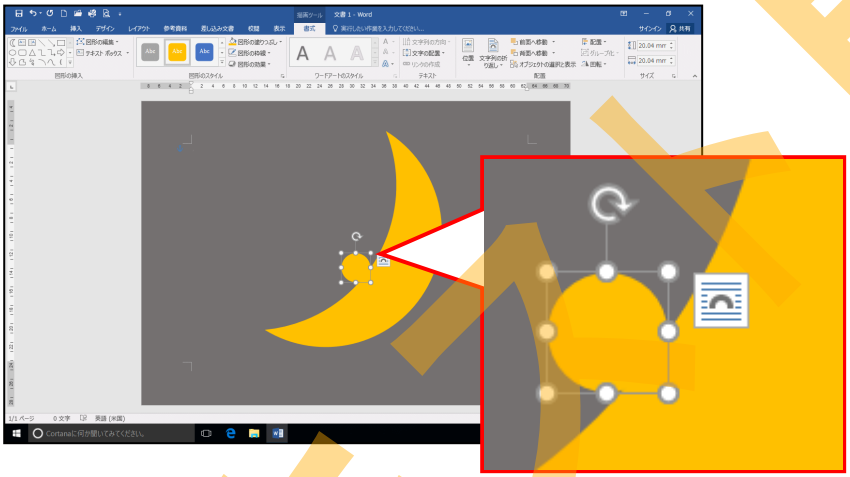


小さめに楕円を描き、図形の塗りつぶしの色を「ゴールド、アクセント 4」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。

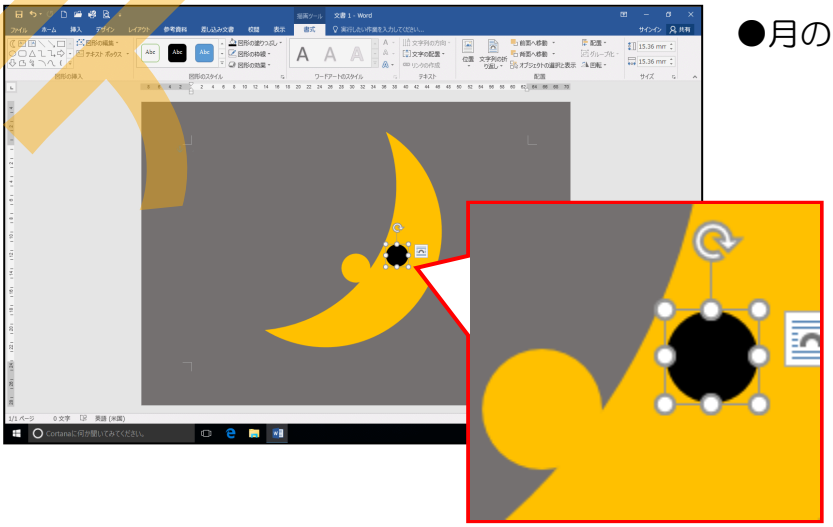


●月の鼻になる部分です。

下図の位置になるように、小さな楕円を月の図形に重ね合わせます。



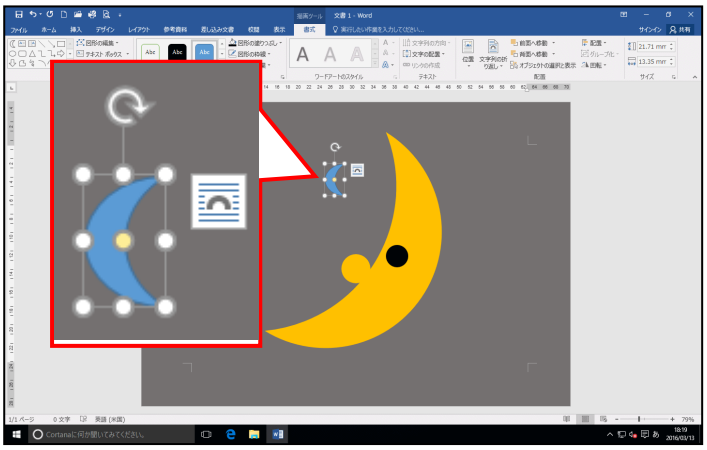
同様にして、小さめに楕円を描き、図形の塗りつぶしの色を「黒、テキスト 1」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定し、下図のように配置させましょう。



●月の目になる部分です。

本紙

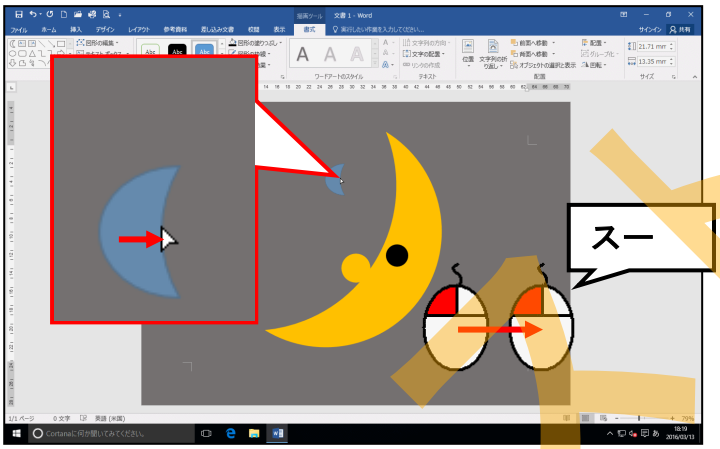
下図のように、月の図形を描きます。

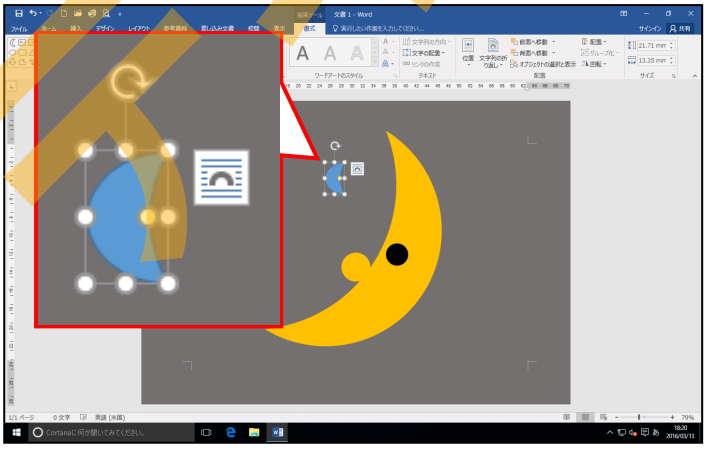


●月の口になる部分です。

●ポイントは、あまり小さく描かないことです。小さく描きすぎると、図形の ○（変形ハンドル）が表示されなくなってしまうためです。

描いた月の図形の ○（変形ハンドル）にポイントし、右方向へドラッグします。

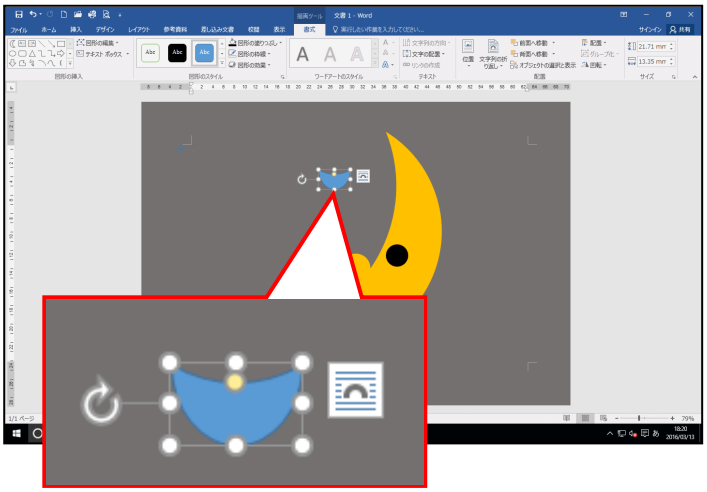




●図形が変形しました。

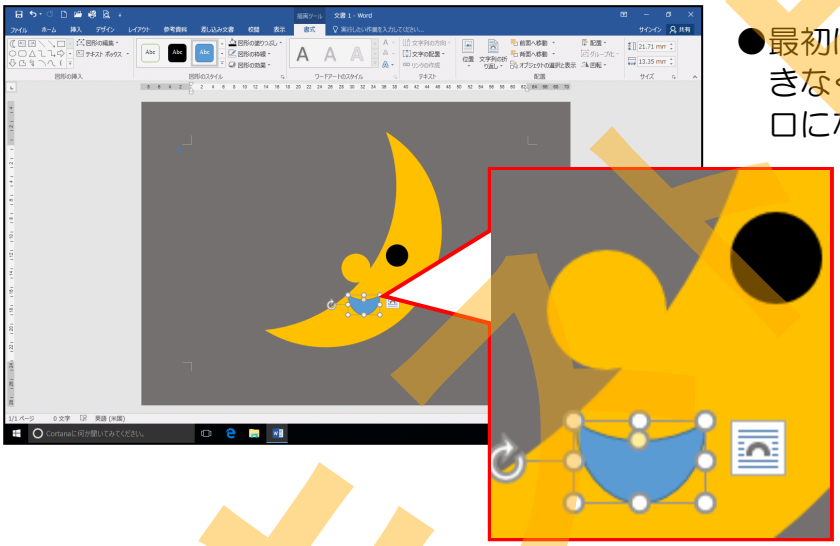
下書き原本

月の図形を左へ 90 度回転します。



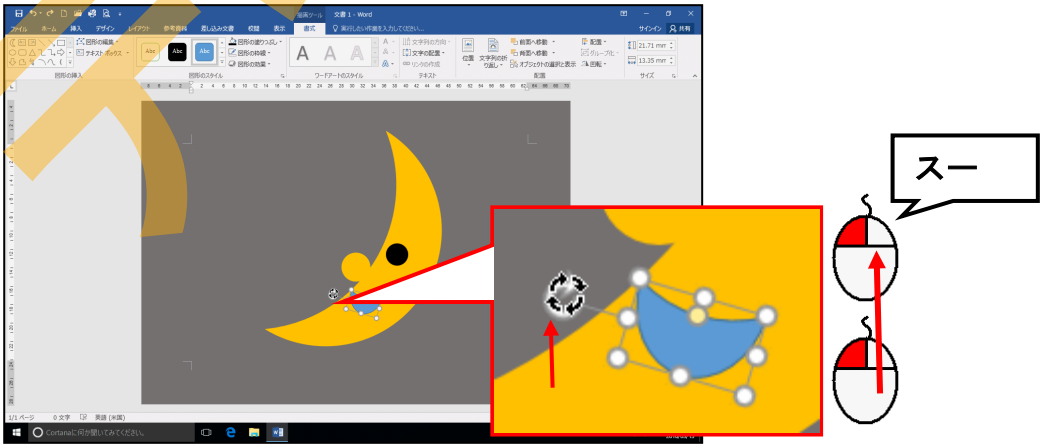
●図形の回転を忘れた方は、P23～P24 を参照してください。

回転させた月を、下図のように移動します。

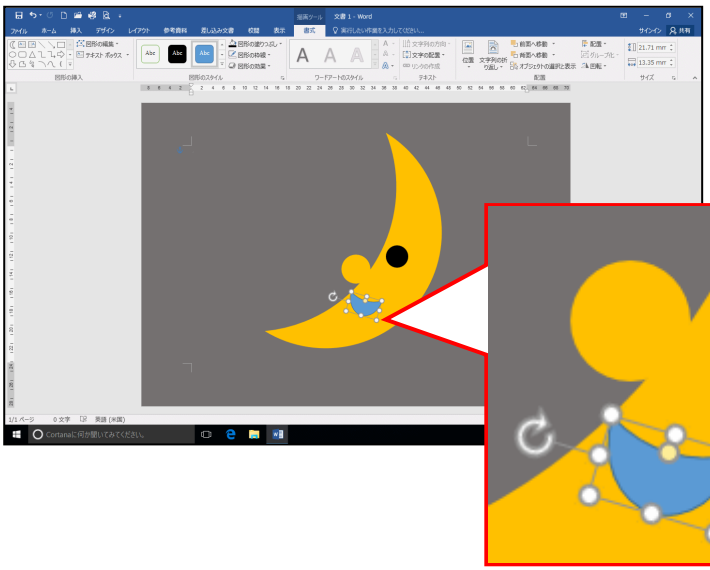


●最初は、ぴったりこの位置に移動できなくても構いません。次の操作で口になるこの図形を回転させます。

（回転ハンドル）にポイントし、上に向かって少しドラッグします。



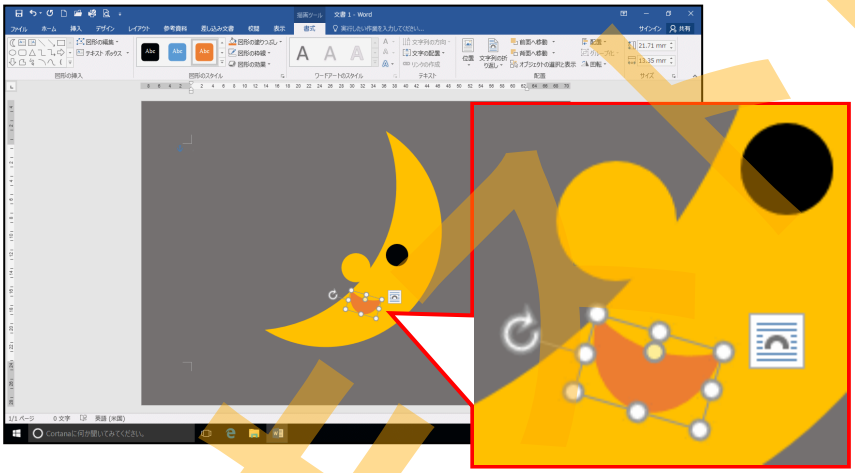
体験版



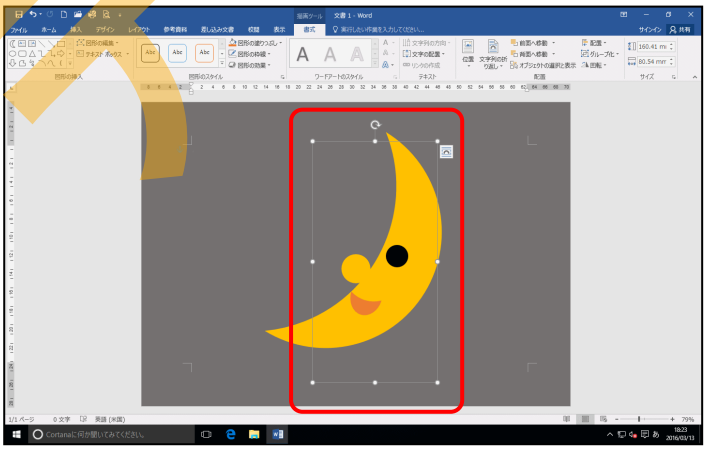
●角度が変わりました。

●口となる月の図形を移動して、位置を微調整しておきましょう。

回転させた月の塗りつぶしの色を「オレンジ、アクセント 2」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。



お月さまをグループ化しておきましょう。



●図形のグループ化を忘れた方は、**P34 ⑫ 図形のグループ化**を参照してください。

●グループ化された図形をクリックすると、図形の周りに薄い枠線が表示されています。月の図形よりも内側に表示されていますが、きちんとグループ化されていますので、心配いりません。

見本

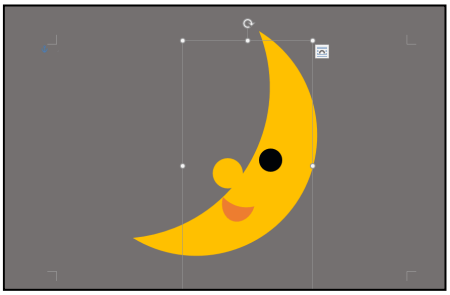
（3）お月さまに雲を描く

① ぼかしの設定

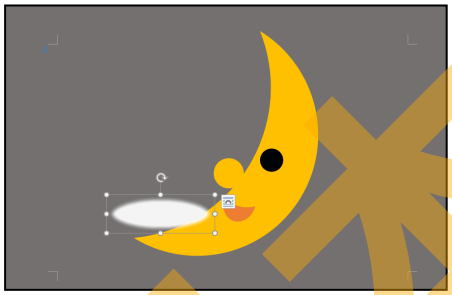
今度は、先ほど描いたお月さまに、ふんわりした雲を描いていきましょう。

◆雲にぼかしを設定する方法をマスターしましょう。

操作前

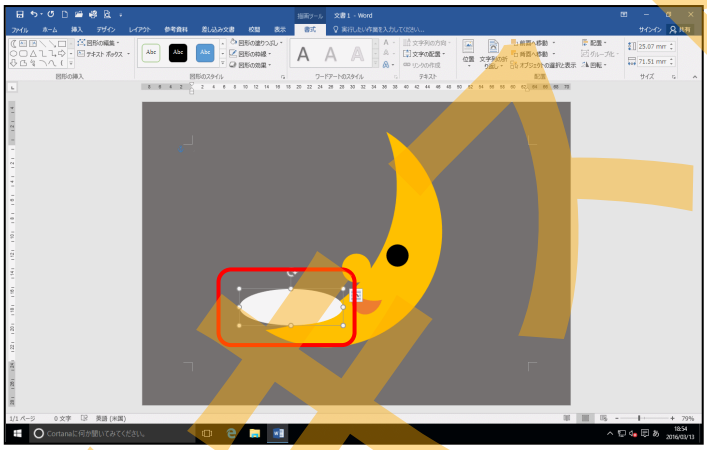


操作後



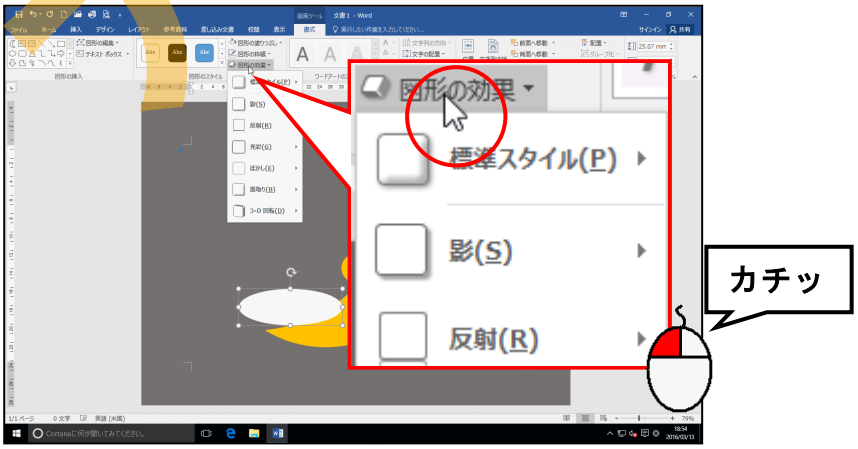


お月さまの下の方に、楕円を一つ描き、図形の塗りつぶしの色を「白、背景 1」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。

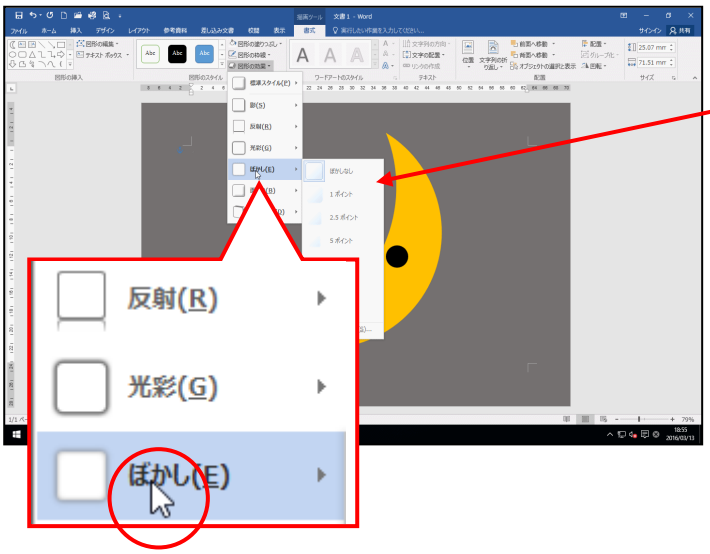


●まずは最初に一つ、ぼかした感じの雲を作ってみましょう。

白い楕円が選択されていることを確認して、［図形のスタイル］グループにある 図形の効果 ［図形の効果］ボタンにポイントし、クリックします。

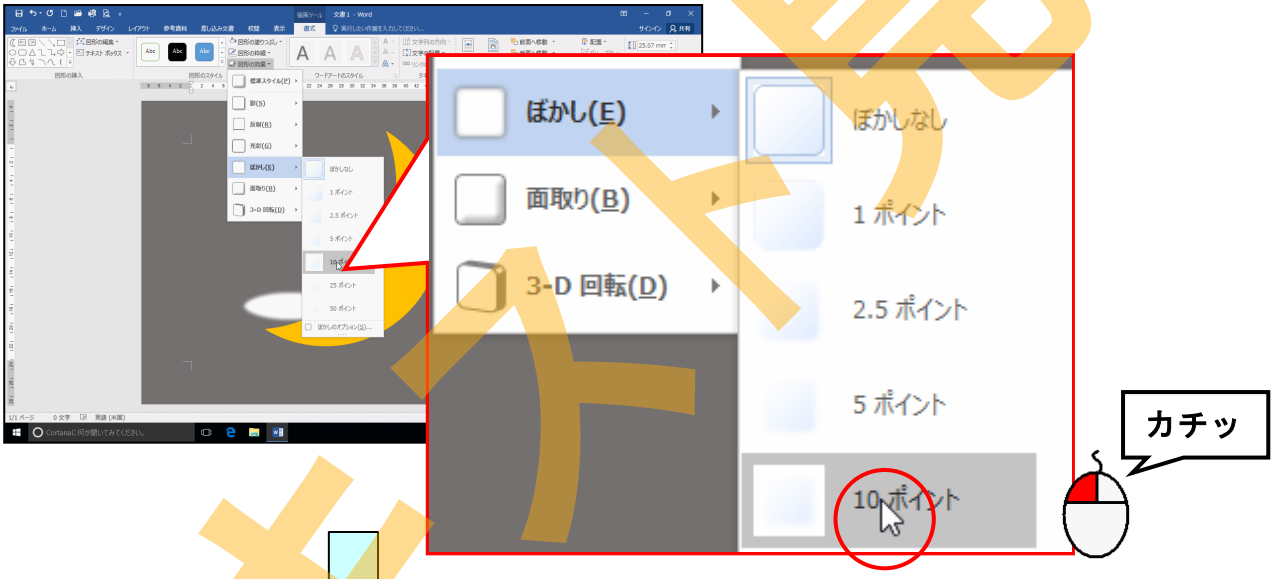


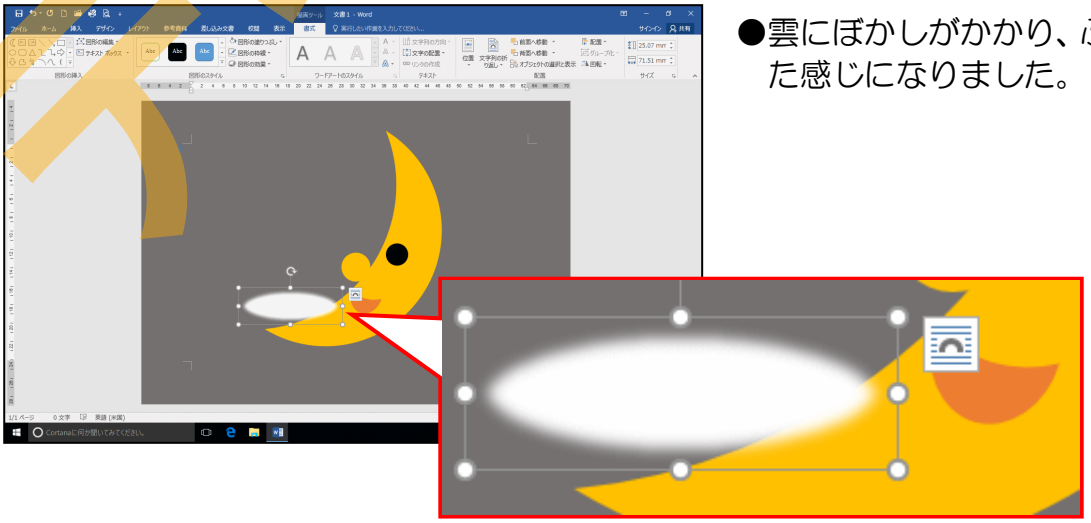
表示された一覧から［ぼかし(E)］にポイントします。



●［ぼかし(E)］にポイントすると、ぼかしの大きさの一覧が表示されます。

右側に表示された一覧から「10 ポイント」にポイントし、クリックします。





●雲にぼかしがかかり、ふんわりとした感じになりました。

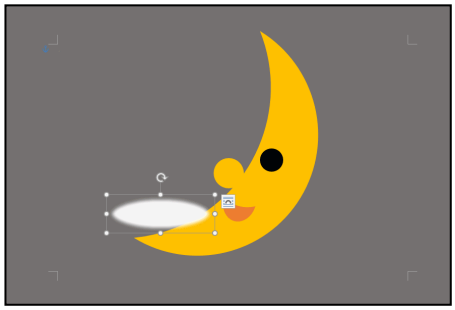
本紙サンプル

② 透明度の設定

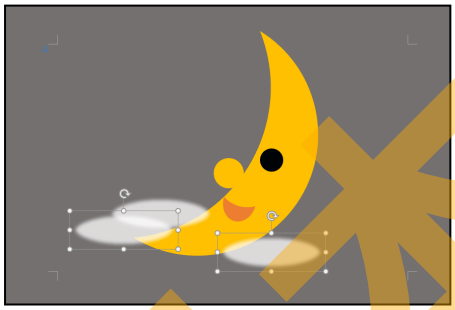
先ほど描いた雲は、このままでは重ねたときにうっすらとした透明感（透明度）が出ません。透明度を設定し、もっと雲らしくしてみましょう。

◆雲に透明度を設定する方法をマスターしましょう。

操作前

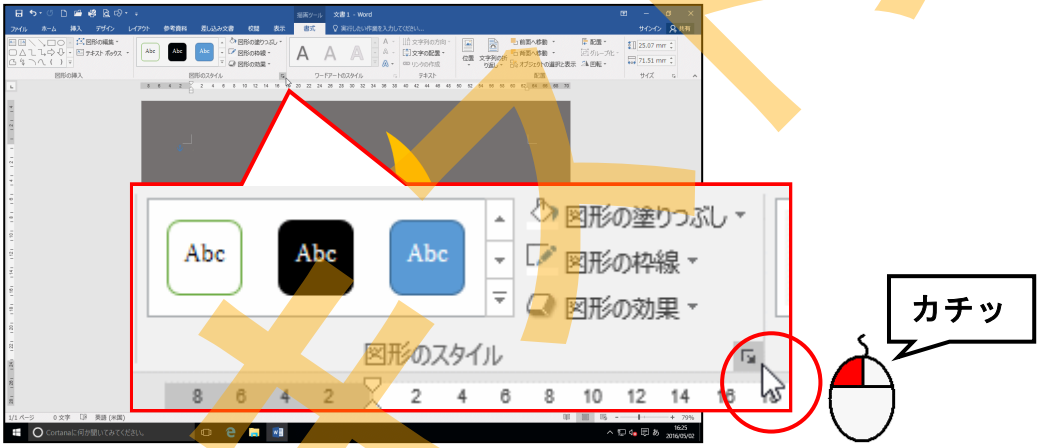


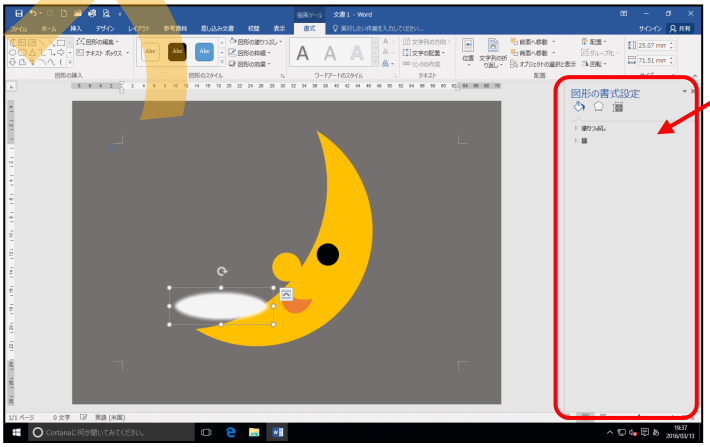
操作後





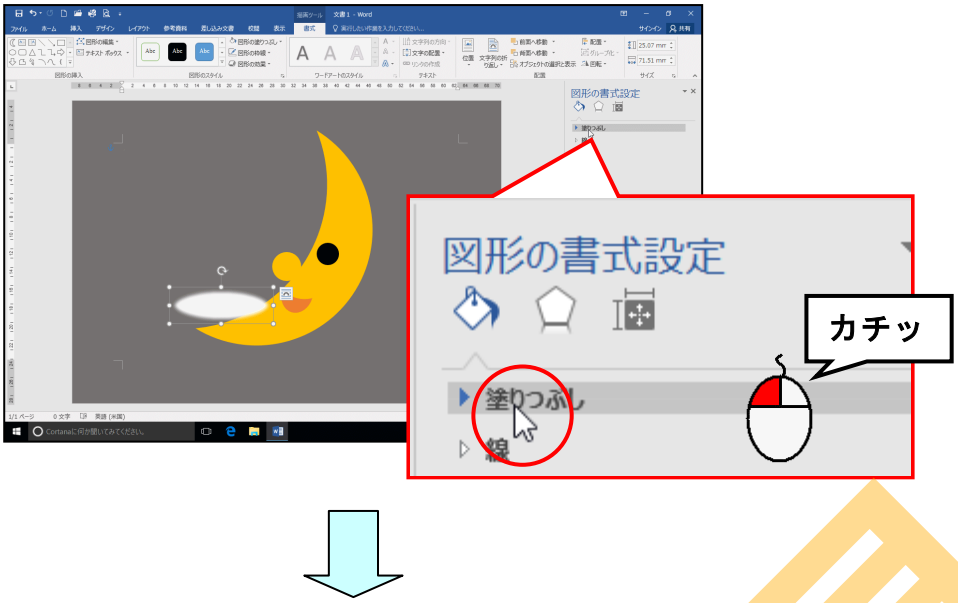
白い楕円が選択されていることを確認して、［図形のスタイル］グループの右下にある［図形の書式設定］ボタンにポイントし、クリックします。

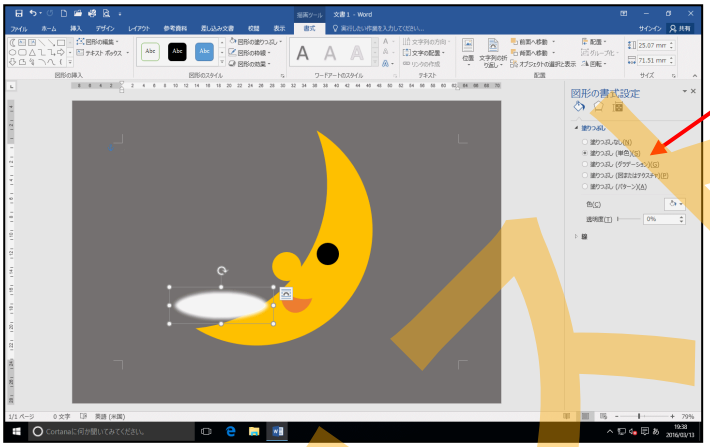




● **［図形の書式設定］ウィンドウ**が表示されました。

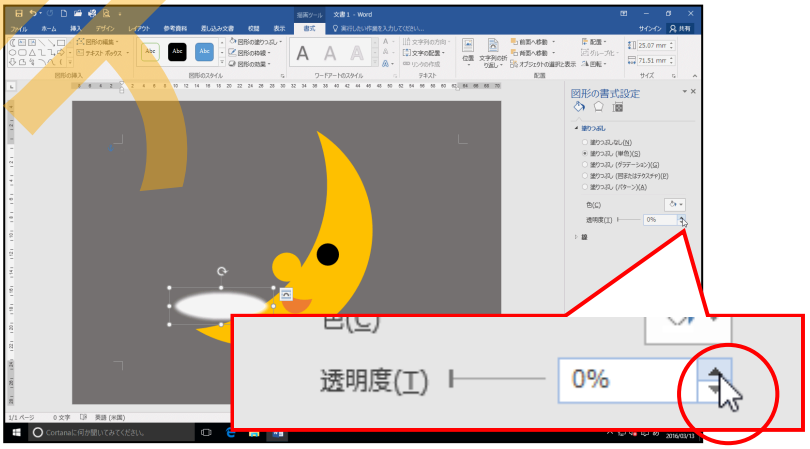
表示された［図形の書式設定］ウィンドウから［塗りつぶし］にポイントし、クリックします。

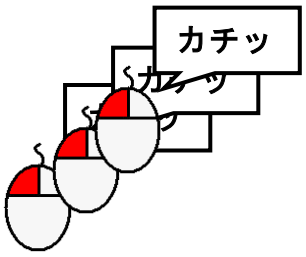




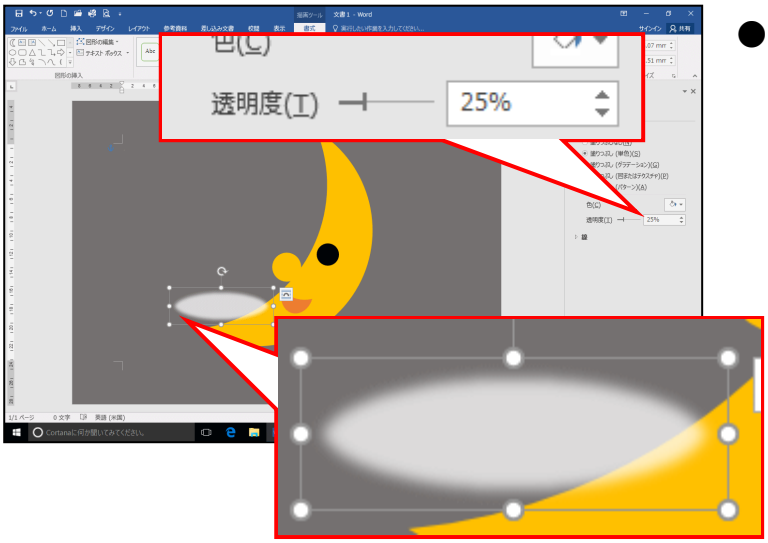
●［**塗りつぶし**］をクリックすると、塗りつぶしの色やグラデーション、透明度などを設定する項目が表示されます。

［塗りつぶし］の下にある［透明度(T)］の ▲ にポイントし、「25%」になるまでクリックします。



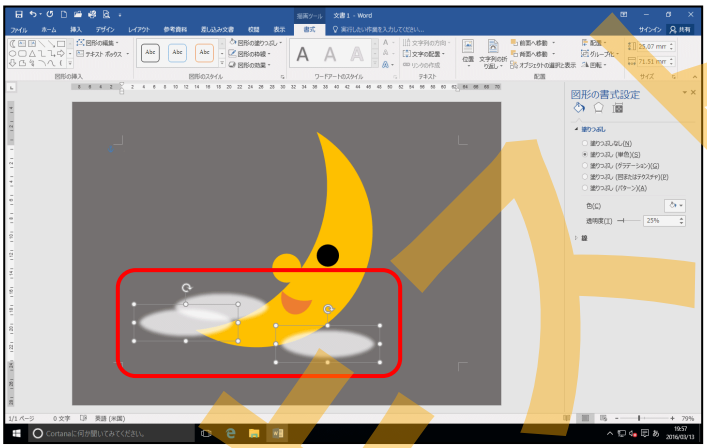


見本



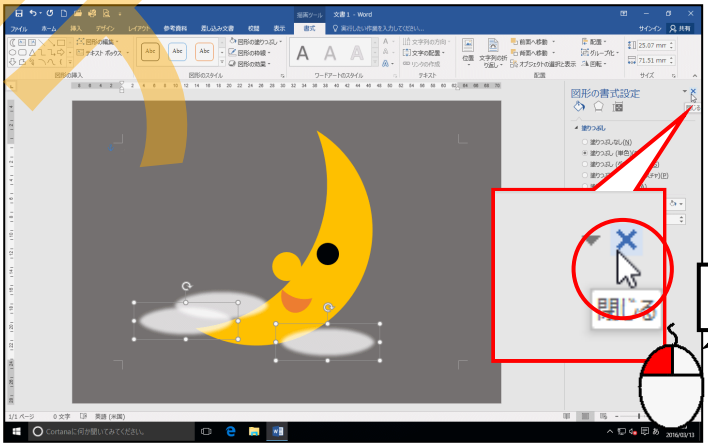
●透明度の数値が上がれば上がるほど、透明度が増します。
「100%」に設定した場合、透明になりますので、色は見えません。

雲をコピーして、下図のように配置してみましょう。



●コピーした雲が、月の後ろに行ってしまった方は、雲を**最前面に移動**しておきましょう。
最前面へ移動する方法を忘れた方は、**P38 (2) テントウムシの胴体を描く（図形の順序）**を参照してください。

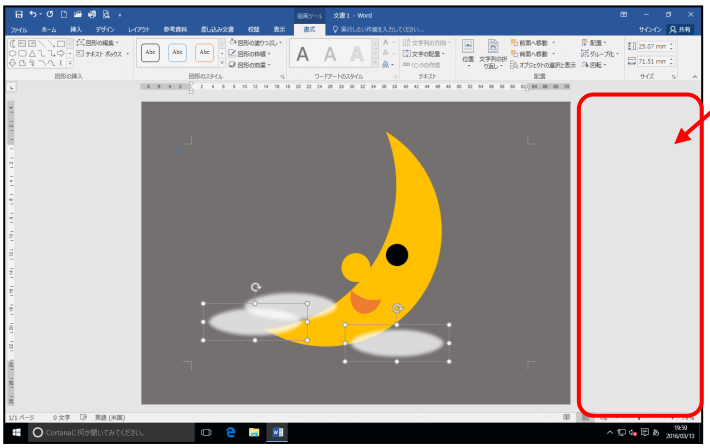
［図形の書式設定］ウィンドウの右上にある ✕［閉じる］ボタンにポイントし、クリックします。



注意!

●画面右上隅の ✕ **［ワードを閉じる］ボタン**と間違わないように注意しましょう。

本紙



● **［図形の書式設定］ウィンドウ**が閉じられました。

雲の選択を解除しておきましょう。



本試験レベル テキスト

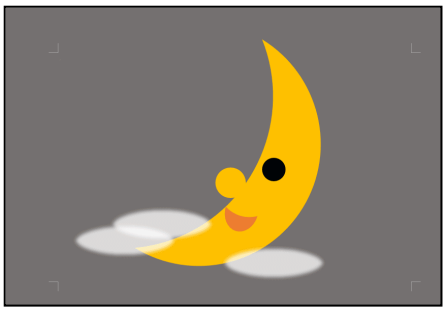
（4）お月さまに星を描く

① 図形の効果の設定

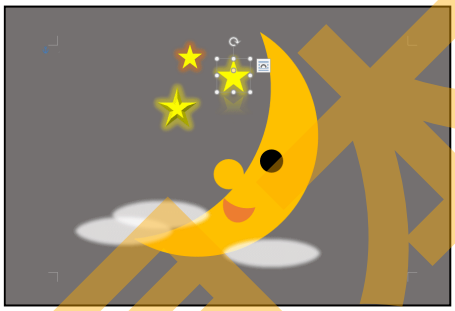
先ほど作ったお月さまと雲の周りに、星を描きましょう。色を 1 色で塗るだけではなく、「図形の効果」を使って、効果を付けた星を描いてみましょう。

◆図形の効果を設定する方法をマスターしましょう。

操作前

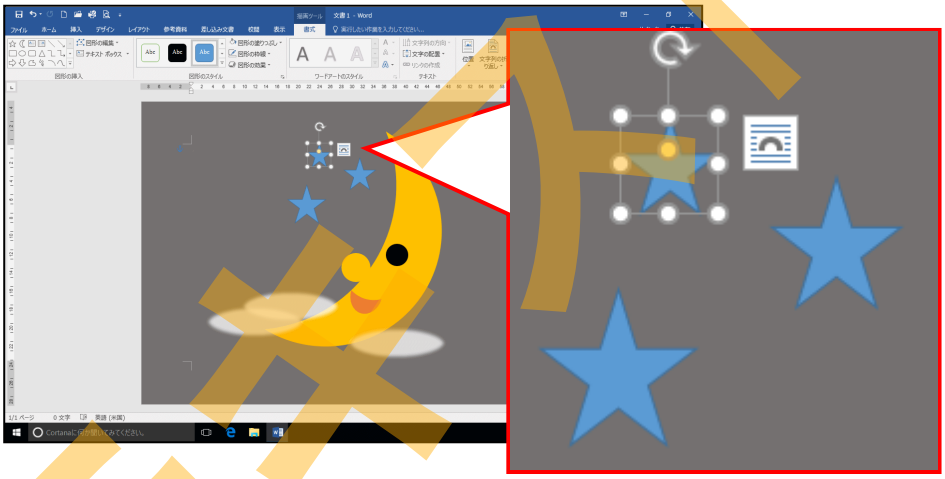


操作後

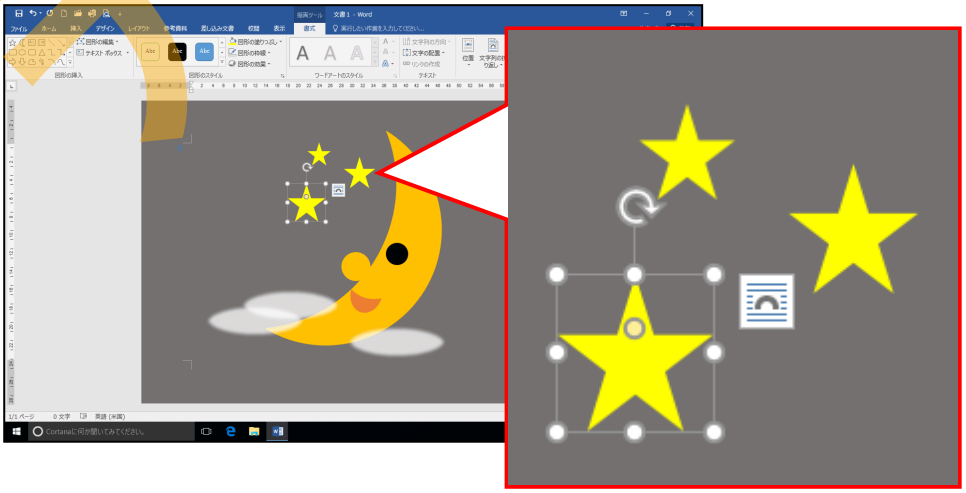




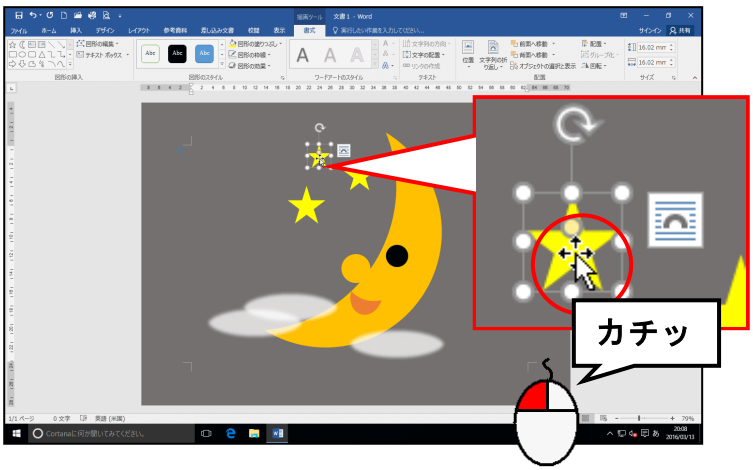
下図を参考に、「星 5」の図形を使って、大小の星を 3 つ描きましょう。



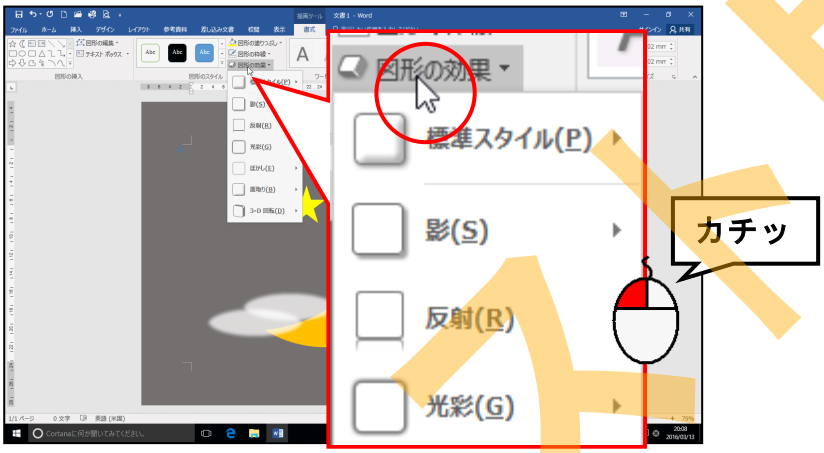
描いた星の塗りつぶしの色を「黄」に、図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。



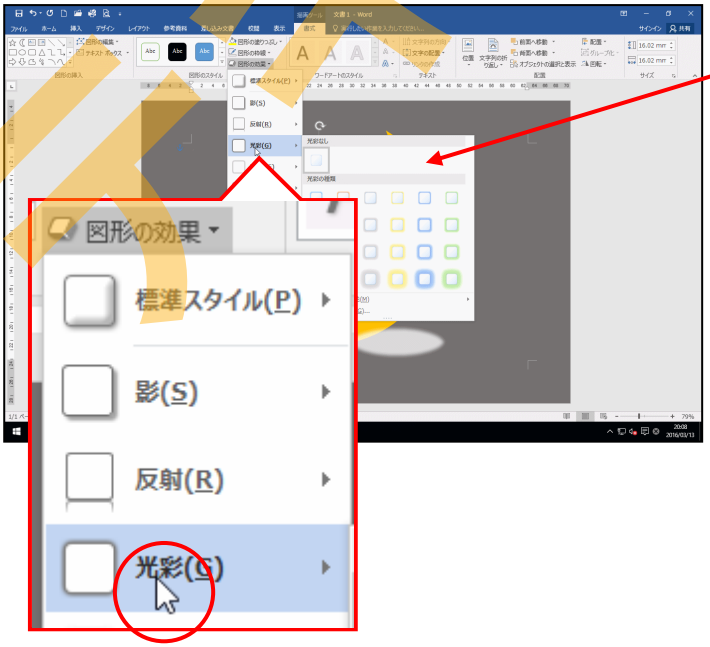
一番上の星の図形を選択します。



［図形のスタイル］グループにある 図形の効果 ［図形の効果］ボタンにポイントし、クリックします。

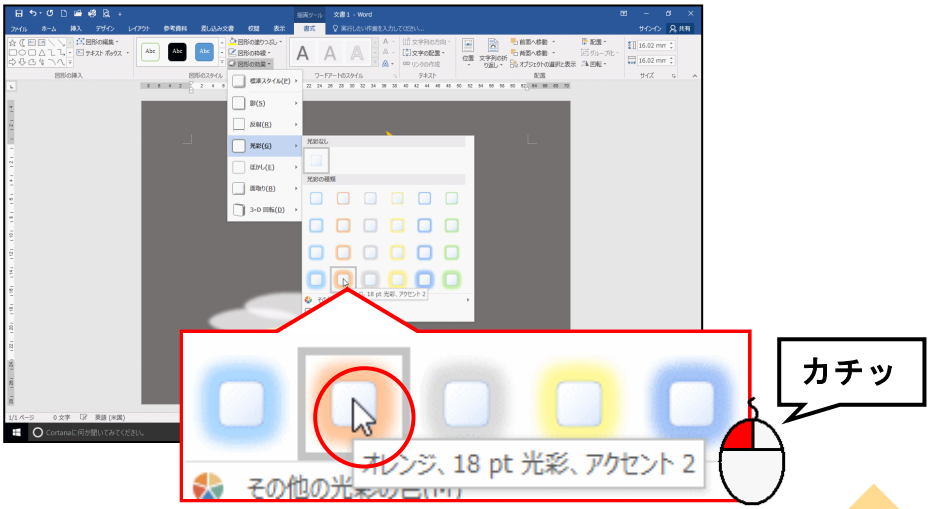


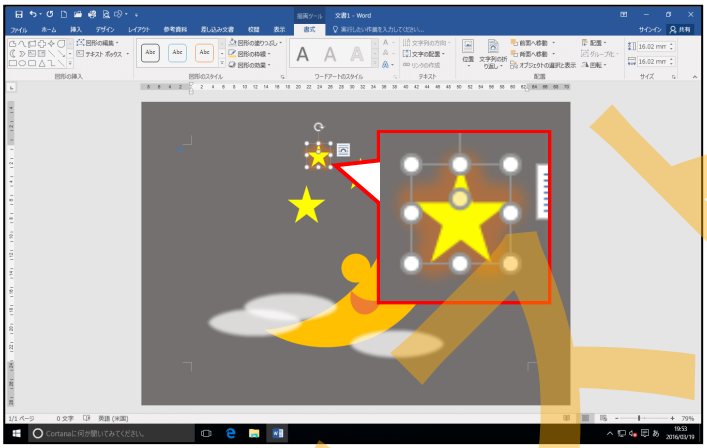
表示された一覧から［光彩(G)］にポイントします。



● ［光彩(G)］にポイントすると、光彩の種類の一覧が表示されます。

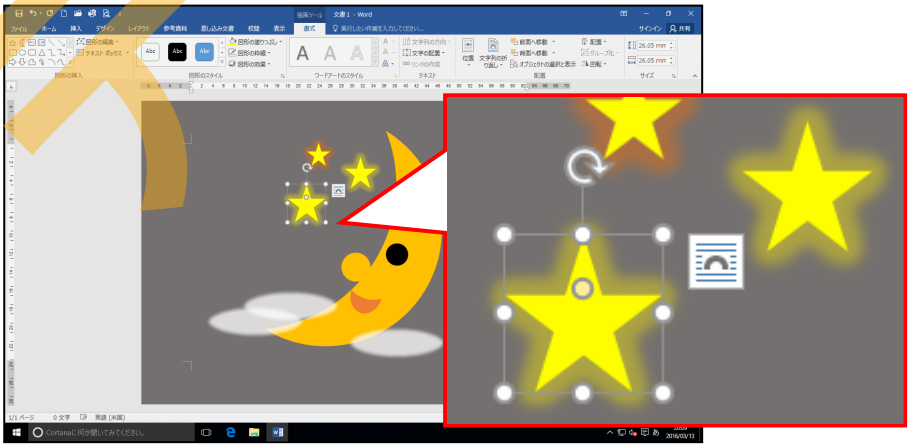
右に表示された一覧から「オレンジ、18pt 光彩、アクセント 2」にポイントし、クリックします。





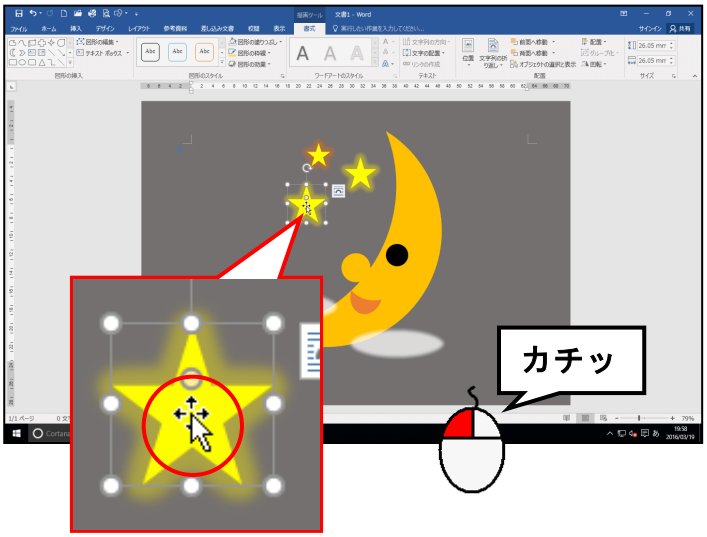
●星の図形に、光彩がつきました。

残りの 2 つの星の図形にも、同様に「ゴールド、18pt 光彩、アクセント 4」の図形の効果を設定しておきましょう。



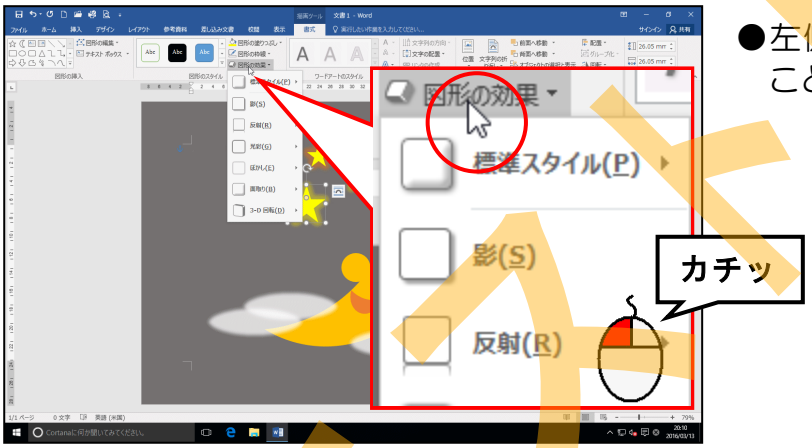
本番イメージ

左側の星の図形を選択します。



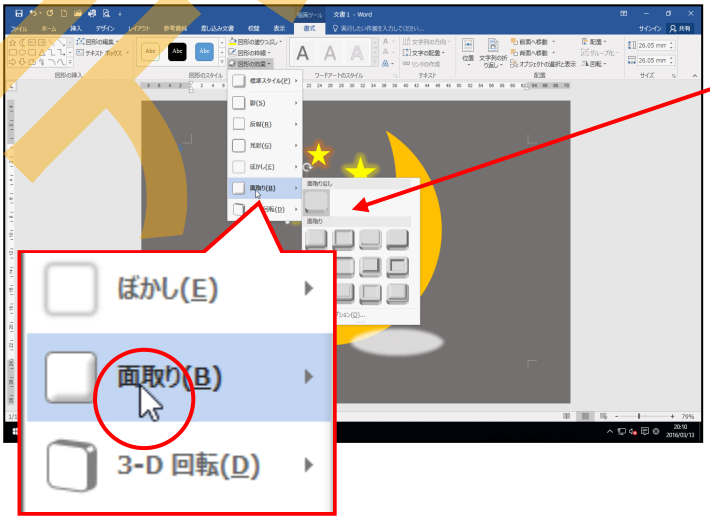
●すでに左側の星の図形が選択されている方は、この操作は不要です。

［図形のスタイル］グループにある 図形の効果 ［図形の効果］ボタンにポイントし、クリックします。



●左側の星の図形が選択されていることを確認しておきましょう。

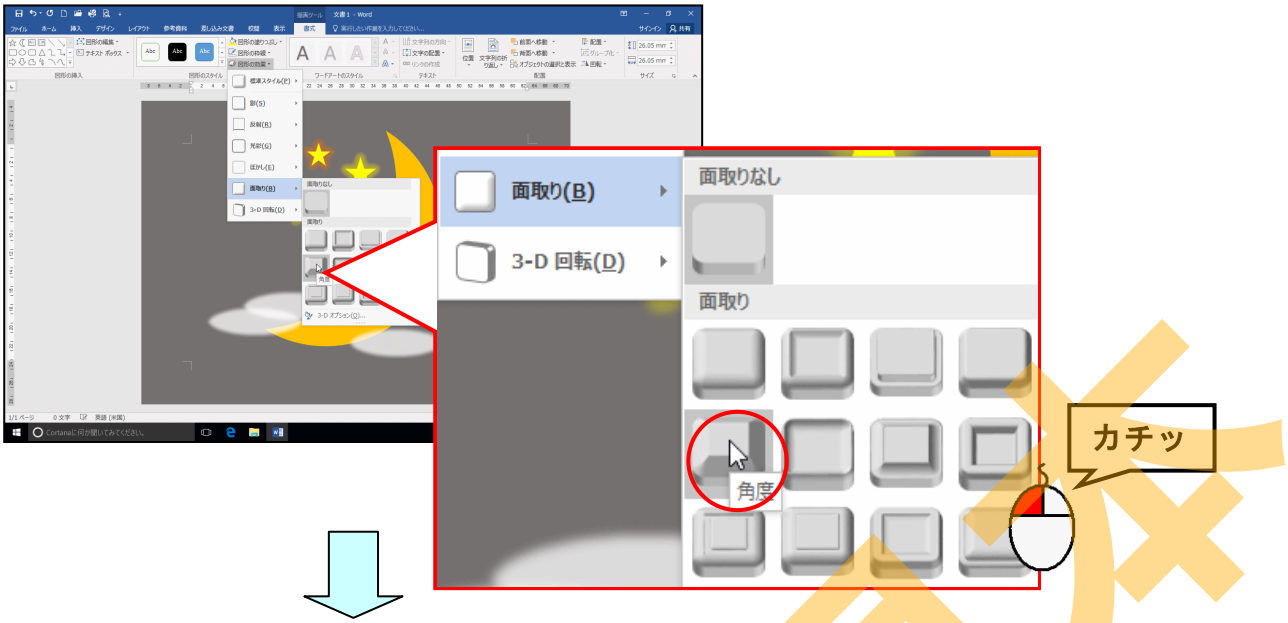
表示された一覧から［面取り(B)］にポイントします。

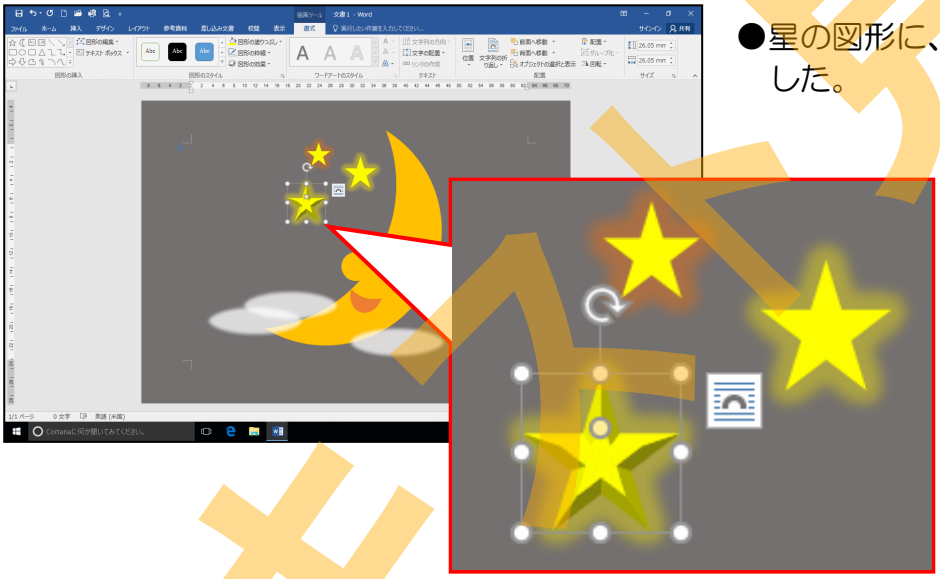


●［面取り(B)］にポイントすると、面取りの種類の一覧が表示されます。

見本

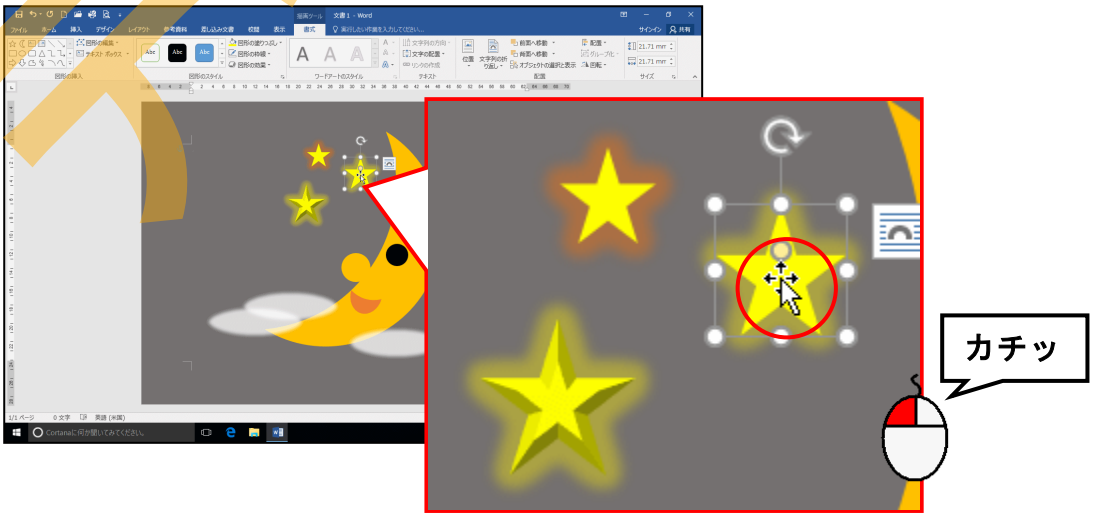
右に表示された一覧から「角度」にポイントし、クリックします。



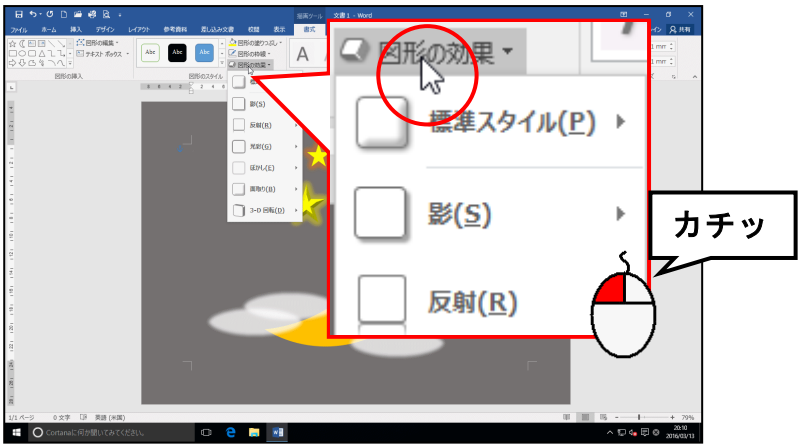


●星の図形に、面取りの効果がつきました。

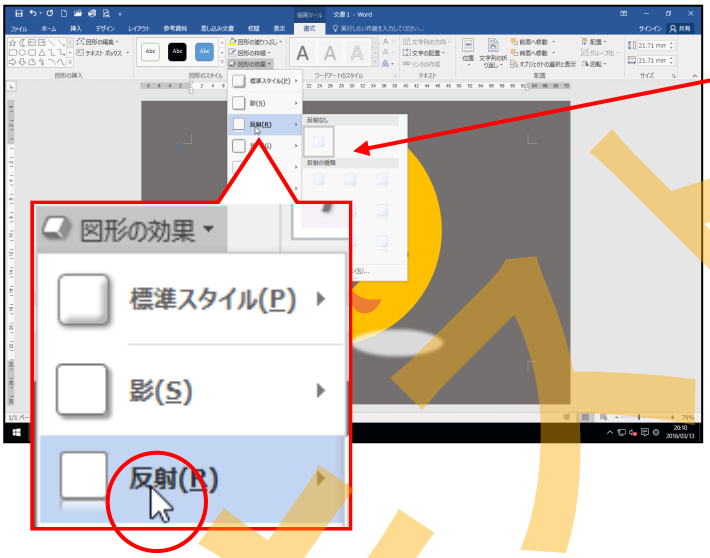
右側の星の図形を選択します。



［図形のスタイル］グループにある 図形の効果 ［図形の効果］ボタンにポイントし、クリックします。

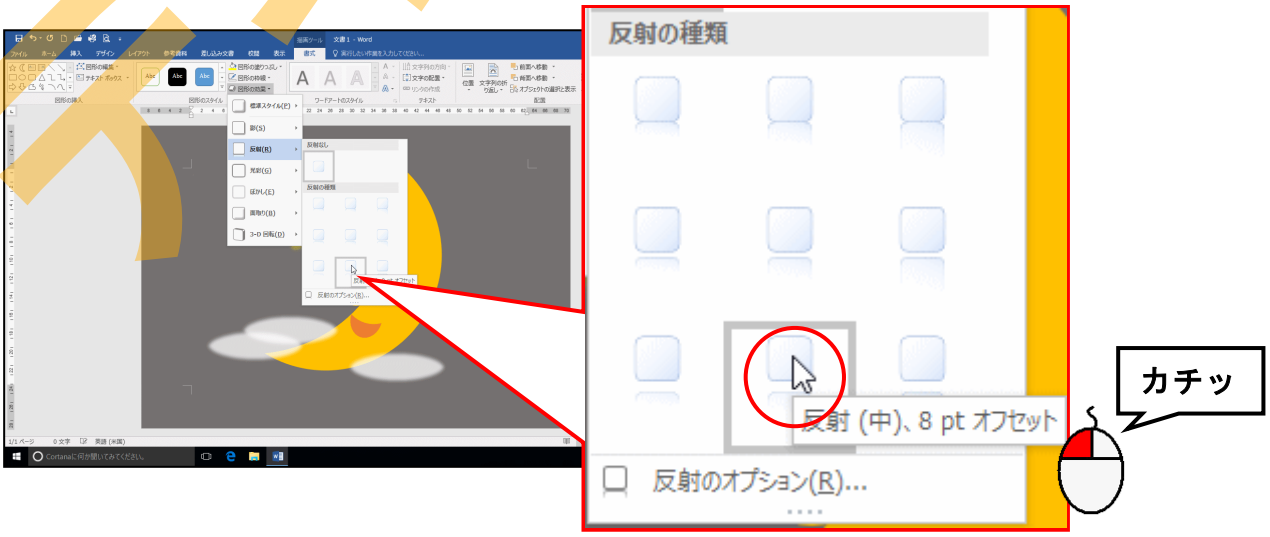


表示された一覧から［反射(R)］にポイントします。

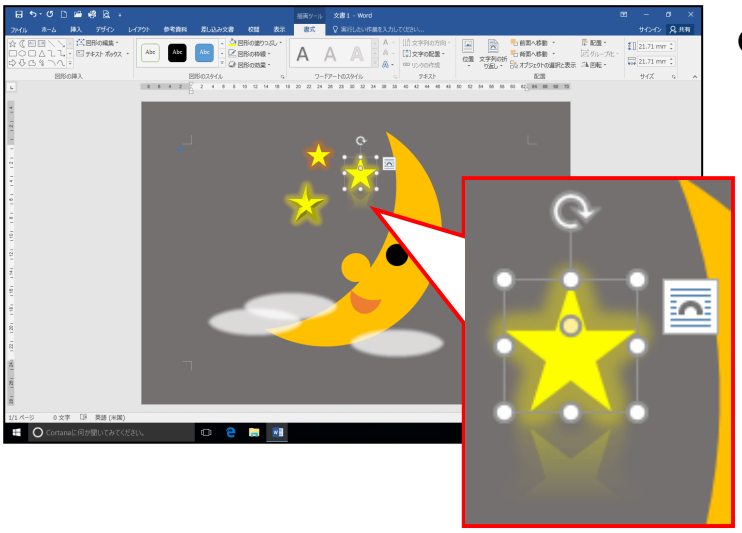


● ［反射(R)］にポイントすると、反射の種類の一覧が表示されます。

右に表示された一覧から「反射（中）、8pt オフセット」にポイントし、クリックします。



本テキスト



●星の図形に、反射がつきました。

本文テキスト



② 書式のコピー

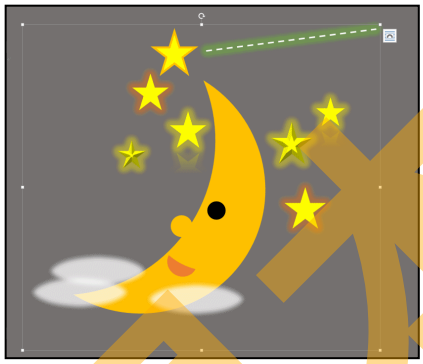
先ほど星に設定した書式（面取りや反射などの設定）を、別の図形にコピーすることができます。新たに星の図形を追加し、書式をコピーしてみましょう。

◆図形に書式のコピーを設定する方法をマスターしましょう。

操作前

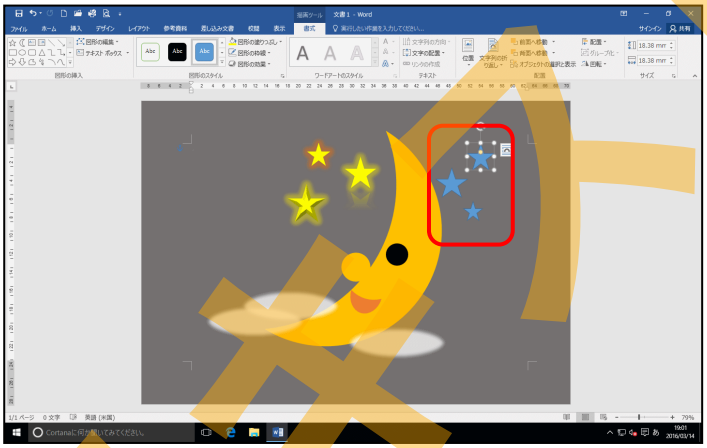


操作後



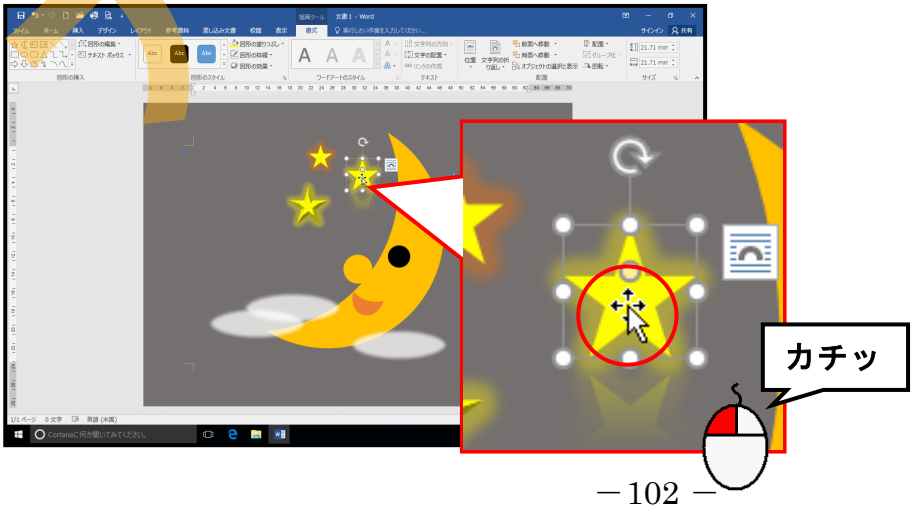


下図の位置を参考にして、星の図形を 3 つ描きましょう。

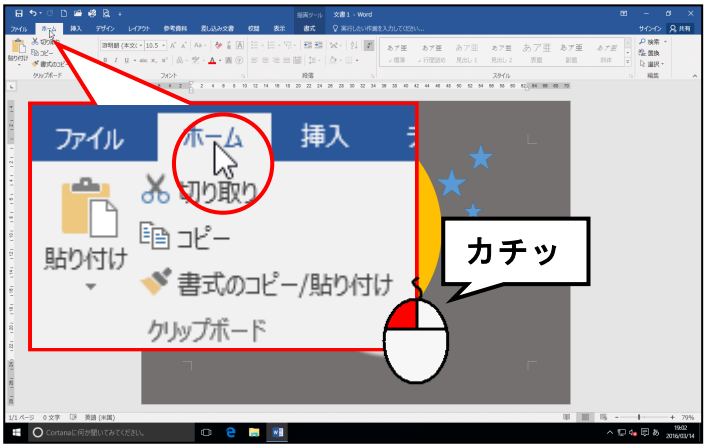


●星の図形は、同じ大きさのものより、大小サイズを変えて作っておきましょう。

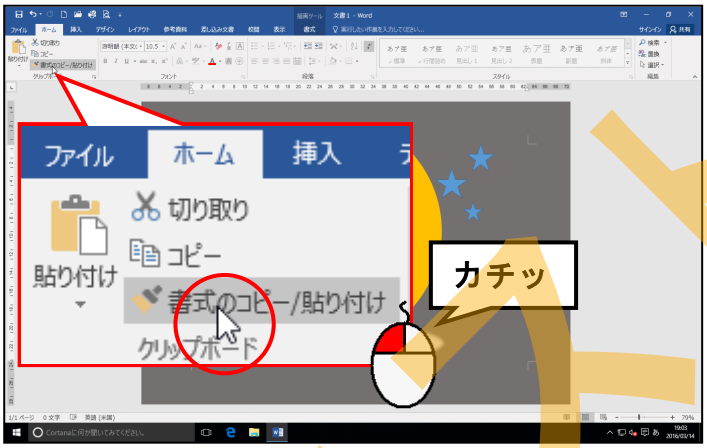
反射の設定をした星の図形を選択します。



［ホーム］タブにポイントし、クリックします。



［クリップボード］グループにある［書式のコピー/貼り付け］ボタンにポイントし、クリックします。

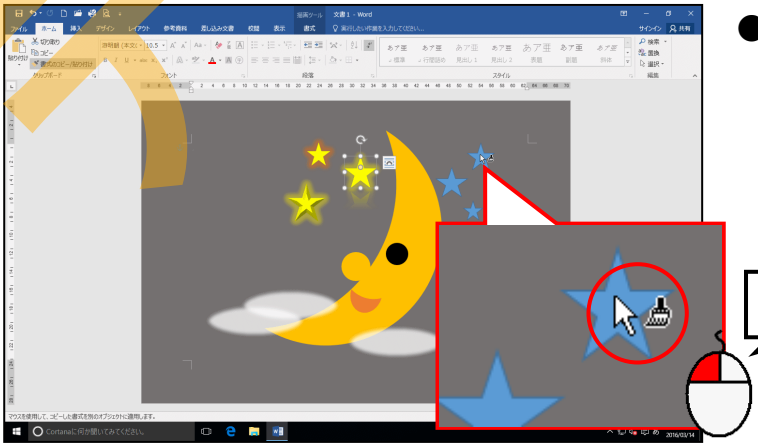


●書式のコピーを 1 回だけ行う場合は、**［書式のコピー／貼り付け］ボタン**をクリックします。

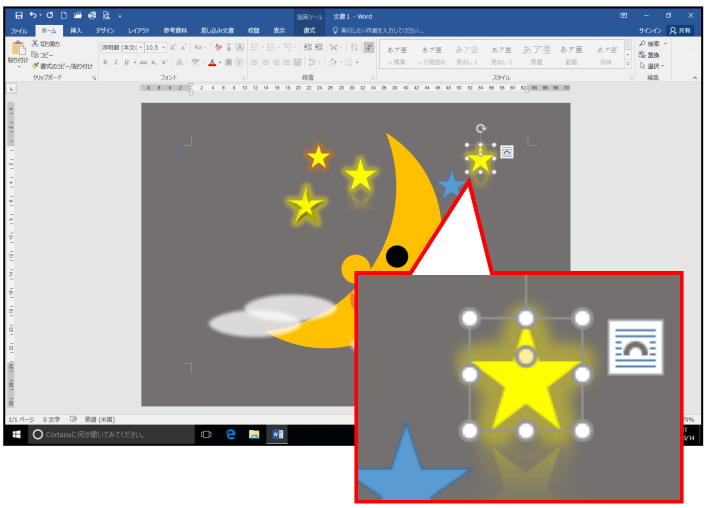
●書式のコピーを 2 回以上続けて行う場合は、**［書式のコピー／貼り付け］ボタン**をダブルクリックします。ただし、その場合は、同じ書式が続けてコピーされますので注意しましょう。



一番右上の星の図形をクリックします。



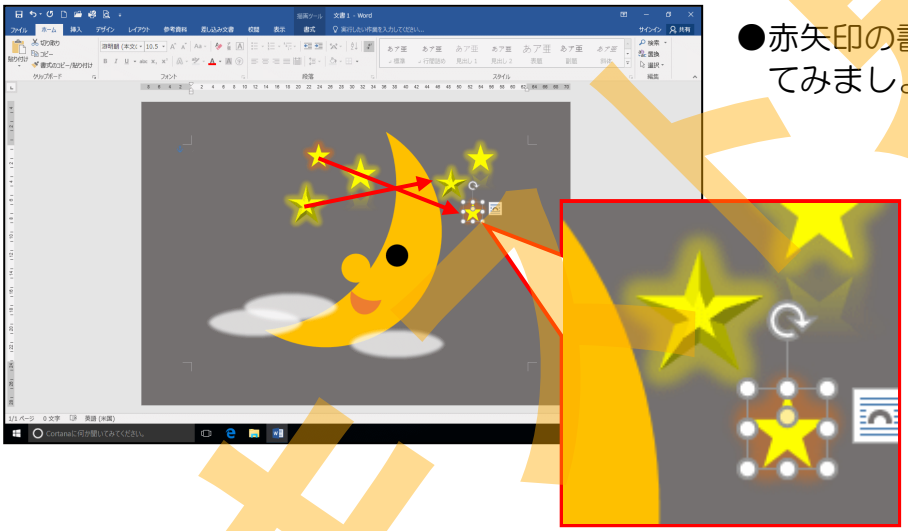
● **［書式のコピー／貼り付け］ボタン**をクリック（ダブルクリック）すると、マウスポインターは に変わります。



●クリックすると、書式（今回は、**「ゴールド、18pt 光彩、アクセント 4」**の図形の効果と、**「反射（中）、8pt オフセット」**の 2 つの効果）がコピーされました。

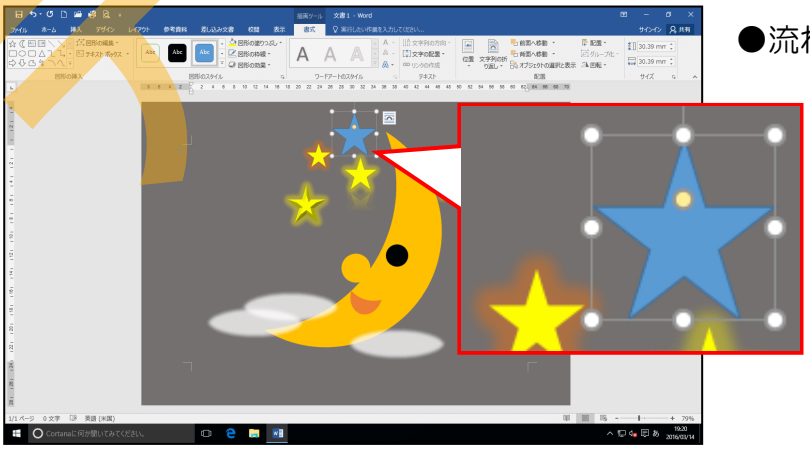
●マウスポインターは ↖ に戻ります。

書式のコピーを使って、残りの２つの図形にもそれぞれ書式をコピーしてみましょう。



●赤矢印の書式を、それぞれコピーしてみましょう。

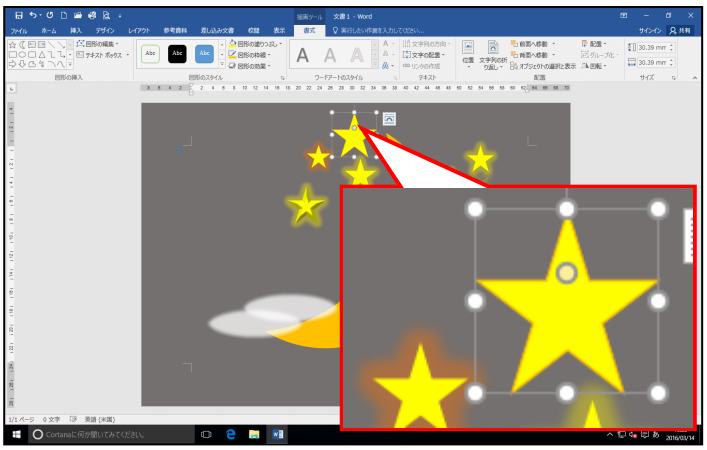
下図の位置を参考にして、星の図形を１つ描きましょう。



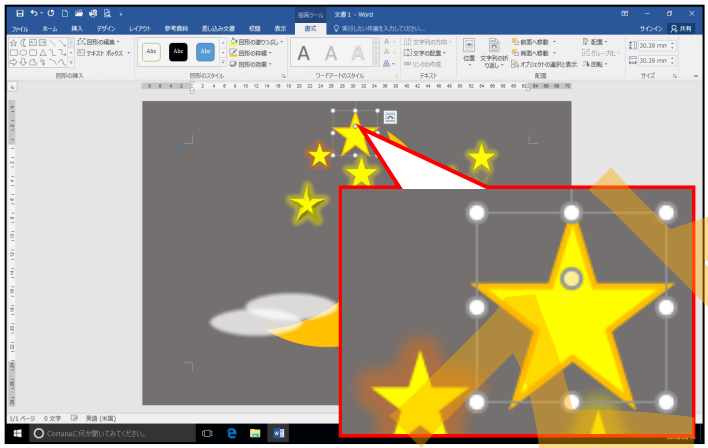
●流れ星を描くための操作です。

見本

描いた星の塗りつぶしの色を「黄」に、図形の枠線の色を「ゴールド、アクセント 4」に設定しましょう。

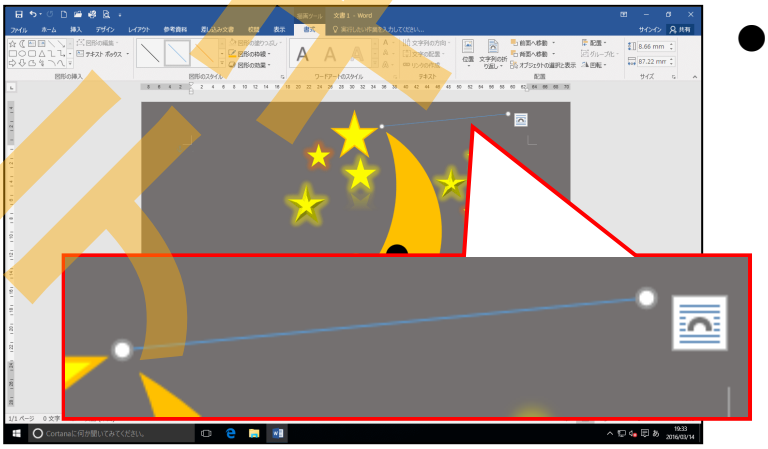


星の枠線の太さを「3pt」にします。



●図形の枠線の太さを変更する方法を忘れた方は、P32 ⑪ **図形の枠線の太さ**を参照してください。

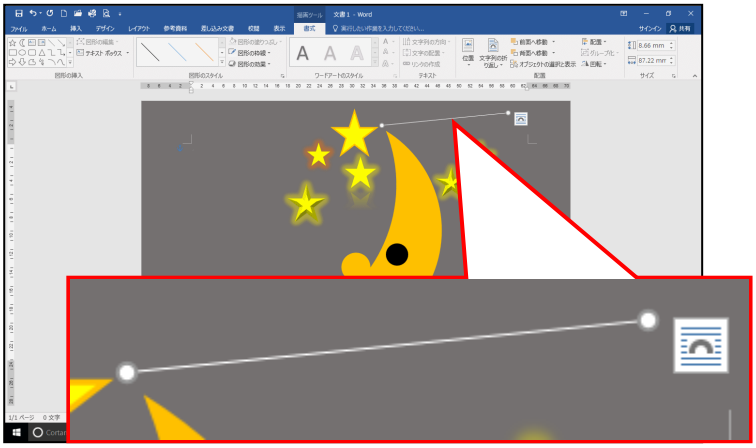
下図の位置を参考にして、直線を描いてみましょう。



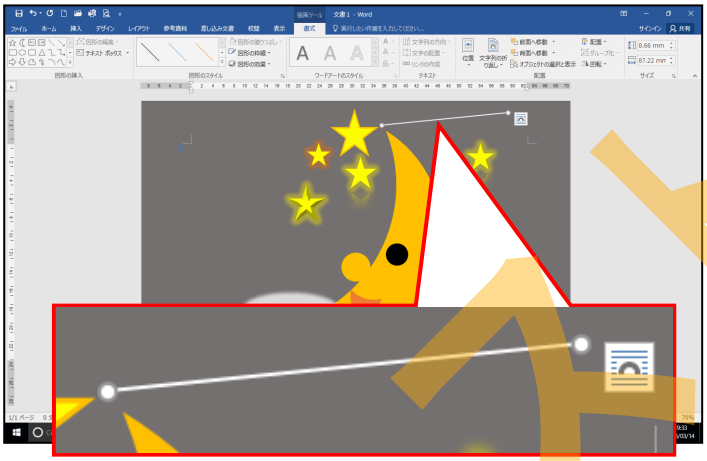
●流れ星の線の部分を描くための操作です。

見本

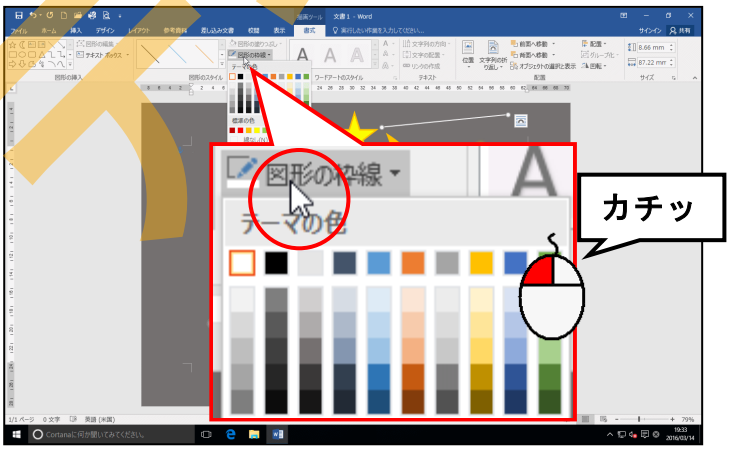
線の色を「白、背景 1」に設定しましょう。



線の太さを「2.25pt」に設定しましょう。

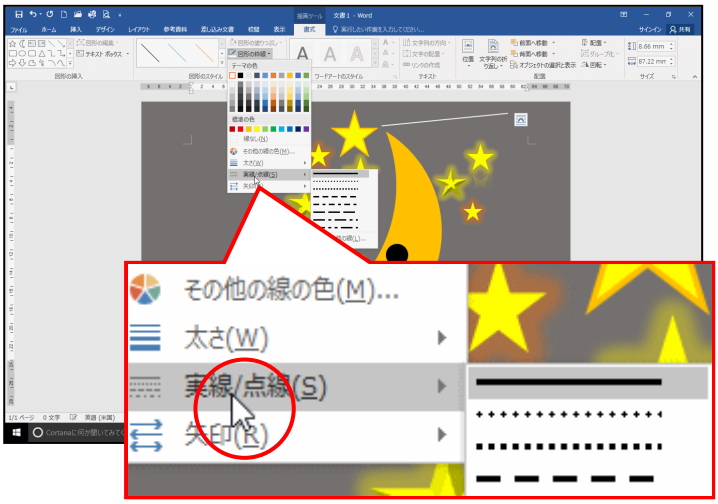


直線の図形が選択されている状態で、[図形のスタイル] グループにある 図形の枠線 [図形の枠線] ボタンにポイントし、クリックします。

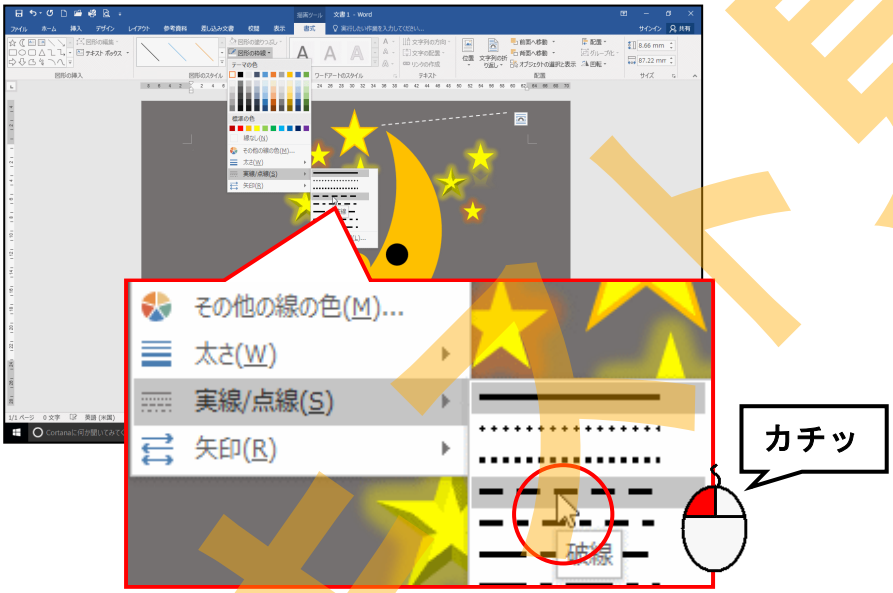


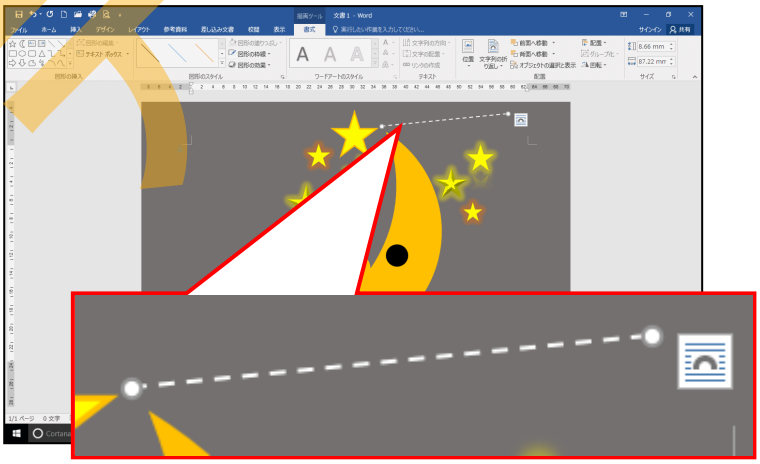
本試験

表示された一覧から［実線/点線(S)］にポイントします。



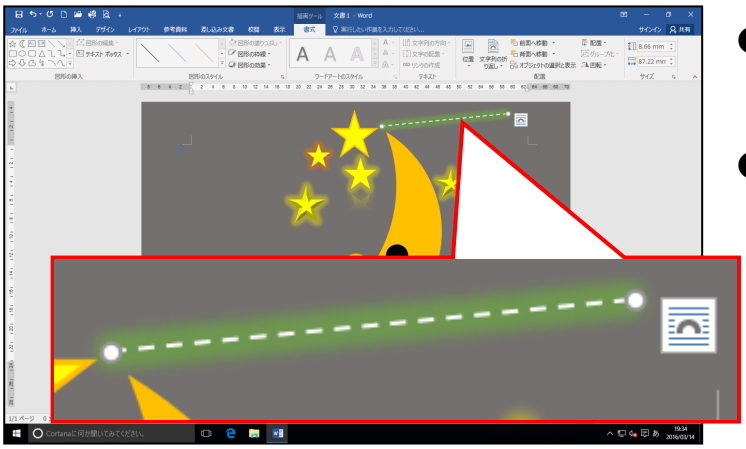
表示された一覧から「破線」にポイントし、クリックします。





本紙不掲載

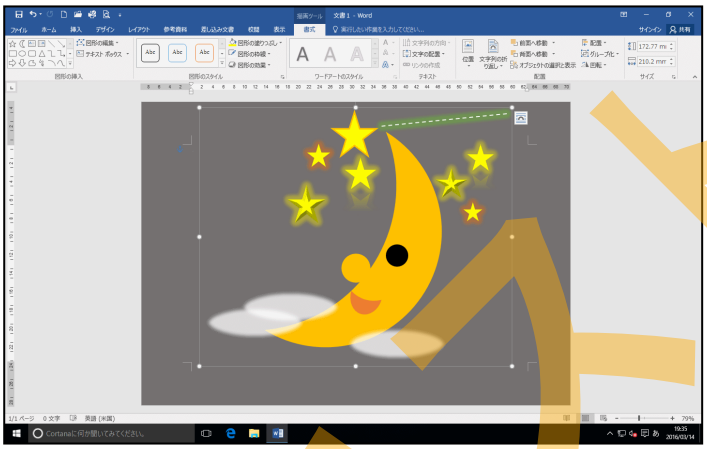
［図形のスタイル］グループにある 図形の効果 ［図形の効果］ボタンから「緑、18pt 光彩、アクセント 6」の光彩を設定しましょう。



●光彩の設定方法を忘れた方は、**P96～P97** を参照してください。

●流れ星の完成です。

図形を全てグループ化しておきましょう。



●図形のグループ化を忘れた方は、**P34 ⑫ 図形のグループ化**を参照してください。

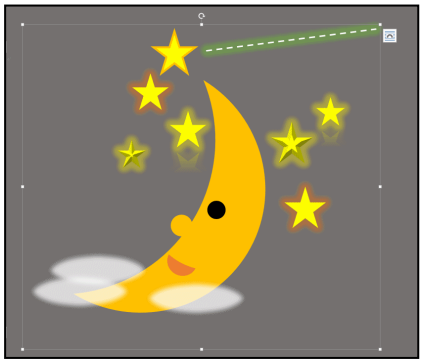
本試験

（５）背景を入れる（テクスチャ）

これまで描いてきたお月さまと雲に、背景を描きましょう。ここでは、**「テクスチャ」**という塗りつぶしの効果を使って、背景にしてみましょう。

◆図形の塗りつぶしにテクスチャを設定する方法をマスターしましょう。

操作前

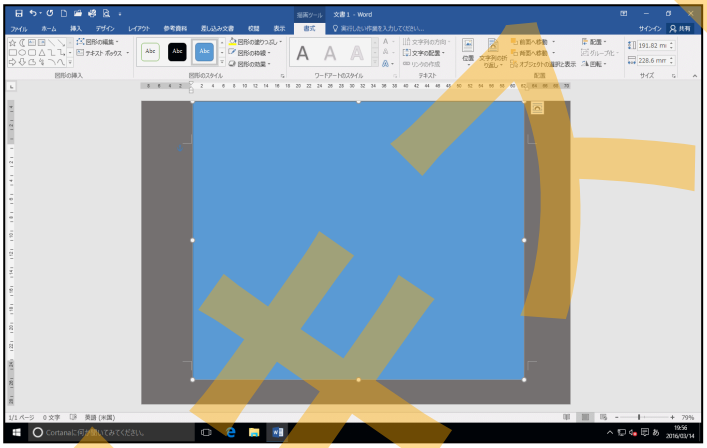


操作後

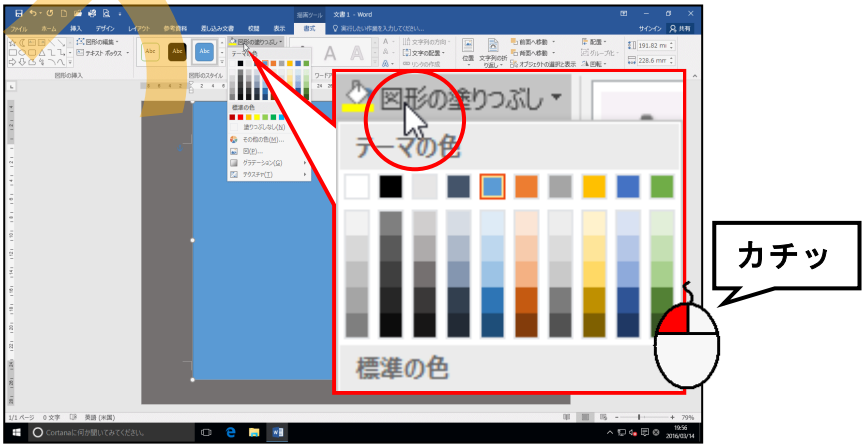




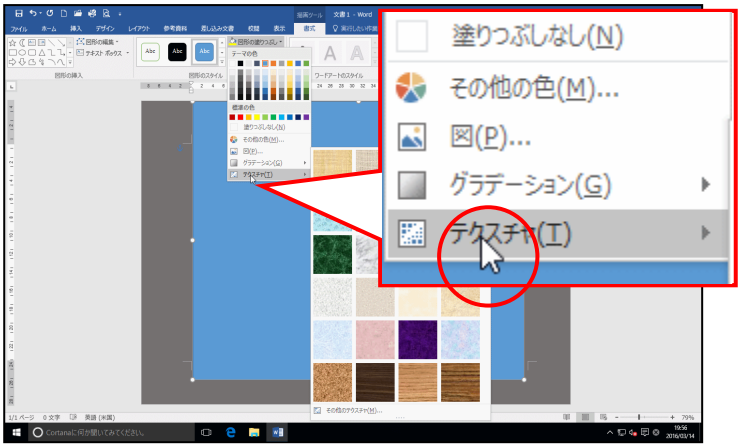
下図を参考に、月と星と雲が隠れるように、四角形を描きましょう。



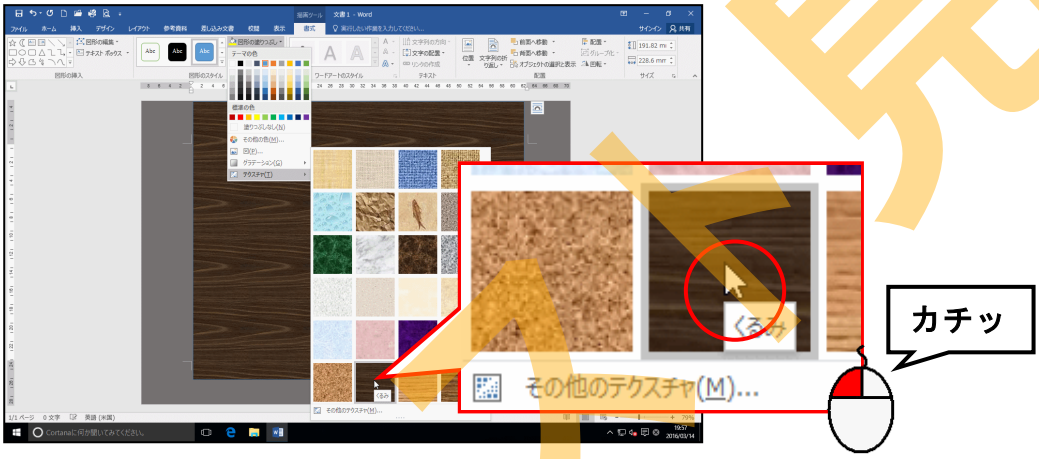
［図形のスタイル］グループにある 図形の塗りつぶし ［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。

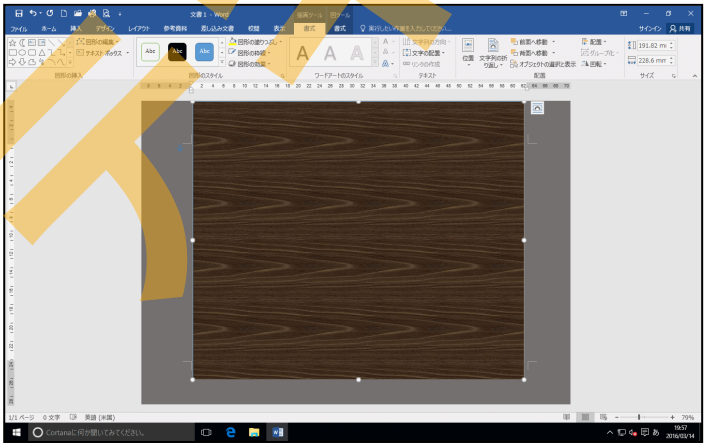


表示された一覧から［テクスチャ(T)］にポイントします。



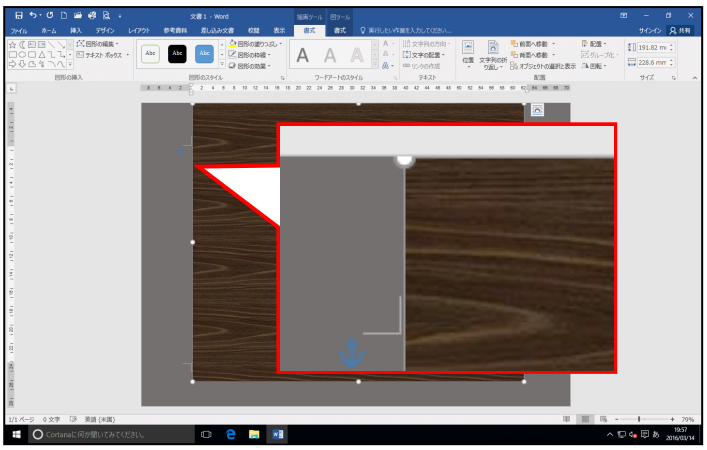
右側に表示された一覧から「くるみ」にポイントし、クリックします。



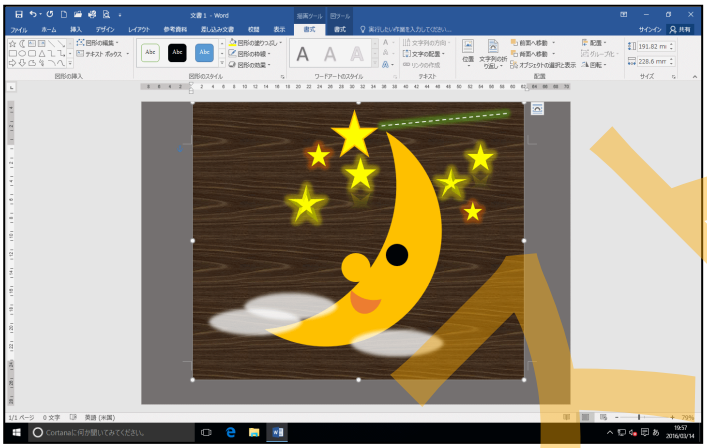


本紙

図形の枠線の色を「線なし」に設定しましょう。

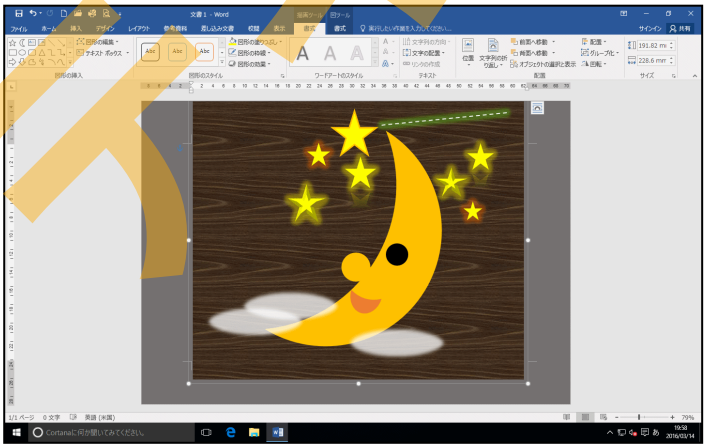


四角形を最背面に設定しましょう。



●図形を最背面へ移動する方法を忘れた方は、**P38 (2) テントウムシの胴体を描く（図形の順序）**を参照してください。

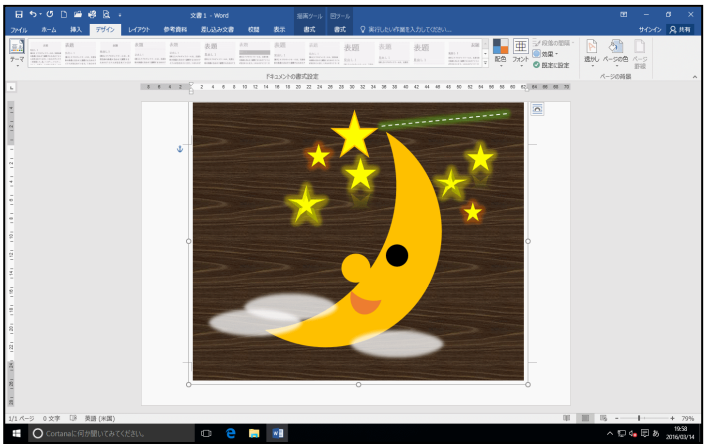
グループ化しておいたお月さまと、四角形とをグループ化しましょう。



●図形のグループ化を忘れた方は、**P34 ⑫ 図形のグループ化**を参照してください。

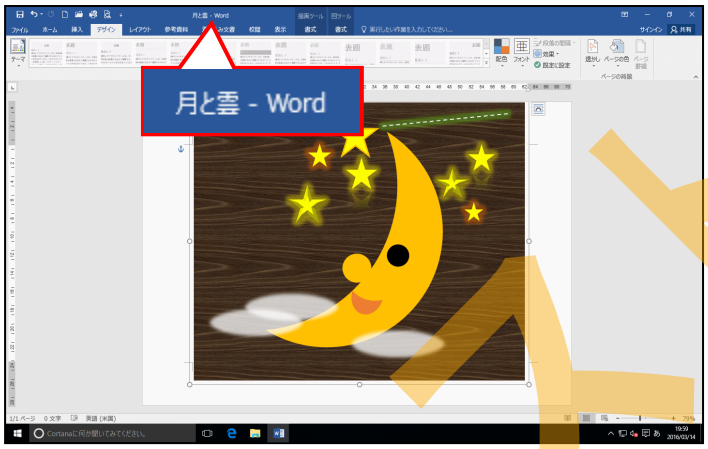
見本

ページの色を「色なし」に設定しましょう。



●ページの色の設定方法を忘れた方は、**P80 ② 背景色の設定**を参照してください。

「月と雲」という名前でワードを USB メモリーに保存しましょう。



●ワードの保存方法を忘れた方は、**P42 ① ワードの保存**を参照してください。

画像を PNG 形式で、「月と雲（画像）」という名前で USB メモリーに保存しましょう。

●画像を PNG 形式で保存する方法を忘れた方は、**P47 ② 画像を PNG 形式で保存**を参照してください。

☆☆ここまでくれば練習問題 3 で理解度を試してください。☆☆

見本

５．線で描く

【なすび 完成例】



マウスを使って線を描くって難しそう～



タ ケ さ ん「マウスを使うのって、最初に比べたら大分慣れてきたけんど
それでもマウスで線を使って絵が描けるかのう？」

くじら先生「最初は難しいかもしれないですけど、このテキストでは
線を描く練習がありますから、じっくりやっていただければ、
簡単に線が描けるようになりますよ。」

ウ メ さ ん「パソコンで真っすぐな線以外も描けるってすごいわ～。」

くじら先生「線で絵が描けると、絵を描く幅がぐ～んと広がるので、タケさん、
ウメさん、がんばってやっていきましょう！！」





本試験

（１）ボタンの登録

絵を描く時に、使いたい道具をすぐに使えるようにボタンを登録します。

◆よく使うボタンを登録する方法をマスターしましょう。

操作前

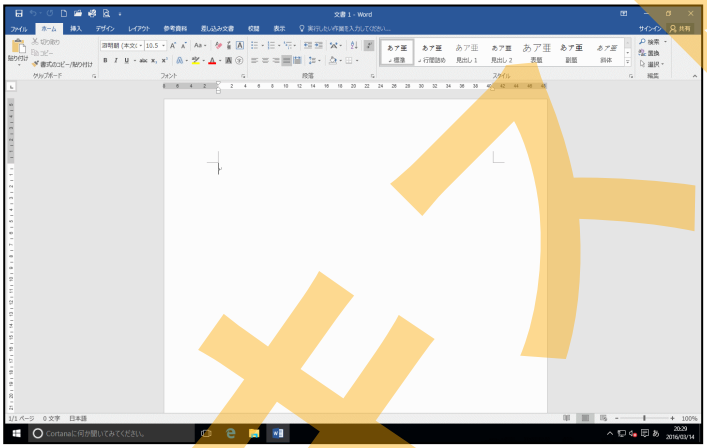


操作後

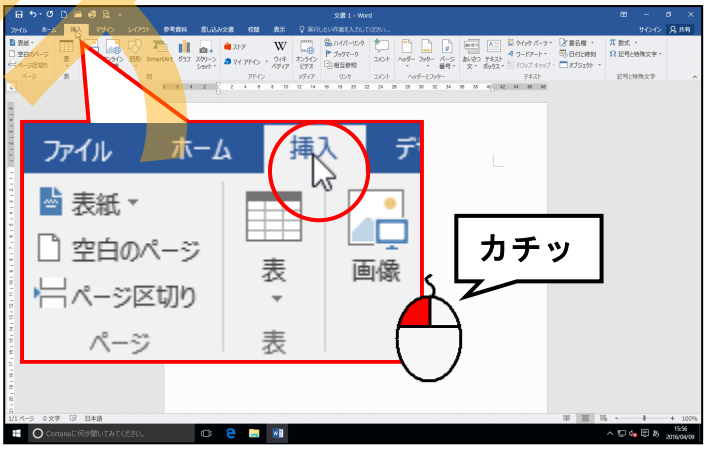




ワードを起動します。

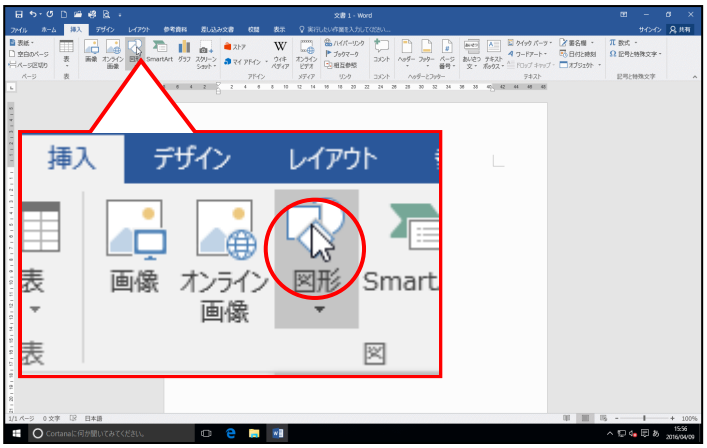


［挿入］タブにポイントし、クリックします。



本配布不可

［図］グループにある［図形］ボタンにポイントします。

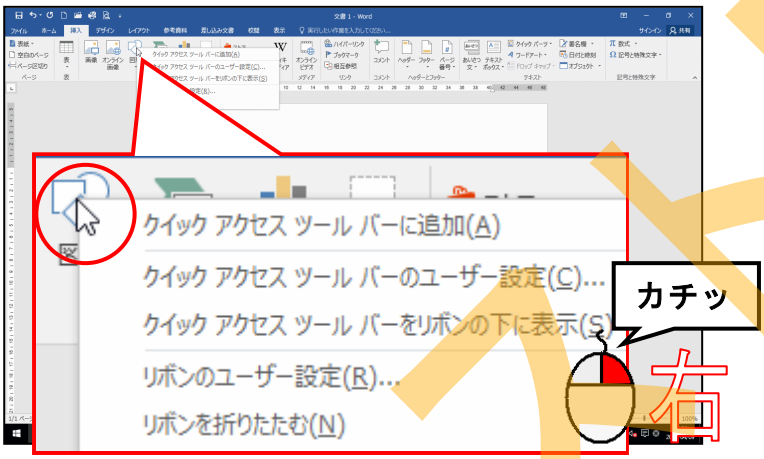


●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）

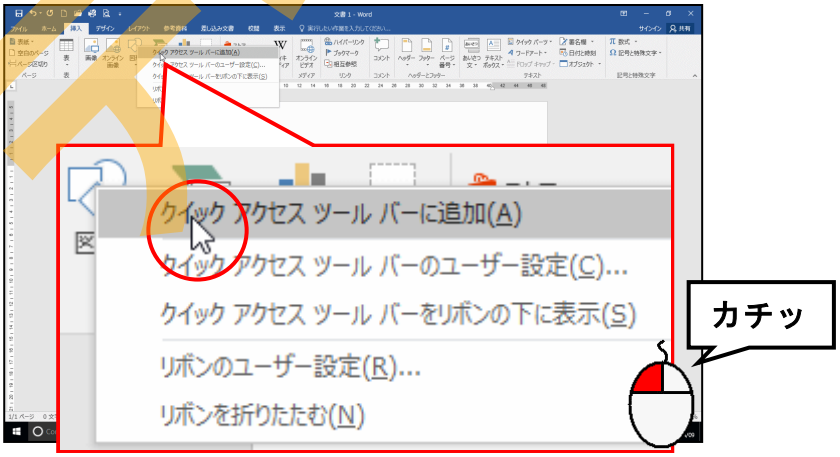




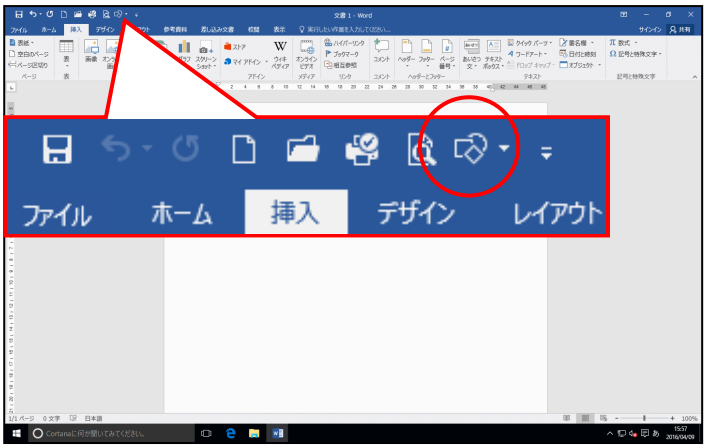
そのまま右クリックします。



表示されるショートカットメニューから、[クイックアクセスツールバーに追加(A)]にポイントし、クリックします。



体験版



●[クイックアクセス]ツールバーは、普段よく使うボタンを登録しておくツールバーです。



本文テキスト

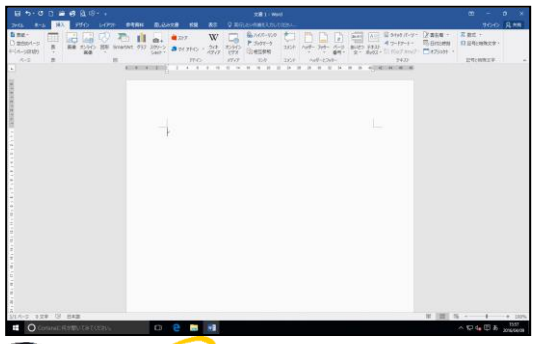
（２）線を使ってなすびを描く

① なすびを描く（曲線）

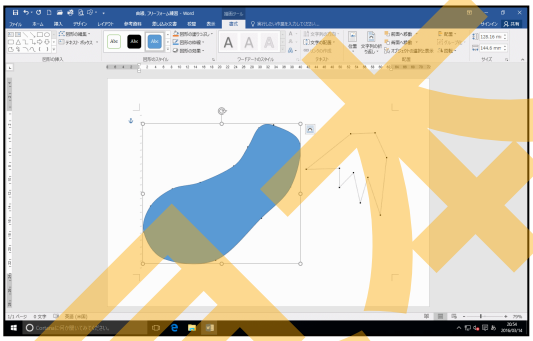
図形の種類の線の中に、**曲線**という線があります。**曲線**を使うと自由でなめらかな線を描くことができます。

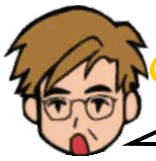
◆曲線でなすびを描く方法をマスターしましょう。

操作前



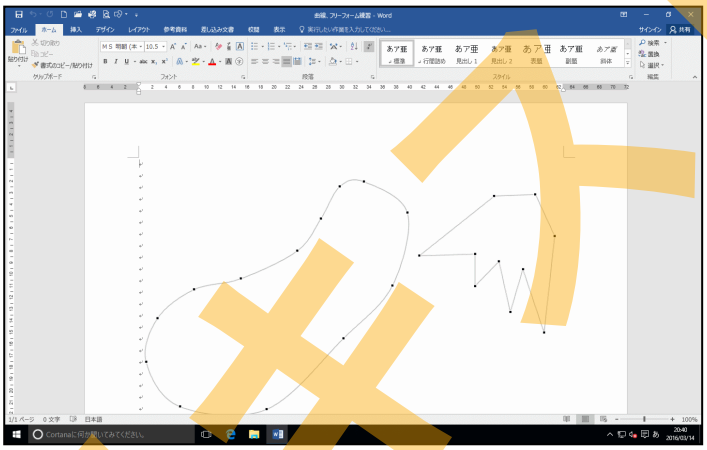
操作後



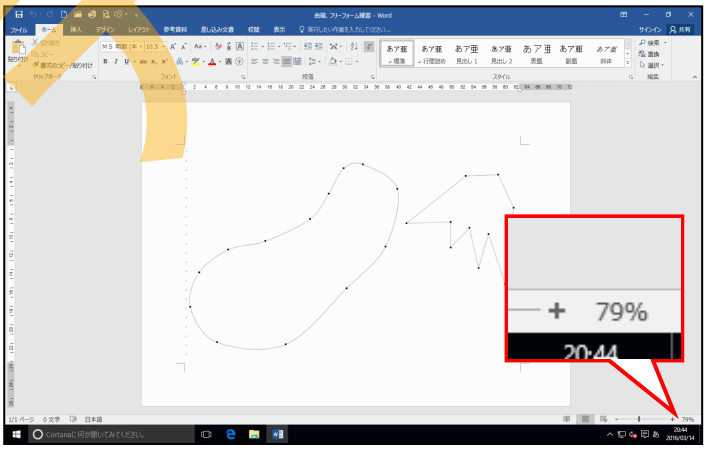


操作は下からです！

「ドキュメント」の中の「曲線、フリーフォーム練習」を開きます。



画面表示を「ページ全体を表示」にします。



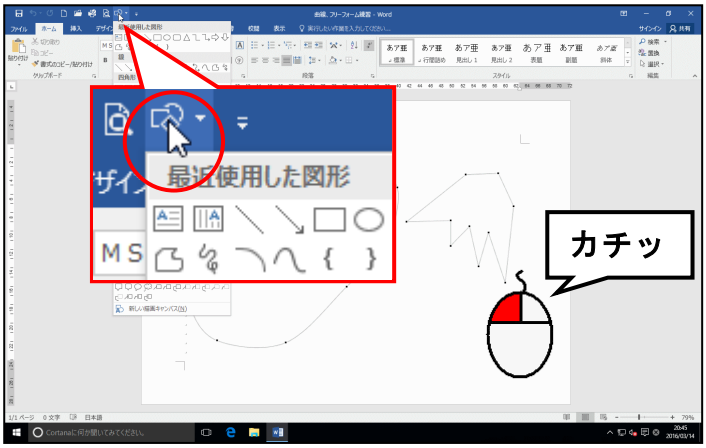
●画面表示の設定方法を忘れた方は、P77 ① **画面の設定**を参照してください。

●左の図では、表示倍率が 79% になっていますが、お使いのパソコンによって表示倍率は異なります。

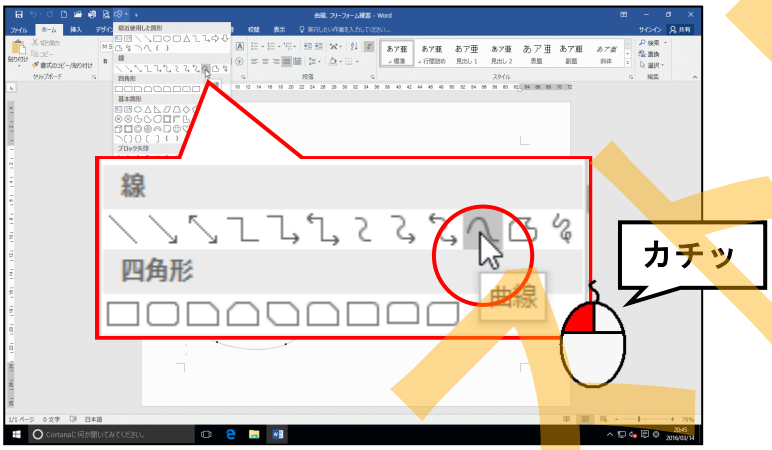


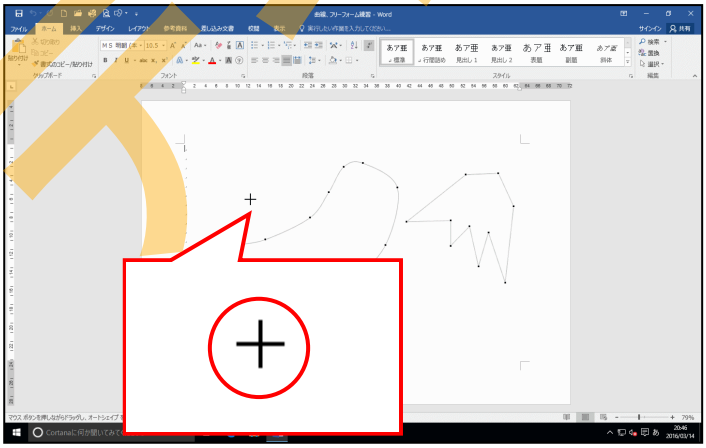
テスト用

［クイックアクセス］ツールバーにある［図形］ボタンにポイントし、クリックします。



表示された一覧から「線」の［曲線］にポイントし、クリックします。

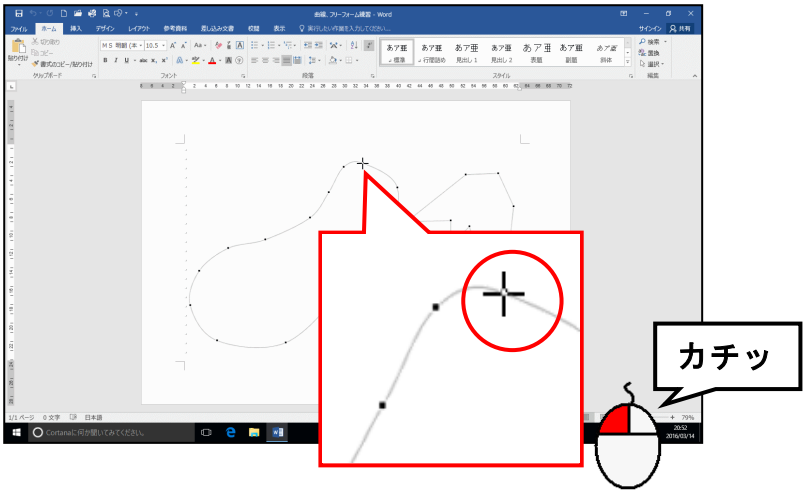




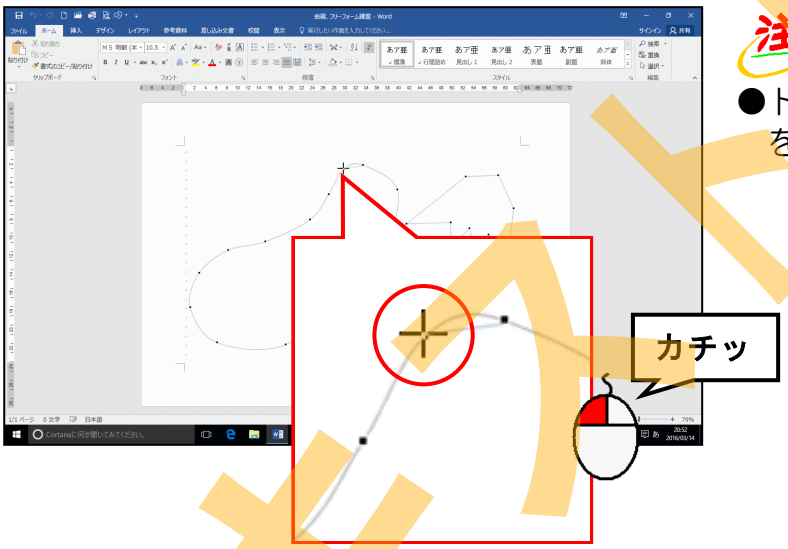
● **［曲線］**をクリックすると、マウスポインターは ＋ の形になります。

本紙イメージ

下図のように ■（図形の頂点）の上にマウスポインターを移動し、クリックします。



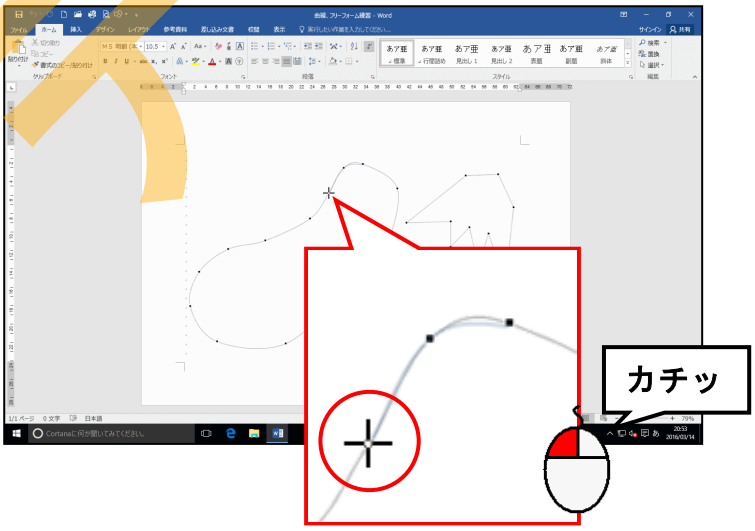
次の ■（図形の頂点）へとマウスを滑らせ、■（図形の頂点）にポイントし、クリックします。



注意！

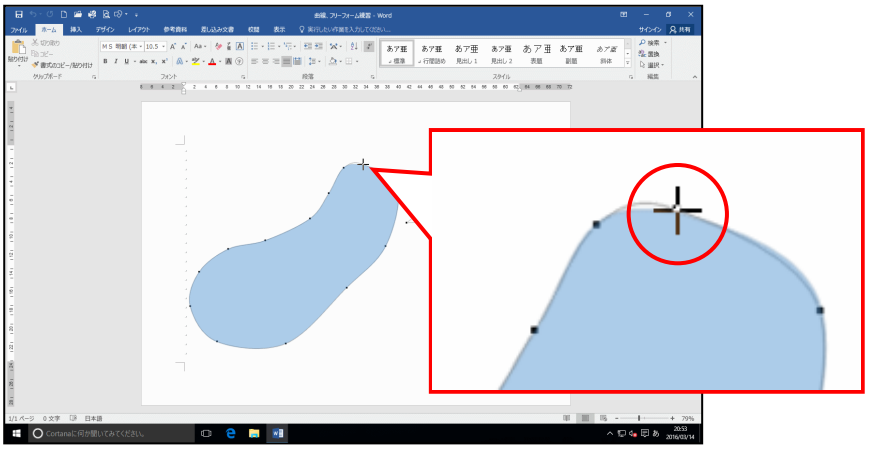
●ドラッグせずに、■（**図形の頂点**）をクリックしていきます。

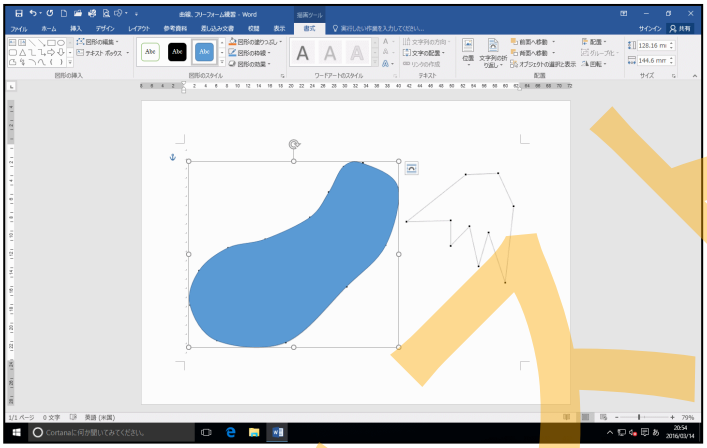
同様にして、次の ■（図形の頂点）へとマウスを滑らせ、■（図形の頂点）にポイントし、クリックします。



サンプル見本

同じことを 11 回繰り返します。





●11 回目のクリックで、始点と終点がくっついて、図形が確定します。始点と終点がずれてしまった場合は、一度 **[Delete] キー**を押し、描いた図形を削除してから、もう一度操作してみましょう。

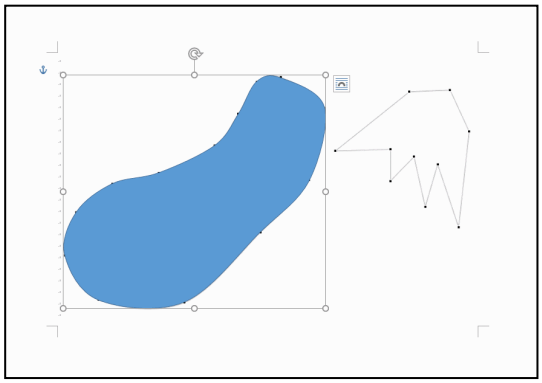
本テキスト

② なすびの形を変更（頂点を使用）

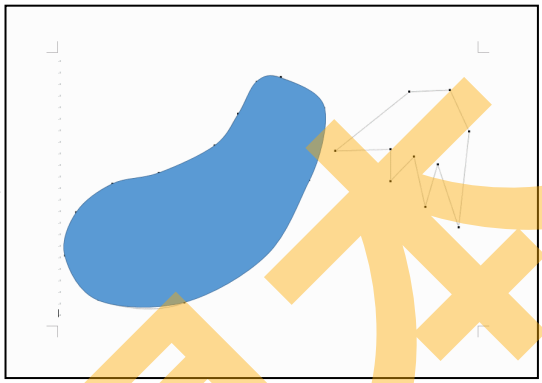
曲線を描くと、クリックした位置に頂点ができます。頂点を移動させることによって形を変更することができます。

◆頂点を使って形を変更する方法をマスターしましょう。

操作前

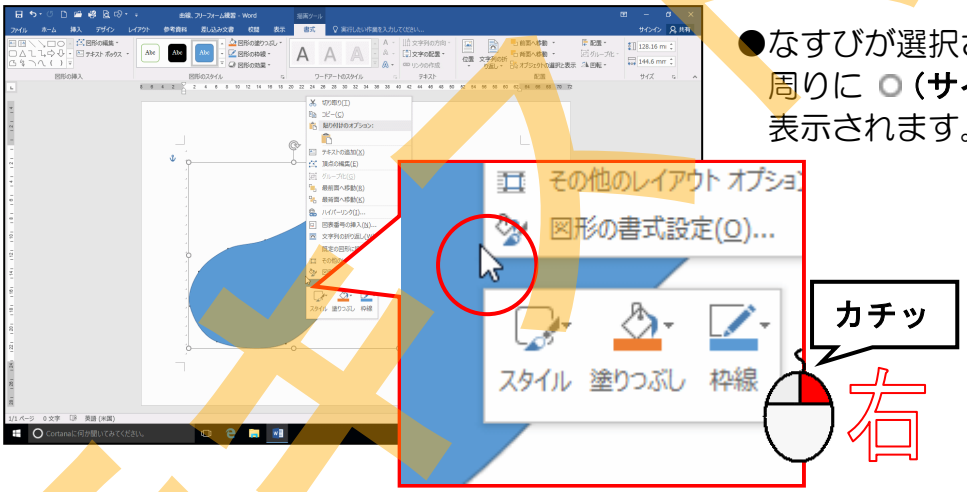


操作後



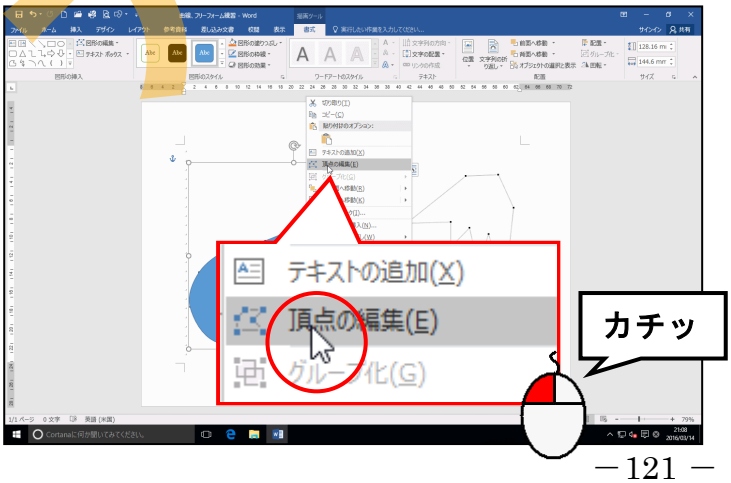


なすびが選択されていることを確認し、なすびの中（青い部分）で右クリックします。

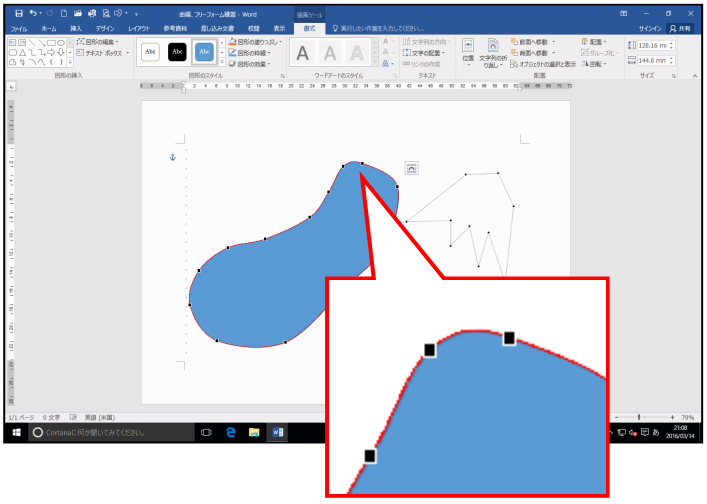


●なすびが選択されていると、図形の周りに ○（**サイズ変更ハンドル**）が表示されます。

表示されるショートカットメニューから、[頂点の編集(E)] にポイントし、クリックします。



体験版

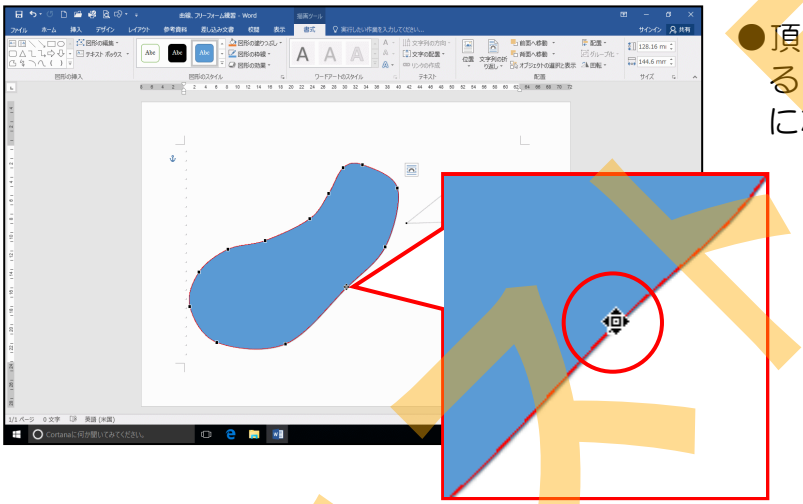


●［頂点の編集(E)］をクリックすると、■（頂点）が表示されます。

余裕があれば読んでね

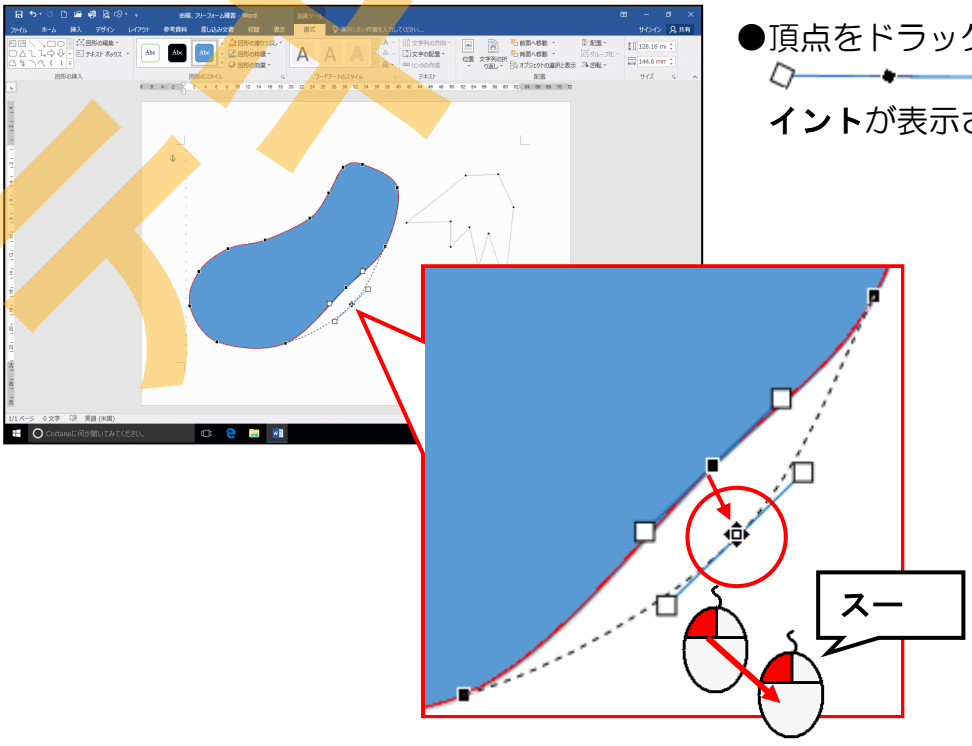
●**描画ツール［書式］タブの［図形の挿入］グループにある［図形の編集］ボタンをクリックして［頂点の編集(E)］**をクリックしても、頂点が表示されます。

下図の位置の ■（頂点）にポイントします。

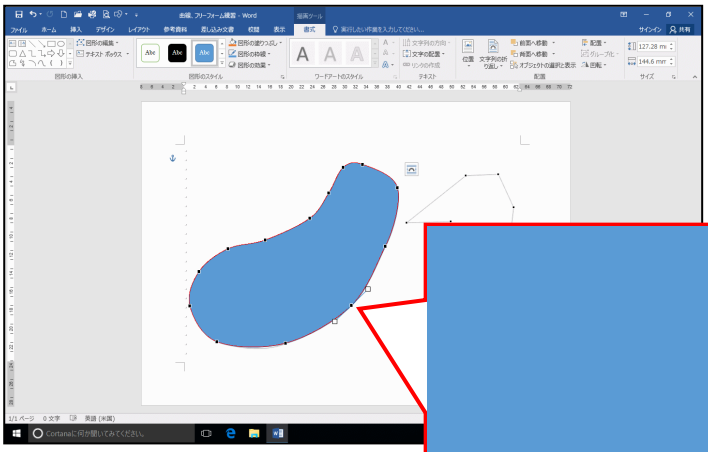


●頂点にマウスポインターを移動すると、マウスポインターは ✥ の形になります。

そのまま外へ向かってドラッグします。

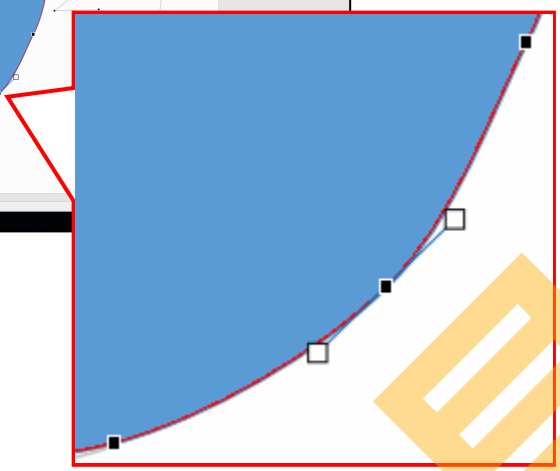


●頂点をドラッグし始めると、**コントロールポイント**が表示されます。

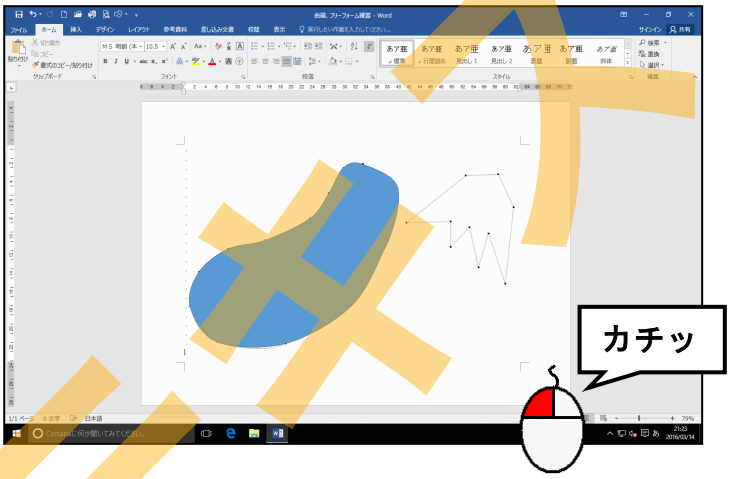


●頂点を選択してドラッグすると、描いた後でも、頂点の位置を変更できます。





何もないところでクリックし、選択を解除しておきましょう。

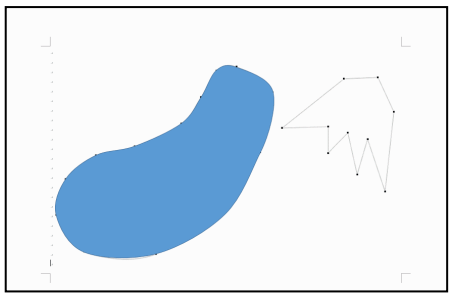


③ なすびのへたを描く（フリーフォーム）

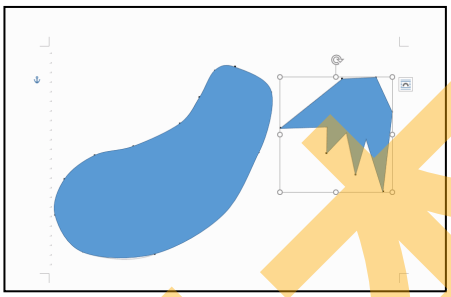
図形の線の種類の中に、**フリーフォーム**という線があります。**フリーフォーム**を使うと、自由な線を描くことができます。

◆フリーフォームを使って描く方法をマスターしましょう。

操作前

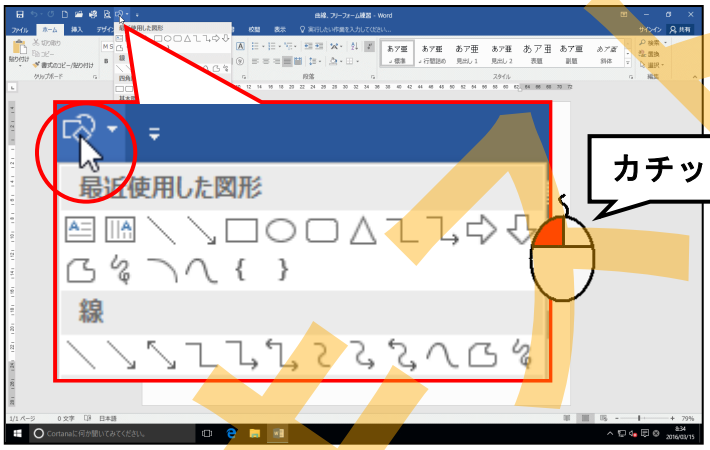


操作後

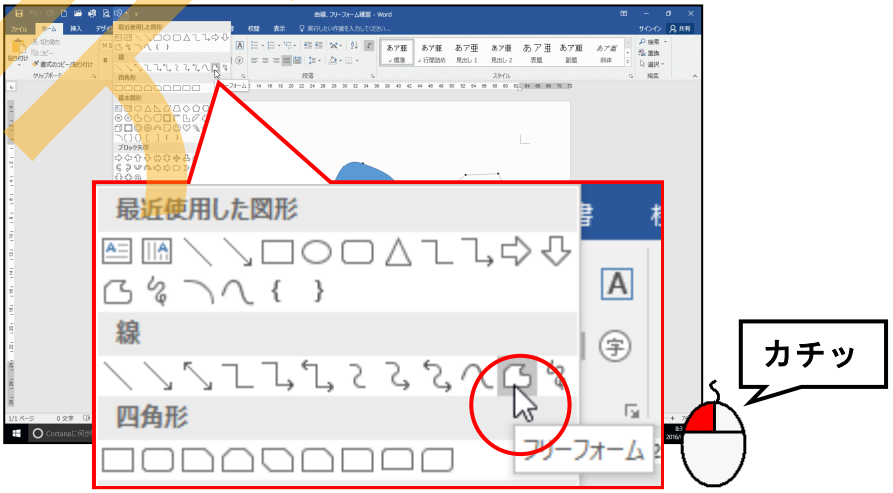




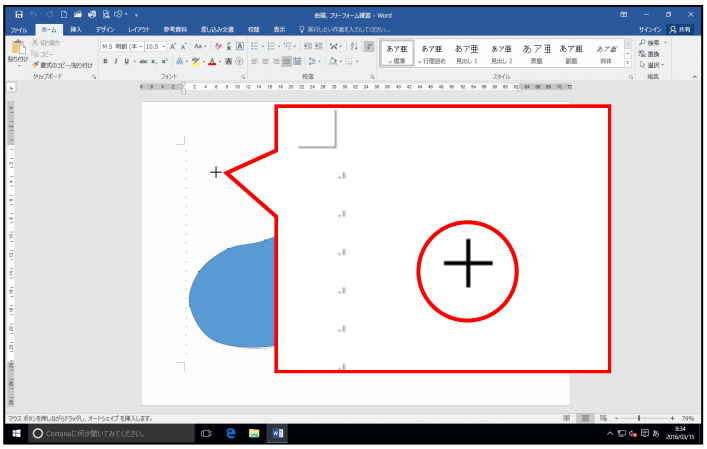
［クイックアクセス］ツールバーの［図形］ボタンにポイントし、クリックします。



表示される一覧から「線」の［フリーフォーム］にポイントし、クリックします。

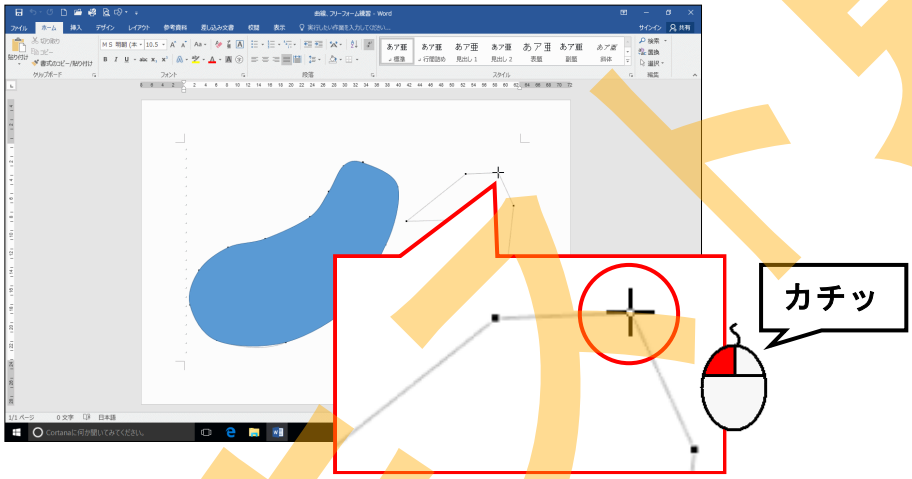


体験版

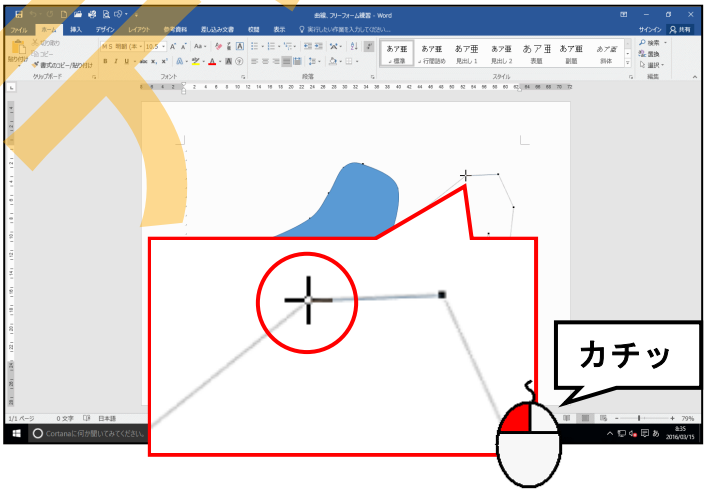


● [フリーフォーム] をクリックすると、マウスポインターは ＋ の形になります。

下図の位置の ■（頂点）にポイントし、クリックします。

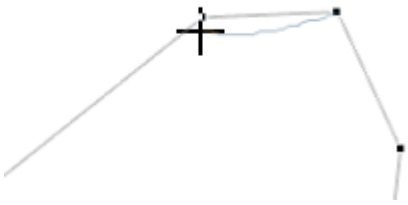


次の ■（頂点）へマウスを滑らせ、■（頂点）にポイントし、クリックします。



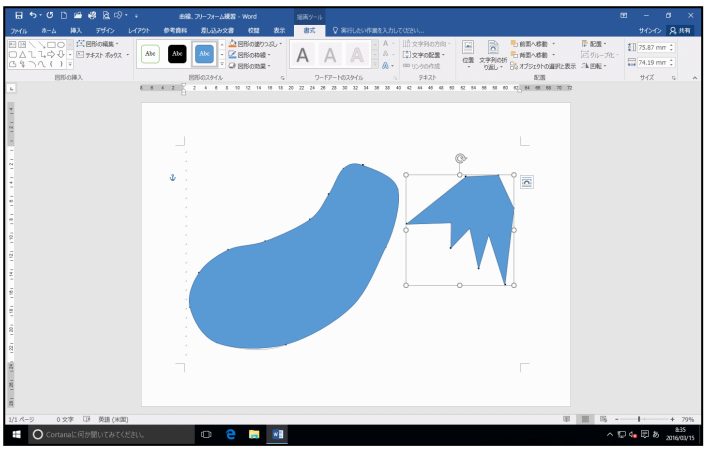
注意！

●マウスを滑らせずにそのままドラッグすると、下図のように真っ直ぐな線が引けないので注意しましょう。



本試験

同じことを 9 回繰り返します。



●9 回目のクリックで、始点と終点がくっついて、図形が確定します。



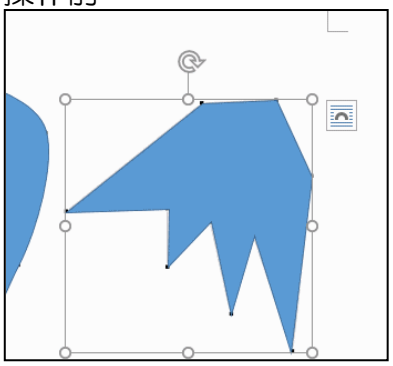
本配布不可

④ なすびのへたをなめらかに描く（頂点を中心にスムージングする）

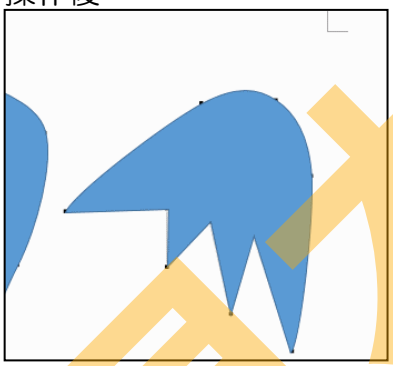
フリーフォームの頂点の編集で、**「頂点を中心にスムージングする」**を選択すると、角ばった線を頂点を中心にまるくなめらかにすることができます。ここではなすびのへた（上の部分）をなめらかにします。

◆頂点を中心に丸くする方法をマスターしましょう。

操作前

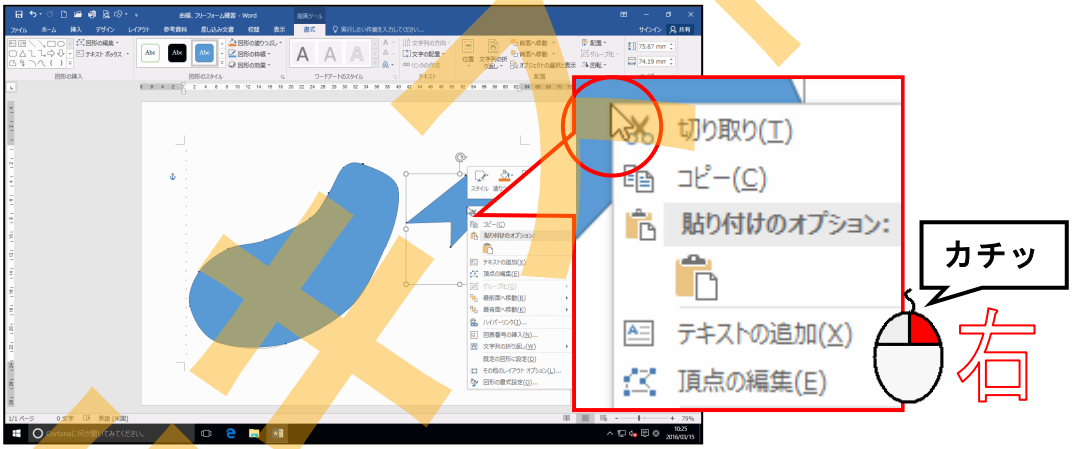


操作後

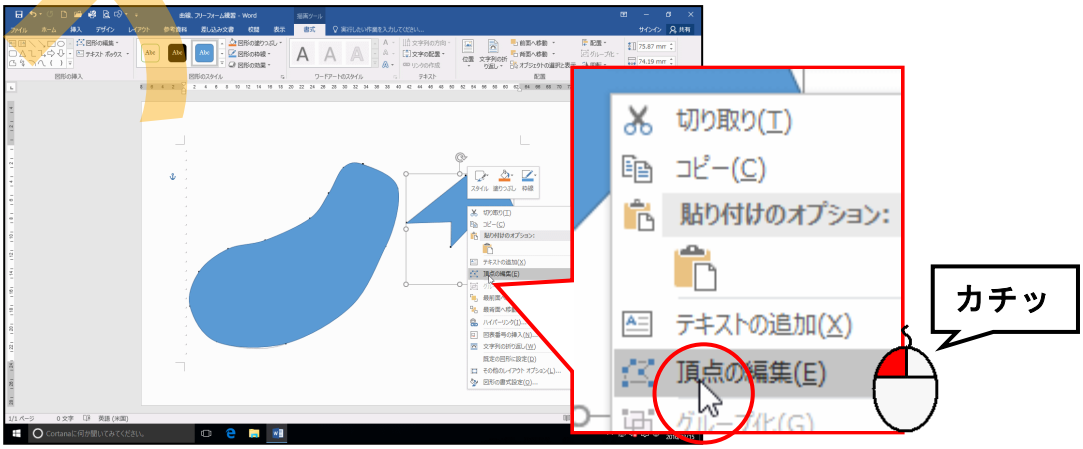


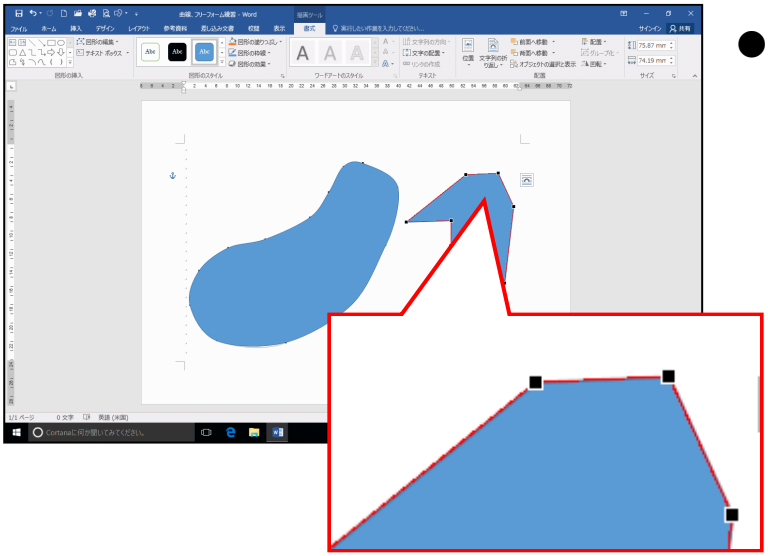


なすびのへたが選択されていることを確認し、なすびのへたの中（青い部分）で右クリックします。



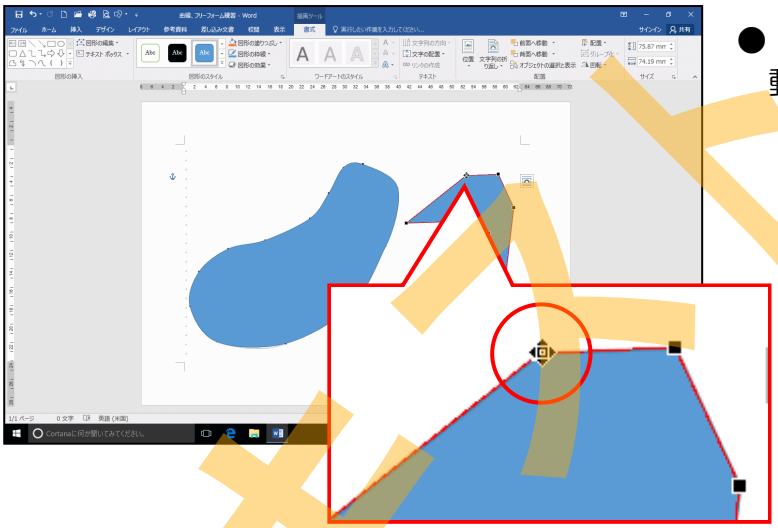
表示されるショートカットメニューから、[頂点の編集(E)]にポイントし、クリックします。





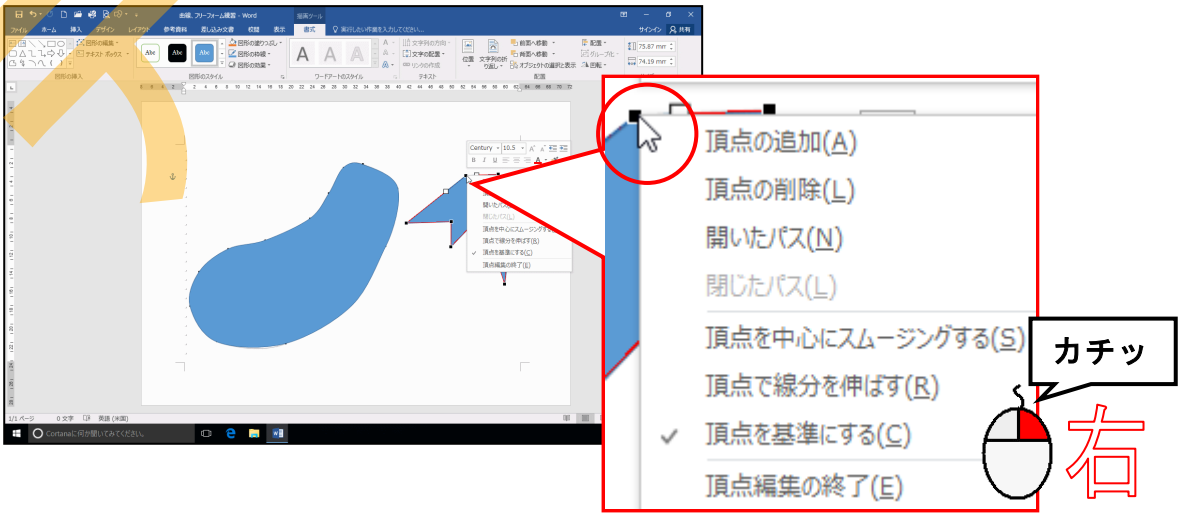
● ［頂点の編集(E)］をクリックすると、頂点が表示されます。

下図の位置の ■（頂点）にポイントします。



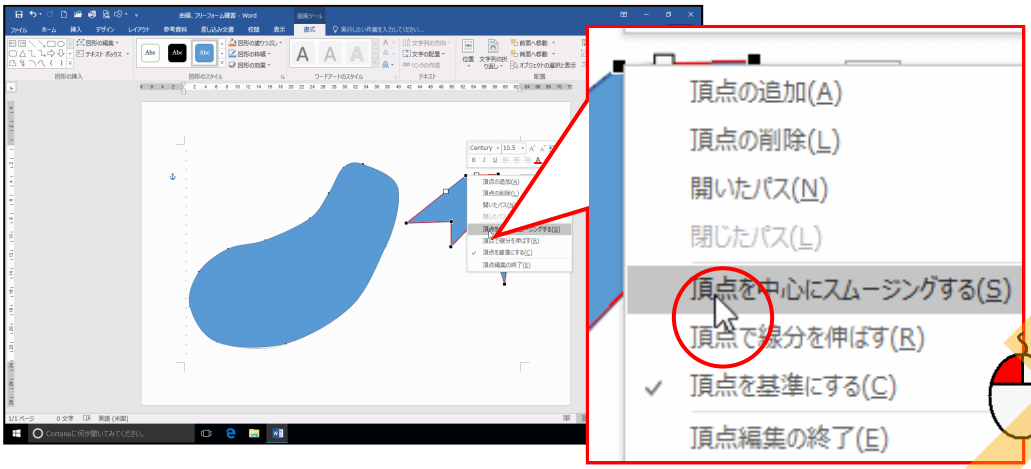
● ■（頂点）にマウスポインターを移動すると、✥ の形になります。

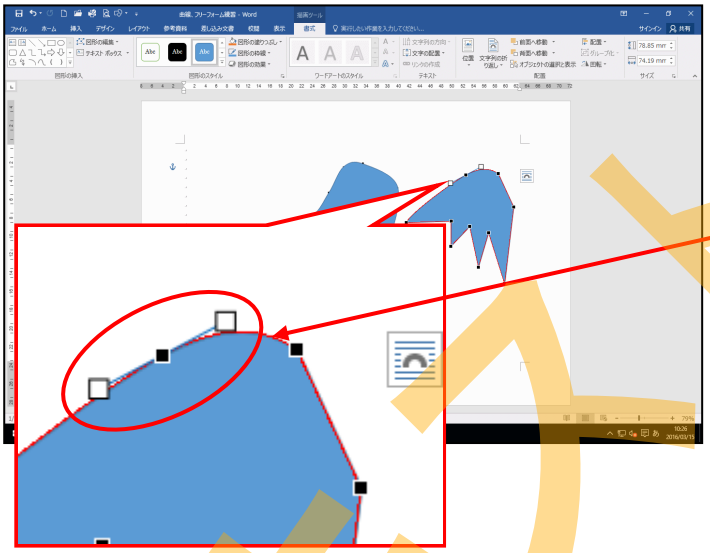
そのまま右クリックします。



本番不可

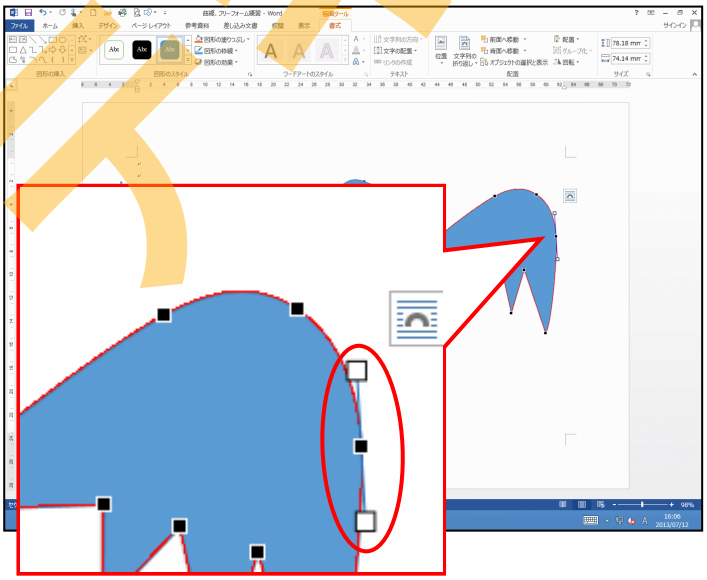
表示されるショートカットメニューから、[頂点を中心にスムージングする(S)]にポイントし、クリックします。





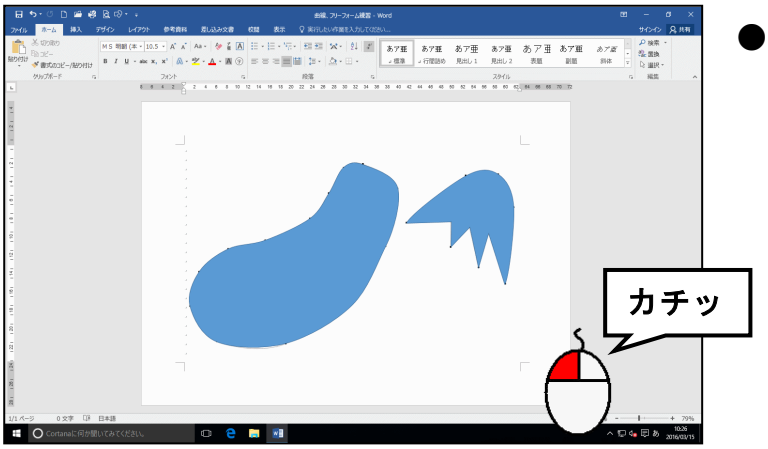
● **[頂点を中心にスムージングする(S)]**をクリックすると、頂点を中心に丸くなります。
さらに、 **コントロールポイント**が表示されます。

右側の ■（頂点）も同様に、[頂点を中心にスムージングする(S)]に設定しましょう。



テスト用原本

次の操作のために、選択を解除しておきましょう。



●選択された図形以外のところをクリックし、選択を解除しましょう。



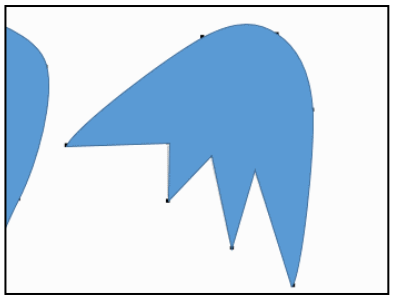
本文とは関係ありません

⑤ なすびのへたをなめらかに描く（頂点を基準にする）

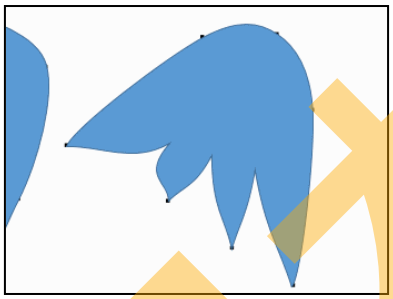
フリーフォームの頂点の編集で、**「頂点を基準にする」**を選択すると、角ばった線の頂点を中心に片方ずつ線をまるくなめらかにすることができます。ここではなすびのへた（ぎざぎざの部分）をなめらかにします。

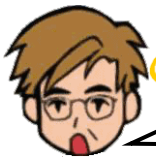
◆頂点を基準に描く方法をマスターしましょう。

操作前



操作後

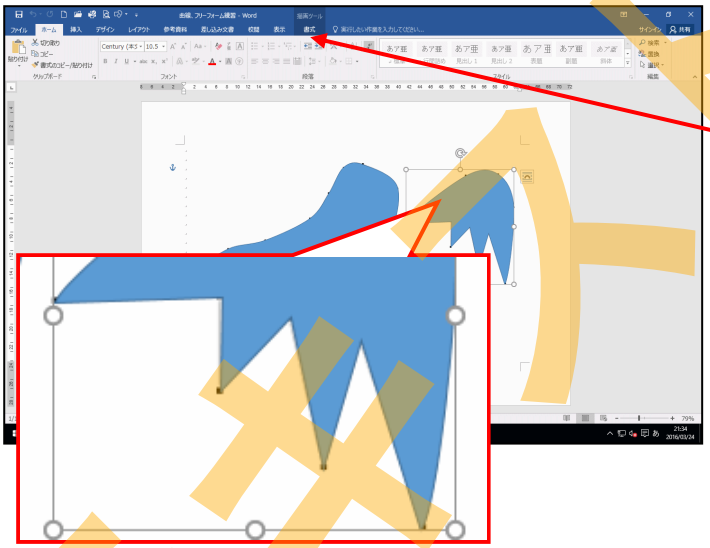




注意！

操作は下からです！

なすびのへたを選択します。



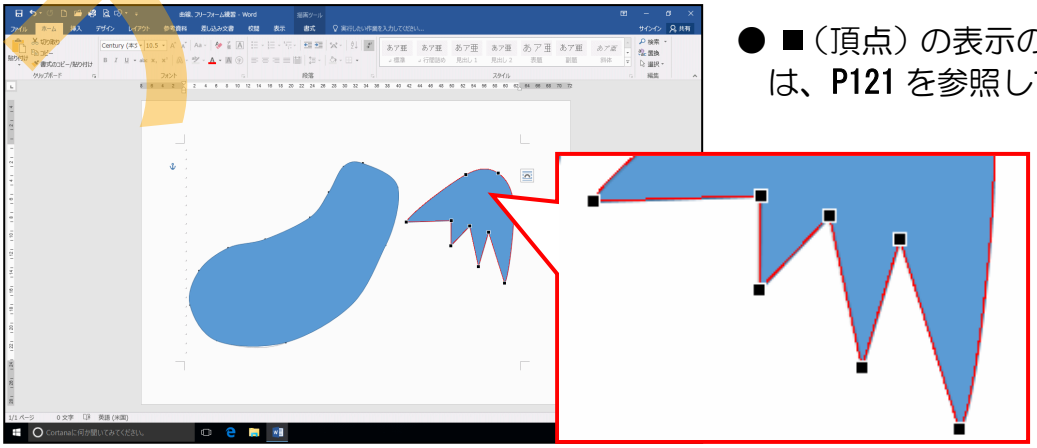
注意！

●見た目には違いが判りません。なすびのへたを選択したときに、**［描画］ツール**の書式タブが表示されていれば大丈夫です。もしも、**［図］ツール**の書式タブが表示されている場合は、下書きの絵が選択されていますので、再度選択し直しましょう。

描画ツール 書式　**［描画］ツール**　・・図形

図ツール 書式　**［図］ツール**　・・・・画像

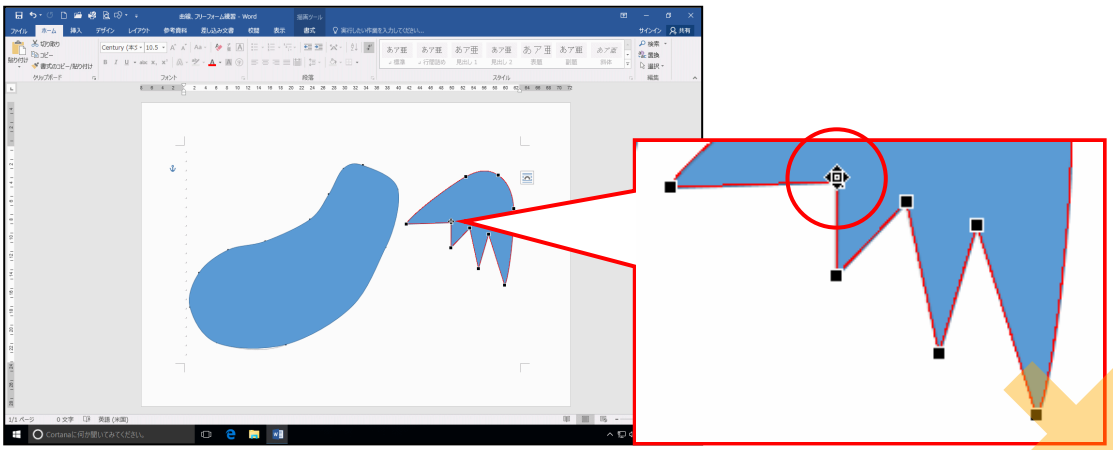
■（頂点）を表示させます。



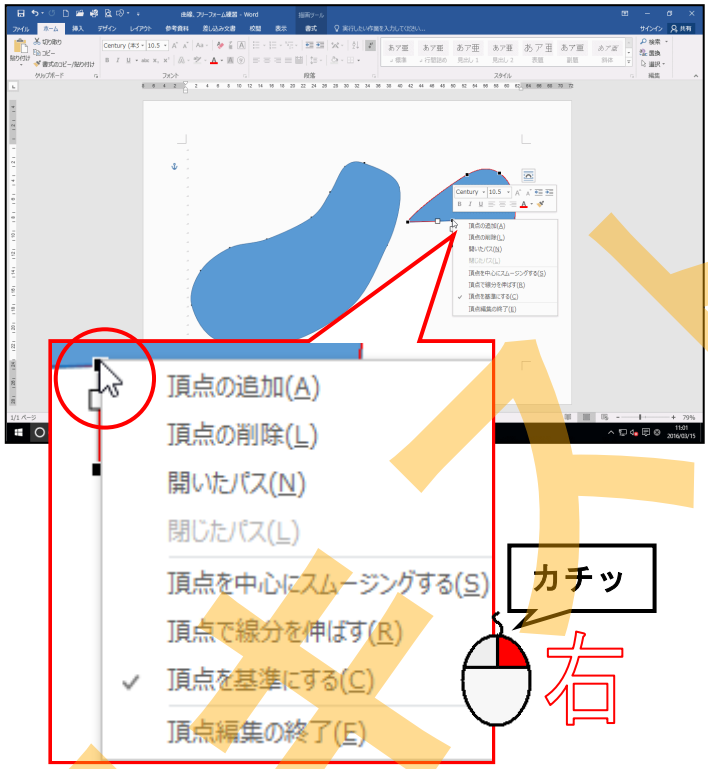
● ■（頂点）の表示の仕方を忘れた方は、**P121** を参照してください。

見本

下図の位置の ■（頂点）にポイントします。

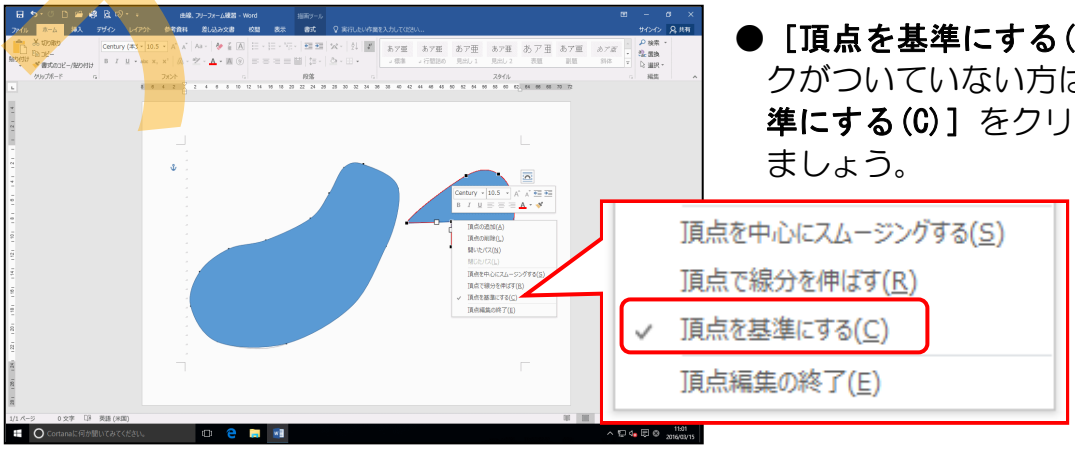


そのまま右クリックします。



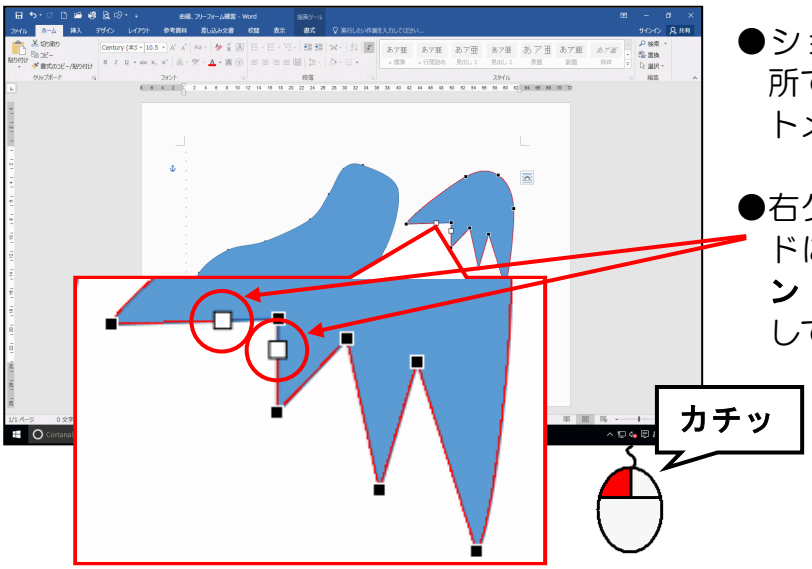
●ここでは確認のために、右クリックしていますが、頂点で右クリックすると、 コントロールポイントが表示されます。

表示されるショートカットメニューから、[頂点を基準にする(C)] にチェックが付いていることを確認します。



● **[頂点を基準にする(C)]** にチェックがついていない方は、**[頂点を基準にする(C)]** をクリックしておきましょう。

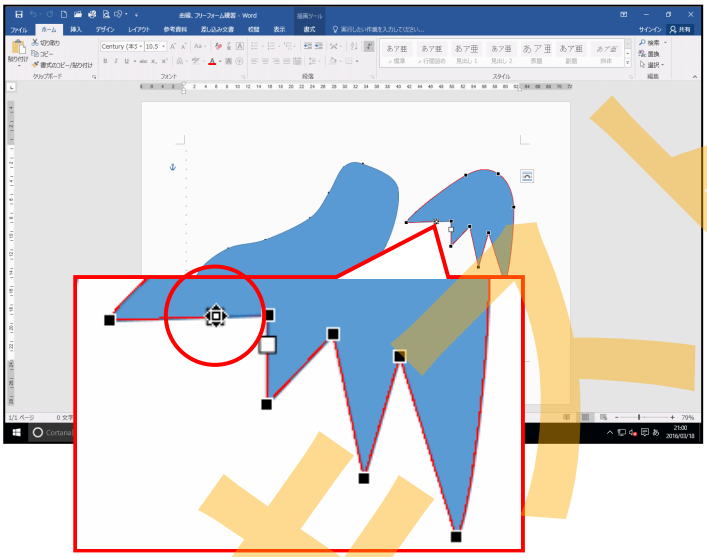
表示されているショートカットメニュー以外の場所にポイントし、クリックします。



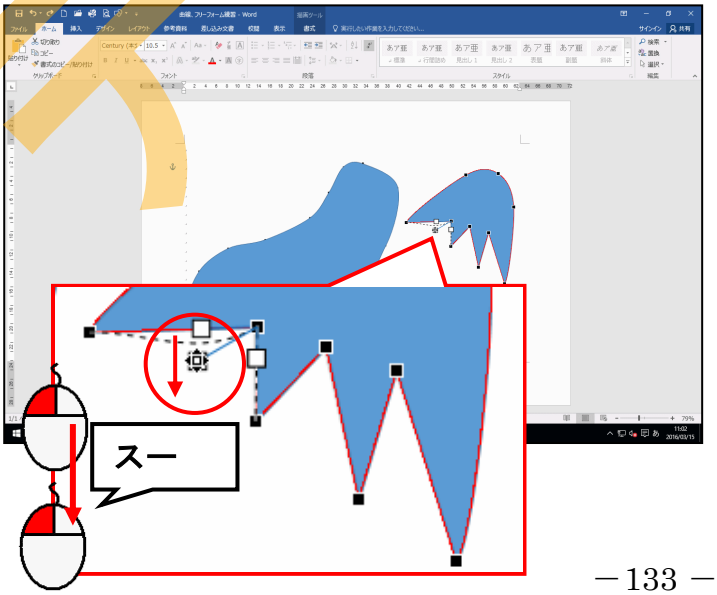
●ショートカットメニュー以外の場所でクリックすると、ショートカットメニューが閉じます。

●右クリックした ■（頂点）の両サイドに **コントロールポイント**が表示されていることを確認しておきましょう。

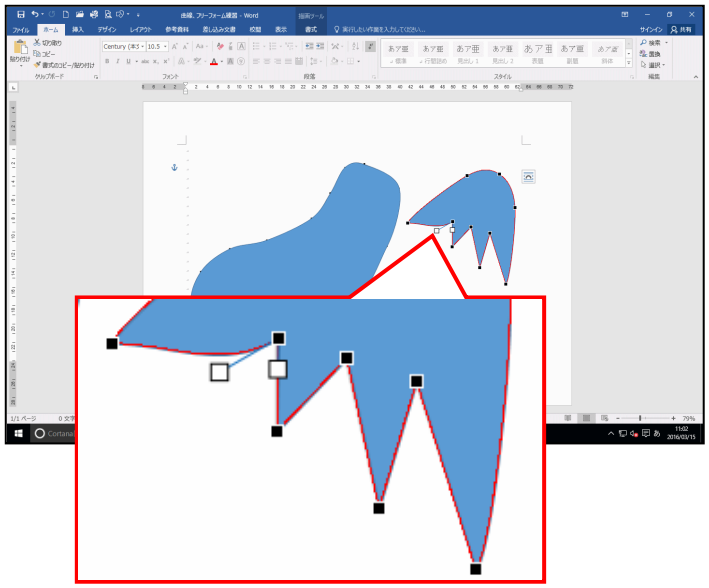
左側のコントロールポイントにポイントします。



そのまま下方向へドラッグします。

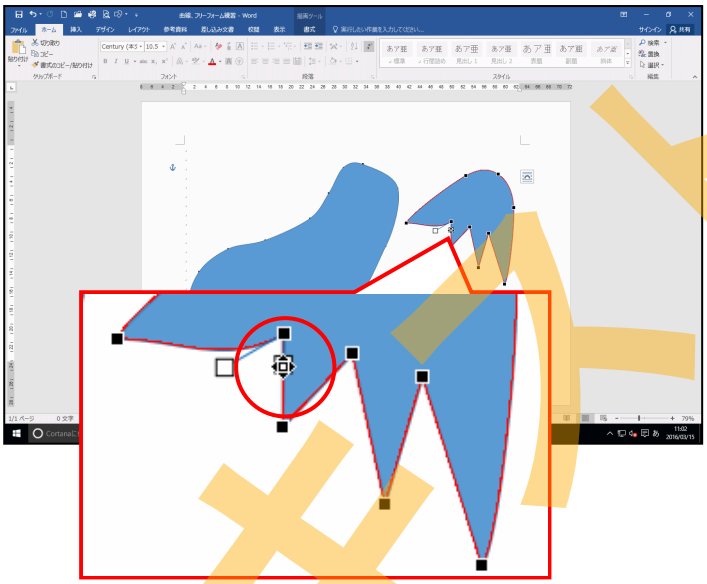


本試験

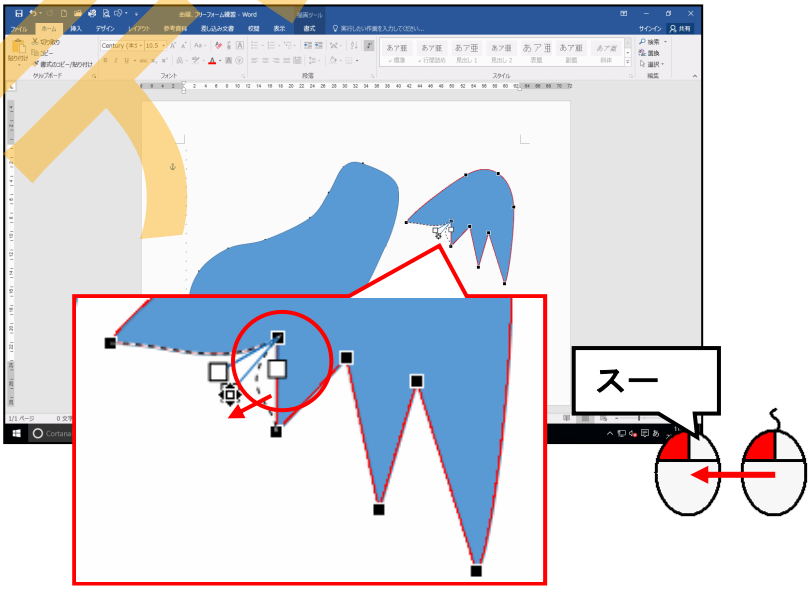


●**コントロールポイント**をドラッグすると、真っすぐな線が丸くなります。

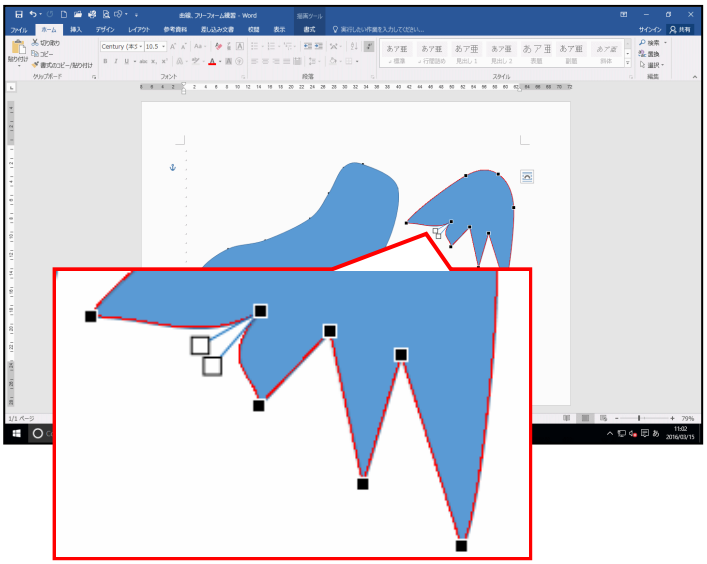
右側のコントロールポイントにポイントします。



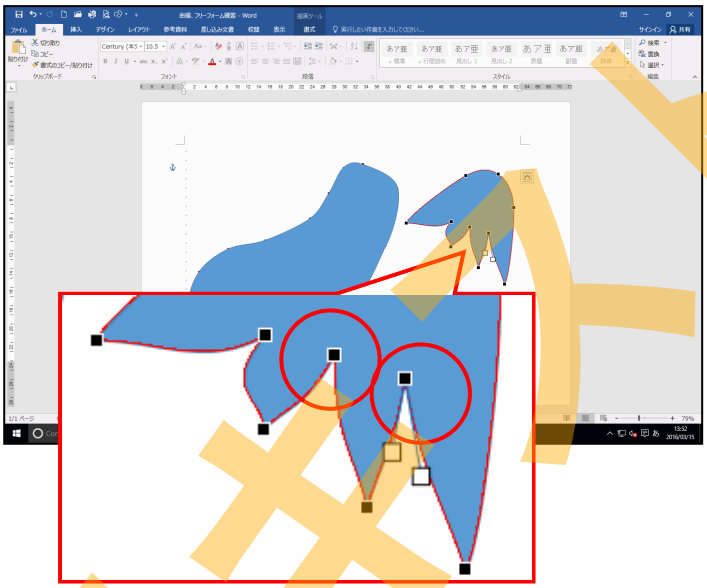
そのまま左方向または、左下方向へドラッグします。



本見本



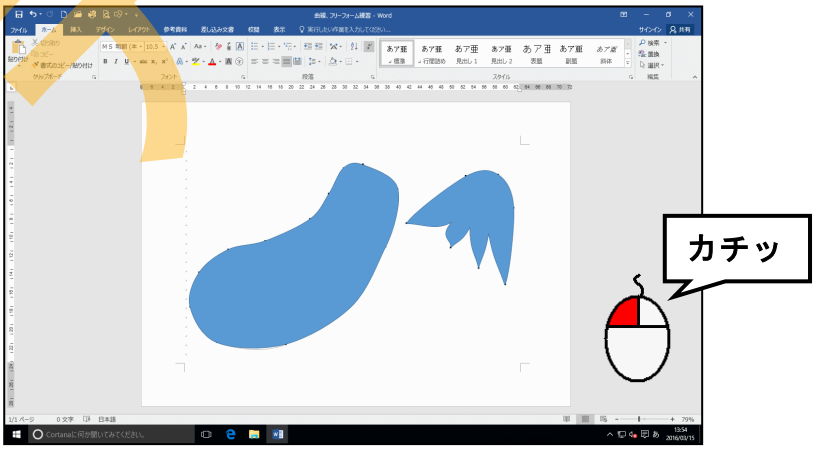
他の部分も同様に設定しましょう。



●赤丸のついている場所の**コントロールポイント**を設定しましょう。先程の様に、１つのコントロールポイントにつき、２ヶ所設定しましたので、全部で４ヶ所設定することになります。



なすびのへた以外のところでクリックし、選択を解除しましょう。



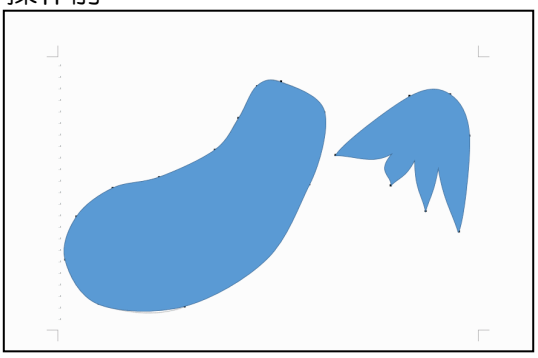
本社

⑥ なすびのじくを描く（頂点の追加を使用）

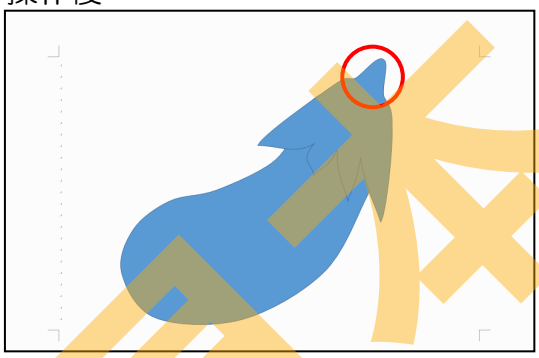
フリーフォームで図形を描くと、曲線と同様にクリックした位置に頂点ができます。頂点は、描いた後からでも追加することができ、頂点を追加することによって、形を変形させることができます。ここではなすびのへたの先端部分を追加するために頂点を追加し、変形させてみましょう。

◆頂点を追加する方法をマスターしましょう。

操作前

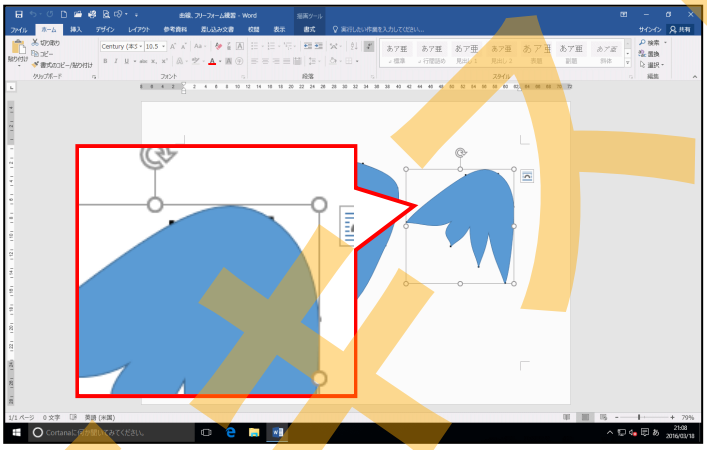


操作後

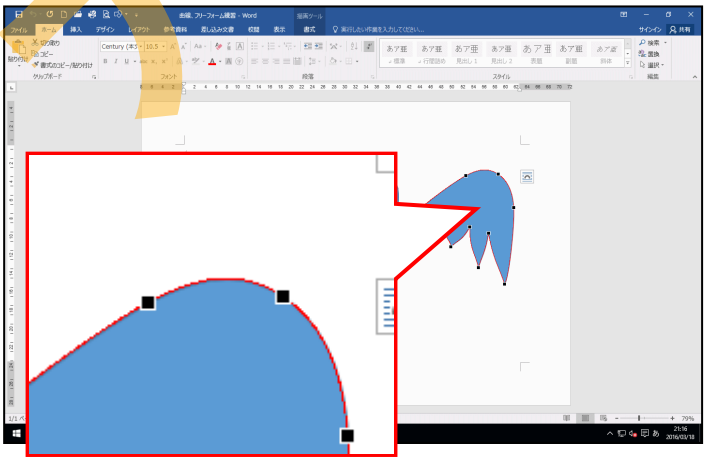




なすびのへたを選択します。

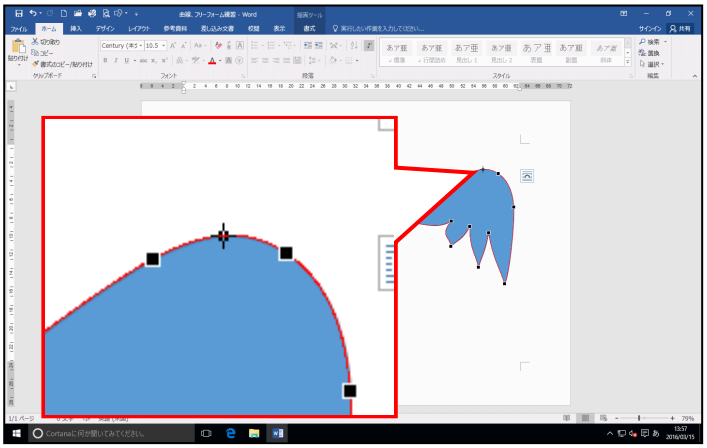


■（頂点）を表示させます。



● ■（頂点）の表示の仕方を忘れた方は、P121 を参照してください。

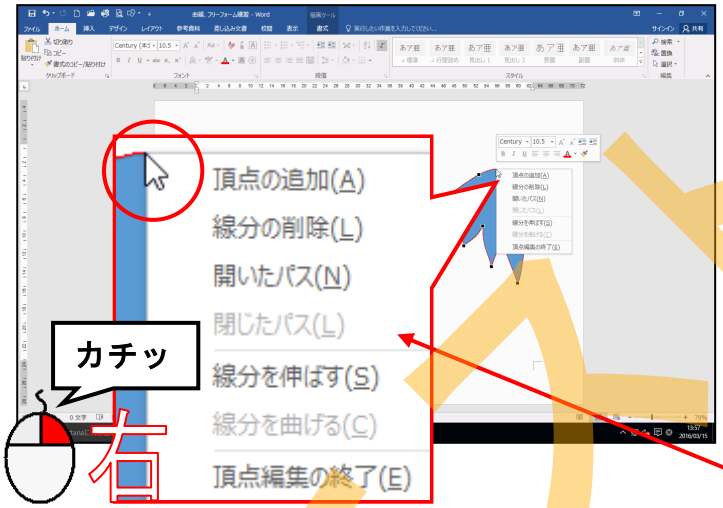
下図の位置の ■（頂点）と ■（頂点）の間の線の上にポイントします。



●線上にマウスポインターを移動すると、✛ の形になります。

● ■（頂点）にポイントすると、次の操作で違う画面が表示されてしまうので注意しましょう。

そのまま線の上で右クリックします。

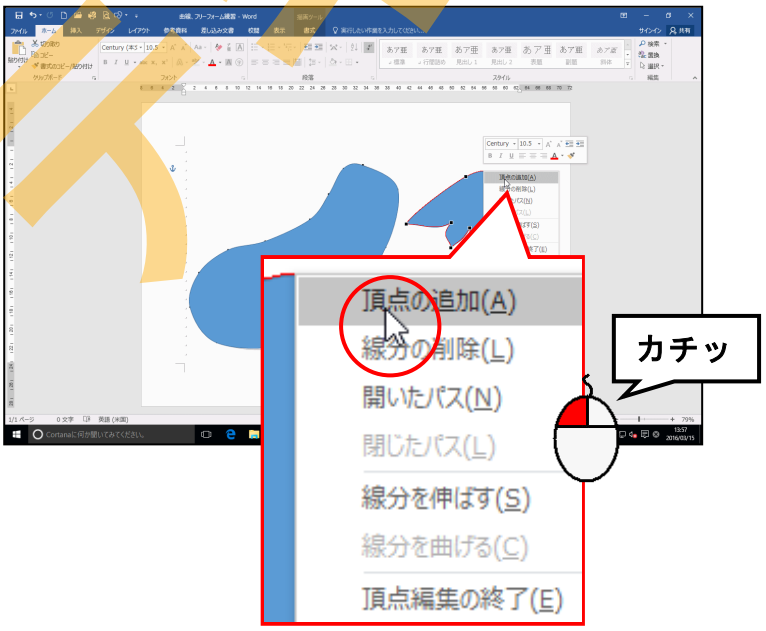


注意！

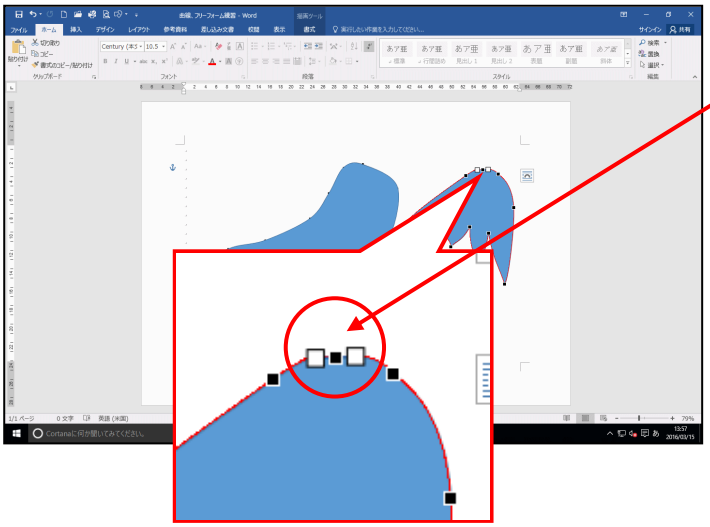
●右クリックしている時間が長かったり、マウスが動いてしまったりすると、その時点で ■（頂点）が追加されるので注意しましょう。誤って ■（頂点）が追加されてしまった場合は、**［元に戻す］ボタン**をクリックして、再度チャレンジしましょう。

●右クリックすると、左のようなショートカットメニューが表示されます。

表示されるショートカットメニューから、［頂点の追加(A)］にポイントし、クリックします。



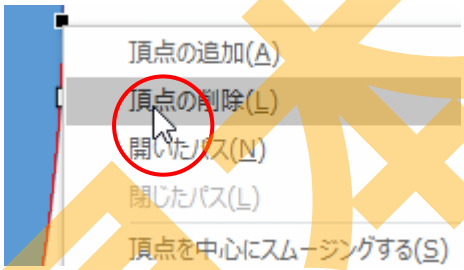
見本



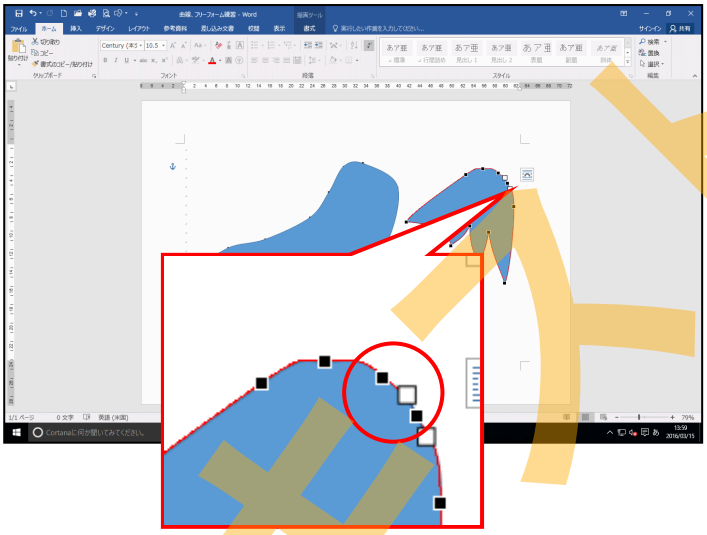
●［**頂点の追加(A)**］をクリックすると、■（頂点）がひとつ増えました。

余裕があれば読んでね

●逆に、頂点を削除する場合は、■（頂点）の上で右クリックし、ショートカットメニューから［**頂点の削除(L)**］をクリックして削除します。

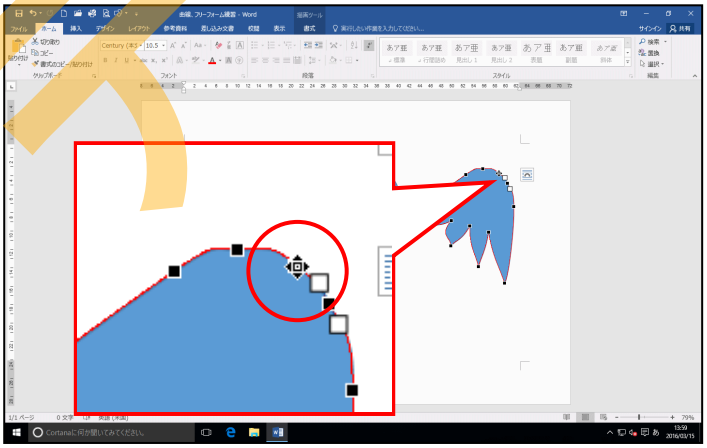


同様にして、下図の位置に ■（頂点）を追加しましょう。

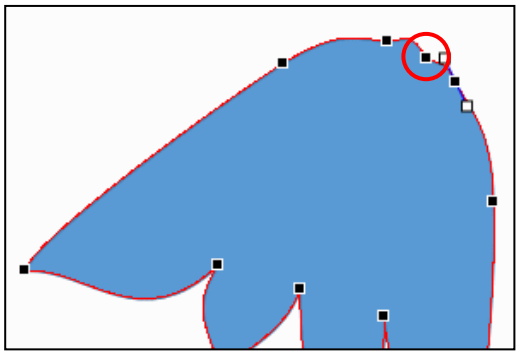


●先ほど追加した左側の ■（頂点）と反対側の右側の ■（頂点）の追加になります。

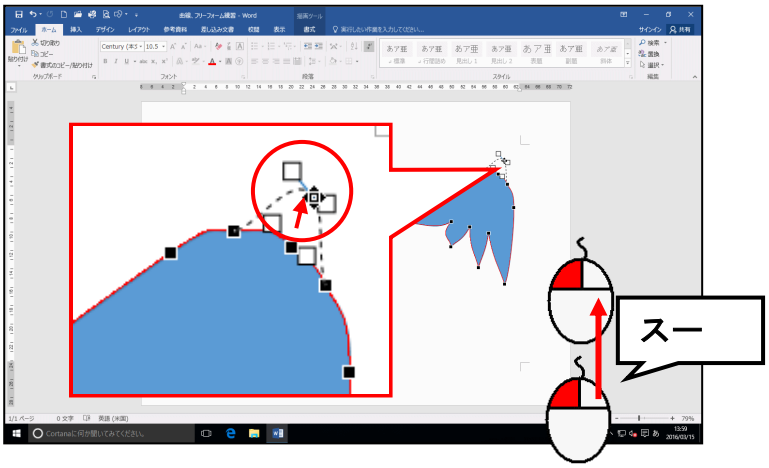
下図の位置の ■（頂点）にポイントします。

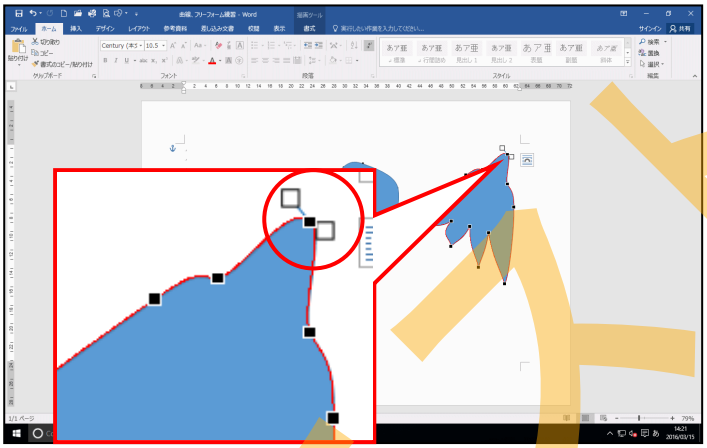


●ポイントする位置は、追加した２つの ■（頂点）の間の ■（頂点）になります。

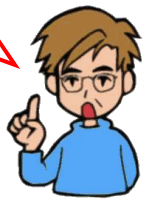


そのまま上方向へドラッグします。



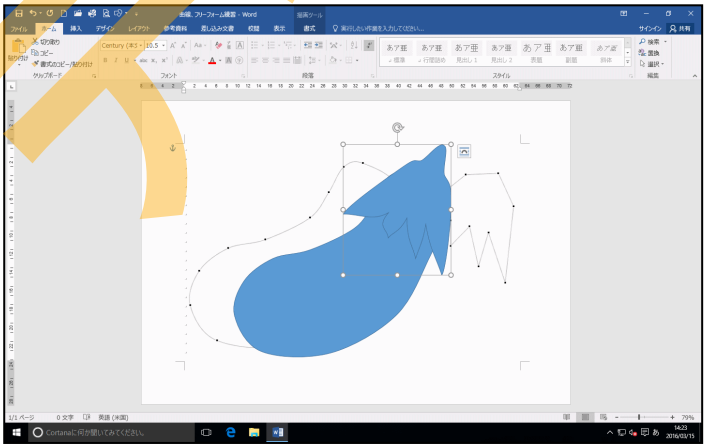


●図形を描いた後でも、頂点を追加して図形を変更することができます。

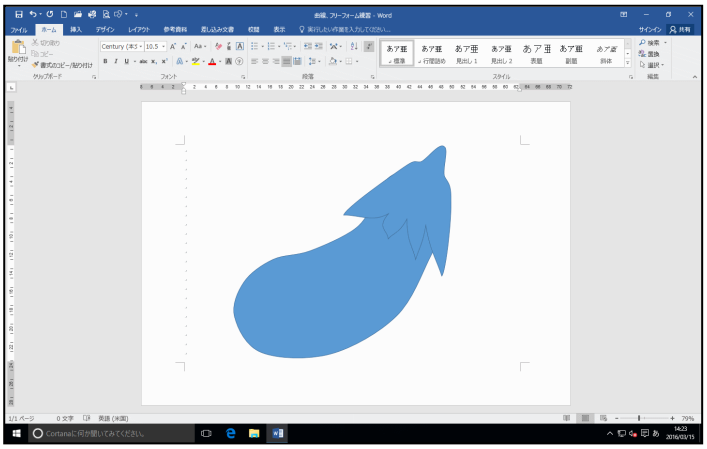


頂点についての補足説明 P 155

なすびの実の部分とへたの部分をくっつけます。



下書きの画像を削除します。



●画像を削除する方法を忘れた方は、**P11 ③ 図形の削除**を参照してください。

●図形の削除の方法も、画像の削除の方法も同様の操作でできます。

「なすび」という名前でワードを USB メモリーに保存しましょう。



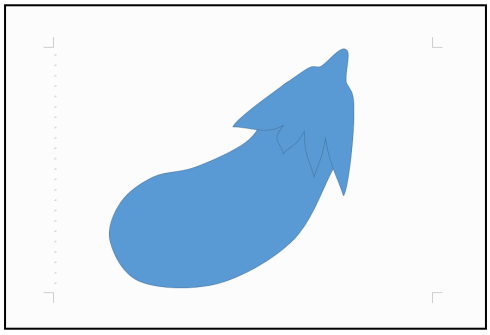
本文テキスト

⑦ なすびに色を塗る（グラデーションの設定）

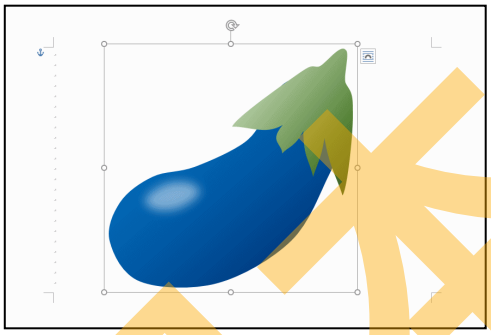
これまで図形にいろんな色を設定してきましたが、図形に設定できる色は、単色（1 色）だけではありません。ここでは描いた図形にグラデーションを設定してみましょう。

◆グラデーションを設定する方法をマスターしましょう。

操作前

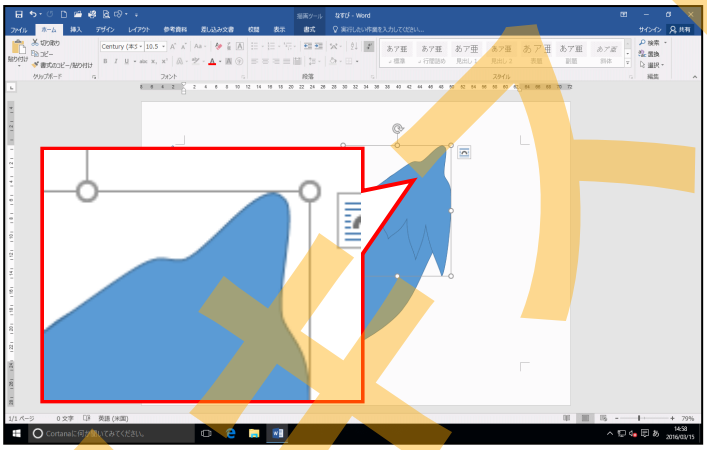


操作後

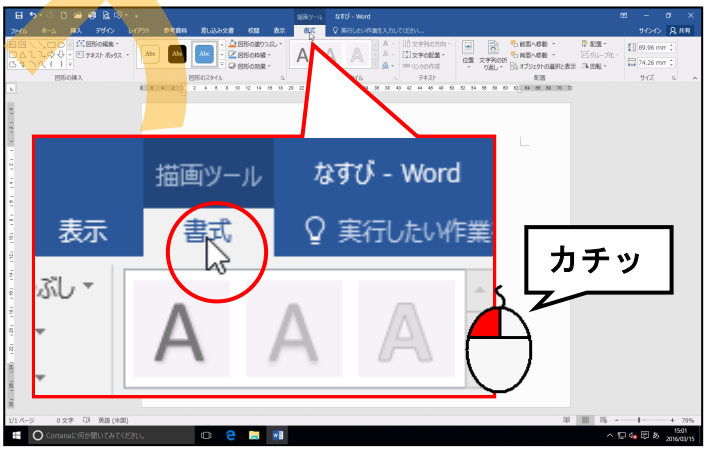




なすびのへたの部分を選択します。

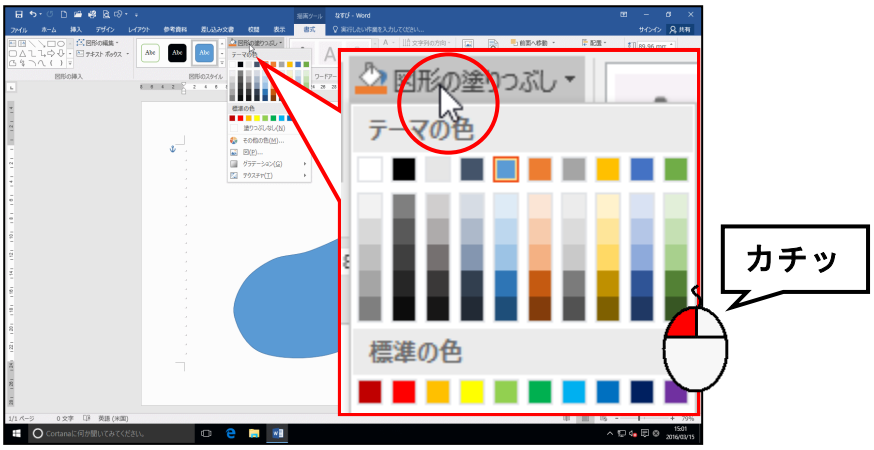


［書式］タブにポイントし、クリックします。

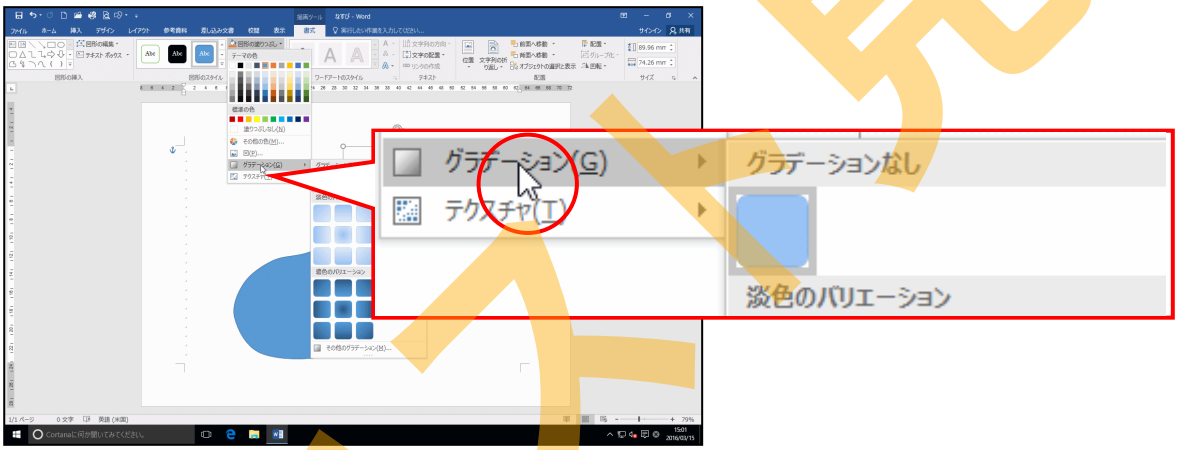


下書き

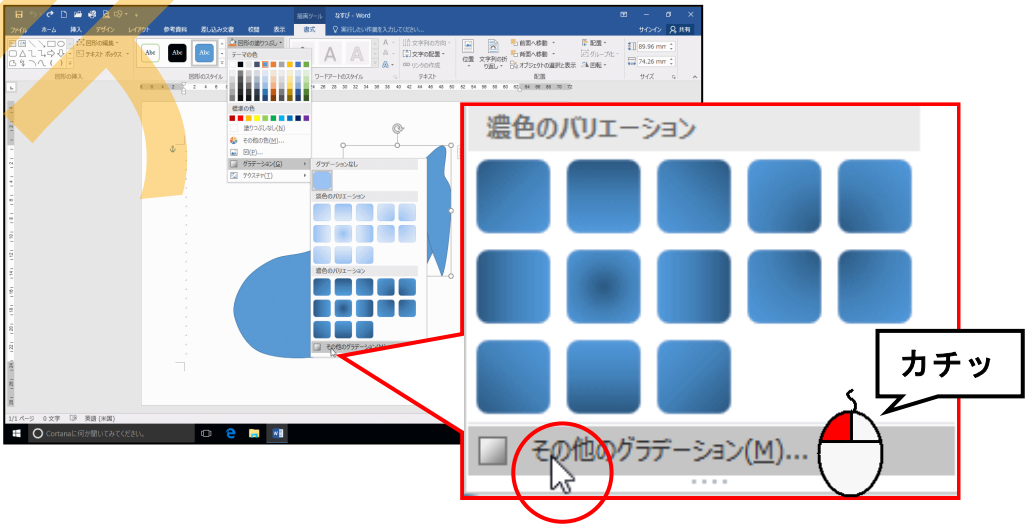
［図形のスタイル］グループにある 図形の塗りつぶし ［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。

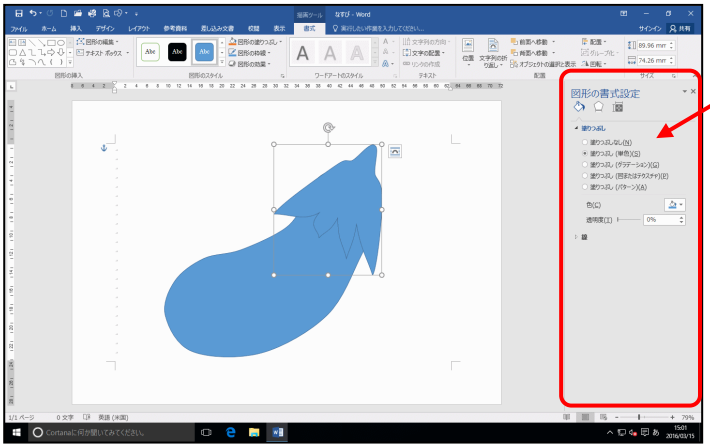


表示された一覧から［グラデーション(G)］にポイントします。



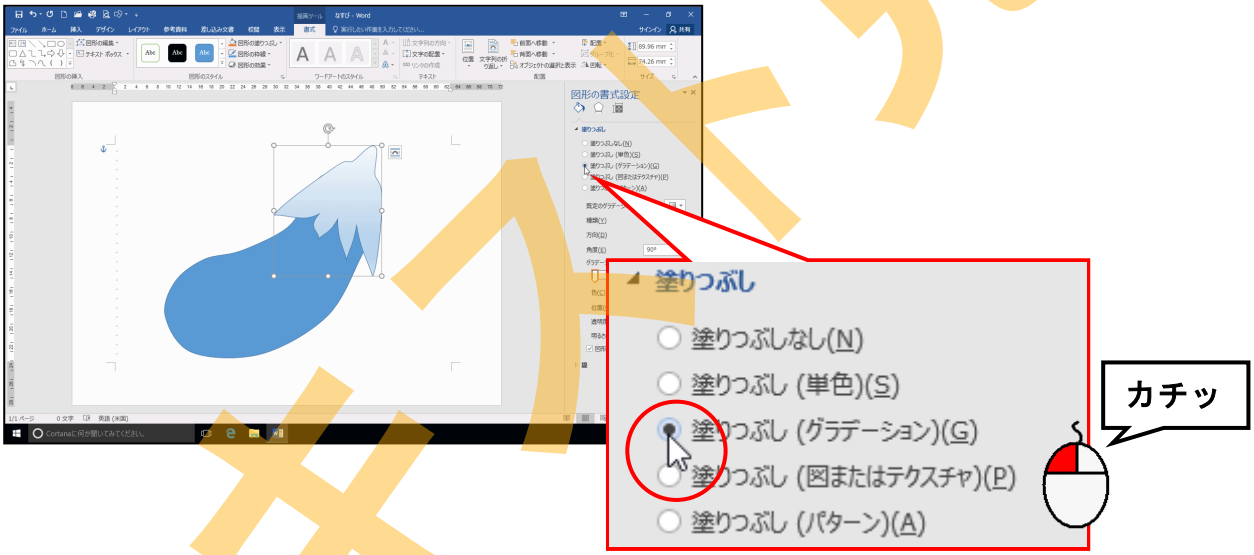
右側に表示された一覧から［その他のグラデーション(M)...］にポイントし、クリックします。



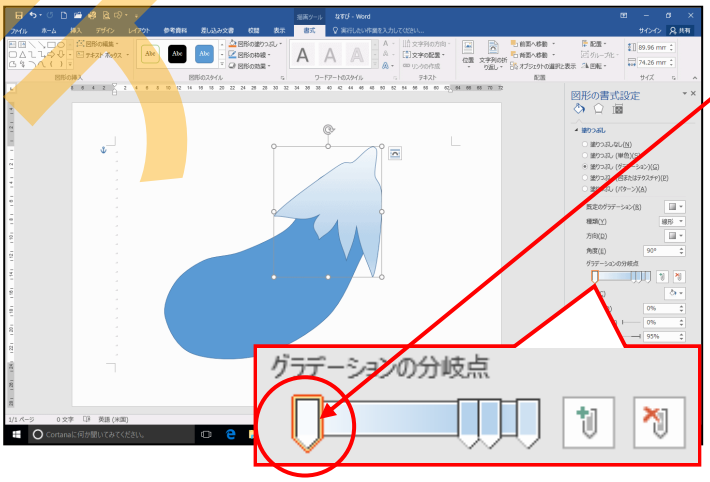


●［その他のグラデーション(M)...］をクリックすると、左のように［**図形の書式設定**］**ウィンドウ**が画面右に表示されます。

［図形の書式設定］ウィンドウで、［塗りつぶし(グラデーション)(G)］のチェックボックスにポイントし、クリックします。



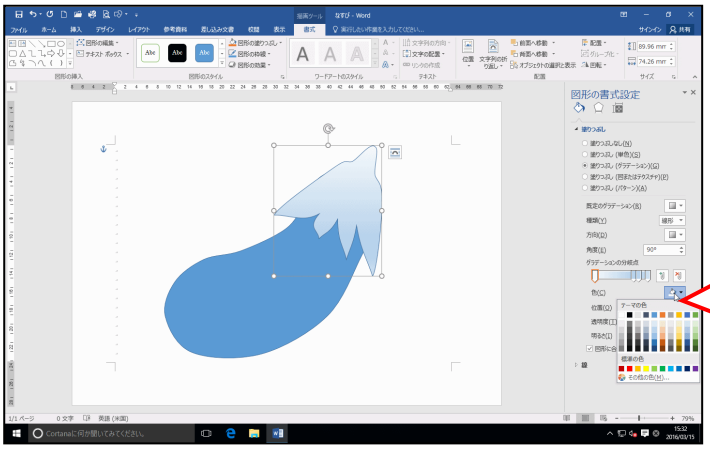
［グラデーションの分岐点］で、一番左の ▯ が選択されていることを確認します。



●一番左の ▯ がオレンジ色の枠線に囲まれていれば、選択されています。選択されていない方は、一番左の ▯ をクリックして選択しておきましょう。

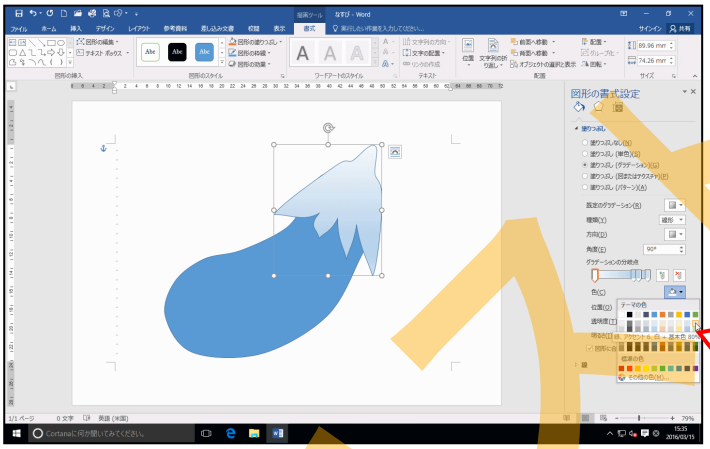
本紙

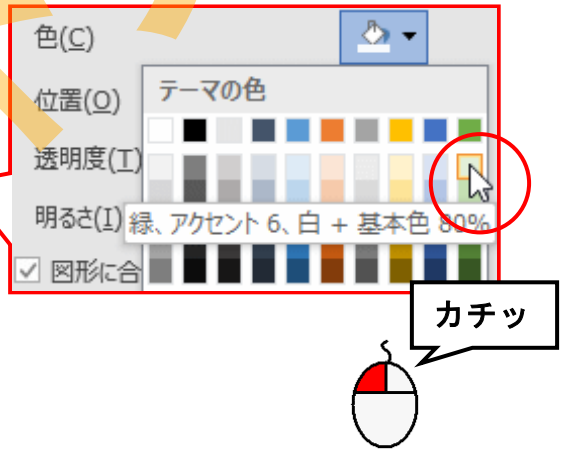
［色(C)］の右にある［色］ボタンにポイントし、クリックします。

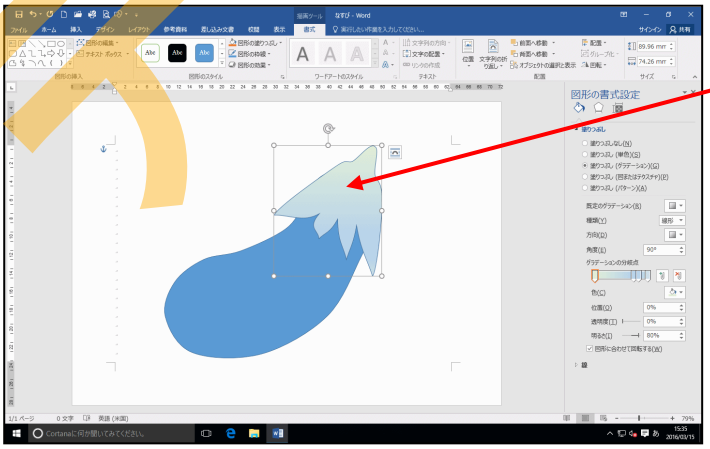




表示された色の一覧から「緑、アクセント 6、白＋基本色 80%」にポイントし、クリックします。

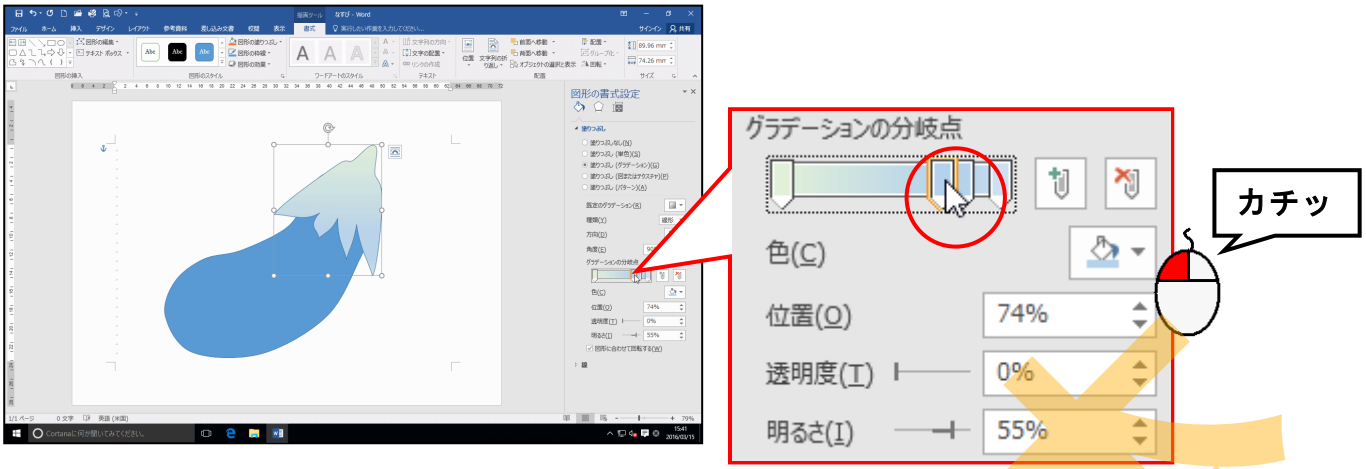




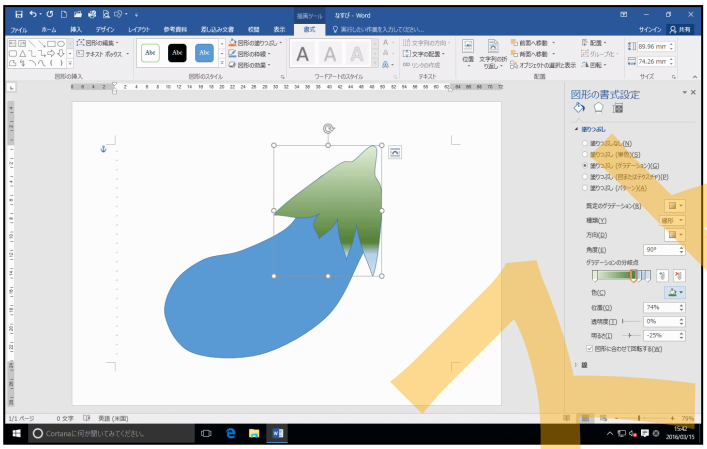


● **「緑、アクセント 6、白＋基本色 80%」**をクリックすると、なすびのへたのグラデーションの色が変わります。

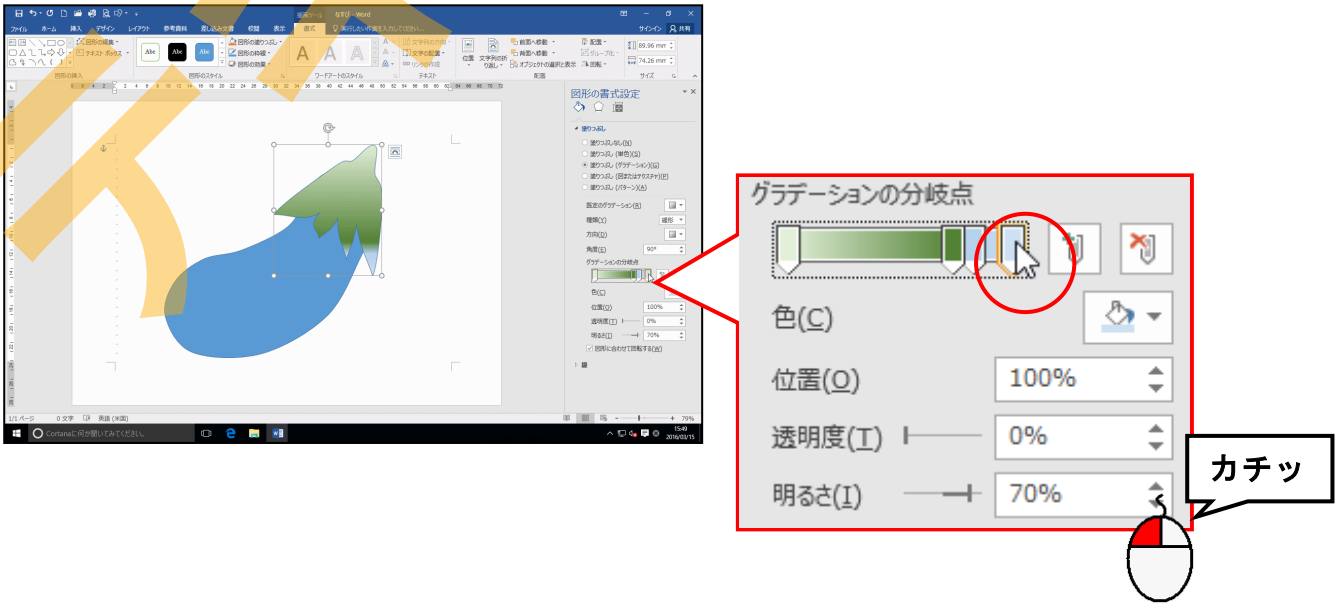
［グラデーションの分岐点］で、左から 2 番目の目盛りにポイントし、クリックします。



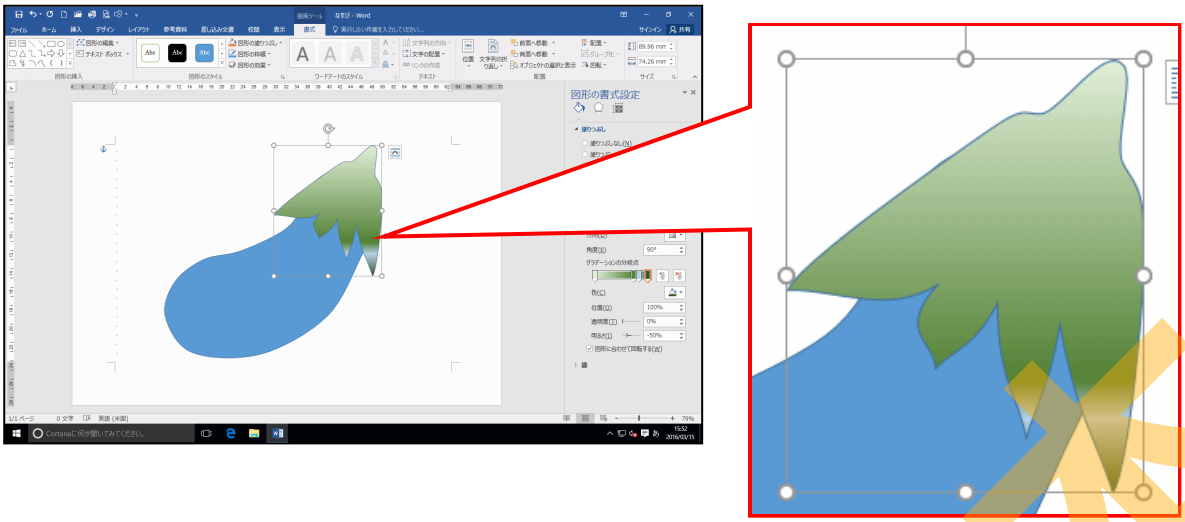
色を「緑、アクセント 6、黒＋基本色 25%」にします。



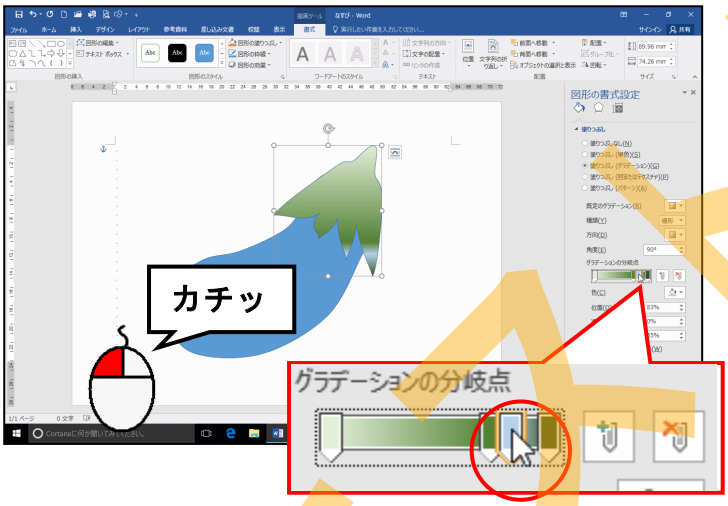
［グラデーションの分岐点］で、一番右側の目盛りにポイントし、クリックします。



色を「緑、アクセント 6、黒＋基本色 50%」にします。



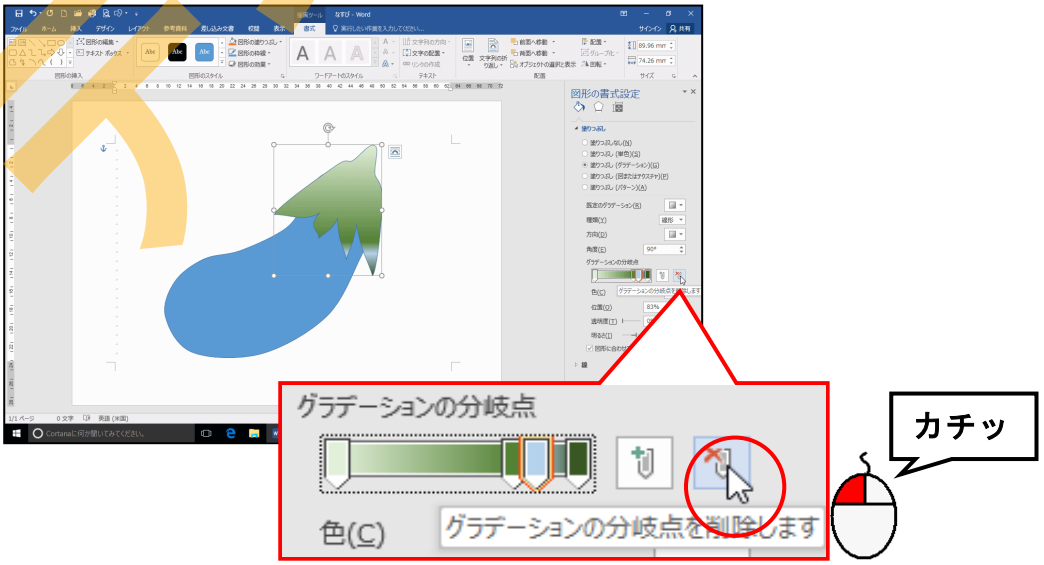
［グラデーションの分岐点］で、右から 2 つ目の目盛りにポイントし、クリックします。

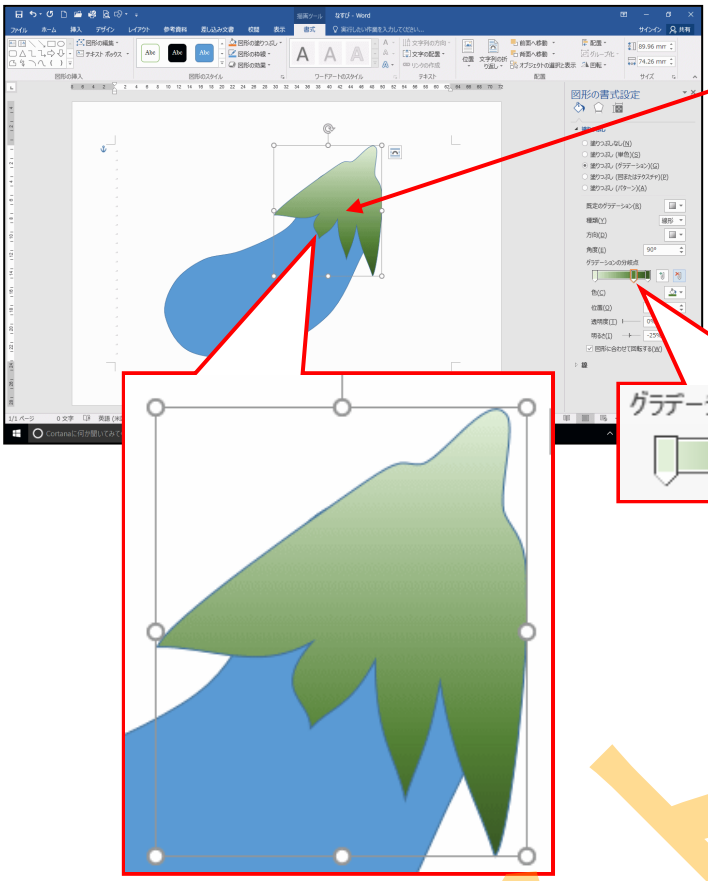


●右から２つ目の目盛りをクリックすると、右から２つ目の目盛りが選択されます。

●現在、**「緑、アクセント 6、黒＋基本色 25%」**と**「緑、アクセント 6、黒＋基本色 50%」**の間に薄い青色が１つ入って、合計４色のグラデーションになっているため、この薄い青色の目盛りを削除します。

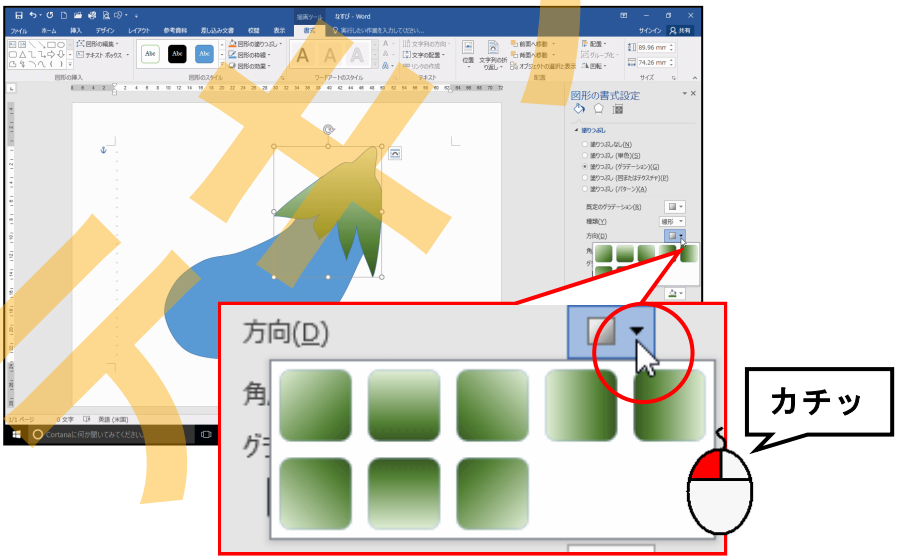
［グラデーションの分岐点］の右にある  **［グラデーションの分岐点を削除します］ボタンにポイントし、クリックします。**



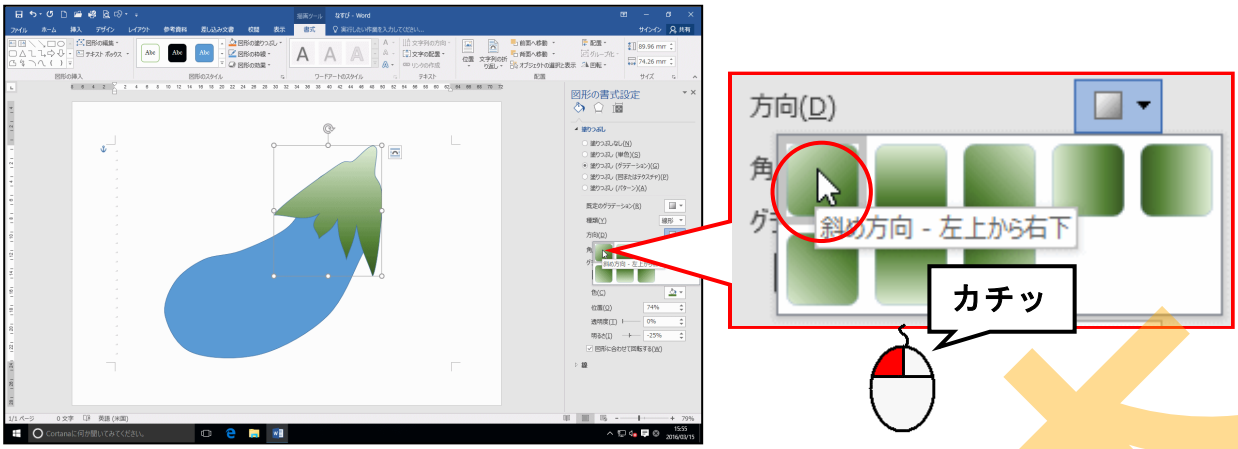


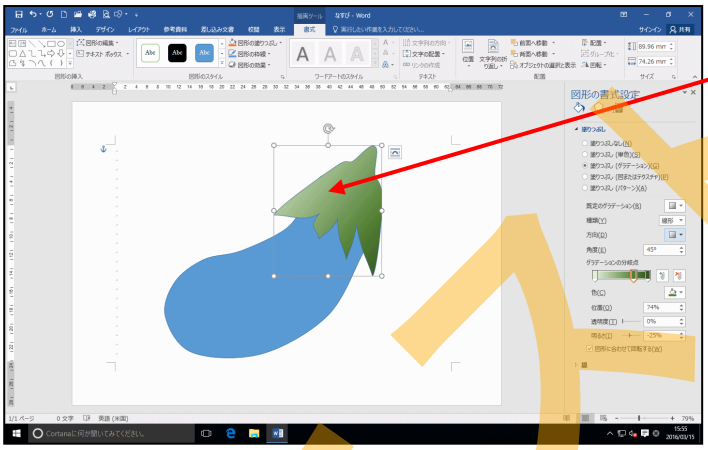
●右から２つ目の目盛りを削除すると、描いたなすびのへたの図形のグラデーションの色が、**［緑、アクセント 6、白＋基本色 80%］**と**「緑、アクセント 6、黒＋基本色 25%」**と**「緑、アクセント 6、黒＋基本色 50%」**の３色に変わります。

［方向(D)］ボックスの右にある［方向］ボタンにポイントし、クリックします。



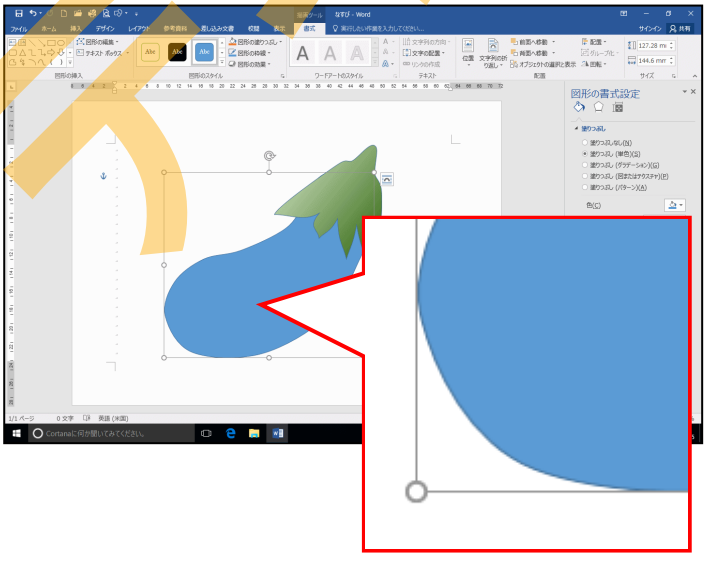
表示された方向の一覧から「斜め方向 － 左上から右下」にポイントし、クリックします。





●グラデーションの方向が変わりました。

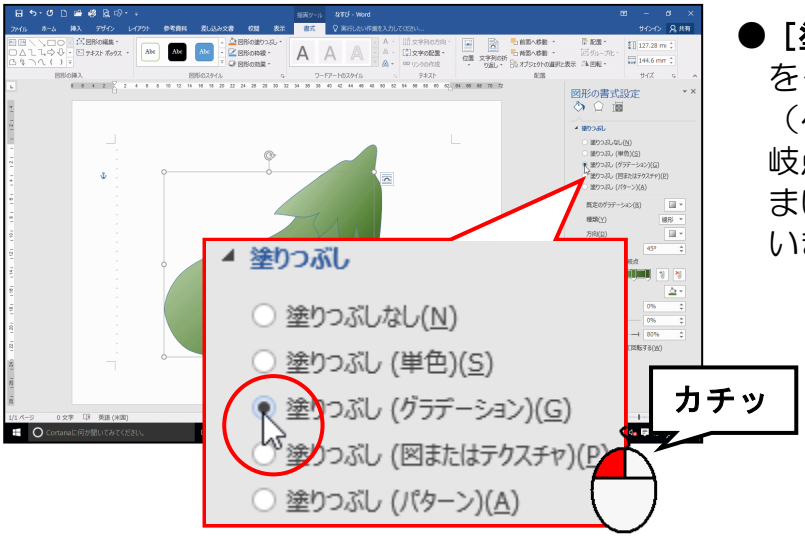
なすびの実の部分を選択します。



●ここからは、実の部分に色を塗っていきます。

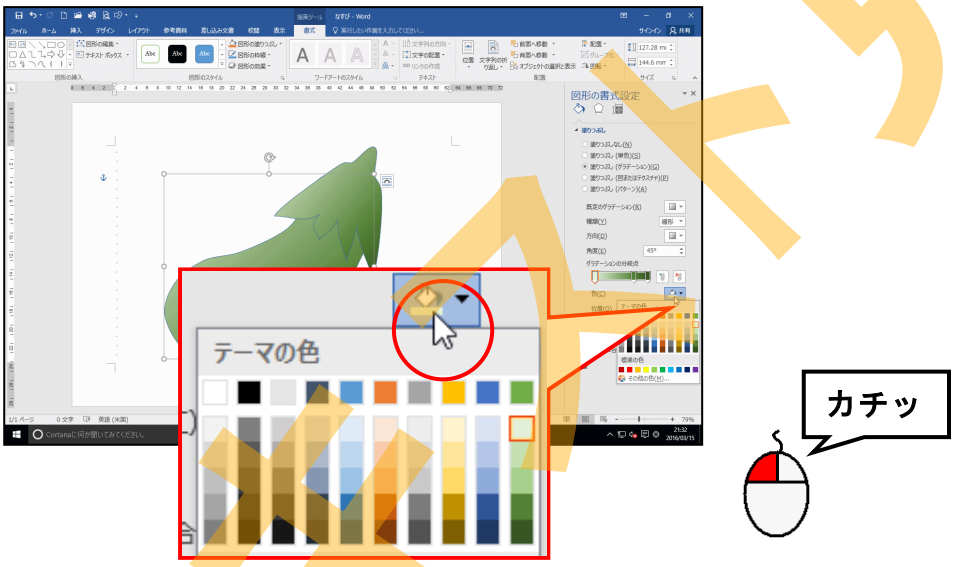
本試験

［図形の書式設定］ウィンドウで、［塗りつぶし(グラデーション)(G)］のチェックボックスにポイントし、クリックします。

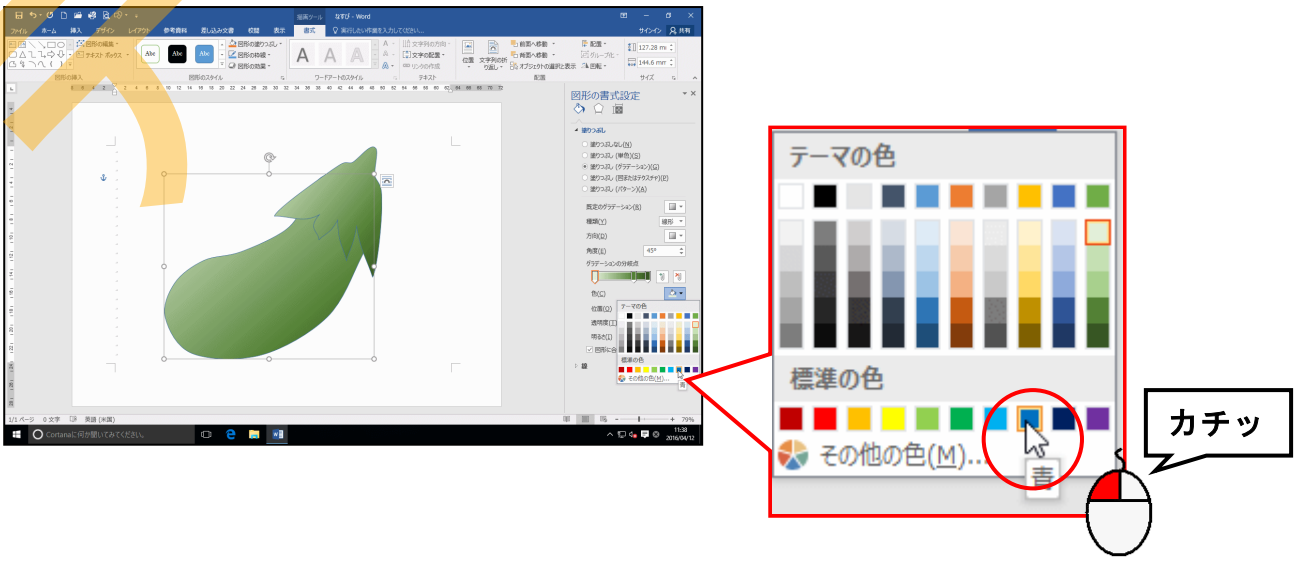


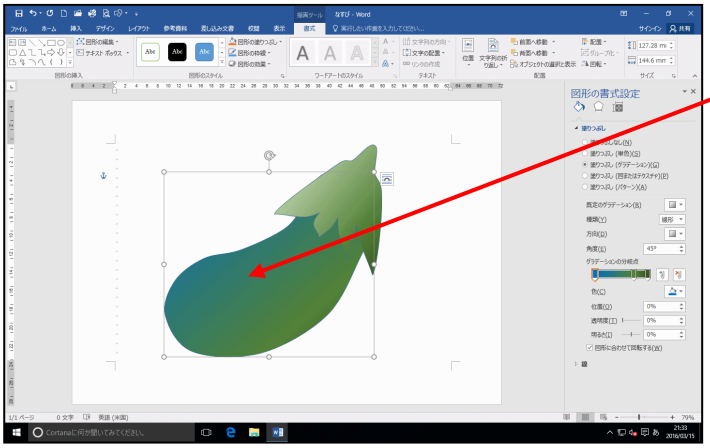
● ［塗りつぶし(グラデーション)(G)］をクリックすると、先ほどの書式（へたの色や、グラデーションの分岐点の数）がそのまま適用されてしまいます。再度、実の色に設定していきましょう。

［グラデーションの分岐点］で一番左の目盛りが選択されていることを確認して、［色(C)］の右にある［色］ボタンにポイントし、クリックします。



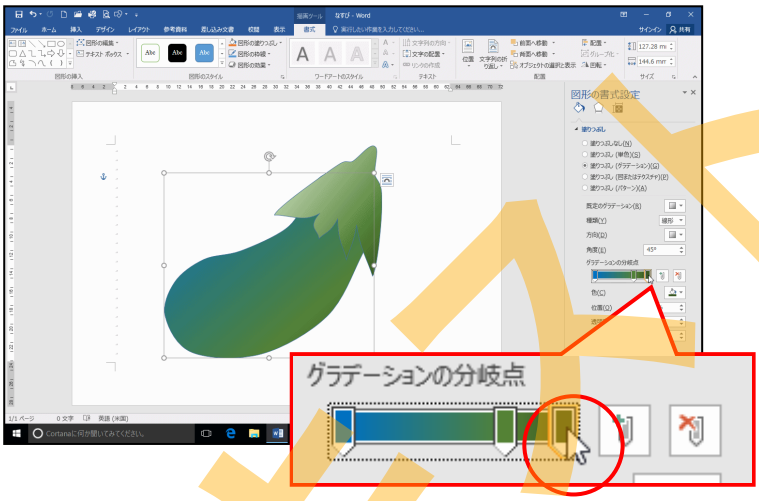
表示された色の一覧から「青」にポイントし、クリックします。

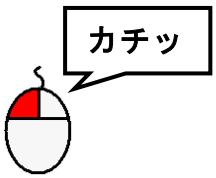




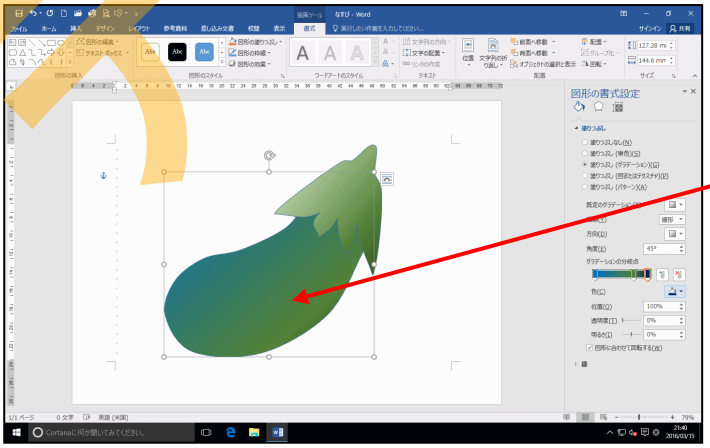
●「青」をクリックすると、なすびの実のグラデーションの色が変わります。

［グラデーションの分岐点］で、一番右側の目盛りにポイントし、クリックします。





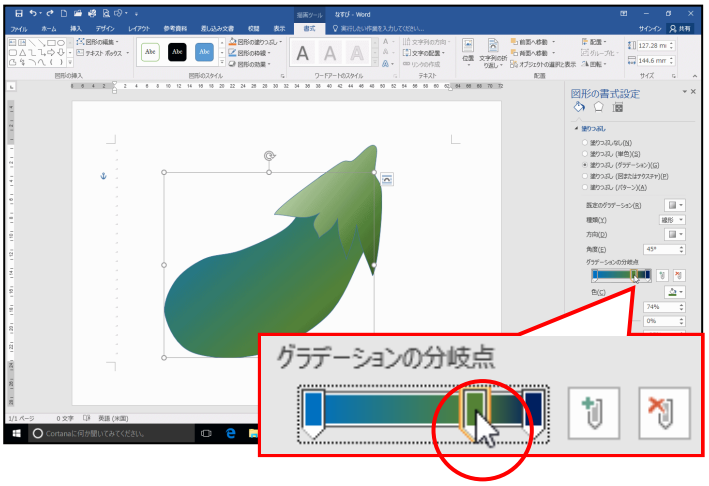
色を「濃い青」にします。



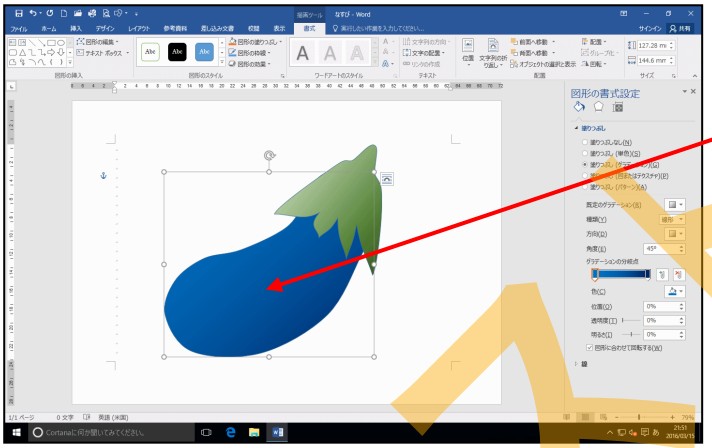
●「濃い青」をクリックすると、なすびの実のグラデーションの色が変わります。

本試験問題

中央の［グラデーションの分岐点］を削除します。

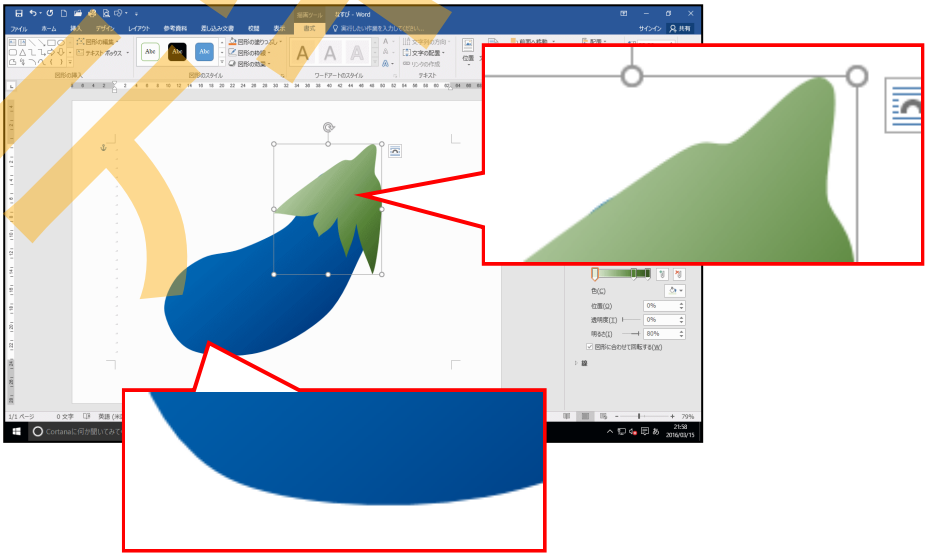


●グラデーションの分岐点の削除の方法を忘れた方は **P146** を参照してください。



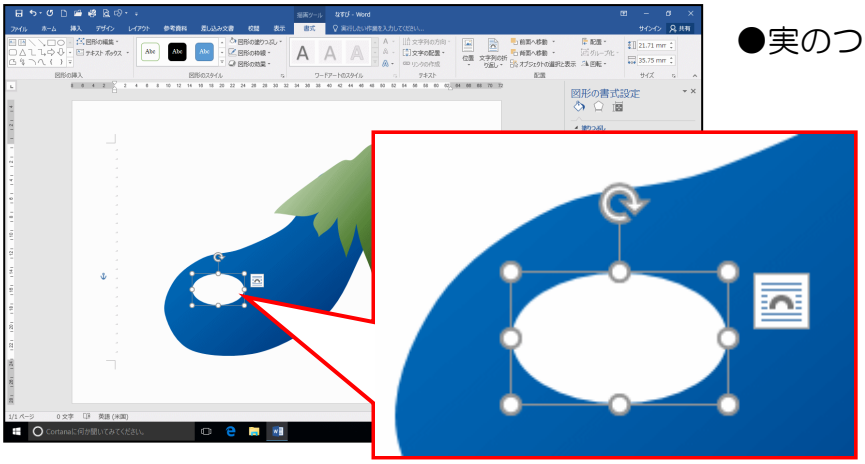
●実の色をグラデーションに設定できました。

なすびのへた、実の枠線の色を、いずれも「線なし」に設定しましょう。



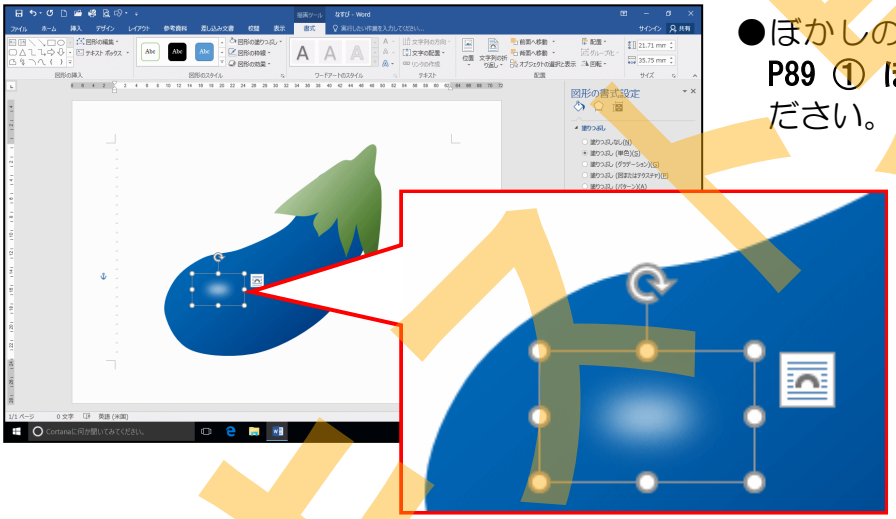
体験版

下図の位置に楕円を１つ描き、図形の塗りつぶしの色を「白、背景 1」に、枠線の色を「線なし」に設定しましょう。



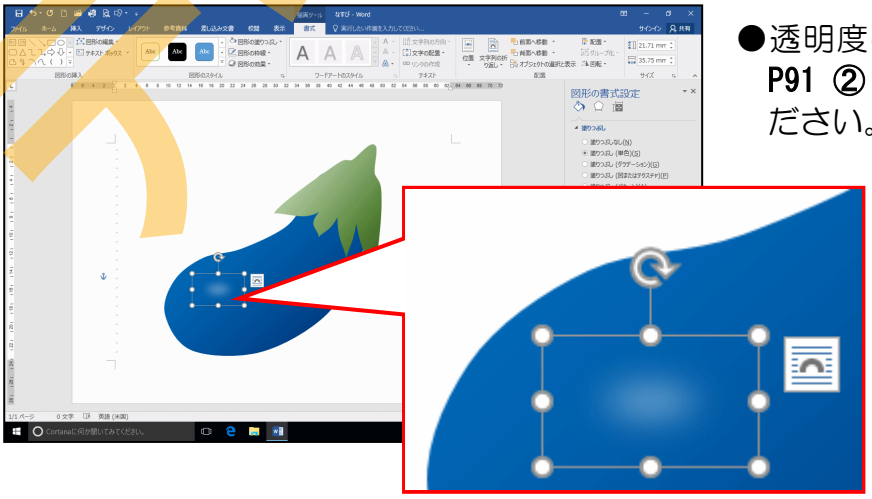
●実のつやになる部分です。

「25 ポイント」のぼかしを設定しましょう。



●ぼかしの設定方法を忘れた方は、**P89 ① ぼかしの設定**を参照してください。

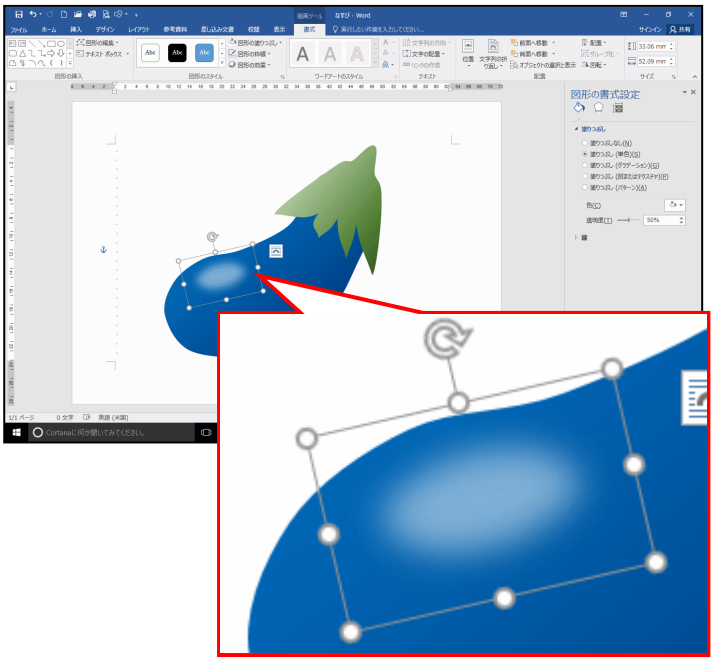
［透明度］を「50%」に設定します。



●透明度の設定方法を忘れた方は、**P91 ② 透明度の設定**を参照してください。

本試験

ぼかしの大きさと配置、回転を下図のように調整してみましょう。

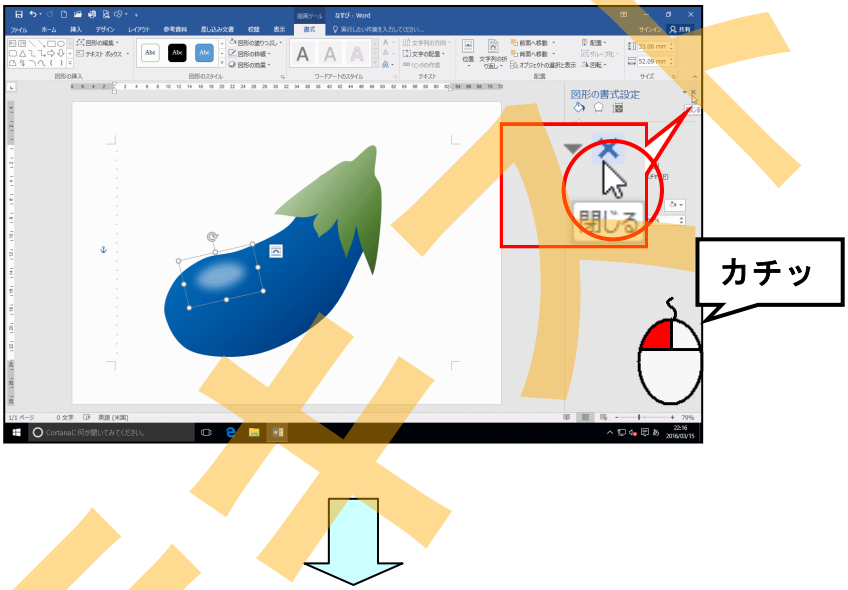


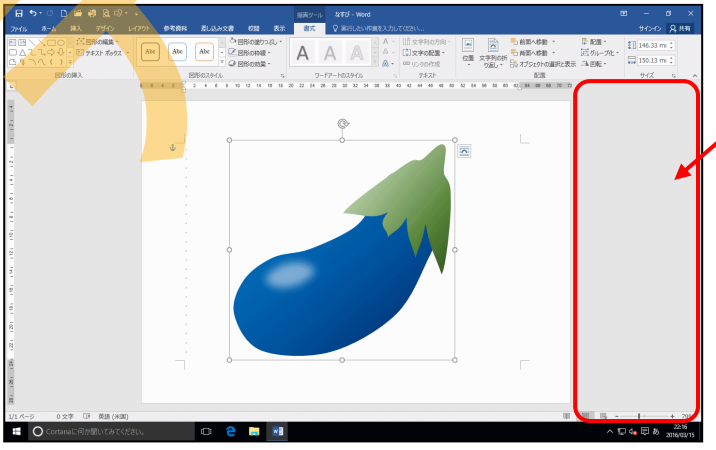
●図形のサイズ変更の方法を忘れた方は、**P25 ⑨ 図形のサイズ変更**を参照してください。

●図形の移動方法を忘れた方は、**P9 ② 図形の移動**を参照してください。

● （**回転ハンドル**）を使って図形を回転する方法を忘れた方は、**P84**を参照してください。

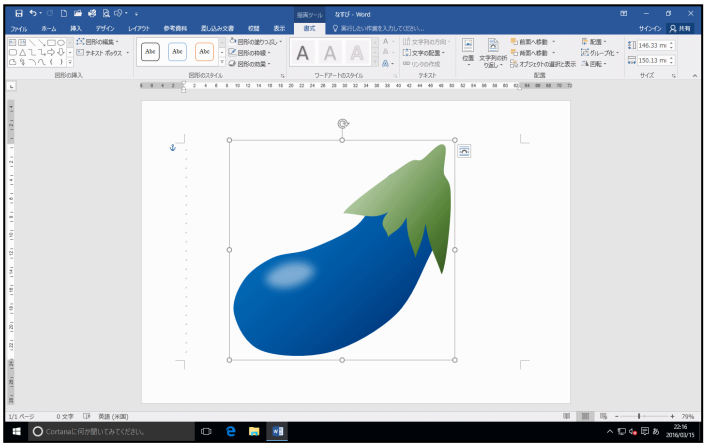
［図形の書式設定］ウィンドウの右側にある × ［閉じる］ボタンにポイントし、クリックします。





●**［図形の書式設定］ウィンドウ**が閉じられました。

なすびをグループ化しておきましょう。



●図形のグループ化を忘れた方は、**P34 ⑫ 図形のグループ化**を参照してください。

「なすび」を上書き保存し、画像を PNG 形式で、「なすび（画像）」という名前で USB メモリーに保存しましょう。

ご参考までに

■ **パターンで塗りつぶす**

パターンとは、**「模様」**や**「柄」**のことで、図形の色をパターンで塗りつぶす際に設定することができます。図形をパターンで塗りつぶすには、P141 から P142 の操作で**［図形の書式設定］ウィンドウ**を表示させ、その中の**［塗りつぶし（パターン）(A)］**をクリックし、表示されたパターンの種類から選択します。



☆☆ここまでくれば練習問題 4 で理解度を試してください。☆☆

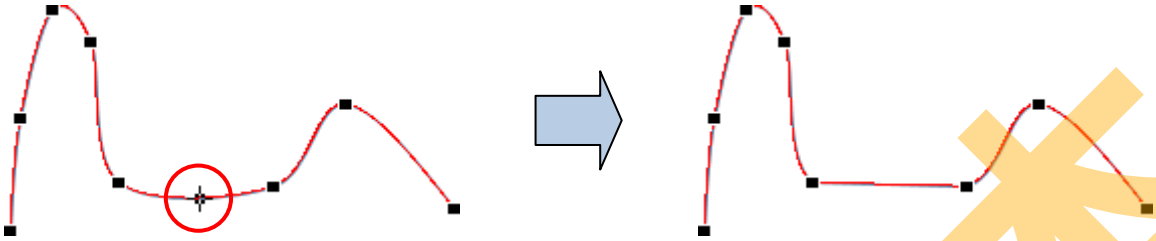
本試験

●補足説明（その３）P155

●P139　頂点についての補足説明

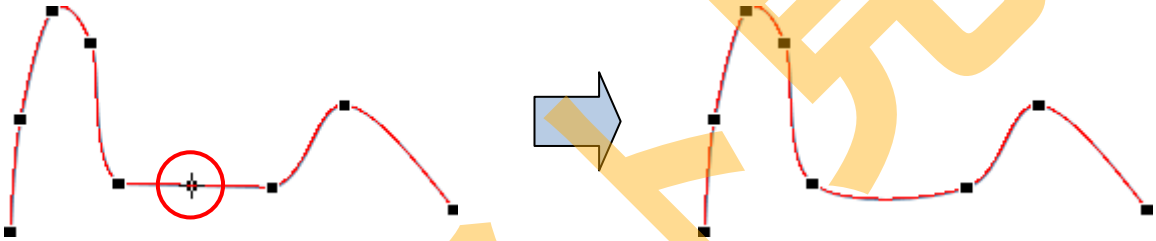
線分を伸ばす

曲線で描いた一部分を直線にしたい時は、頂点と頂点の間の線の上で右クリックし、表示されるショートカットメニューから［**線分を伸ばす(S)**］をクリックします。



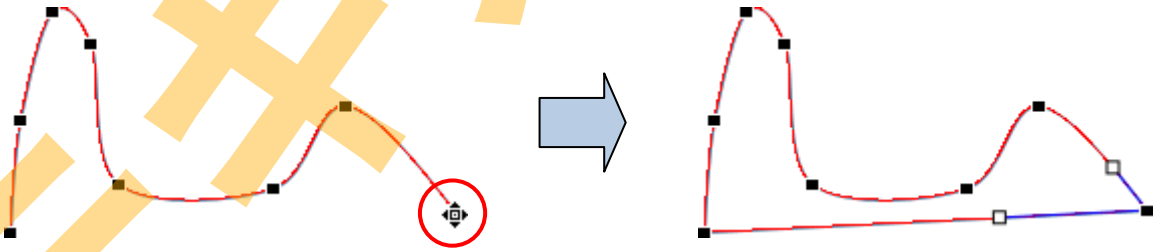
線分を曲げる

逆に直線部分を曲げたい場合は、頂点と頂点の間の線の上で右クリックし、表示されるショートカットメニューから［**線分を曲げる(C)**］をクリックします。



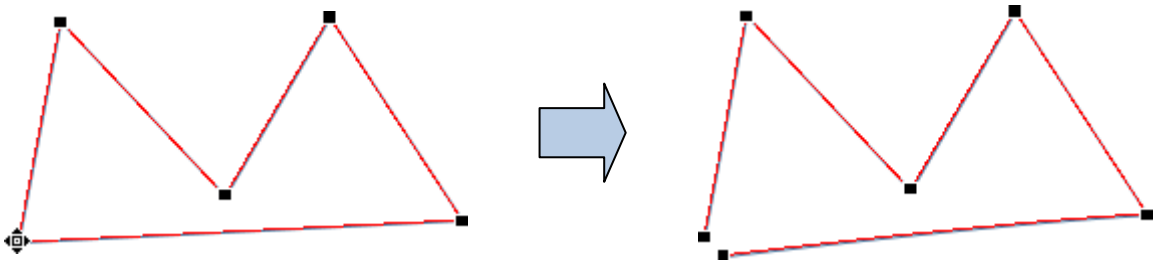
閉じたパス

線で描いたものを図形に変えたい場合に、頂点で右クリックし、［**閉じたパス(L)**］をクリックすると、線の端と端が直線で結ばれます。



開いたパス

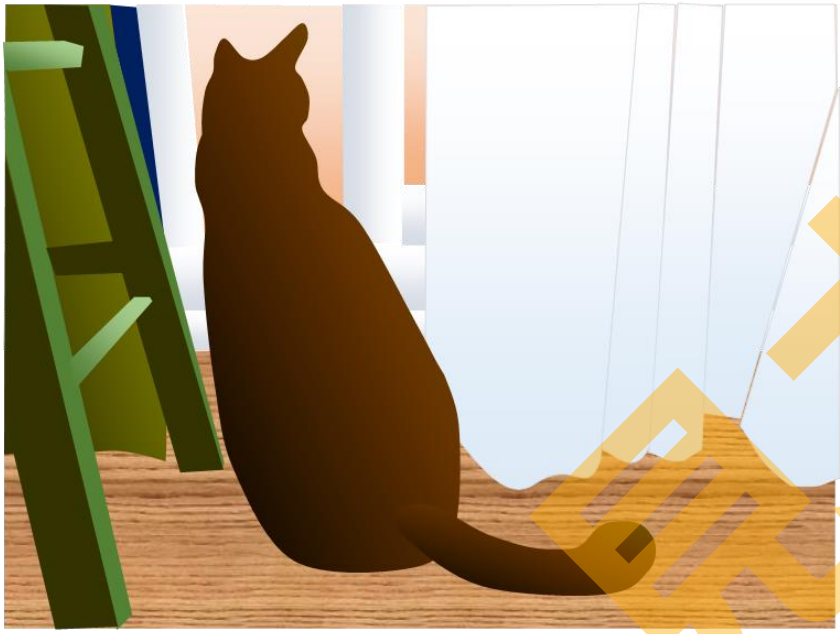
逆に、始点と終点がくっついた状態の図形を右クリックし、［**開いたパス(N)**］をクリックすると、始点と終点が離れます。



下書き見本

６．写真を元に描く

【猫 完成例】



写真を元にってどうやって描くの？

タ ケ さ ん「先生、写真を元に描くって、そんなことできるのかね～？」

くじら先生「できますよ。写真をそのまま描こうとするから難しいと思うのです。
細かい部分は自分なりに描いて構わないのですよ。」



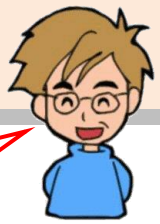
ウ メ さ ん「先生からそう言われたら心が軽くなったわ～。」

タ ケ さ ん「わしもじゃ～。では、わしは去年北海道に行った時の大雪山
のええ写真があるんじゃ。あれを描いてみたいの～。」

ウ メ さ ん「私もお庭のお花を撮った写真がたくさんあるから、それを元に
絵を描きたいわ～。」

くじら先生「タケさんもウメさんも、今から楽しみですね。
それでは、ハリキッテやっていきましょう！！」





ここでは、今まで習ったことの総まとめとして**「猫」**を描いていきます。
難しそうに思えますが、このテキストどおりに操作していただければ、大丈夫です。心配せずにこのテキストどおりに操作しましょう。

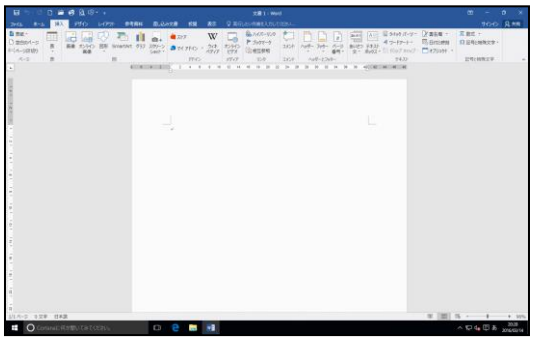
非売品見本

（１）絵を描くための写真の挿入

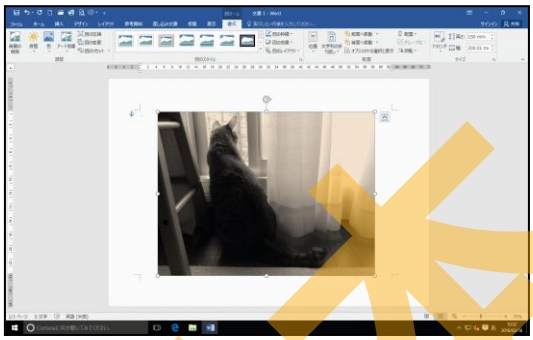
ここでは、写真を元に絵を描いていくので、まず描きたい写真を挿入します。

◆絵を描くための写真を挿入する方法をマスターしましょう。

操作前

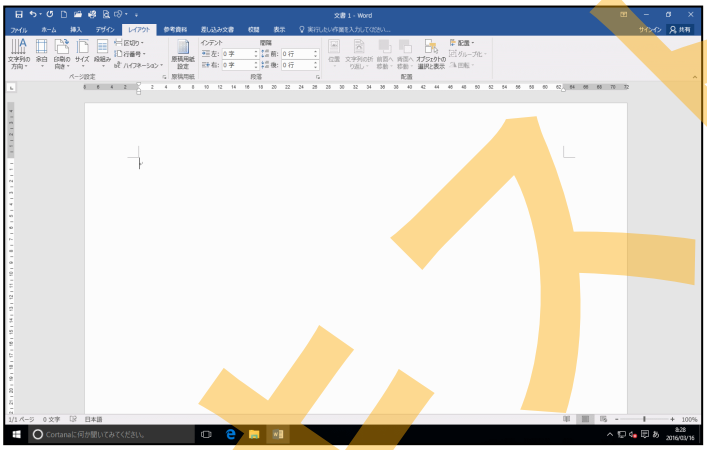


操作後



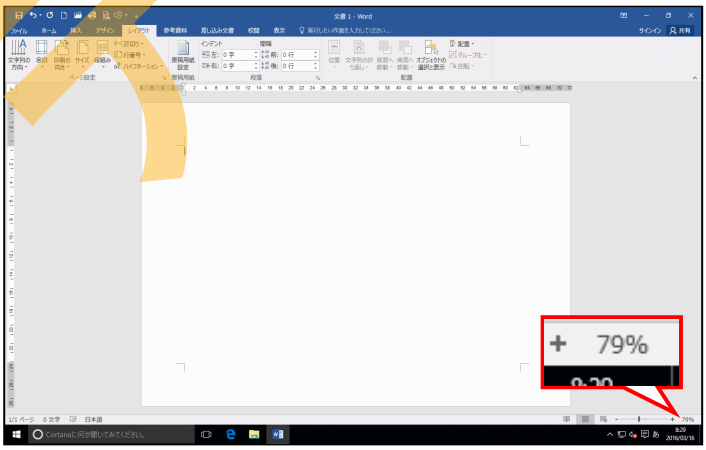


ワードを起動し、用紙サイズを A4 横向きで設定します。



●用紙を横向きにするには、**［レイアウト］タブ**の**［ページ設定］グループ**にある **［印刷の向き］ボタン**をクリックし、**「横」**を選択します。

画面表示を、「ページ全体を表示」に指定します。



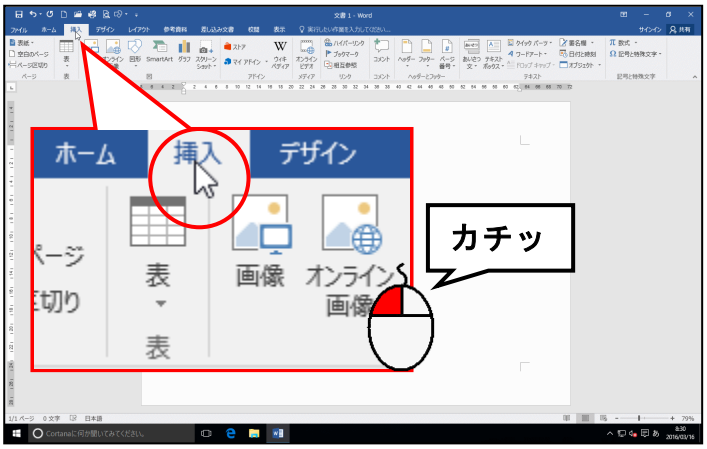
●画面表示の設定方法を忘れた方は、**P77 ① 画面の設定**を参照してください。

●左の図では、表示倍率が 79% になっていますが、お使いのパソコンによって表示倍率は異なります。

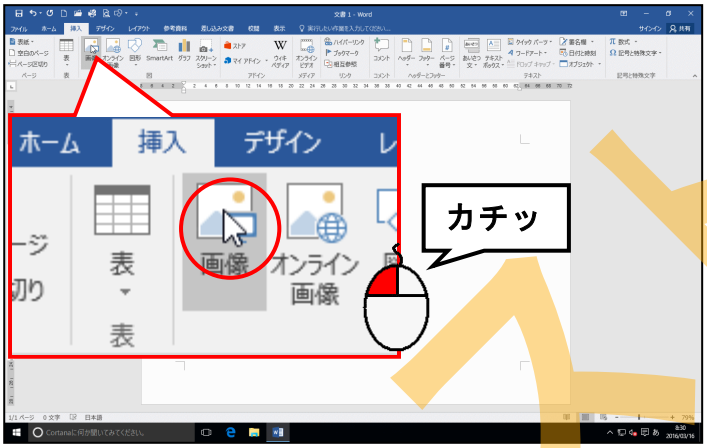


体験版

［挿入］タブにポイントし、クリックします。



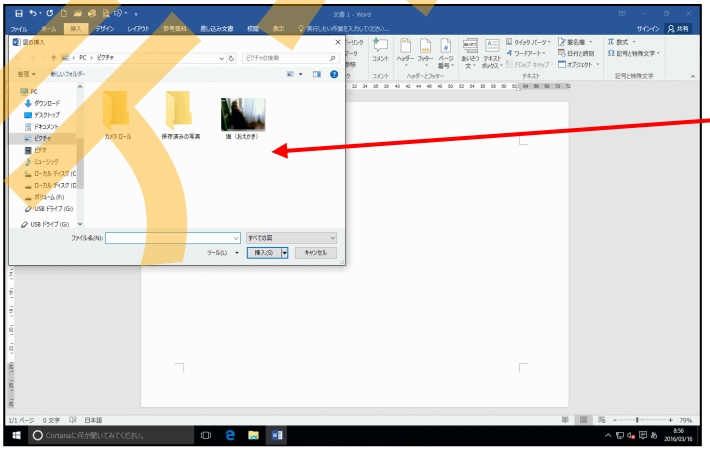
［図］グループにある［画像］ボタンにポイントし、クリックします。



●リボンが表示されていない方は、**P229 リボンの表示オプションの変更**を参照してください。
（下記のような状態の方）

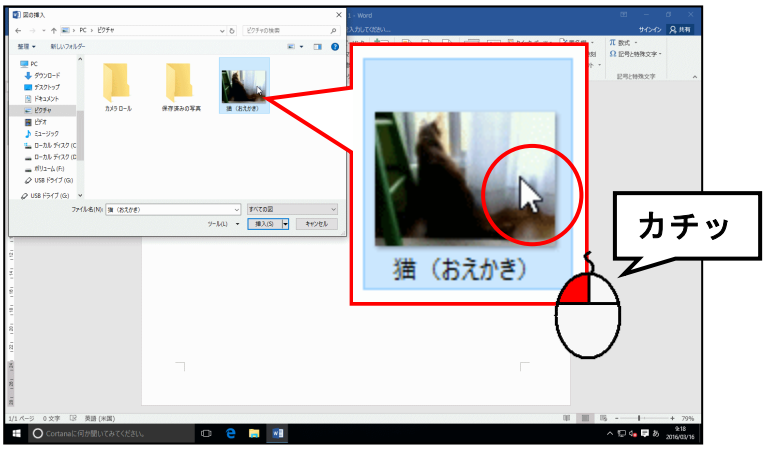




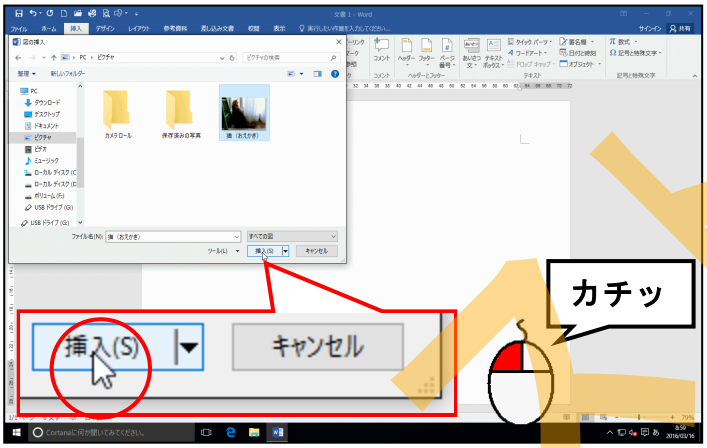


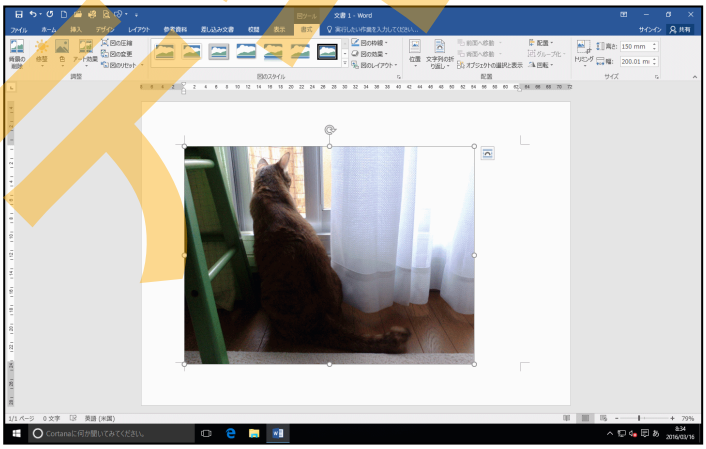
● **［画像］ボタン**をクリックすると、左のように**［図の挿入］ダイアログボックス**が表示されます。

「ピクチャ」内の「猫（おえかき）」にポイントし、クリックします。



［挿入(S)］ボタンにポイントし、クリックします。

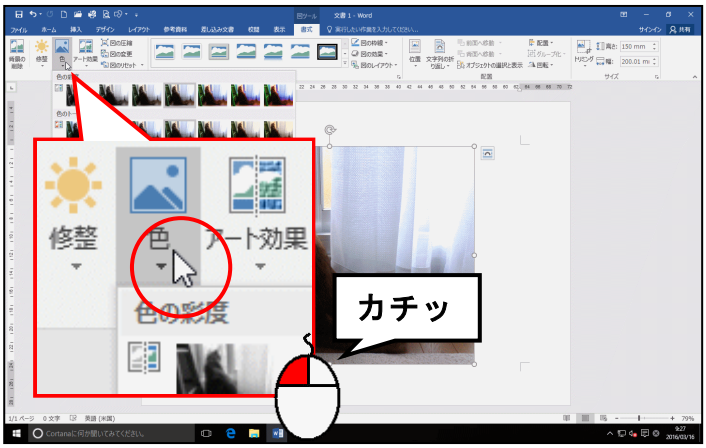




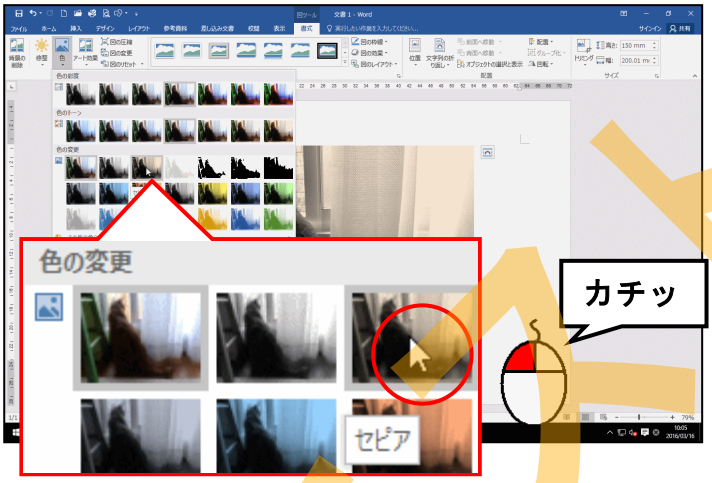
● **［挿入(S)］ボタン**をクリックすると、**「猫（おえかき）」**という写真が挿入されます。

本試験

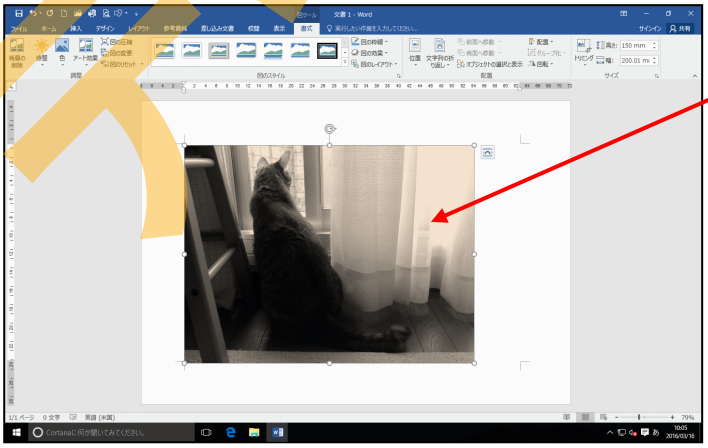
［調整］グループにある［色］ボタンにポイントし、クリックします。



表示された一覧から「色の変更」の中の「セピア」にポイントし、クリックします。



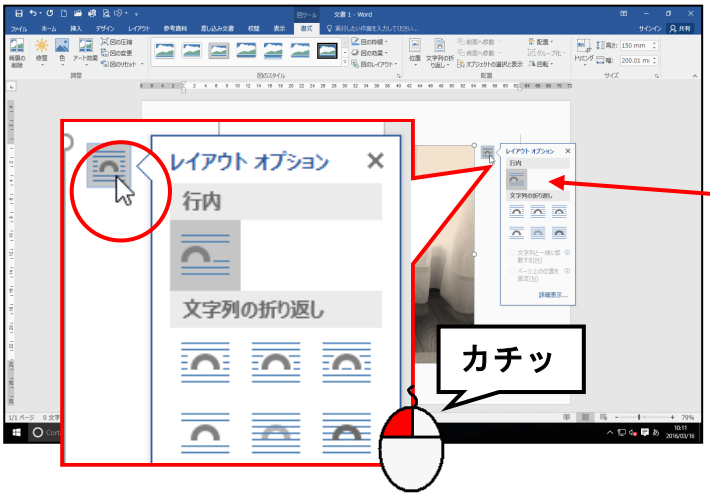
色調の種類一覧 P225



●「**セピア**」をクリックすると、茶色っぽい色に変わります

本紙不使用

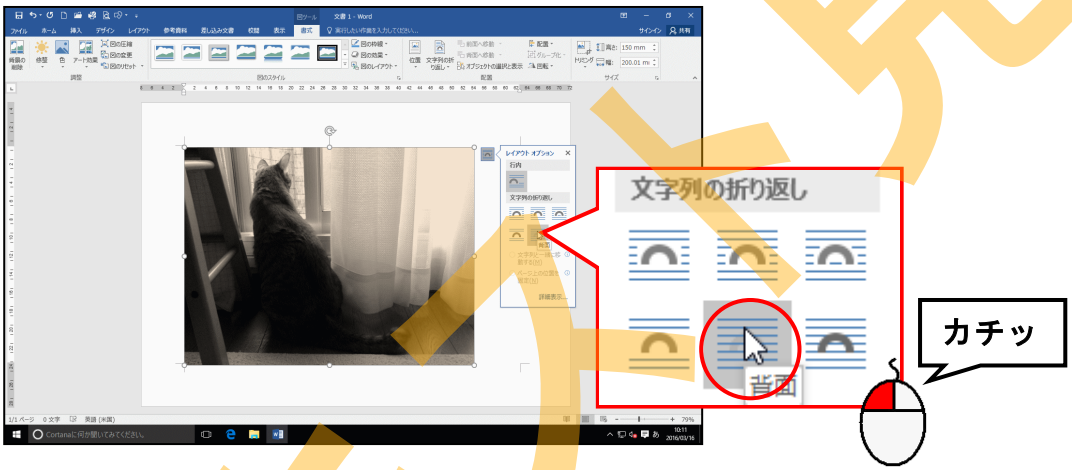
「猫」の画像の右上にある［レイアウト オプション］ボタンにポイントし、クリックします。

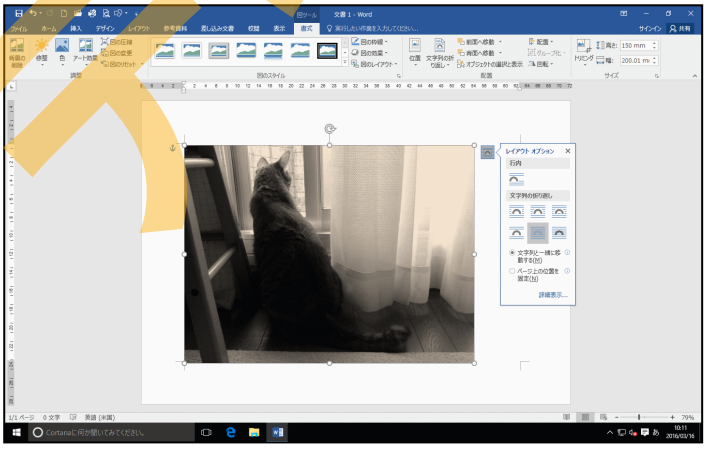


●文字列の折り返しを背面にするための操作になります。

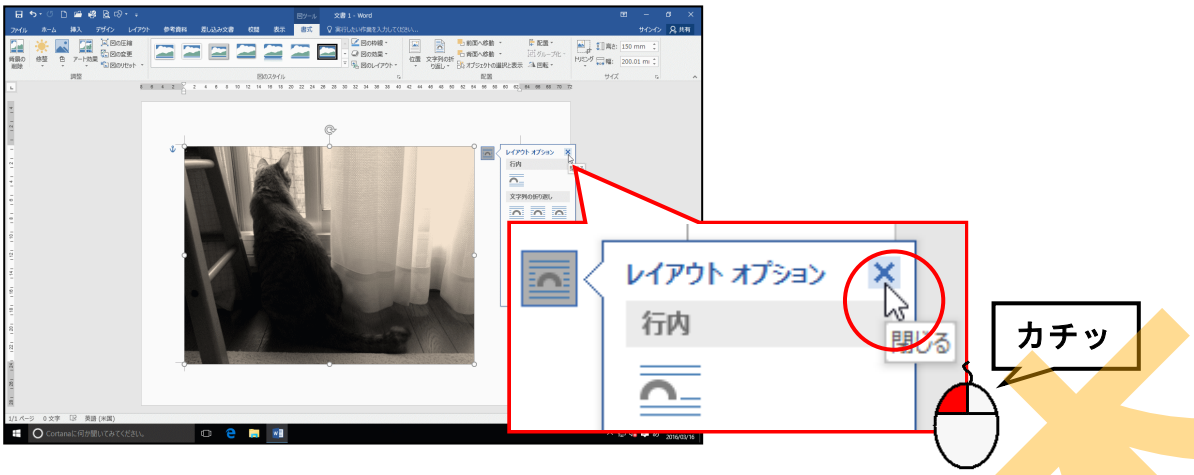
● ［レイアウト オプション］ボタンをクリックすると、左のようにレイアウトの種類が表示されます。

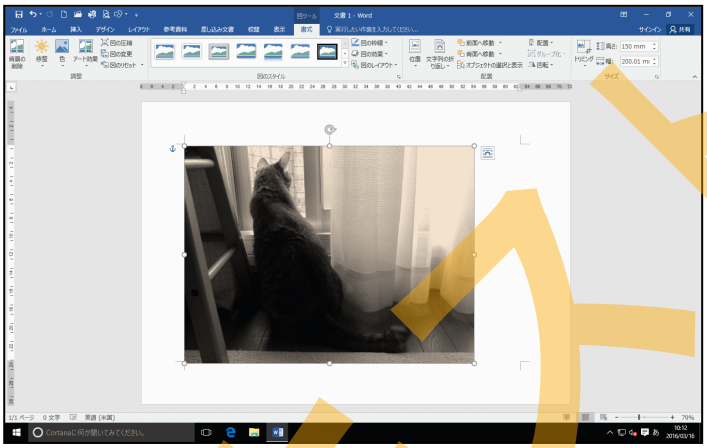
表示された折り返しの中から「背面」にポイントし、クリックします。



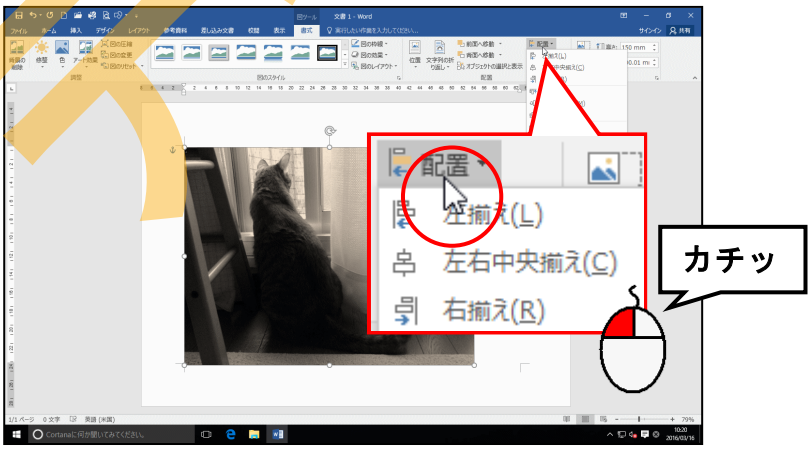


［レイアウト オプション］の ×［閉じる］ボタンにポイントし、クリックします。



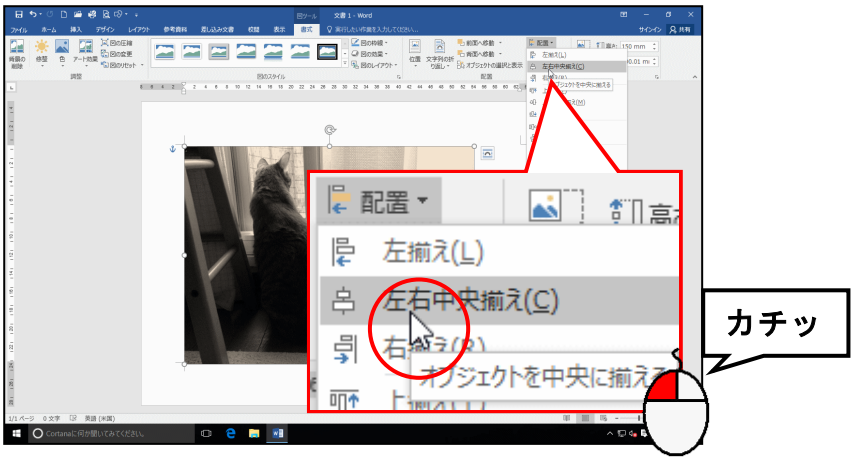


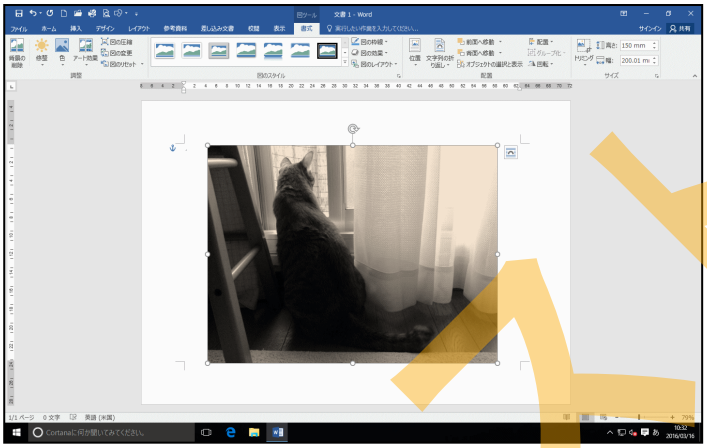
［配置］グループの［配置］ボタンにポイントし、クリックします。



不許複製

表示された一覧から［左右中央揃え(C)］にポイントし、クリックします。





●写真が左右の真ん中に配置されました。

本見本です

（２）写真をもとに描きやすくするための準備（図形の既定値の変更）

図形を描くと、既定では図形の塗りつぶしの色は**「青、アクセント 1」**になります。今から写真を曲線やフリーフォームの線を使ってふちをとりながら絵を描いていきますが、そのままだと青く塗りつぶされてしまうので、写真が隠れて描きにくくなります。
そこで、図形の塗りつぶしの既定を透明に設定する方法を説明します。

◆図形の既定を「塗りつぶしなし」にする方法をマスターしましょう。

操作前

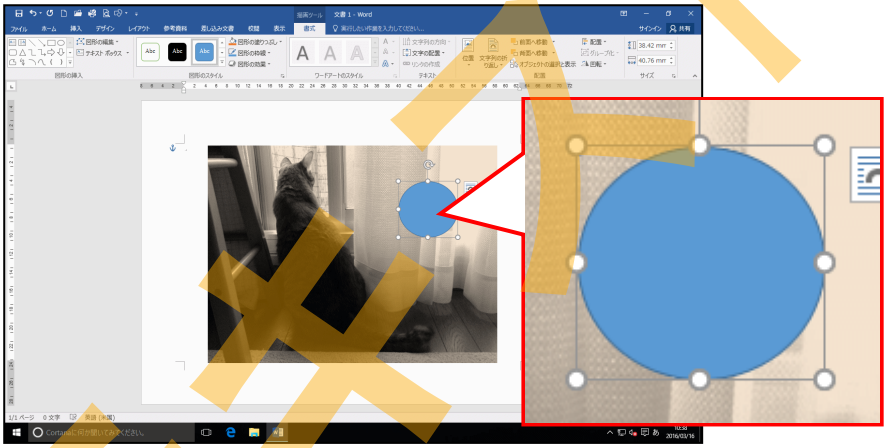


操作後

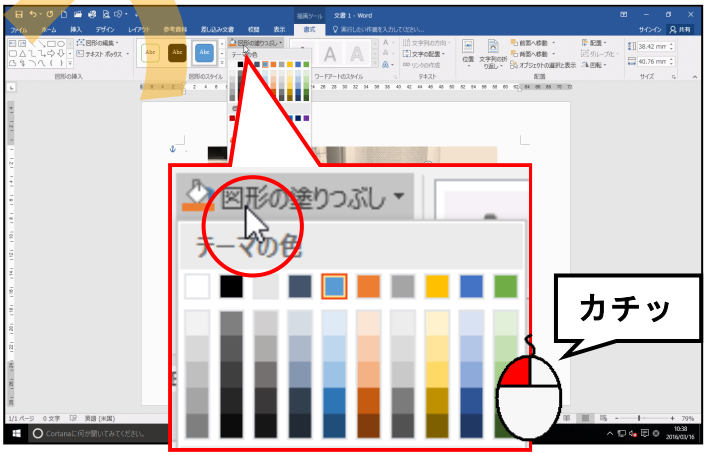




図形の［楕円］を描きます。

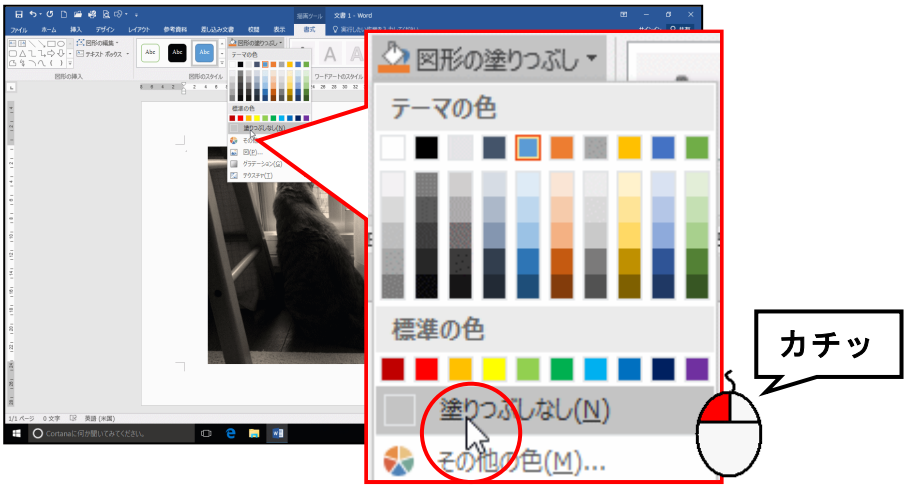


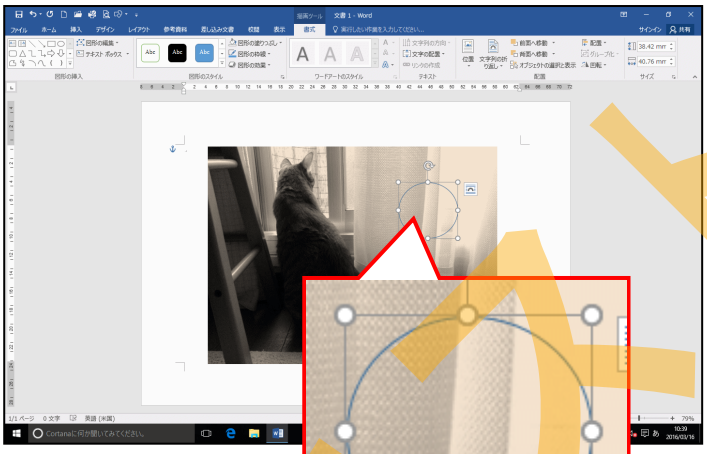
［図形のスタイル］グループにある 図形の塗りつぶし ［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。



見本イメージ

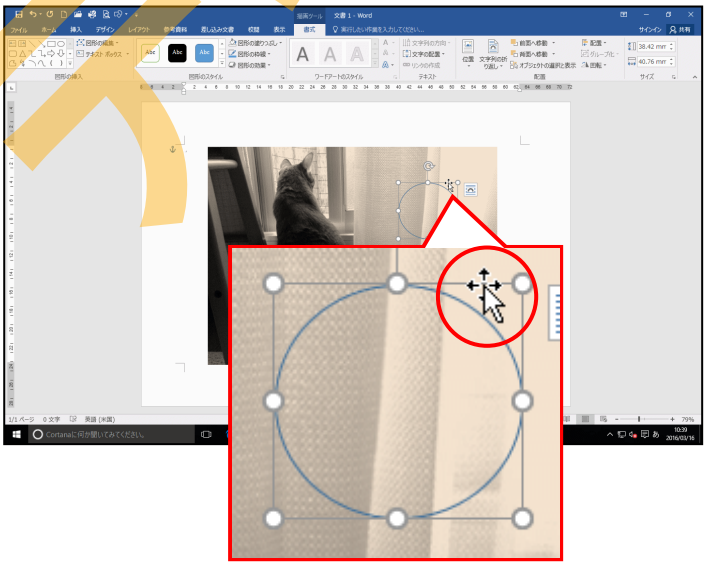
［塗りつぶしなし(N)］にポイントし、クリックします。





●［塗りつぶしなし(N)］をクリックすると、楕円の塗りつぶしが透明になります。

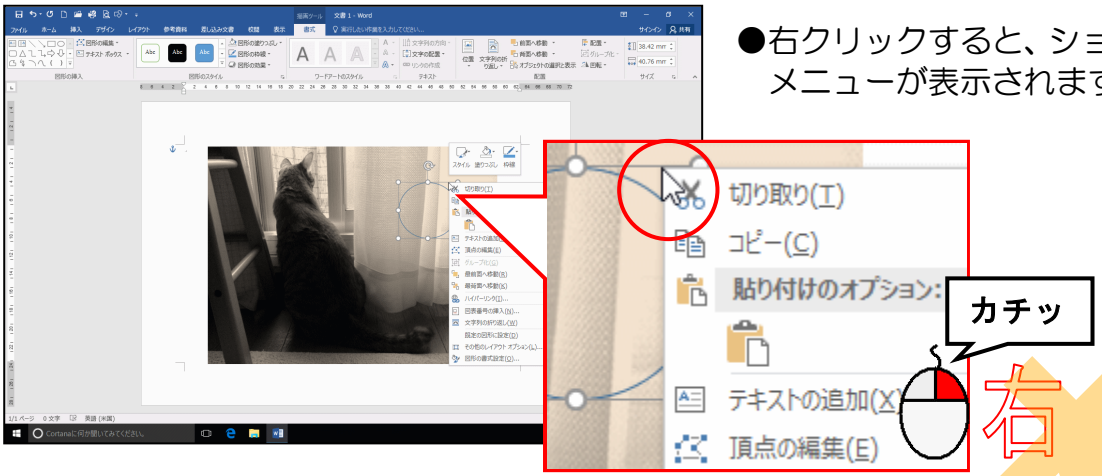
楕円の枠線の上にポイントします。



●枠線の上でポイントすると、マウスポインターは ✥ の形になります。

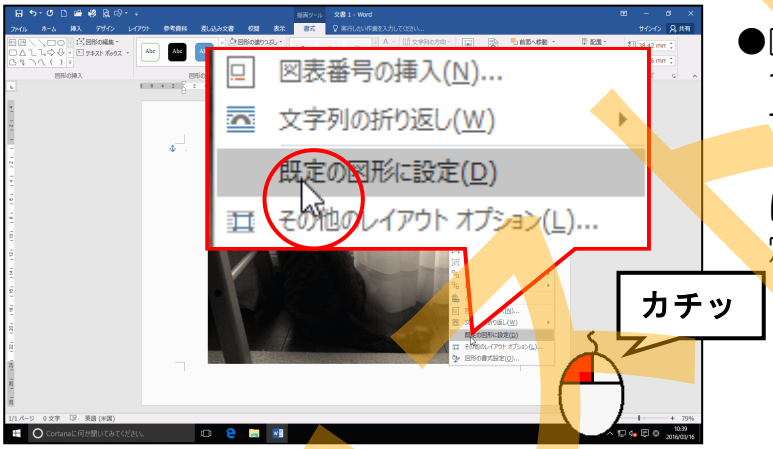
体験版

そのまま右クリックします。

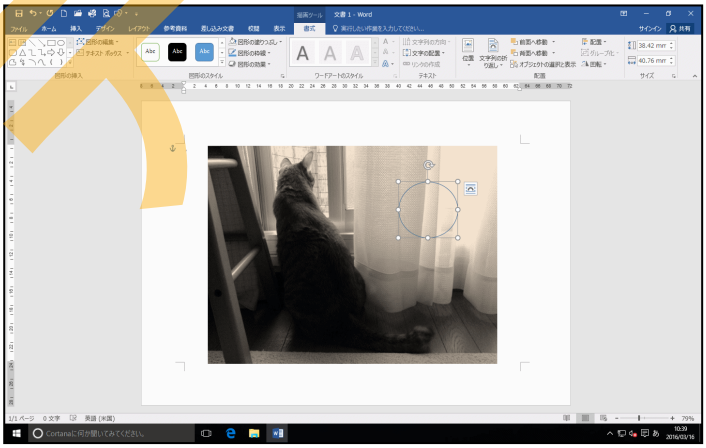


●右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。

表示されるショートカットメニューから、[既定の図形に設定(D)]にポイントし、クリックします。



●図形を描くと、既定では図形の塗りつぶしの色は**「青、アクセント 1」**ですが、今回は写真を元に下書きをし、ふちどりをしやすくするために、既定を**「塗りつぶしなし」**に設定します。



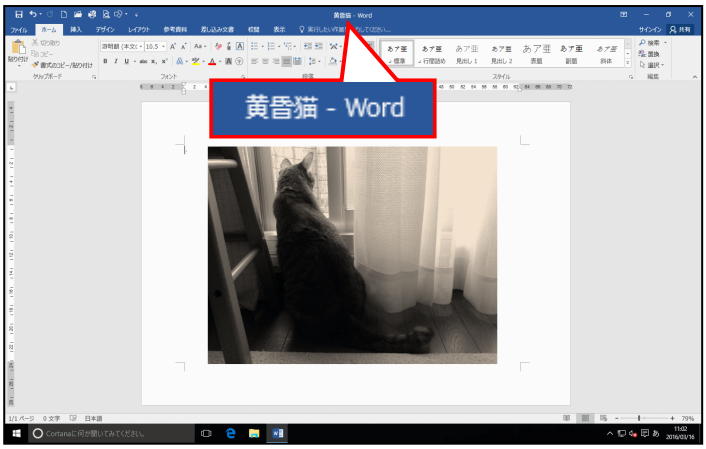
●これで、次に図形を描いたときは**「塗りつぶしなし」**の設定で図形が描けるようになります。

ご参考までに

●この設定はこの文書の中だけの設定なので、新規のワード文書を起動したときは、塗りつぶしの色は**「青、アクセント 1」**になっています。

下書き用

先ほど描いた「楕円」を削除し、「黄昏猫」という名前を付けて、USB メモリーに保存しましょう。



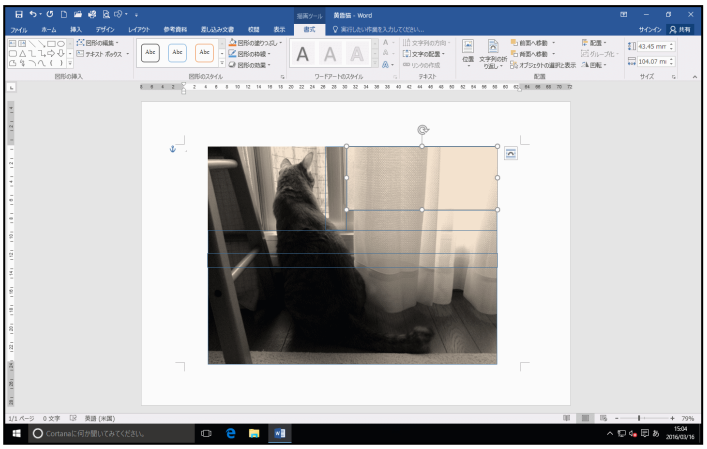


本試験レベル

（３）写真に沿ってふちどりする

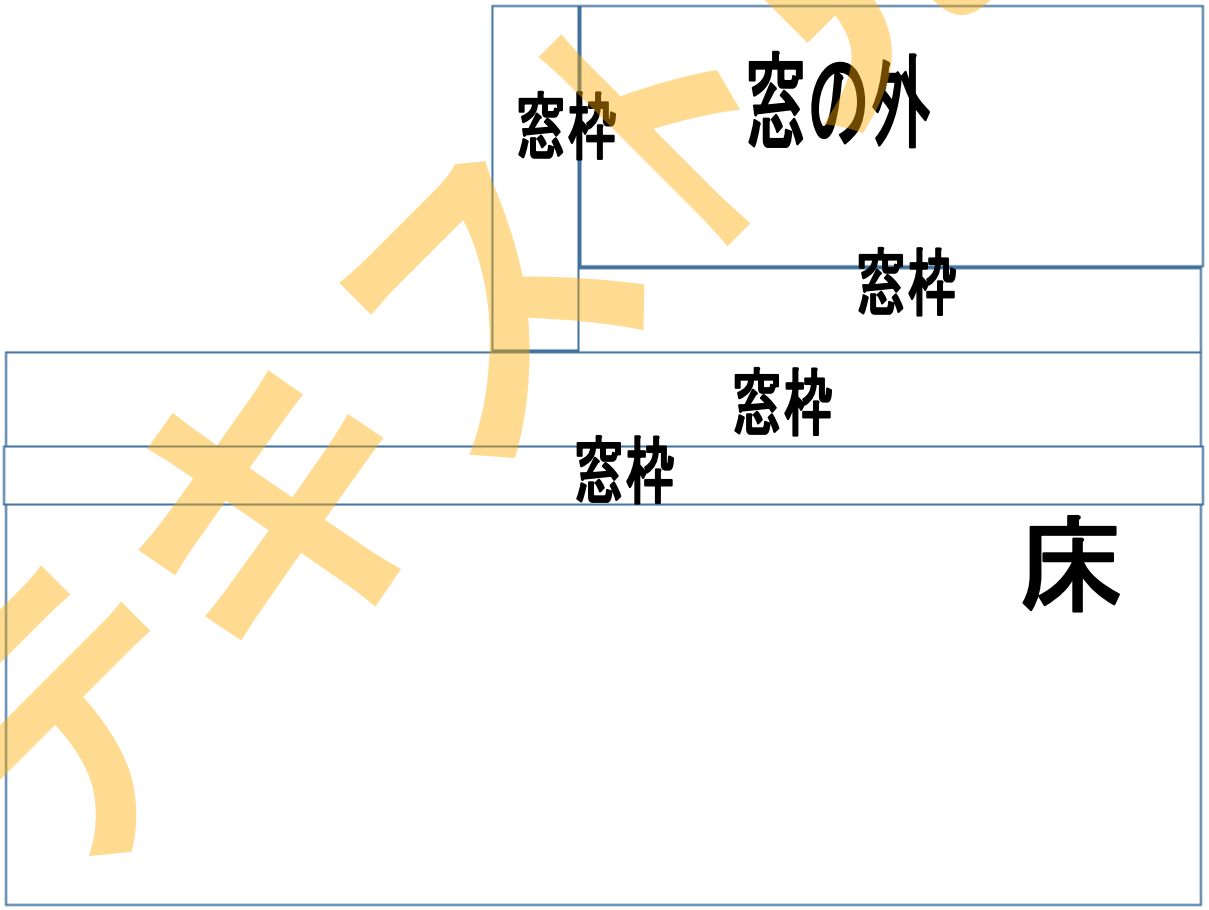
●操作の前準備として・・・

図形の □［正方形/長方形］を利用して、四角を下図のように６つ描きます。



●写真とずれていても構いません。写真をもとに描く場合は、隠れている部分は想像で描いて結構ですし、写真のありのままに描く必要はありません。



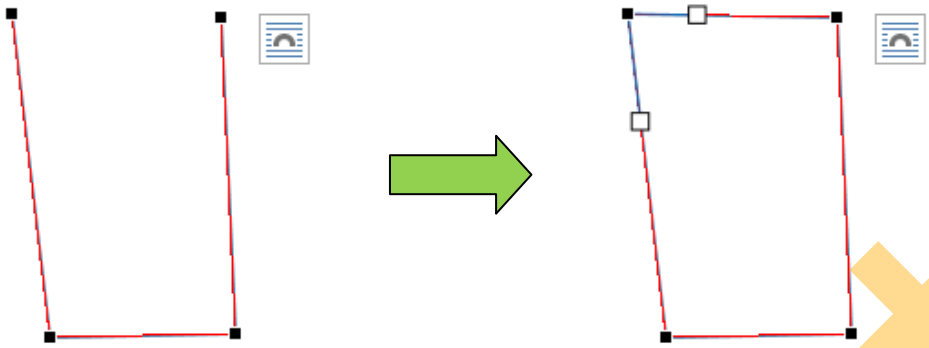


次の操作のために、選択を解除しておきましょう。

テキスト

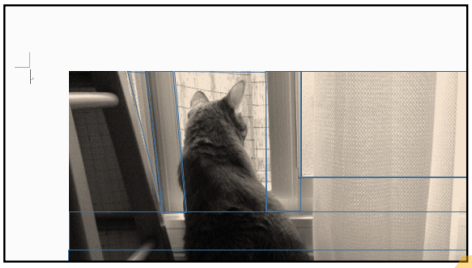
① 始点と終点をつなげる（閉じたパス）

窓の外をフリーフォームで描き、外側の線をつなぐために、下図のように始点と終点をつなげる（閉じたパス）という操作を説明します。

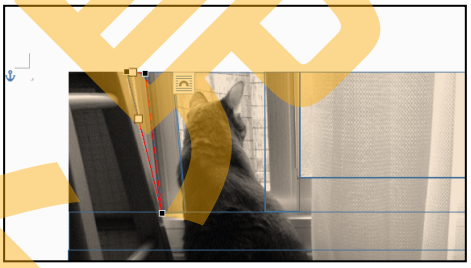


◆線で描いた場合の、始点と終点をひとつにつなげる方法をマスターしましょう。

操作前

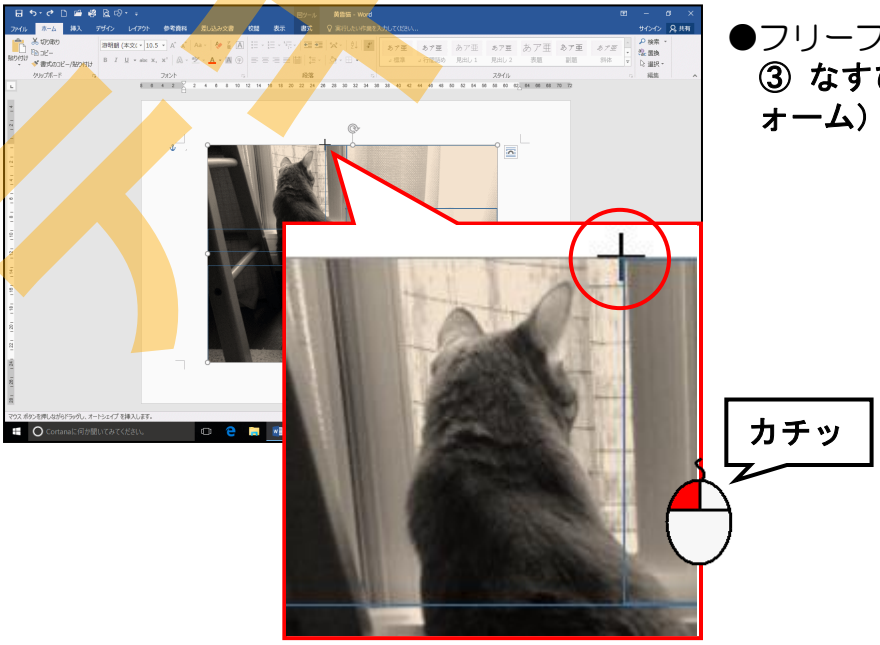


操作後





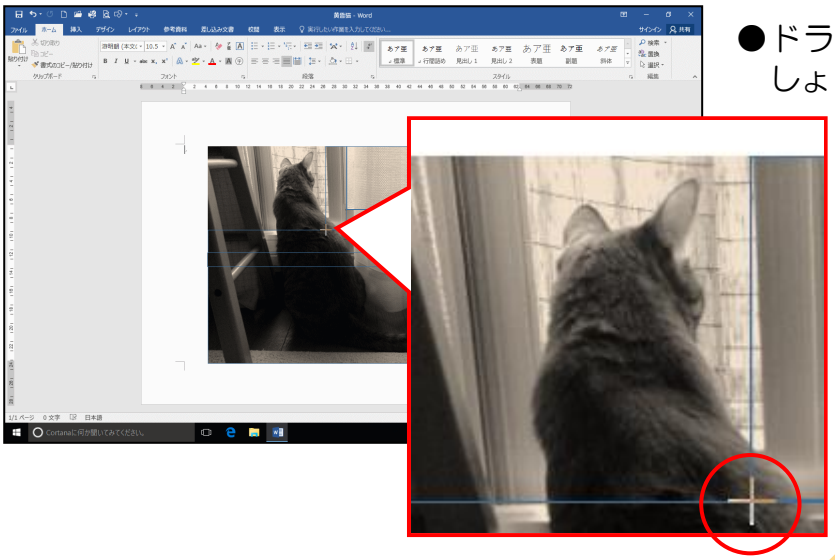
フリーフォームを使用して、下図の位置にポイントし、クリックします。



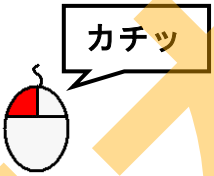
●フリーフォームを忘れた方は、**P124 ③ なすびのへたを描く（フリーフォーム）**を参照してください。

下書き厳禁

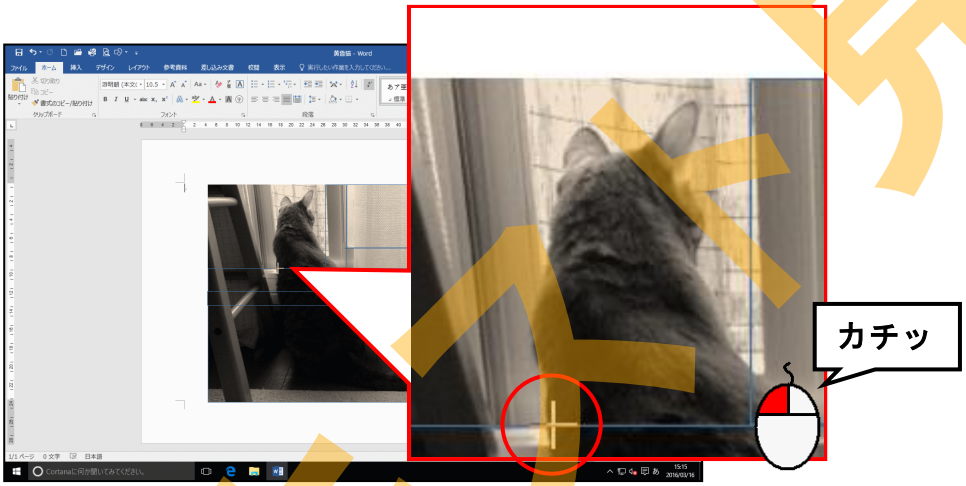
そのまま下図の位置へマウスを滑らせ、クリックします。



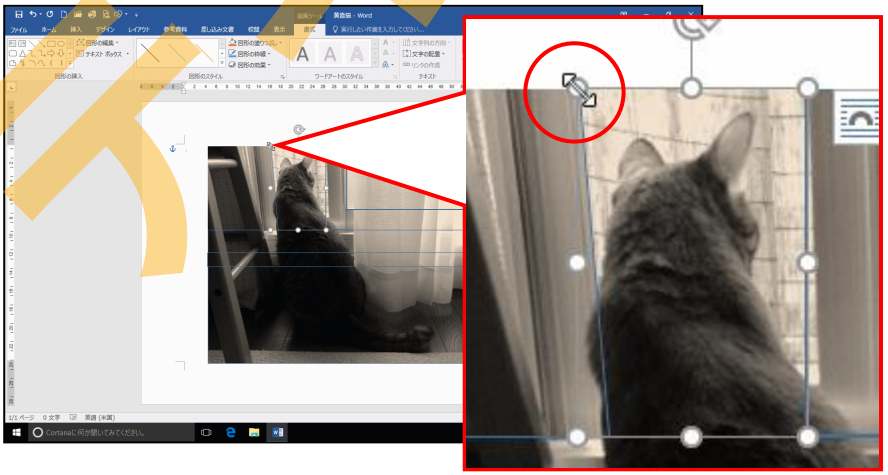
●ドラッグしないように気を付けましょう。

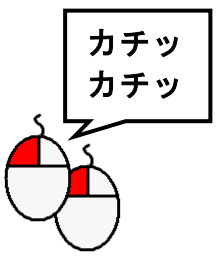


そのまま左方向へ下図の位置へマウスを滑らせ、下図の位置でクリックします。



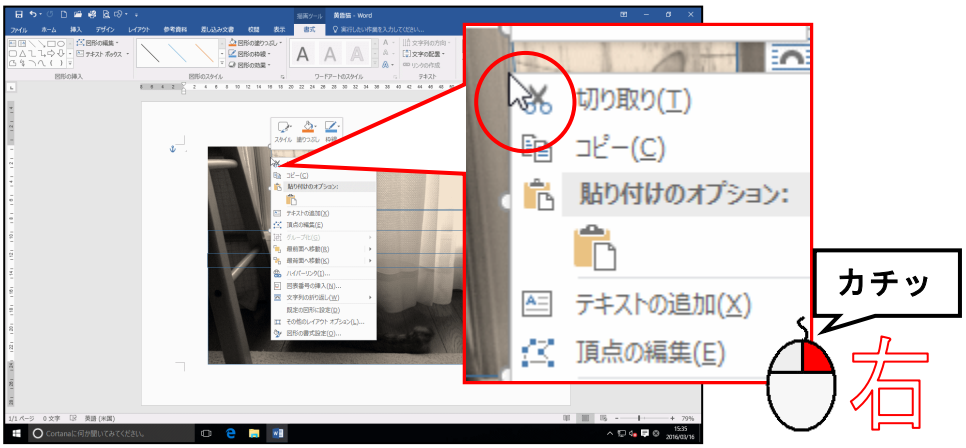
そのまま上方向へマウスを滑らせ、下図の位置でダブルクリックします。



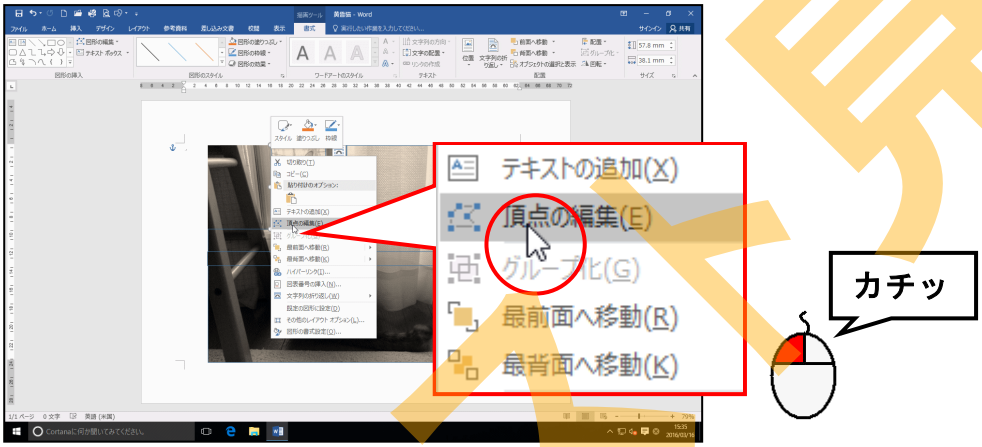


本部テキスト

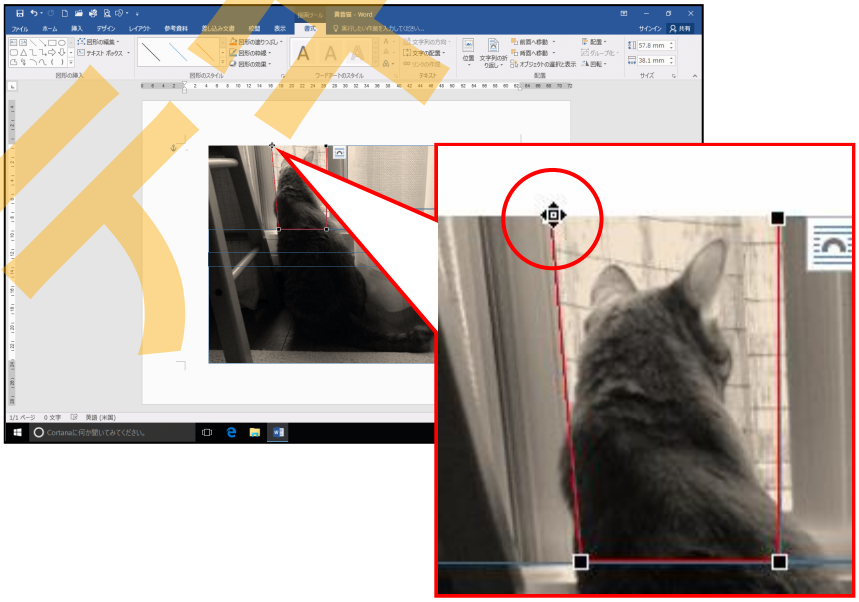
フリーフォームの線が選択された状態で右クリックします。



表示されるショートカットメニューから、[頂点の編集(E)]にポイントし、クリックします。

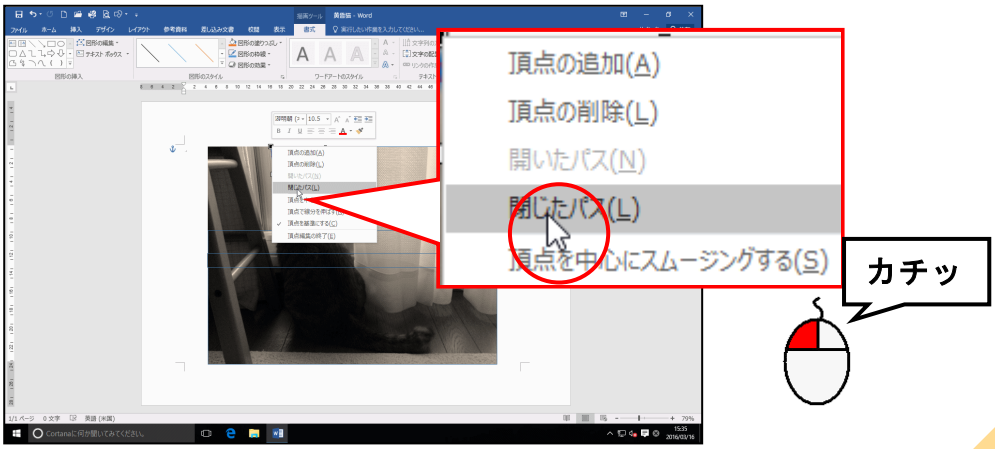


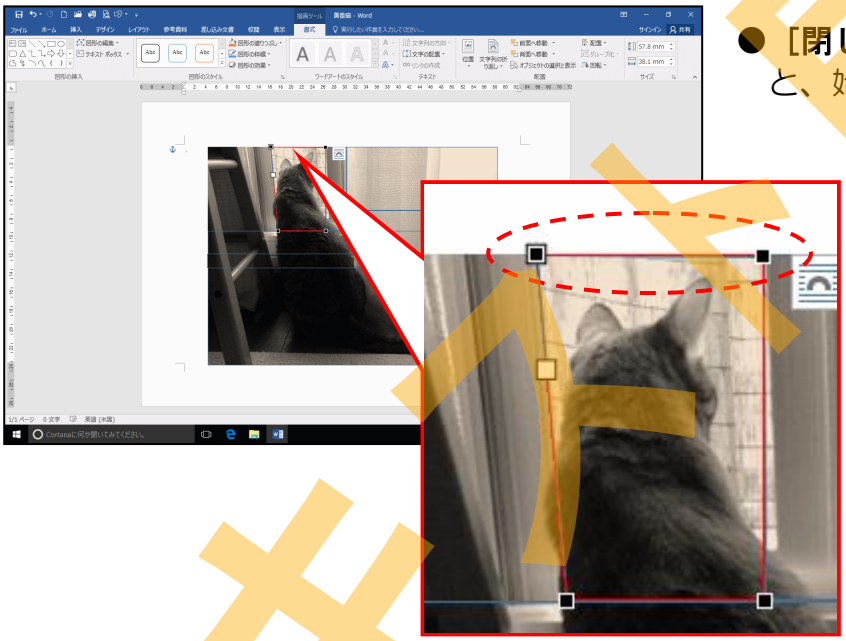
下図の頂点の位置に、マウスポインターを移動します。



下書き

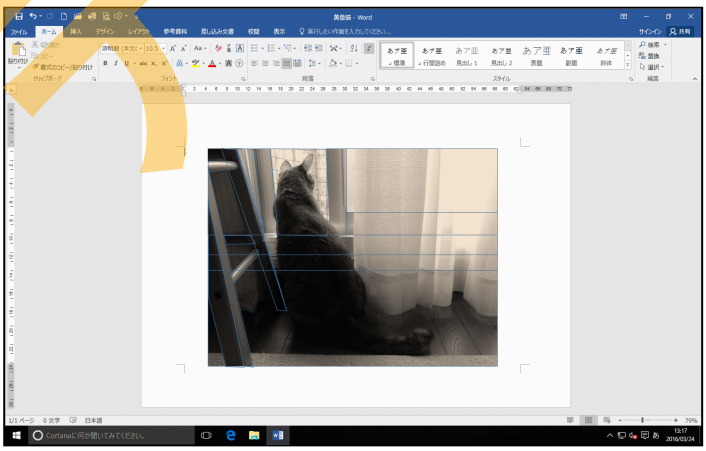
そのまま右クリックし、表示されるショートカットメニューから［閉じたパス(L)］にポイントし、クリックします。





●［閉じたパス(L)］をクリックすると、始点と終点がくっつきます。

何もないところでクリックして、選択を解除しておきましょう。

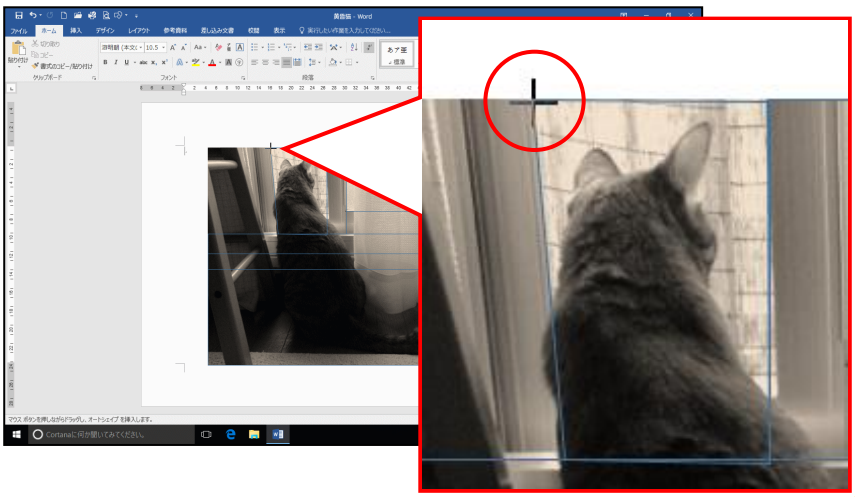


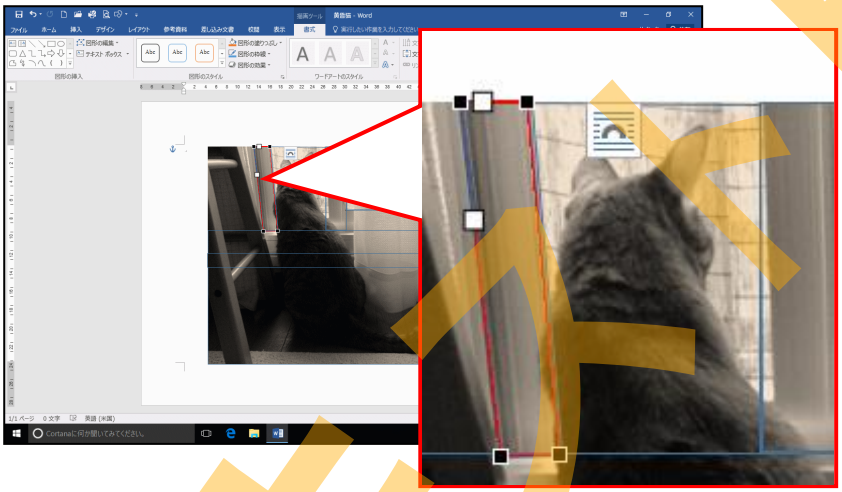
注意!

●フリーフォームで続けて描く場合、一度解除しないと、フリーフォームのボタンをクリックした際に、直前に描いたフリーフォームが選択された状態になります。特に図形同士が密接した場合に、描きにくくなります。

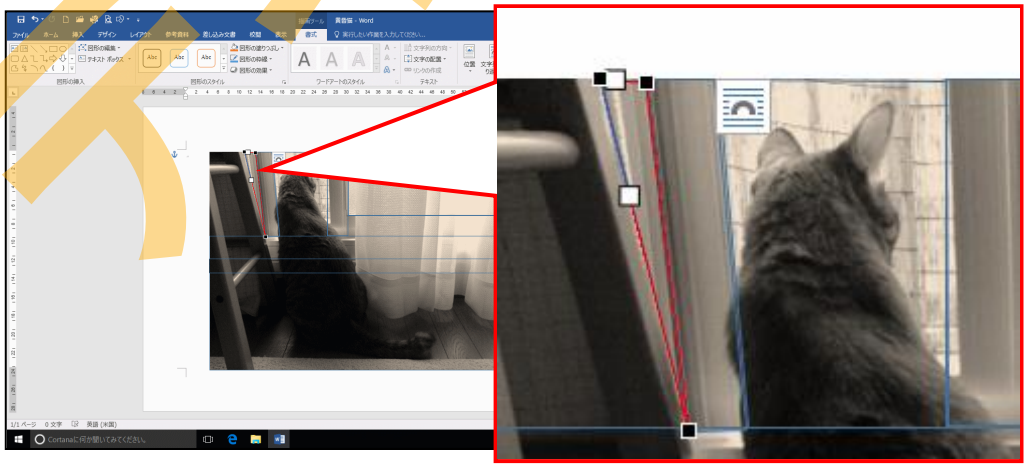
本テキスト

再度、フリーフォームを選択し、下図の位置にマウスポインターを移動し、同様にフリーフォームで窓枠を描きます。





同様に隙間を描きます。



次の操作のために、選択を解除しておきましょう。

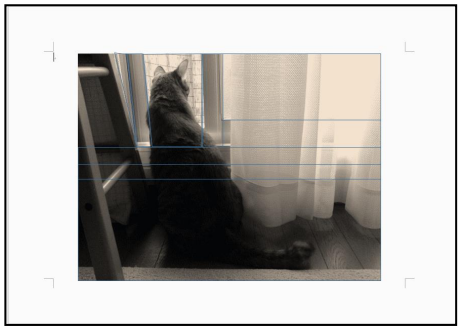
本試験問題

② 写真を非表示にする

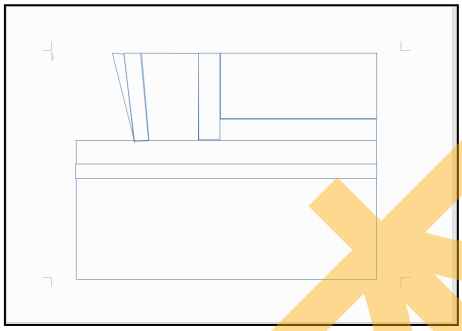
写真を非表示にして、描いた線のみを表示させる方法を説明します。

◆写真を非表示にする方法をマスターしましょう。

操作前

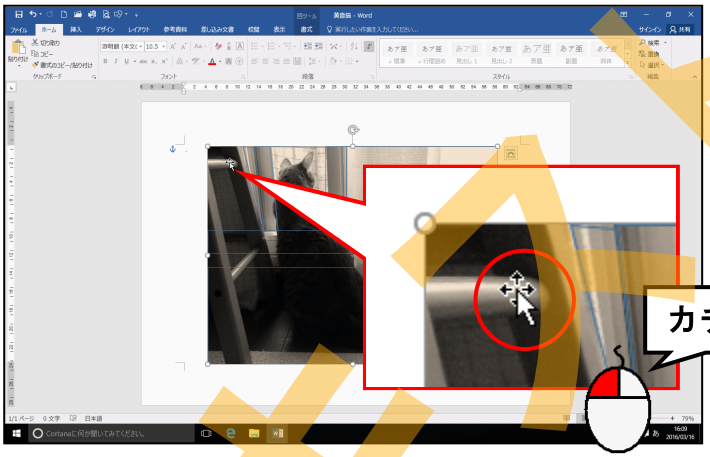


操作後



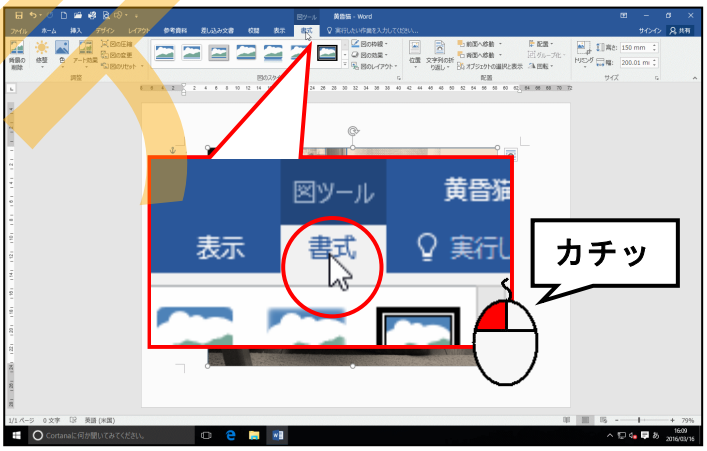


写真を選択します。



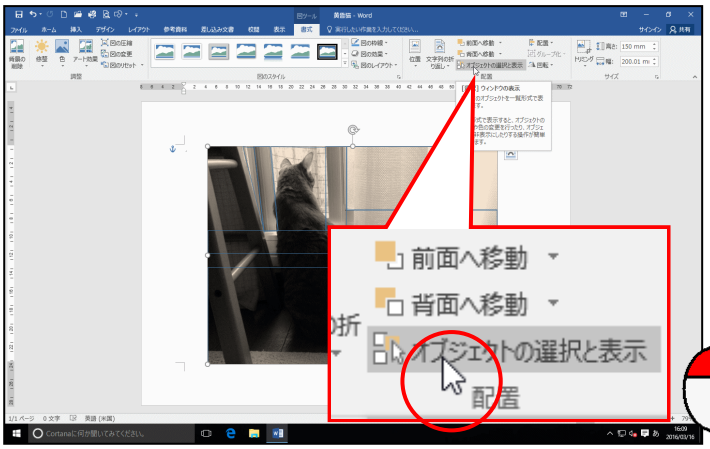
●図形の枠線以外をクリックすると、写真が選択されます。

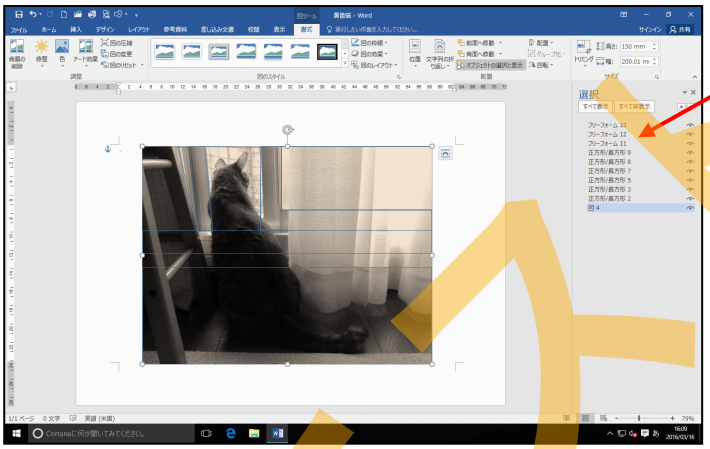
図ツール［書式］タブにポイントし、クリックします。



体験版

［配置］グループにある［オブジェクトの選択と表示］ボタンにポイントし、クリックします。



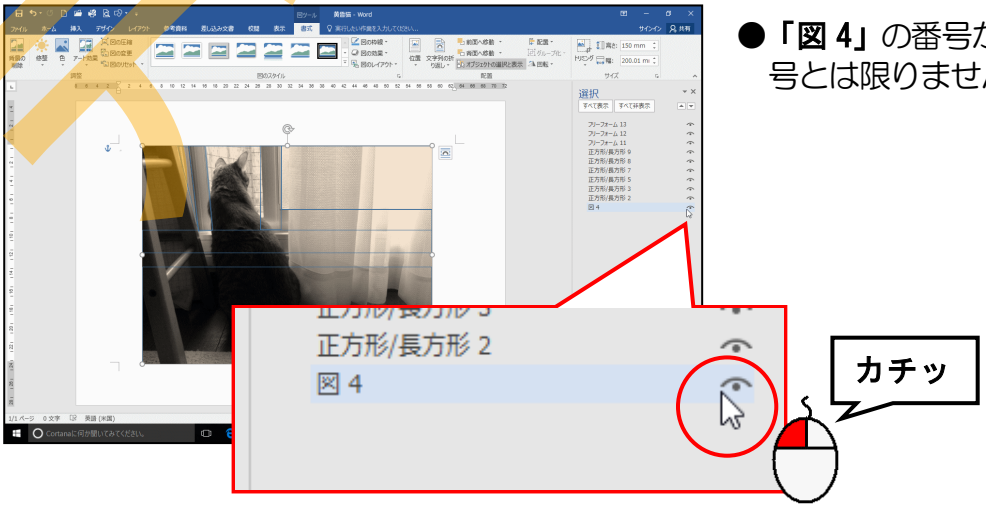


●［選択］ウィンドウが表示されました。

余裕があれば読んでね

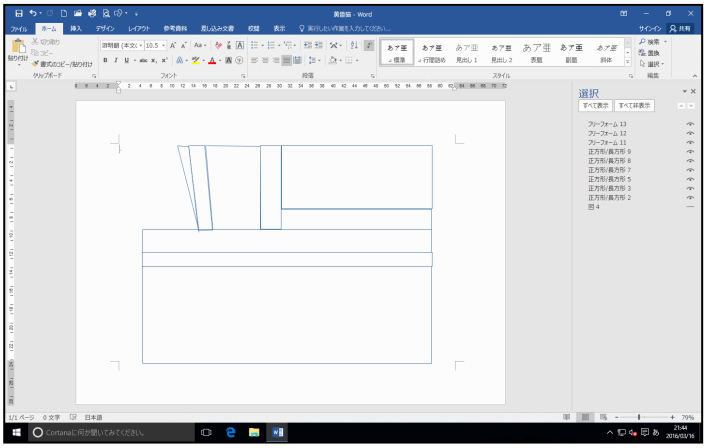
●図ツール［書式］タブが選択されていない場合は、［ホーム］タブ内の［編集］グループにある［選択］ボタンをクリックし、［オブジェクトの選択と表示(P)...］ボタンをクリックしても、［選択］ウィンドウが表示されます。

「図 4」の にポイントし、クリックします。



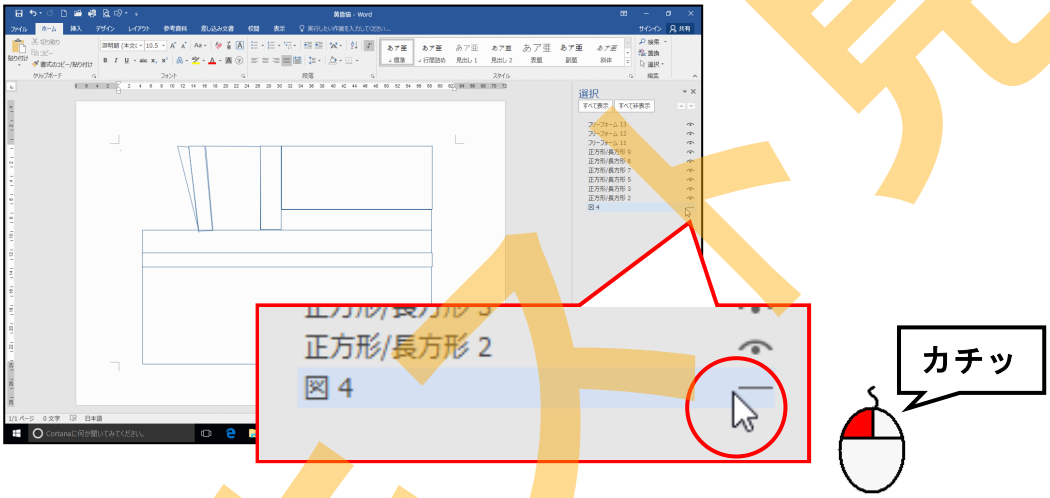
●「図 4」の番号が、テキストと同じ番号とは限りません。

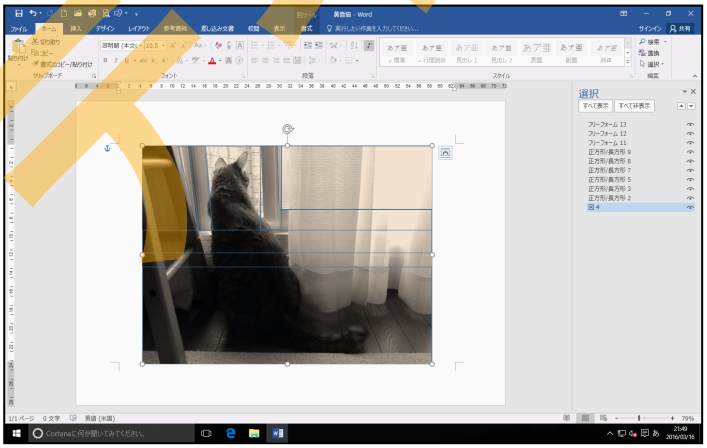
本試験



●写真が非表示になり、描いた線の状態が確認できます。

「図 4」の ― にポイントし、クリックします。

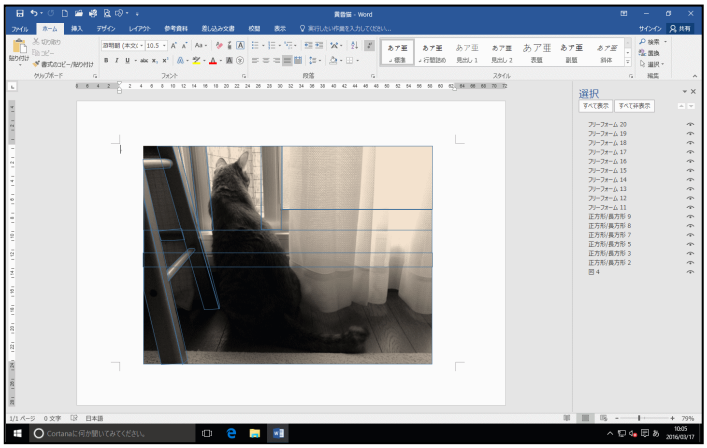


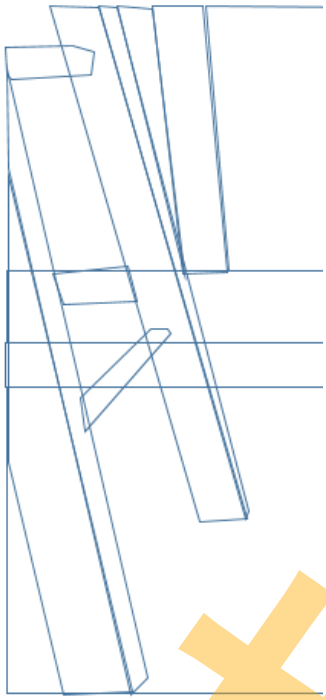


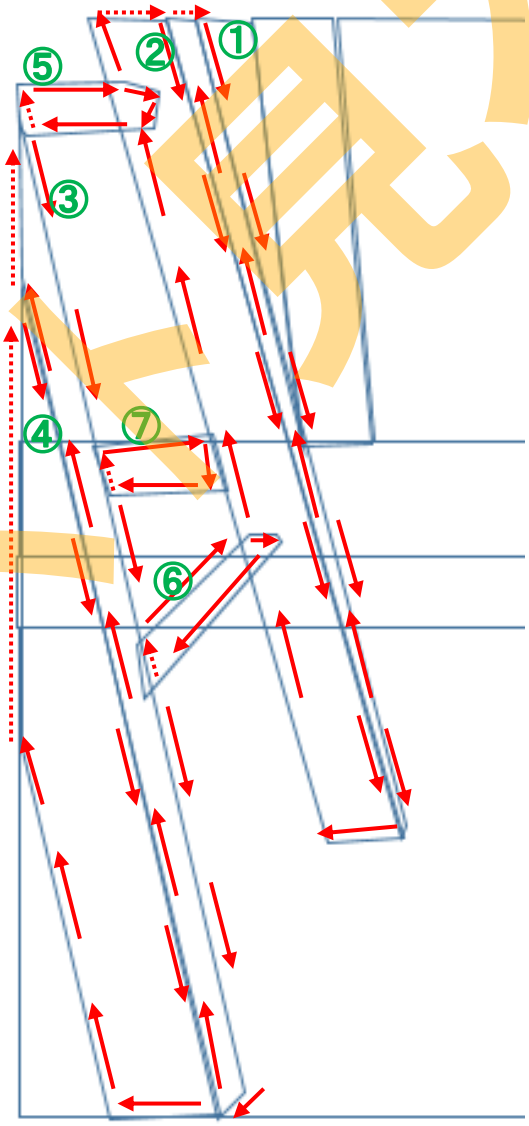
●再度、写真が表示されました。

本社

「フリーフォーム」と「閉じたパス」を使用し、下図を参考に脚立を描きましょう。







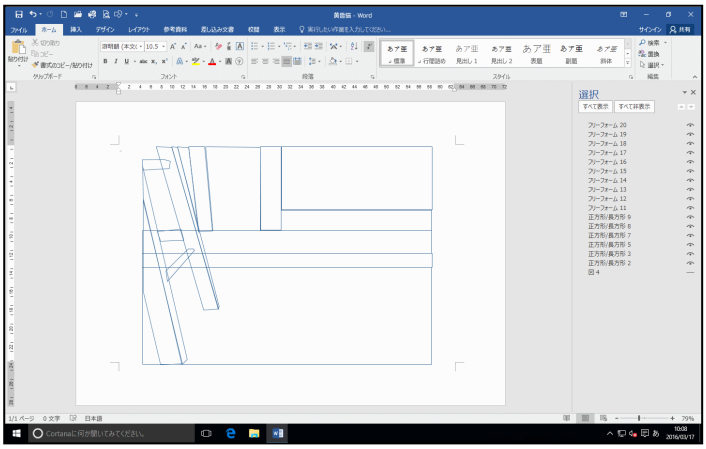
●必要に応じて、写真を表示したり非表示にして確認しながら修正しても構わないです。



フリーフォーム：
閉じたパス：

本書テキスト

写真を非表示にし、描いた線を確認しましょう。



確認ができたら、再度写真を表示し、［選択］ウィンドウを閉じておきましょう。



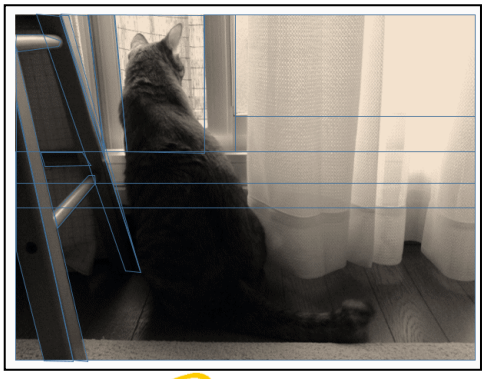
体験版テキスト

③ カーテンを描く（頂点を中心にスムージングする）

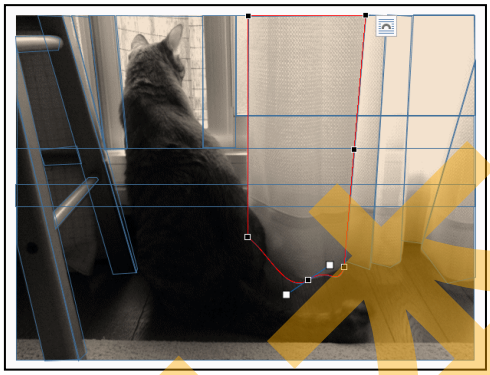
カーテンをフリーフォームで描き、滑らかに描く方法を説明します。

◆カーテンを滑らかに描く方法をマスターしましょう。

操作前

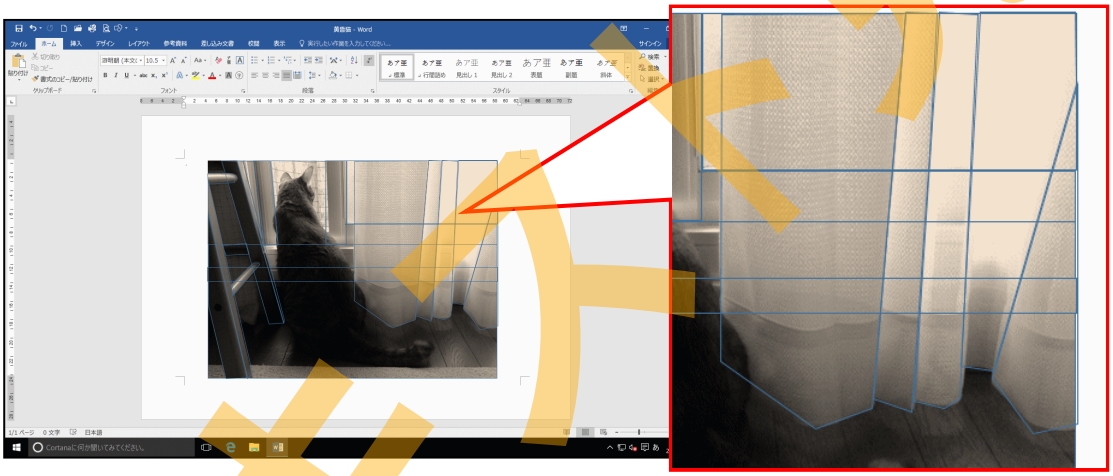


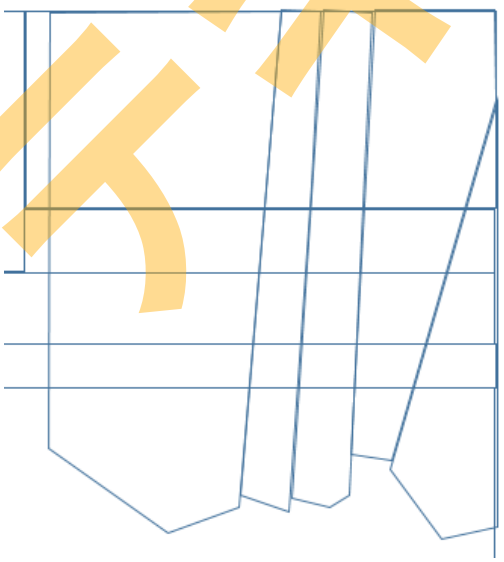
操作後

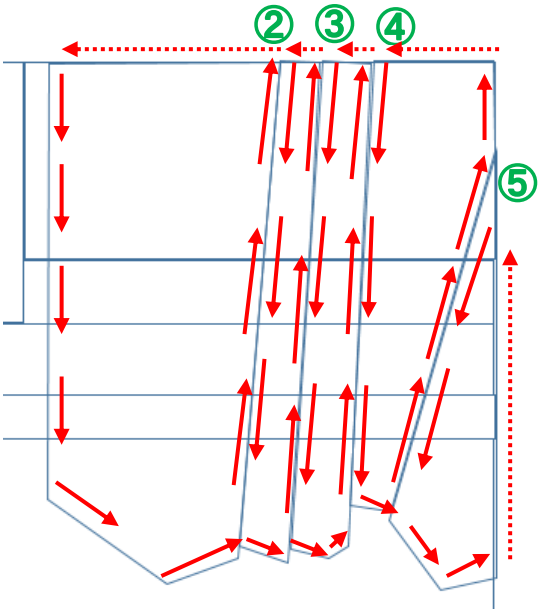




フリーフォームと閉じたパスを使用し、下図を参考に、カーテンを描きましょう。



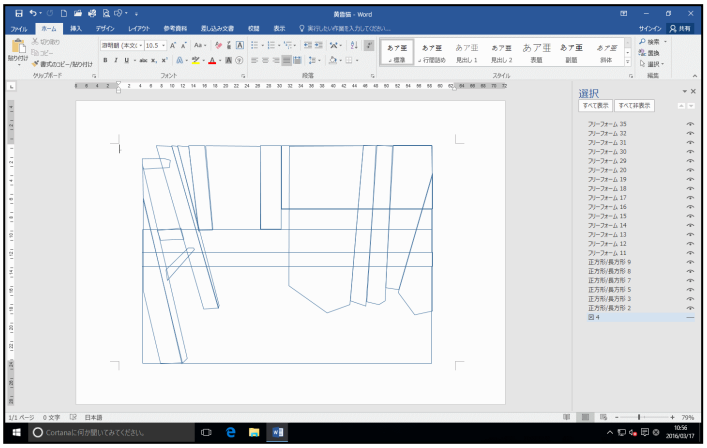




フリーフォーム：
閉じたパス：

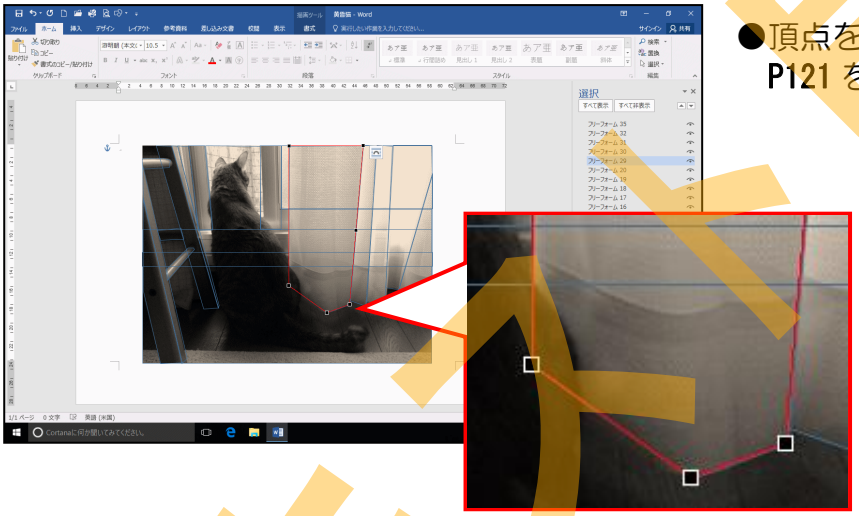
下書き

［選択］ウィンドウを表示してから写真を非表示にし、描いた線を確認しましょう。



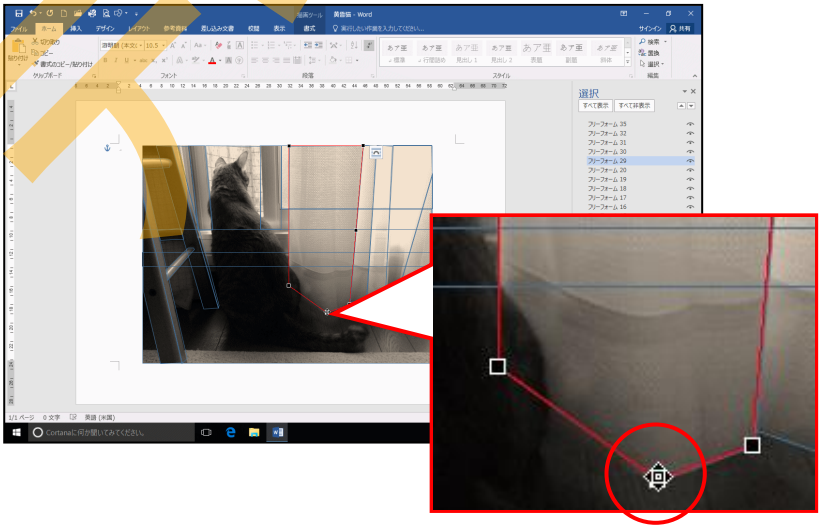
●［選択］ウィンドウを表示させる方法を忘れた方は、P174 ② **写真を非表示にする**を参照してください。

再度、写真を表示させ、下図のカーテンを選択し、頂点を表示させます。



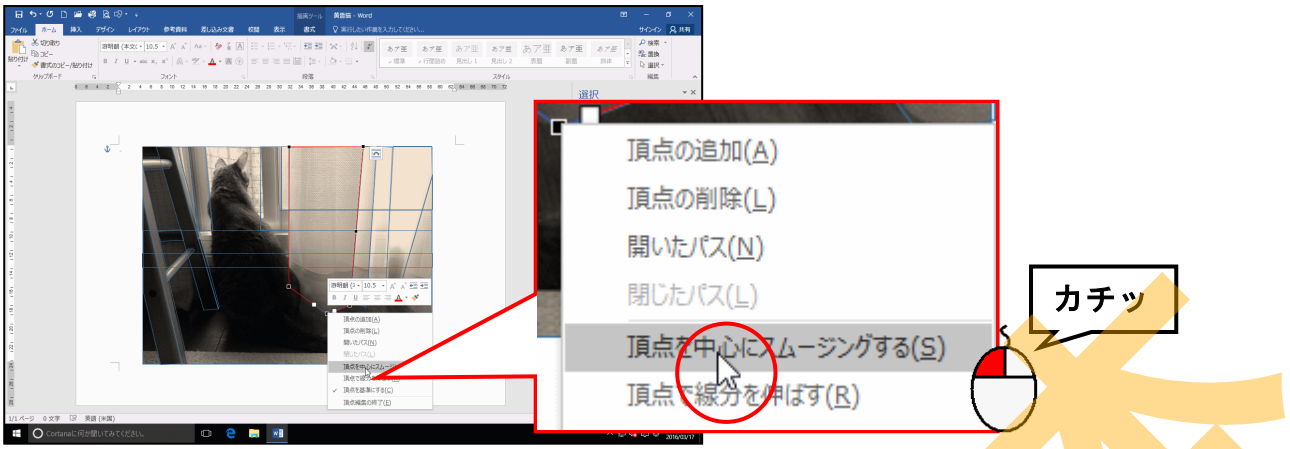
●頂点を表示する方法を忘れた方は、P121 を参照してください。

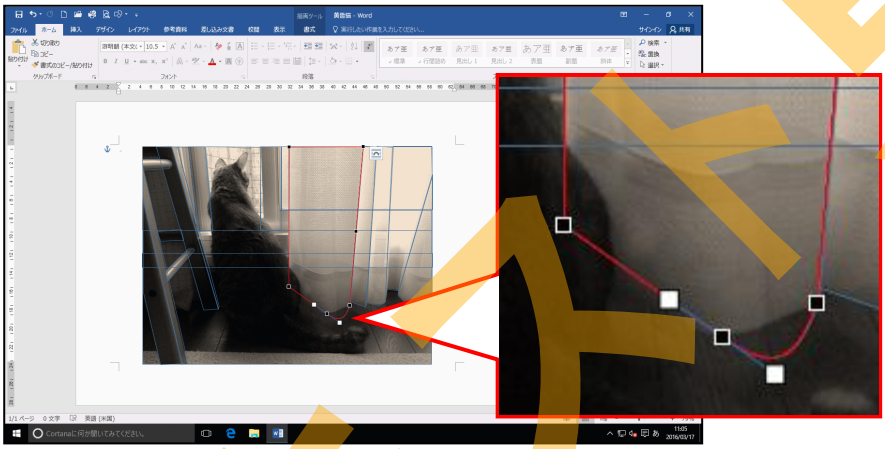
真ん中の頂点にポイントします。



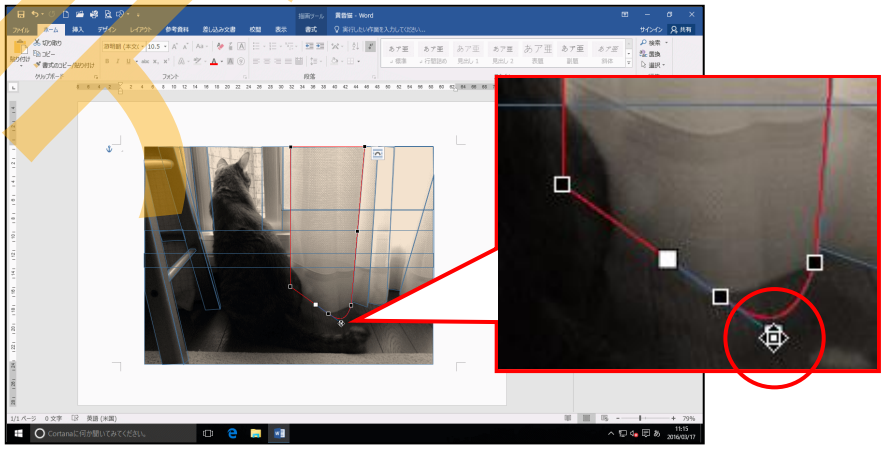
サンプル見本

そのまま右クリックし、表示されるショートカットメニューより、［頂点を中心にスムージングする(S)］にポイントし、クリックします。



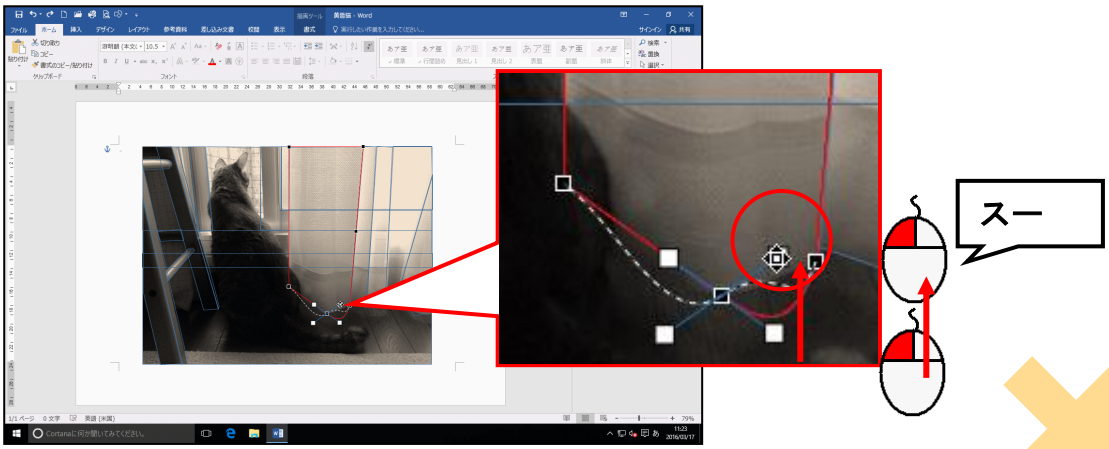


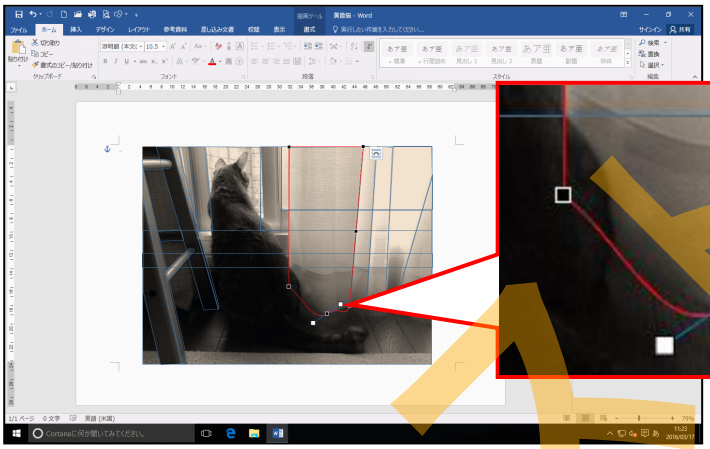
右側のコントロールポイントにポイントします。



仮配本

上方向に少しドラッグします。





次の操作のために、選択を解除しておきましょう。

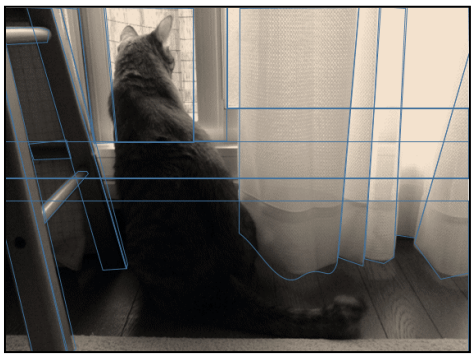
本配布不可

④ カーテンを描く（頂点の位置をずらす）

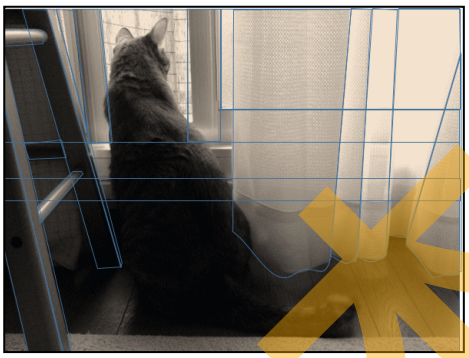
ここでは、頂点の位置をずらして、滑らかに描く方法を説明します。

◆頂点の位置をずらす方法をマスターしましょう。

操作前

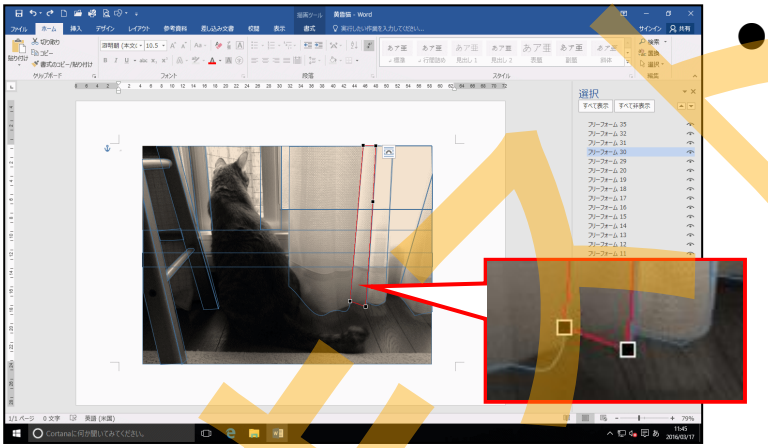


操作後



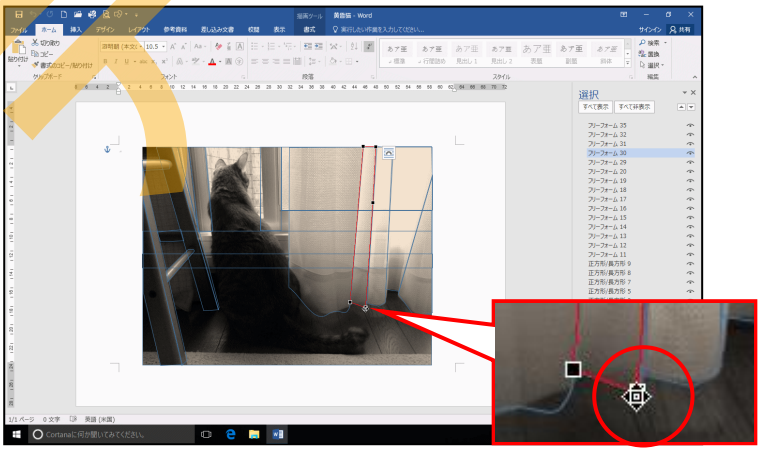


下図のカーテンを選択し、頂点を表示させます。



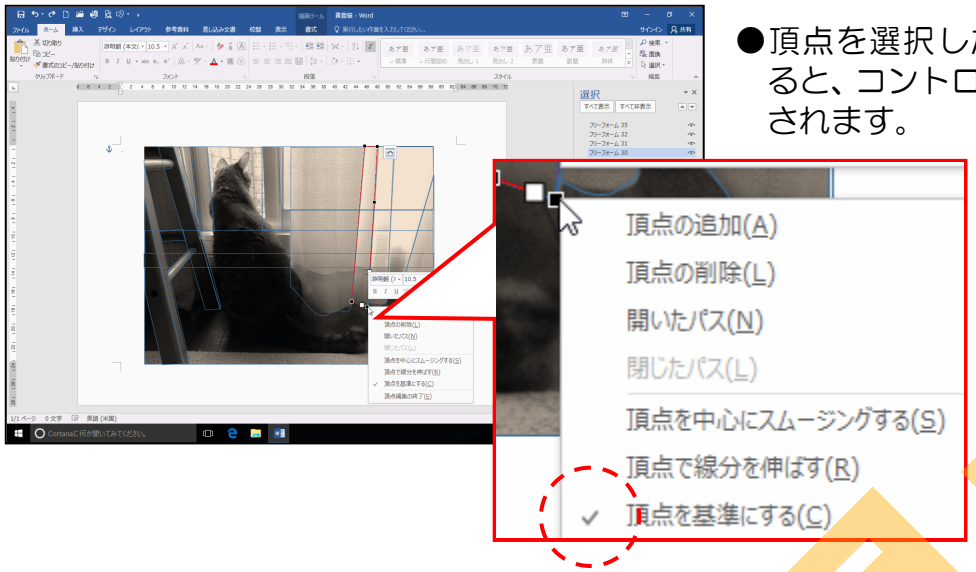
●頂点を表示する方法を忘れた方は、
P121 を参照してください。

右側の頂点にポイントします。



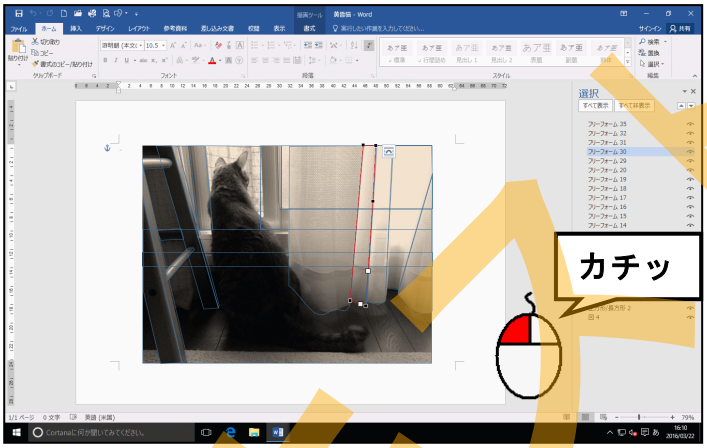
体験版

そのまま右クリックし、表示されるショートカットメニューより、[頂点を基準にする(C)]にチェックが入っていることを確認します。

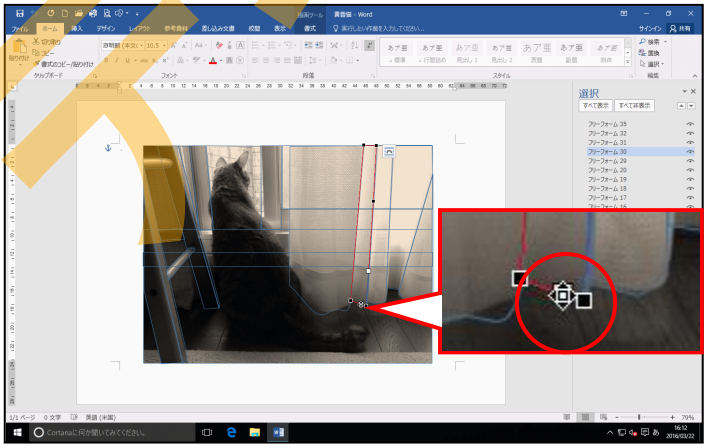


●頂点を選択したまま右クリックすると、コントロールポイントが表示されます。

ショートカットメニュー以外をクリックし、表示を消します。

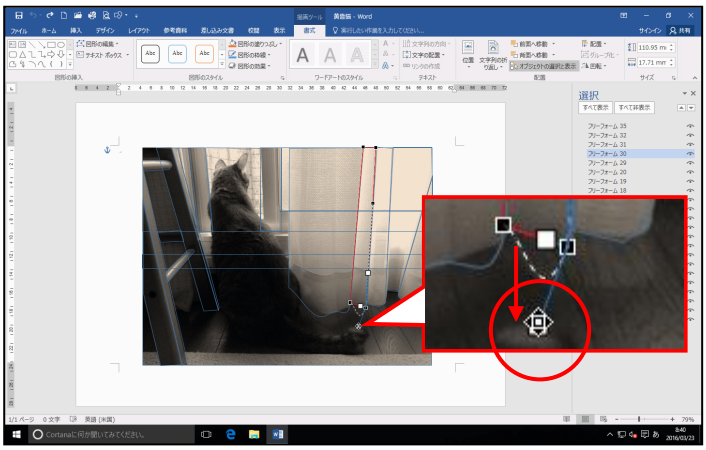


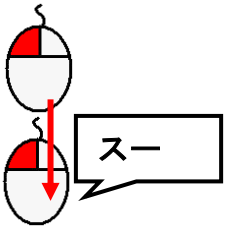
下側のコントロールポイントにポイントします。

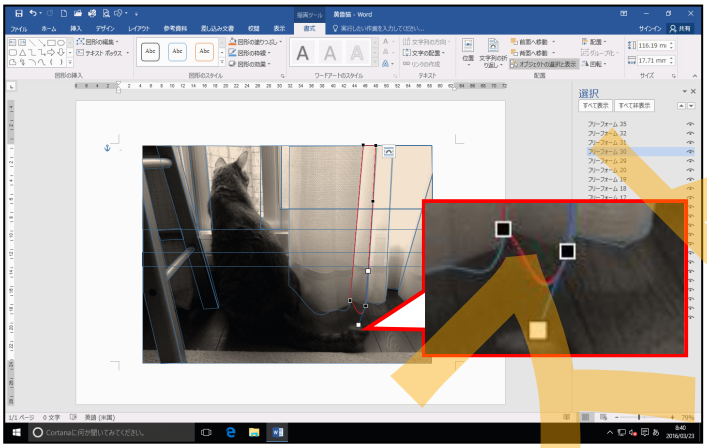


本不可

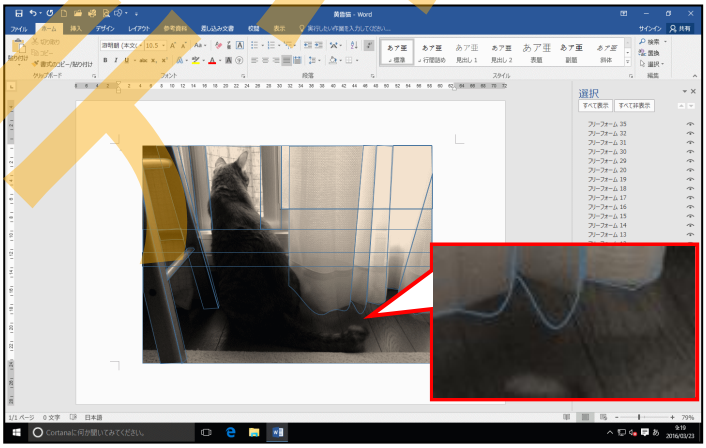
そのまま下方向に少しドラッグします。





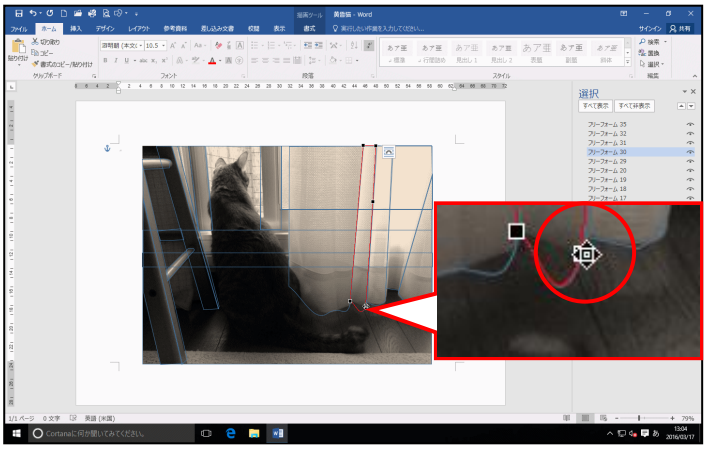


選択を解除して、下絵（写真）と確認します。

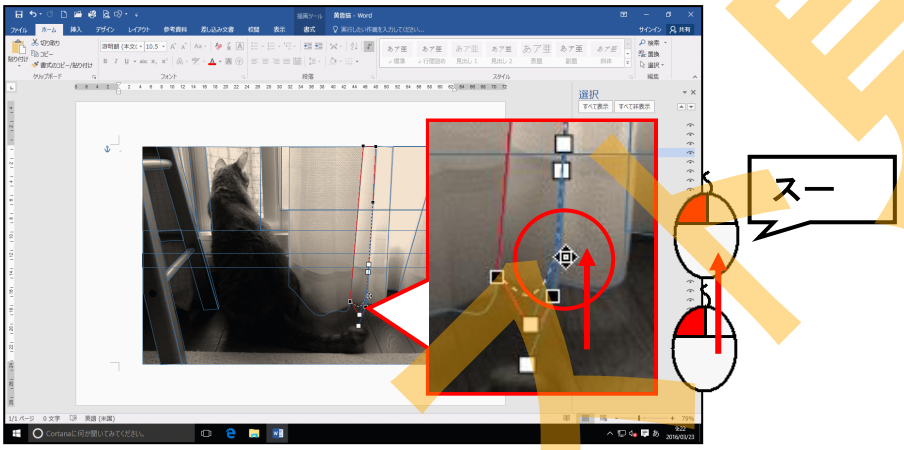


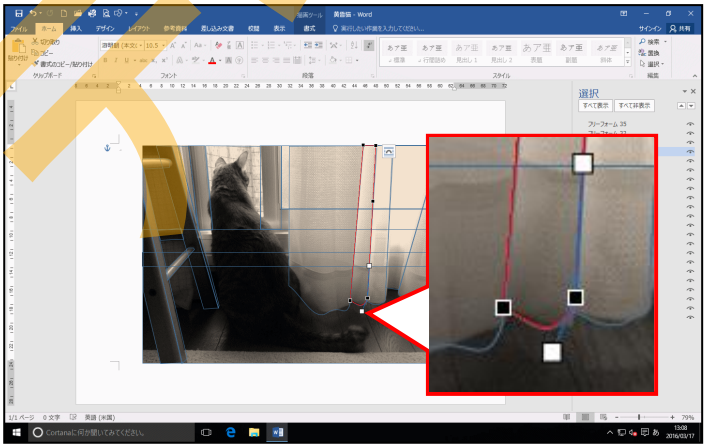
本紙不採用

再度、頂点を表示させ、右側の頂点にポイントします。



少し上にドラッグします。

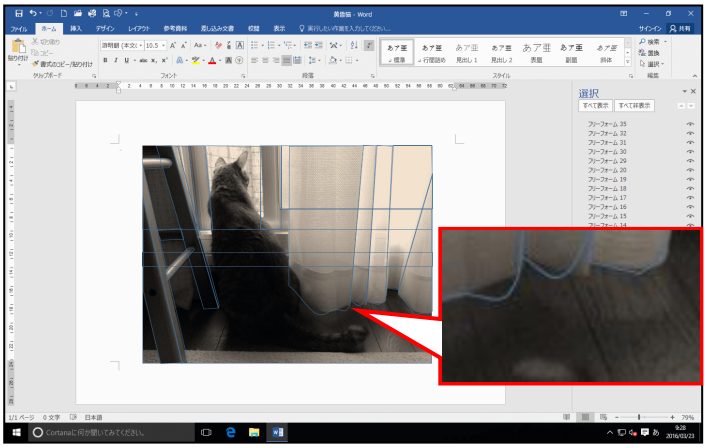




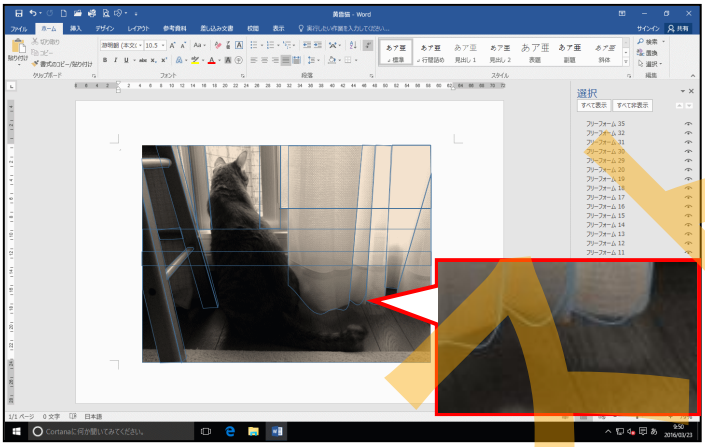
●頂点の位置は、自由に変更することができます。

本紙サンプル

選択を解除して、下絵と確認します。

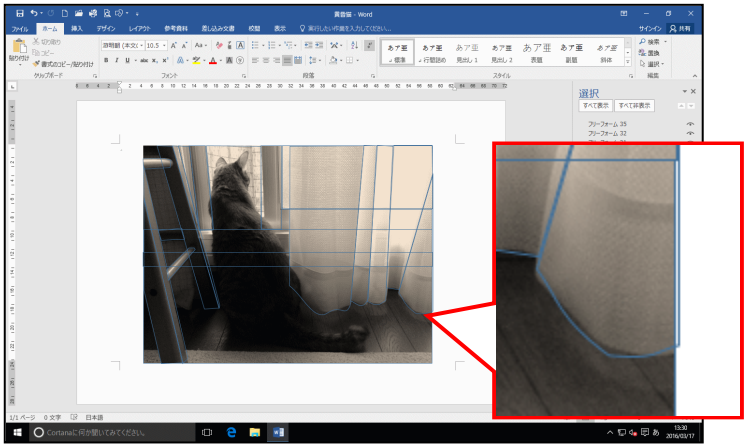


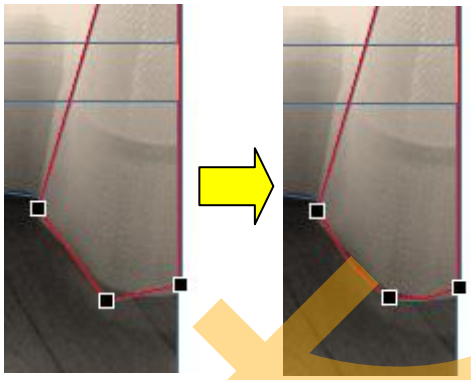
左から 3 つ目のカーテンも、同様に調整しましょう。



本紙不売

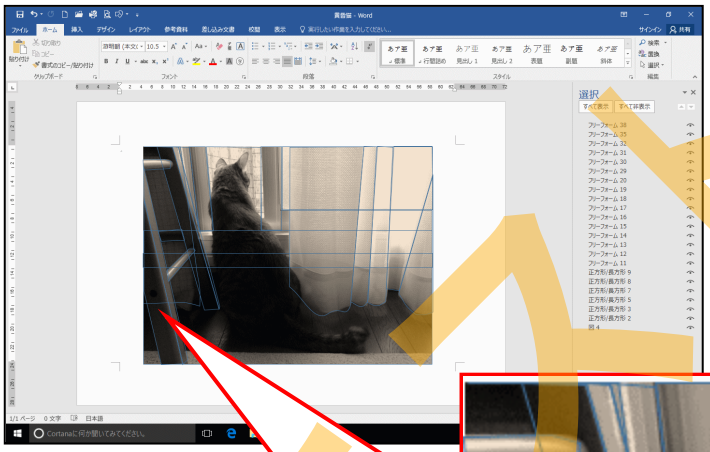
右端のカーテンも、滑らかに修正しましょう。

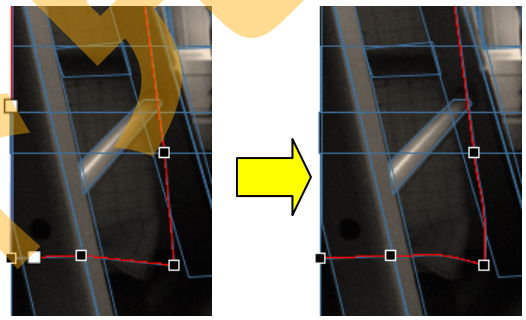


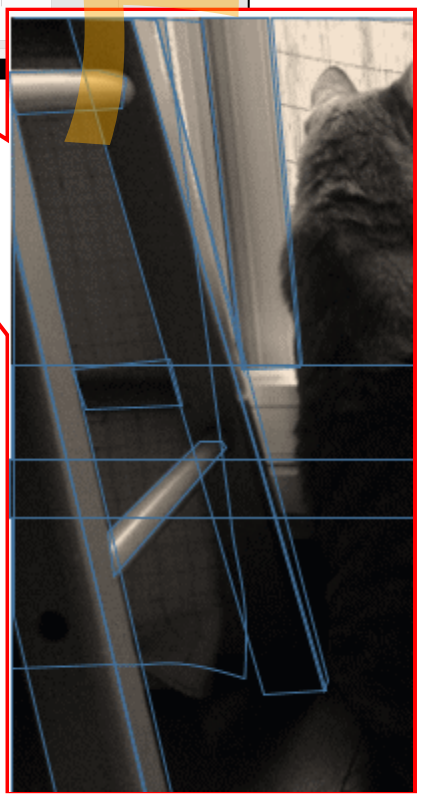


写真左端のカーテンを描きましょう。

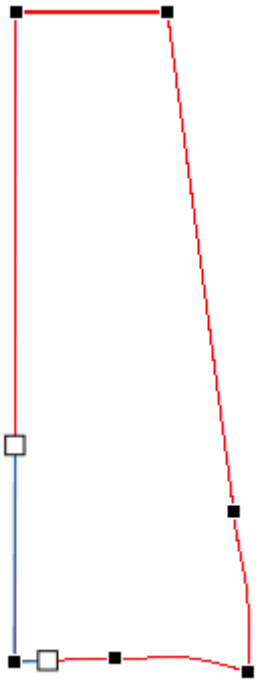
使用する機能
　フリーフォーム／頂点（頂点を基準にする）／頂点（閉じたパス）





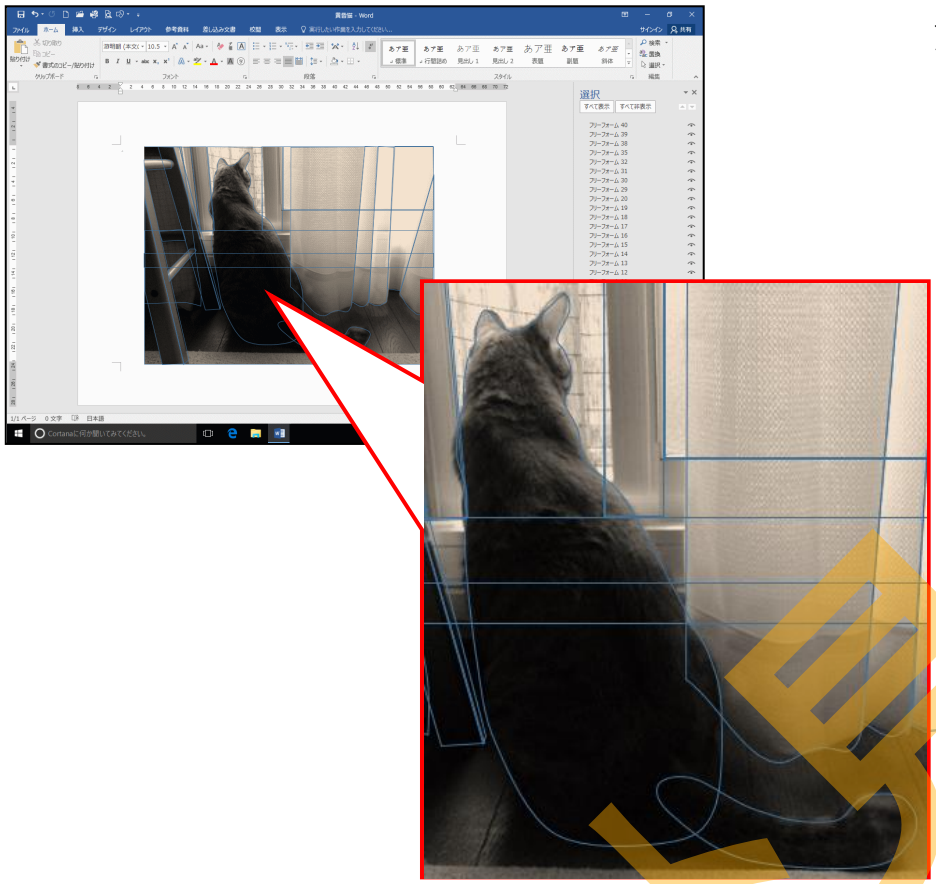


頂点を表示した状態

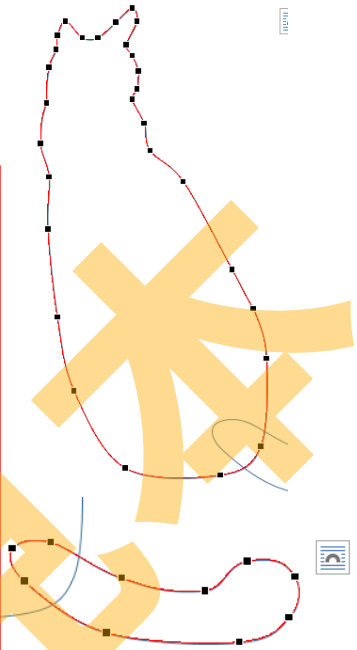


印刷不可

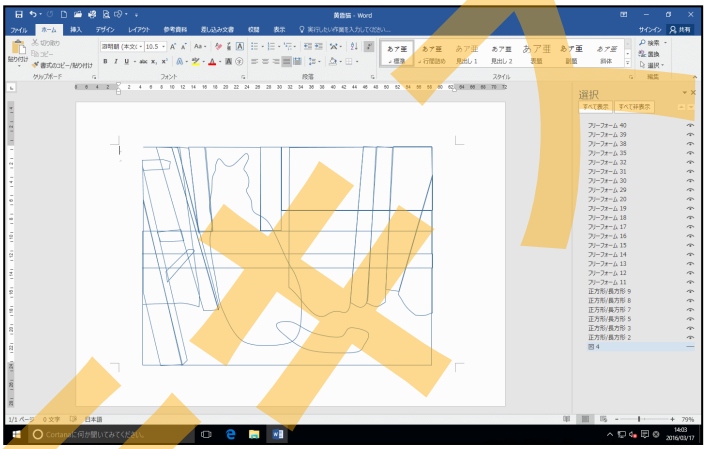
猫を曲線で描きましょう。



頂点を表示した状態



写真を非表示にして、ふちどりを確認しましょう。



●写真を非表示にする方法を忘れた方は、P174 ② **写真を非表示にする**を参照してください。

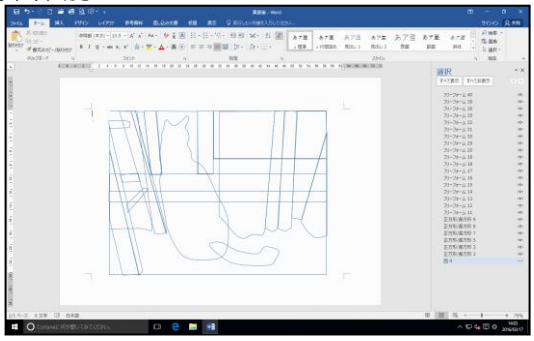
体験版

⑤ オブジェクトに名前を付ける

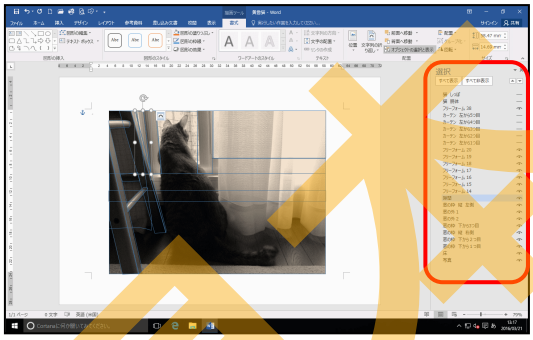
［選択］ウィンドウ内には、図形を描いた順番で、図形の種類と番号が振られます。それらに名前を付けると、後から色を塗る際に判別しやすくなったり、または図形が重なり合って選択しにくい状態の場合でも、スムーズに操作することができます。ここでは、図形であるオブジェクトひとつひとつに名前を付ける方法を説明します。

◆オブジェクトに名前を付ける方法をマスターしましょう。

操作前

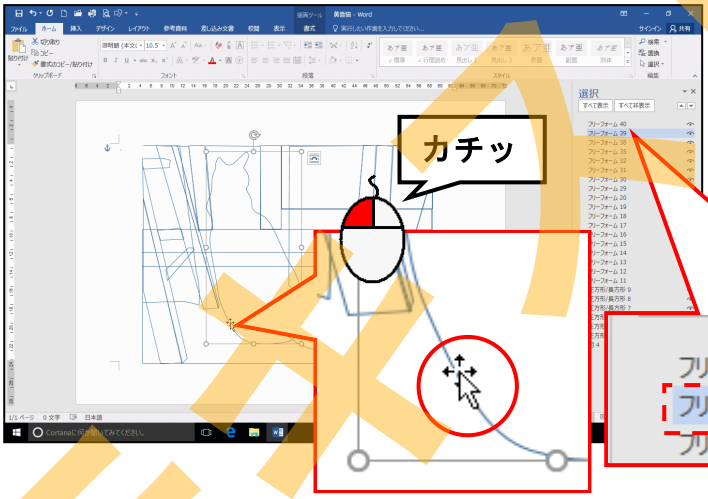


操作後

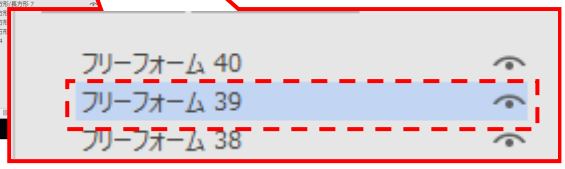




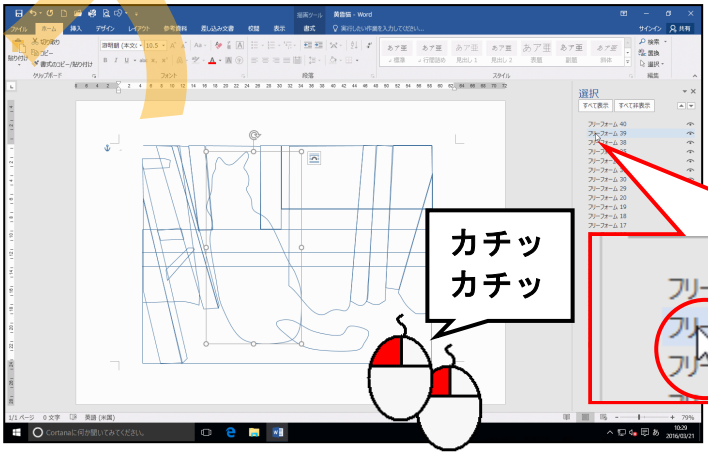
図形で描いた猫の胴体を選択します。

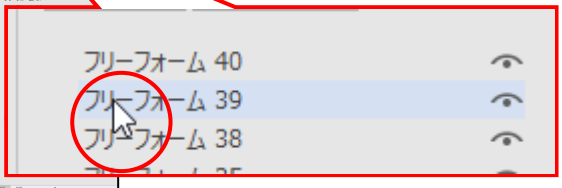


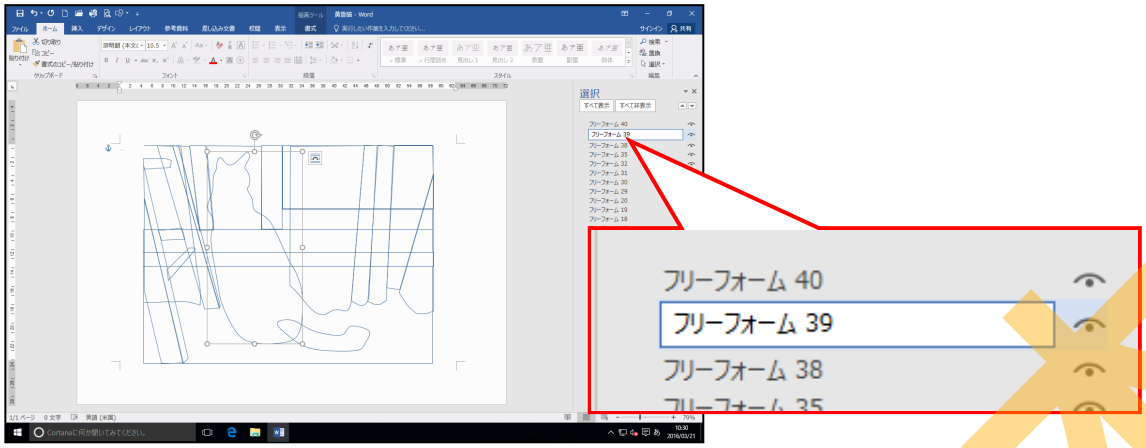
●**「猫の胴体」**を選択すると、**［選択］ウィンドウ**内の**「フリーフォーム 39」**が薄い青色に反転表示されます。皆さんの**「猫の胴体」**がテキストと同じ番号とは限りません。



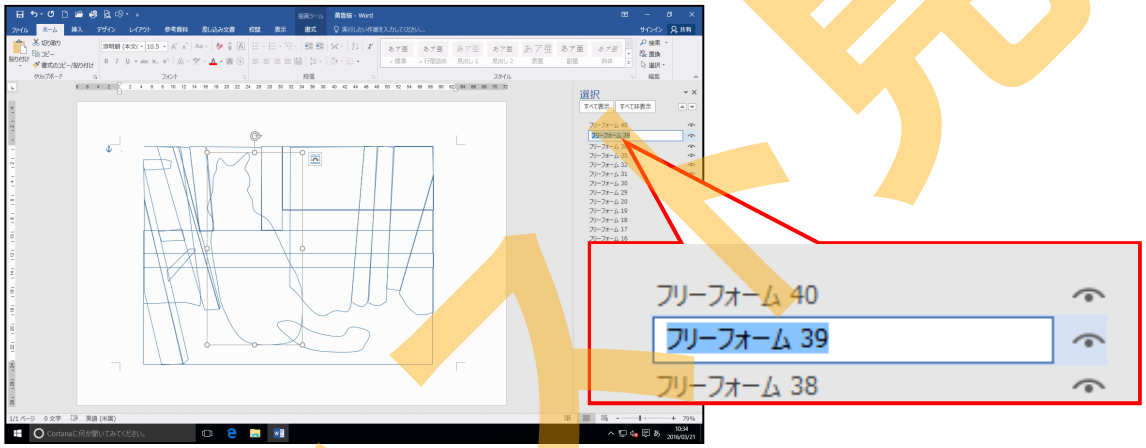
猫の胴体に該当する「フリーフォーム 39」にポイントし、ダブルクリックします。



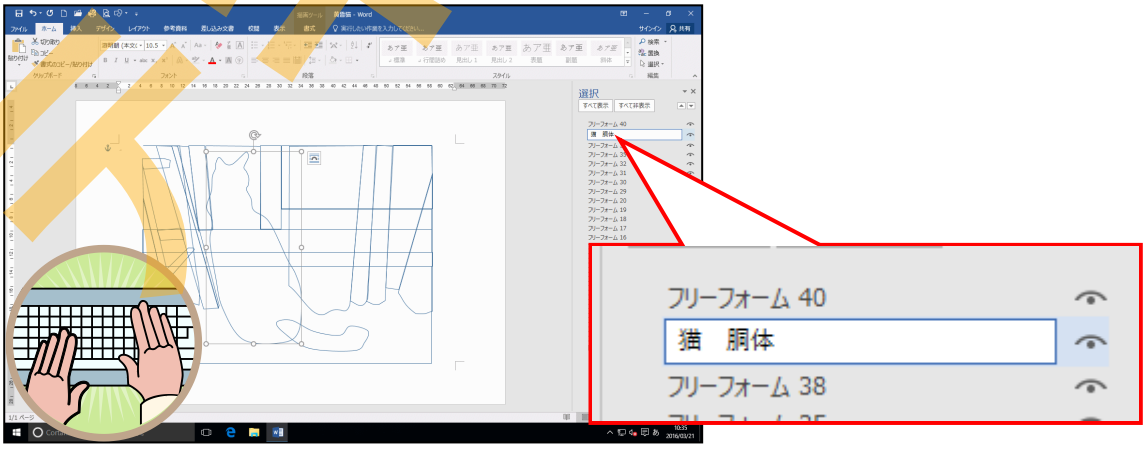




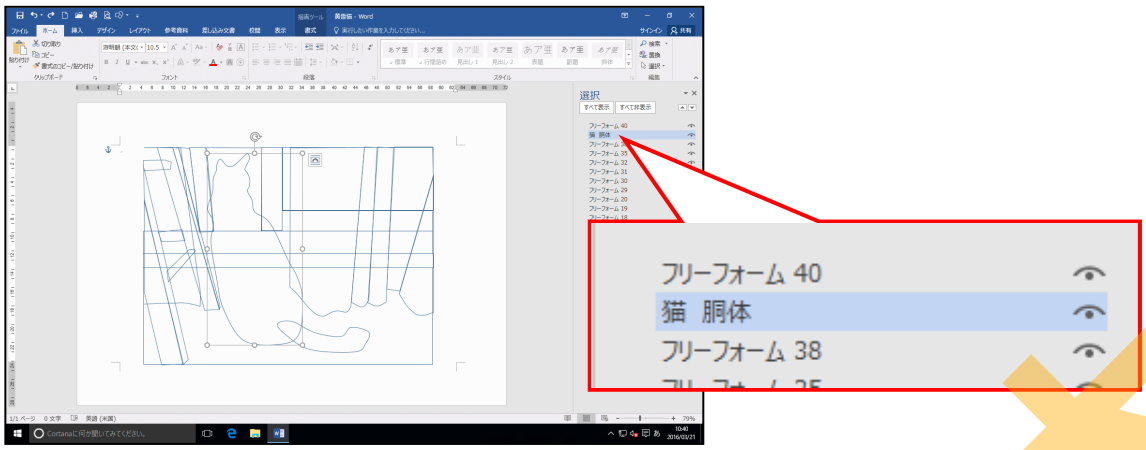
「フリーフォーム 39」を選択して反転表示させます。



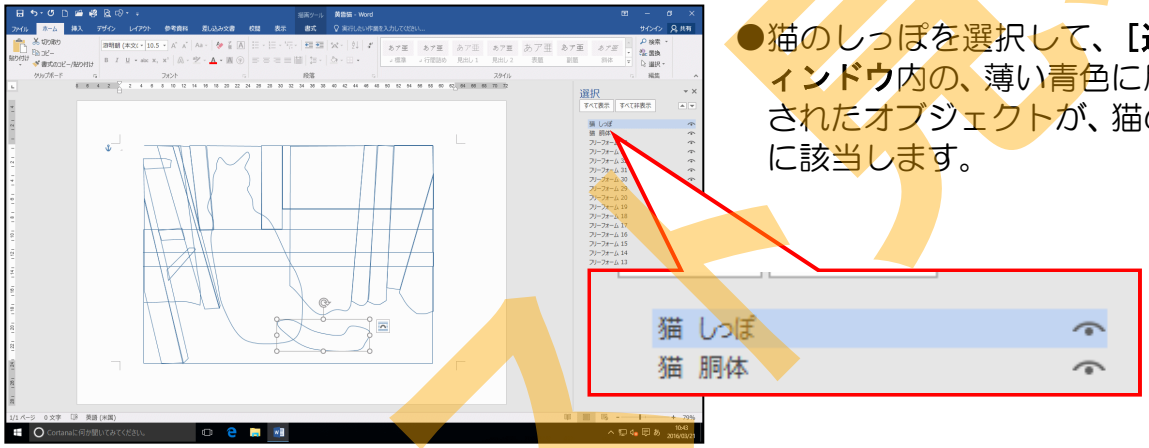
「猫　胴体」と入力します。



［Enter］キーを押して、名前を確定します。

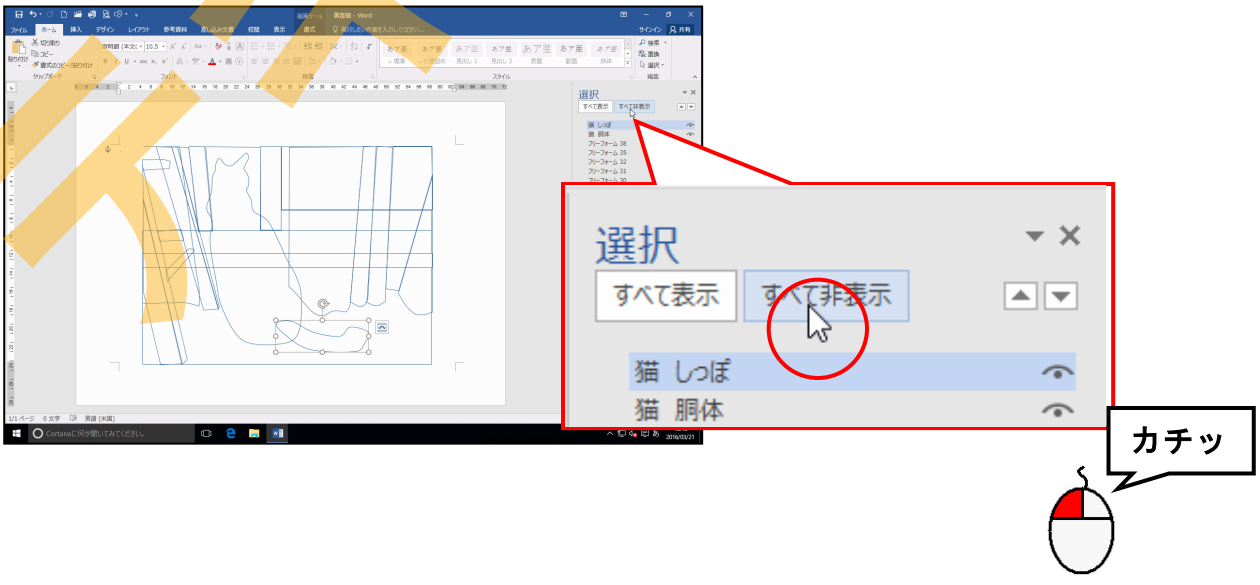


同様にして、しっぽを選択し、該当するオブジェクトを「猫　しっぽ」に変更しましょう。

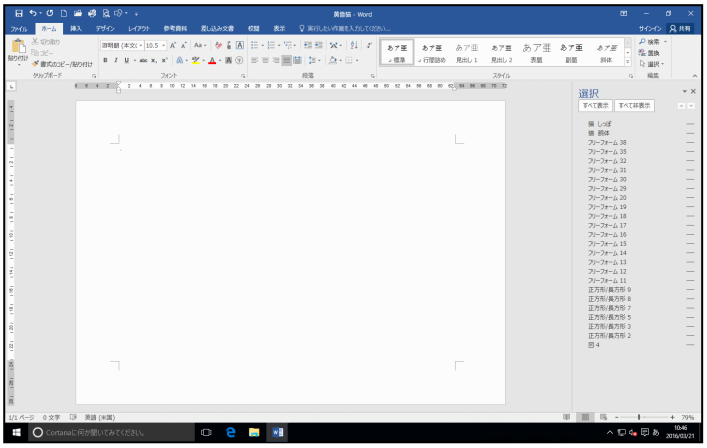


●猫のしっぽを選択して、［**選択**］**ウィンドウ**内の、薄い青色に反転表示されたオブジェクトが、猫のしっぽに該当します。

［すべて非表示］にポイントし、クリックします。

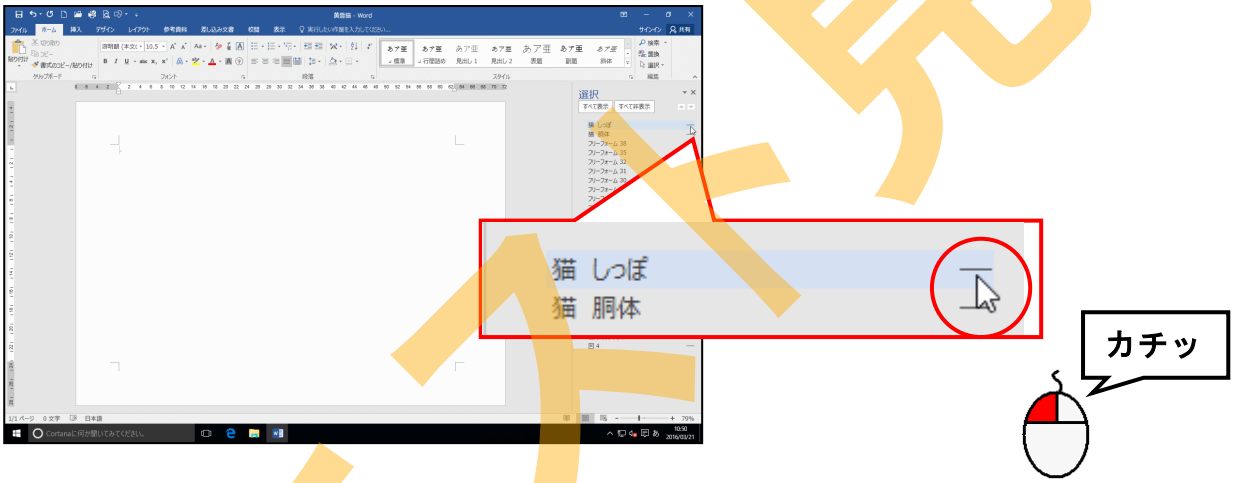


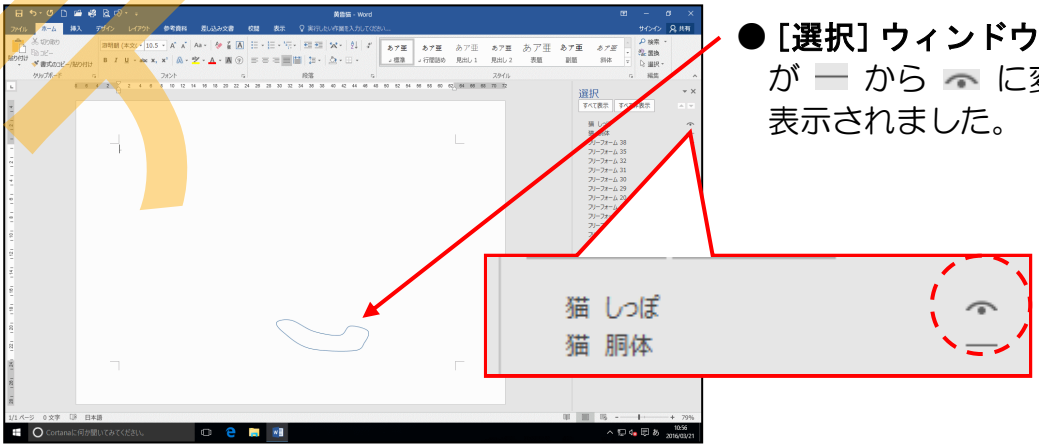
体験版



●すべてのオブジェクトが非表示になりました。

「猫　しっぽ」の ― にポイントし、クリックします。

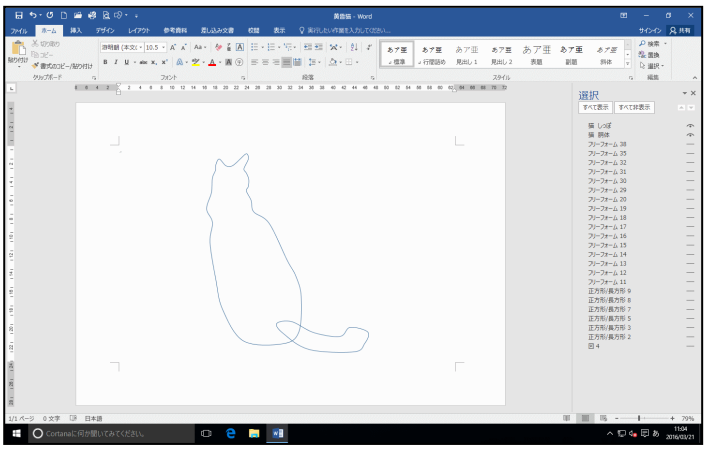




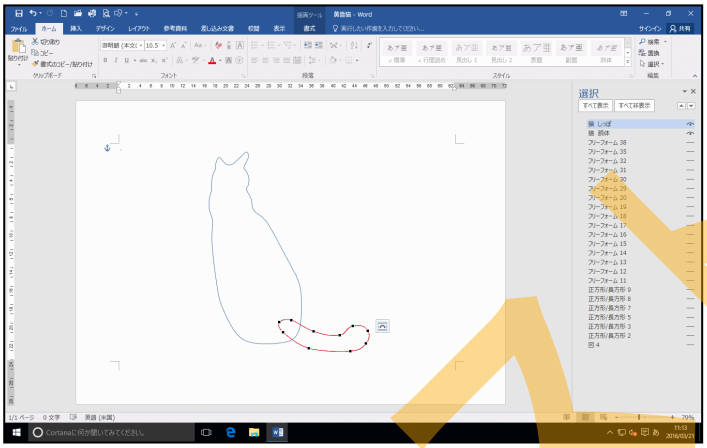
●**[選択]ウィンドウの「猫　しっぽ」**が ― から 👁 に変わり、しっぽが表示されました。

本紙テキスト

同様にして、「猫　胴体」を表示します。



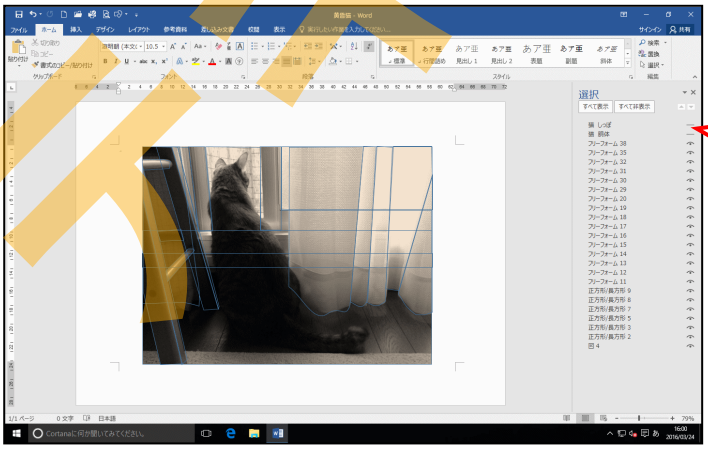
「猫　胴体」、「猫　しっぽ」の曲線を整えましょう。



●必要に応じて、写真を表示したり非表示にして確認しながら修正しても構わないです。



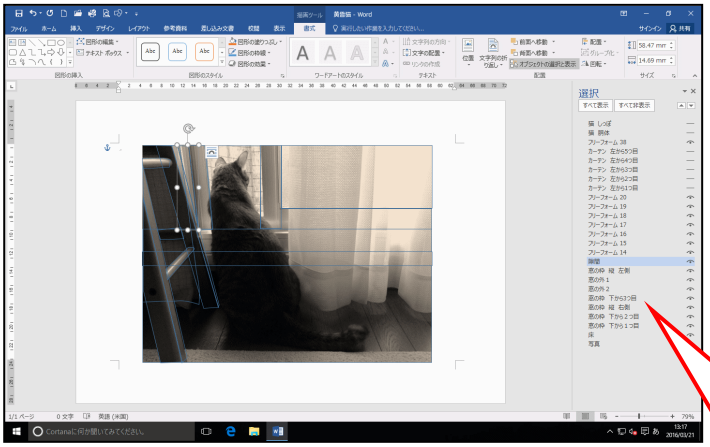
次の操作のために、「猫　胴体」、「猫　しっぽ」以外のオブジェトを再表示しておきましょう。





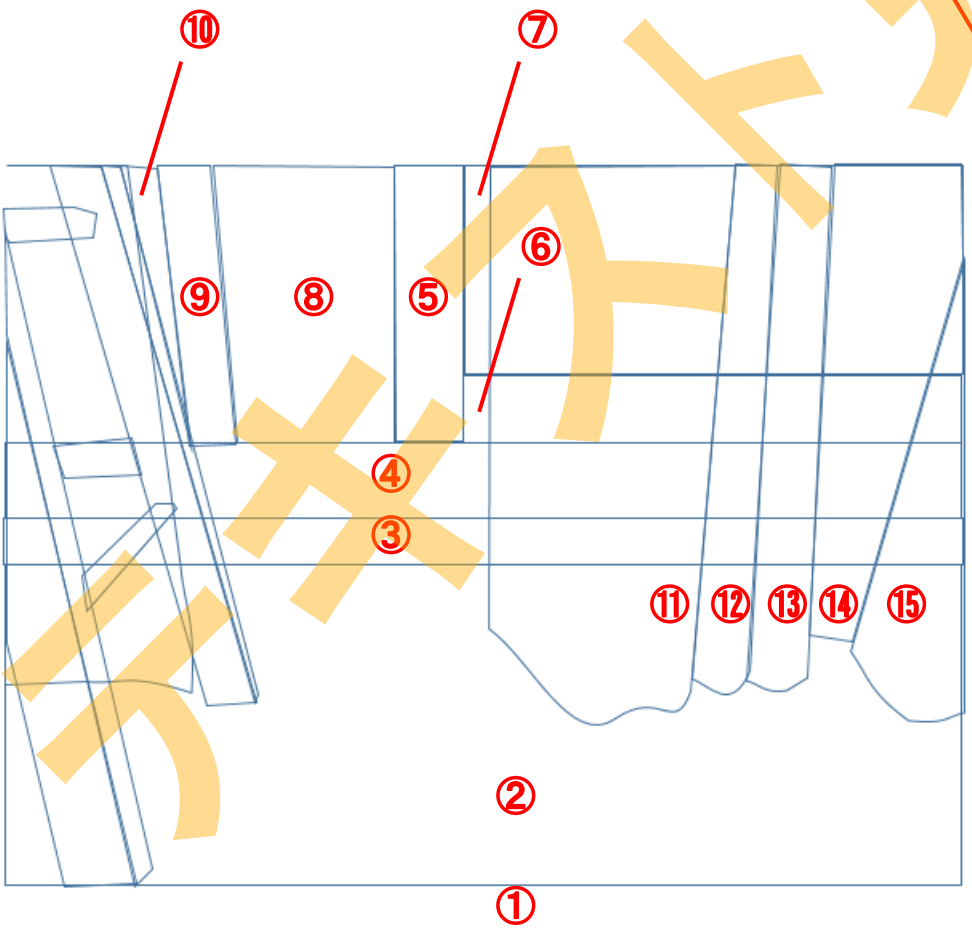
テスト用

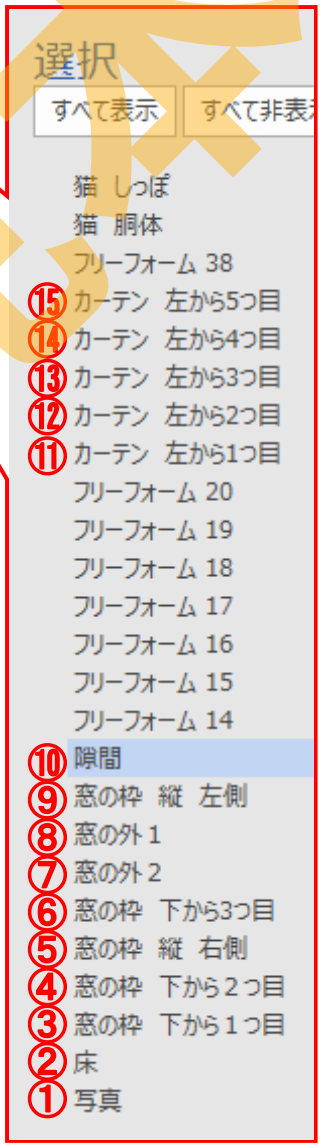
オブジェクト、ひとつひとつに名前を付けましょう。



●オブジェクトに名前を付ける際、簡潔でわかりやすい名前がいいです。

●オブジェクトを選択するときに、線の上をクリックするようにしましょう。

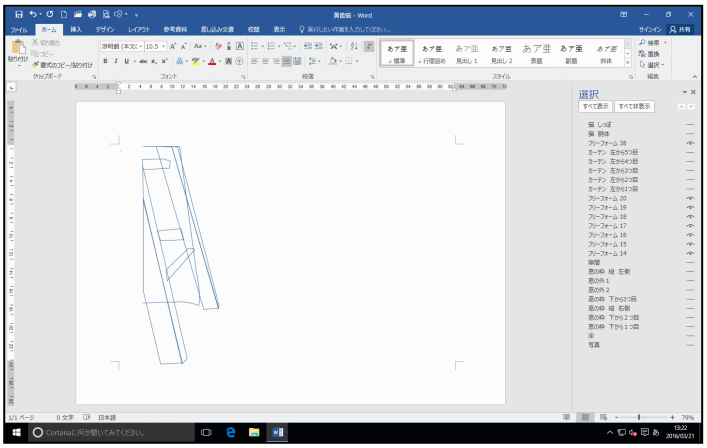




テスト用

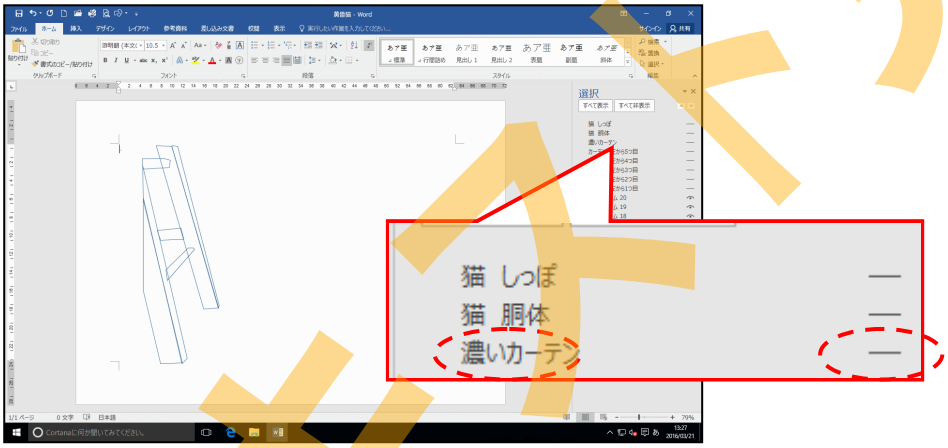
●操作の復習と、次の操作の準備として・・・

先ほど名前を付けたオブジェクトをすべて非表示にしましょう。

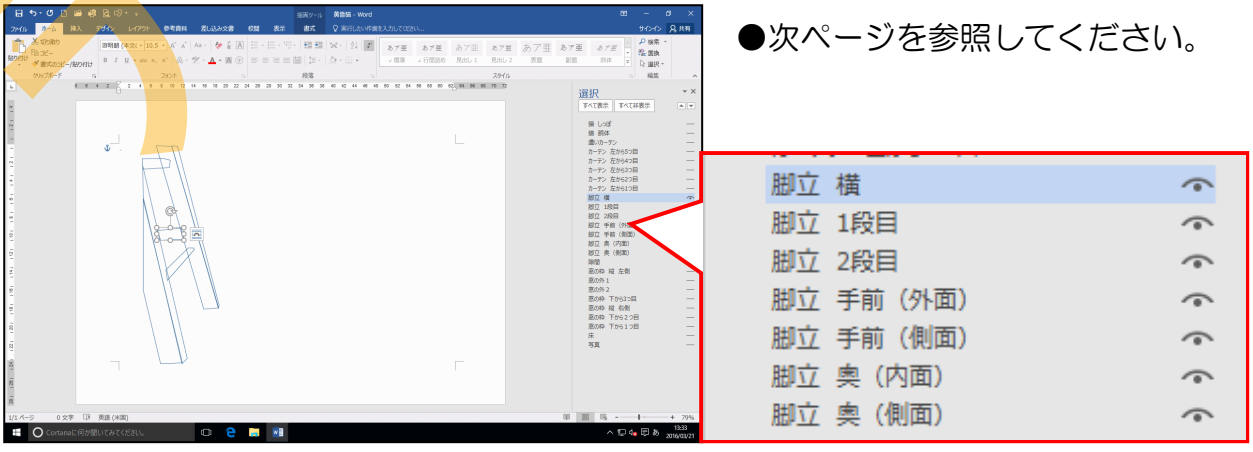


●まだ名前が付いていない脚立のオブジェクトと、左側のカーテンのみが残ります。

カーテンを選択し、該当するオブジェクトを「濃いカーテン」に変更し、その後、非表示にします。

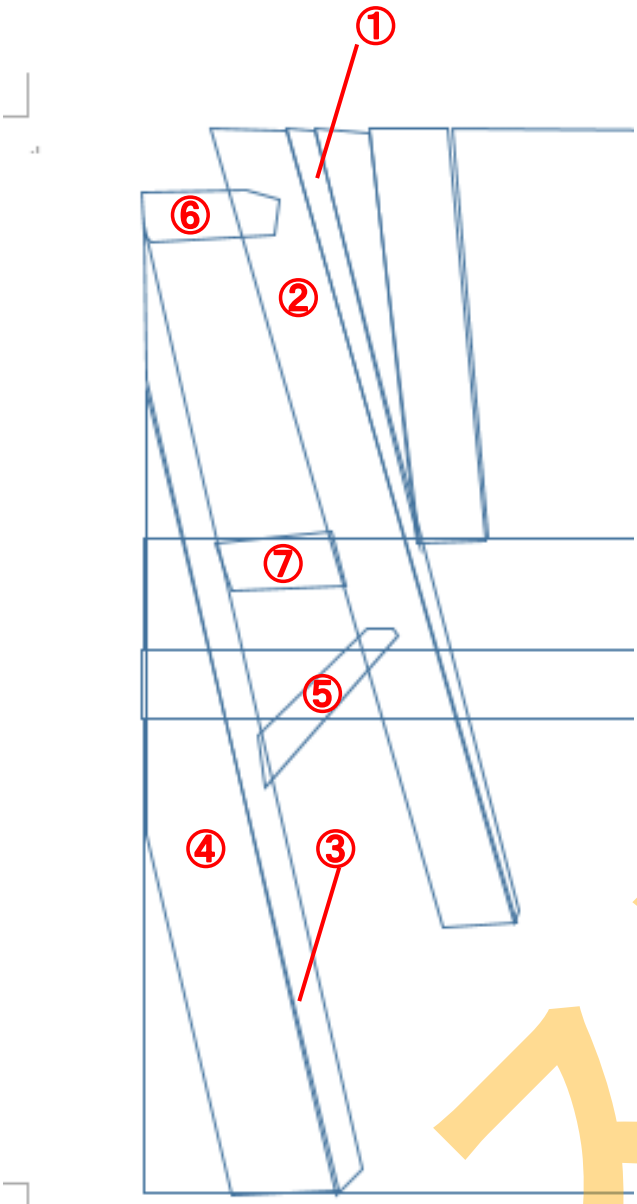


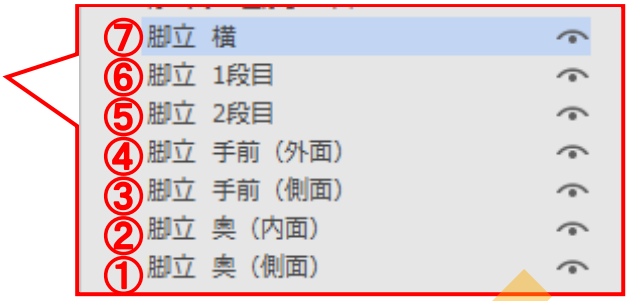
脚立のひとつひとつの部分にそれぞれ名前を付けましょう。



●次ページを参照してください。

体験版





下記のオブジェクト以外を再表示しましょう。

「写真」、「猫　胴体」、「猫　しっぽ」、「カーテン左から１つ目」～「カーテン左から５つ目」

テキスト用本

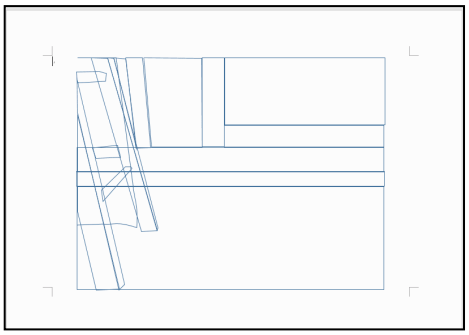
（4）色を塗る

①　［選択］ウィンドウを活用して塗りつぶす

ふちどりが完成したところで、色を塗っていきましょう。ここでは便利な**［選択］ウィンドウ**を活用して塗りつぶしていく方法を説明します。

◆［選択］ウィンドウを活用して塗りつぶす方法をマスターしましょう。

操作前



操作後





［選択］ウィンドウ内の、「窓の外１」にポイントし、クリックします。

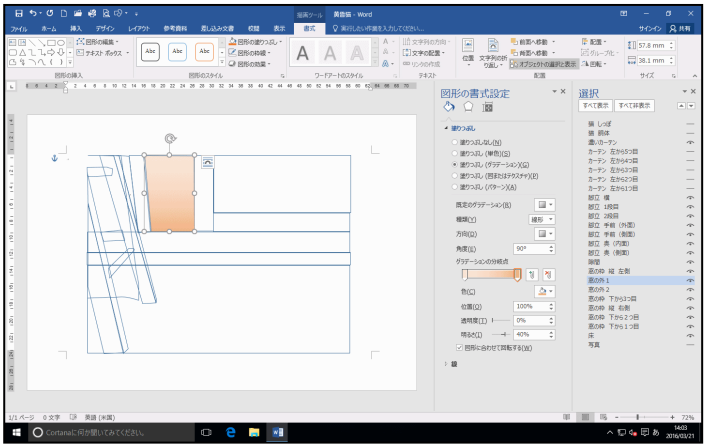


●**「窓の外１」**をクリックすると、それに該当するオブジェクトが選択されます。

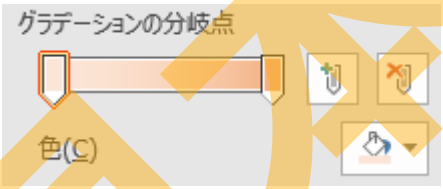
下書き

窓の外を下記のグラデーションの設定で塗りつぶしましょう。

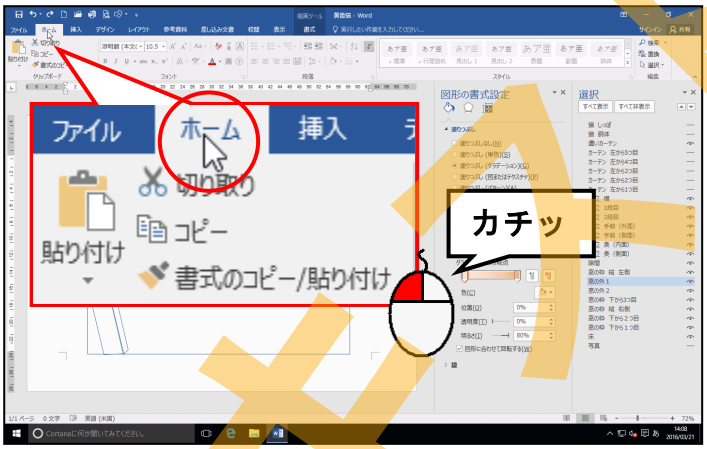
塗りつぶしの色
　グラデーションの分岐点左端：**「オレンジ、アクセント２、白+基本色 80%」**
　グラデーションの分岐点右端：**「オレンジ、アクセント２、白+基本色 40%」**



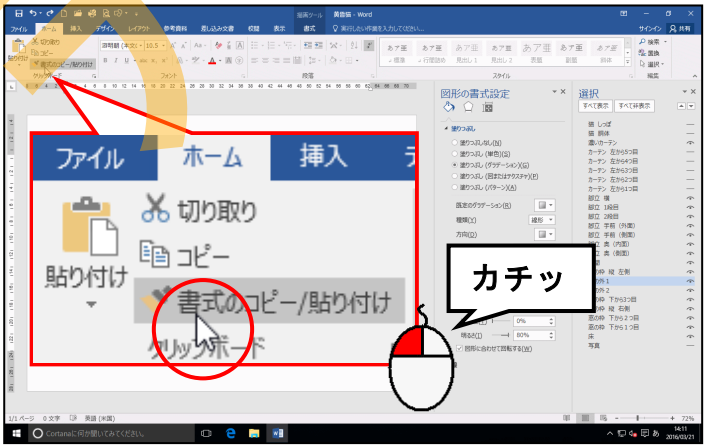
●グラデーションの設定を忘れた方は、**P141 ⑦ なすびに色を塗る（グラデーションの設定）**を参照してください。



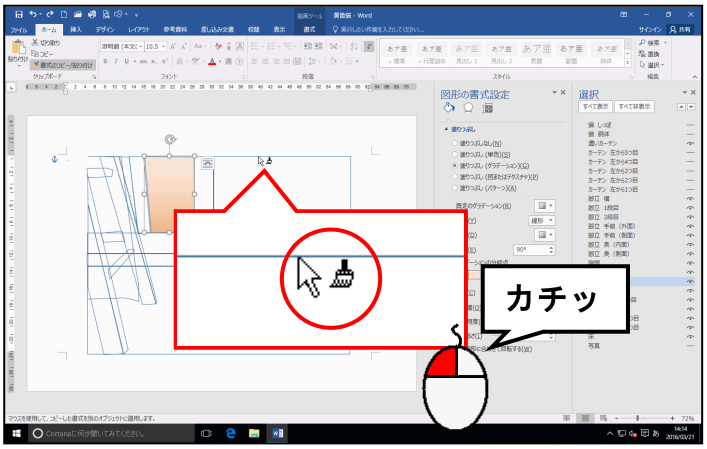
「窓の外１」が選択されていることを確認し、［ホーム］タブにポイントし、クリックします。

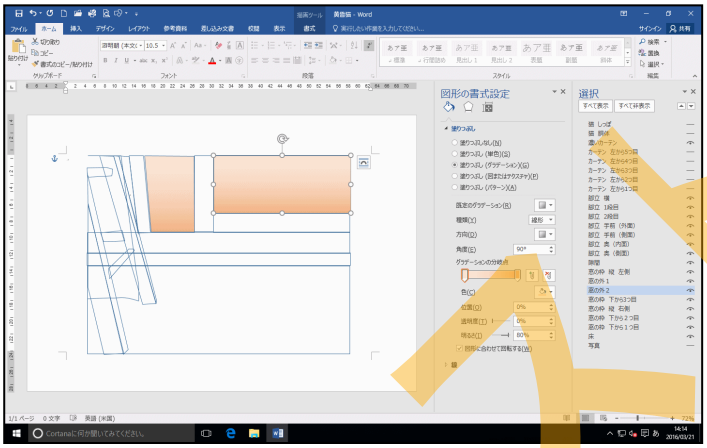


［クリップボード］グループ内の［書式のコピー／貼り付け］ボタンにポイントし、クリックします。



四角形の線上にポイントし、クリックします。

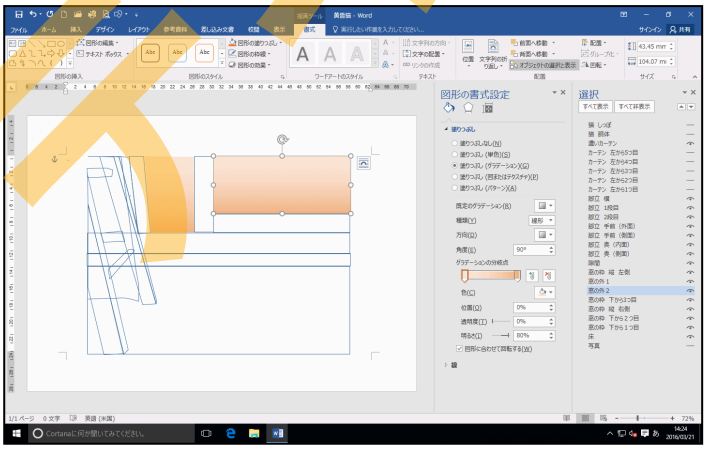




注意!

●図形の枠線以外をクリックすると書式のコピーができませんので注意しましょう。

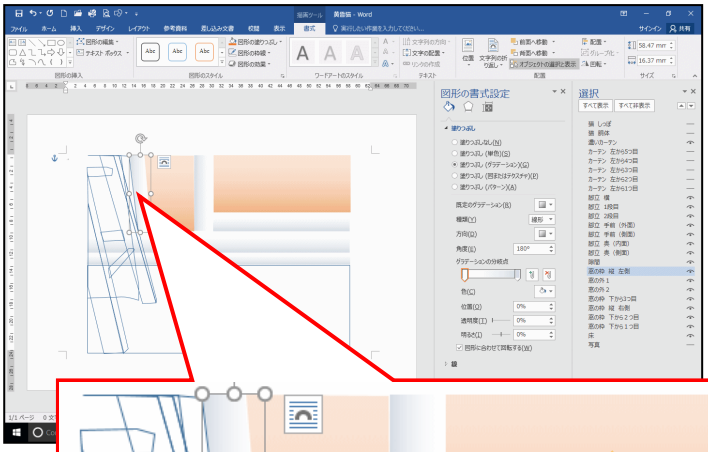
「窓の外１」、「窓の外２」ともに、図形の枠線の色を［線なし］にしておきましょう。



本試験

同様にして、窓の枠も下記のように設定しましょう。

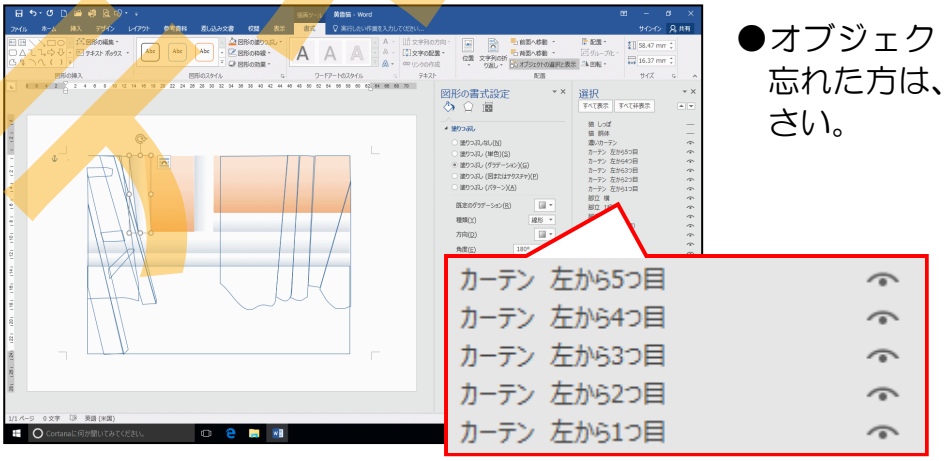
「窓の枠」すべての塗りつぶしの色
　グラデーションの分岐点左端：**「白、背景１」**、
　グラデーションの分岐点右端：**「ブルーグレー、テキスト２、白+基本色 80%」**
　窓の枠　縦（左側）：色は上記と同じ／方向→**「左方向」**
　窓の枠　縦（右側）：　　〃
「窓の枠」の枠線の色：**「線なし」**



●［選択］ウィンドウ内のオブジェクトをクリックして選択した方が、直接図形を選択するよりも、選択がしやすくなります。



［選択］ウィンドウ内の、右側のカーテンに関するオブジェクトを表示させます。

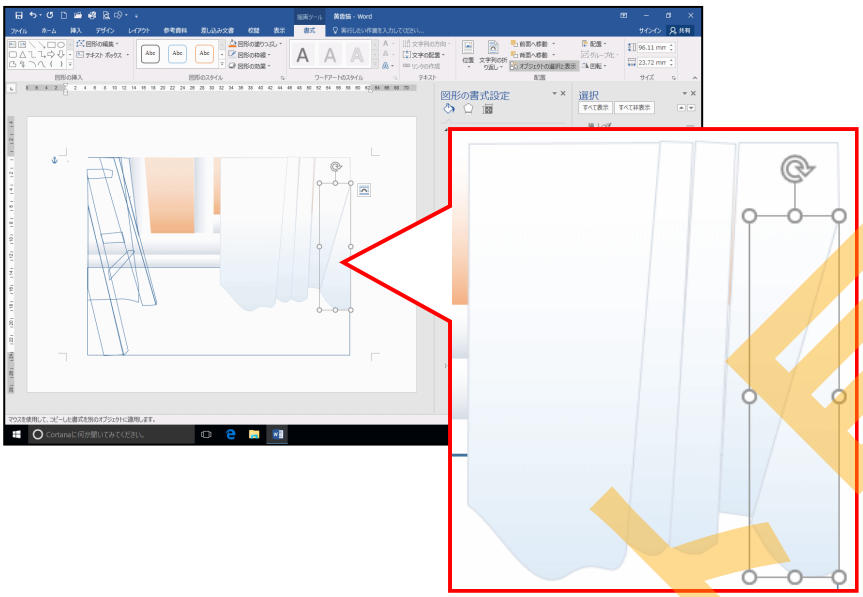


●オブジェクトを表示させる方法を忘れた方は、P176 を参照してください。

体験版

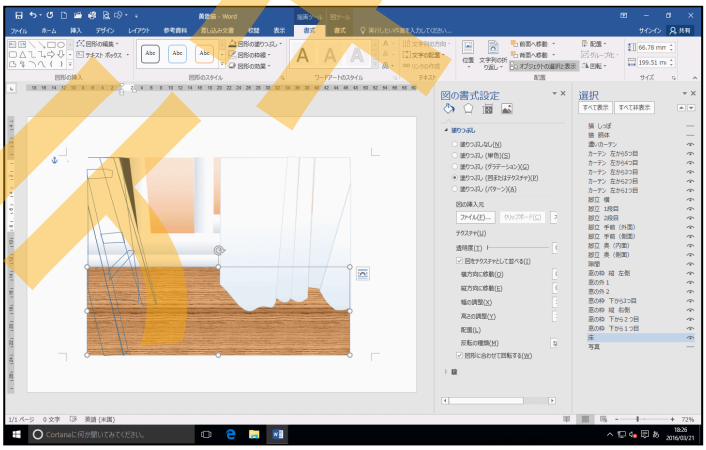
同様にして、カーテンも下記のように設定しましょう。

「カーテン」すべての塗りつぶしの色
　グラデーションの分岐点左端：**「白、背景１」**
　グラデーションの分岐点右端：**「青、アクセント１、白+基本色 80%」**
　方向：**「下方向」**
「カーテン」の枠線の色：**「ブルーグレー、テキスト２、白+基本色 80%」**



「隙間」と「床」を、下記のように設定しましょう。

「隙間」の塗りつぶしの色：**「濃い青」**
「床」の塗りつぶしの色：テクスチャ→**「オーク」**
「床」の枠線の色：**「線なし」**



サンプル

② その他の色（グラデーション）を利用して塗りつぶす

グラデーションの塗りつぶしはすでに説明しましたが、ここではその中の「その他の色」で塗りつぶす方法を説明します。

◆その他の色を使い、図形を塗りつぶす方法をマスターしましょう。

操作前

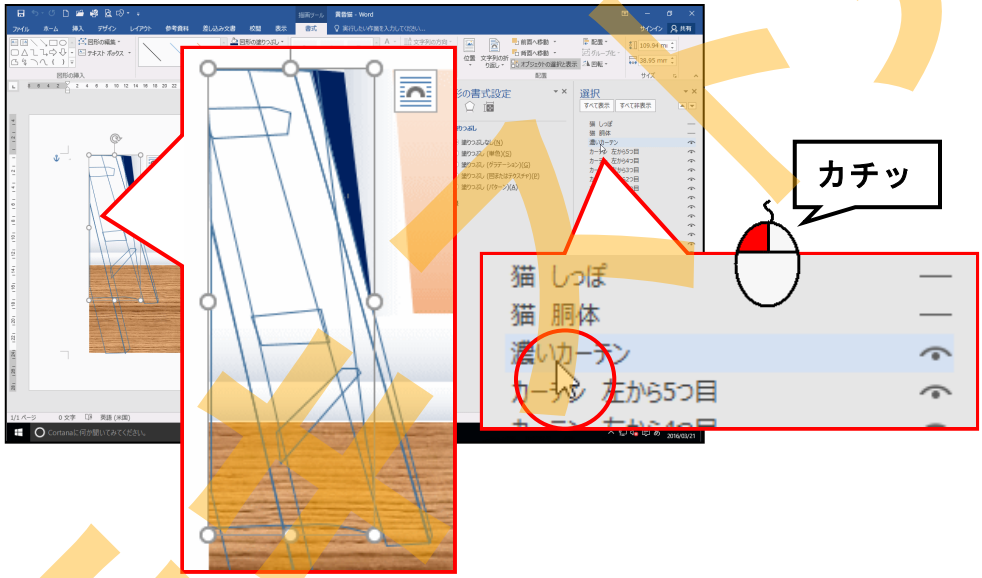


操作後

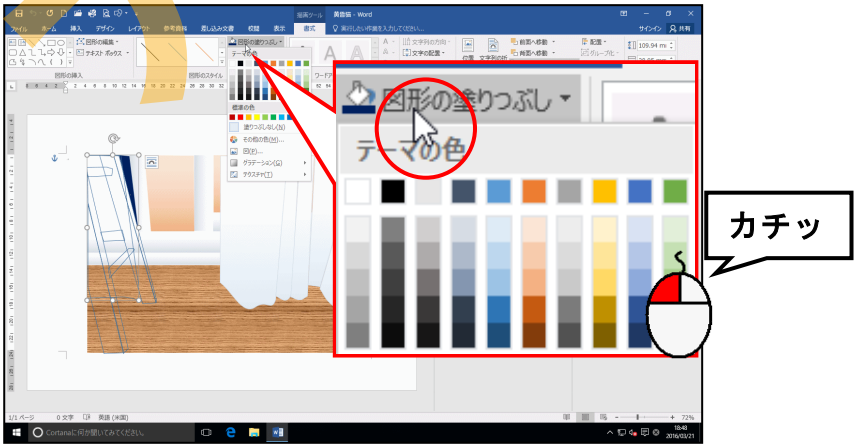




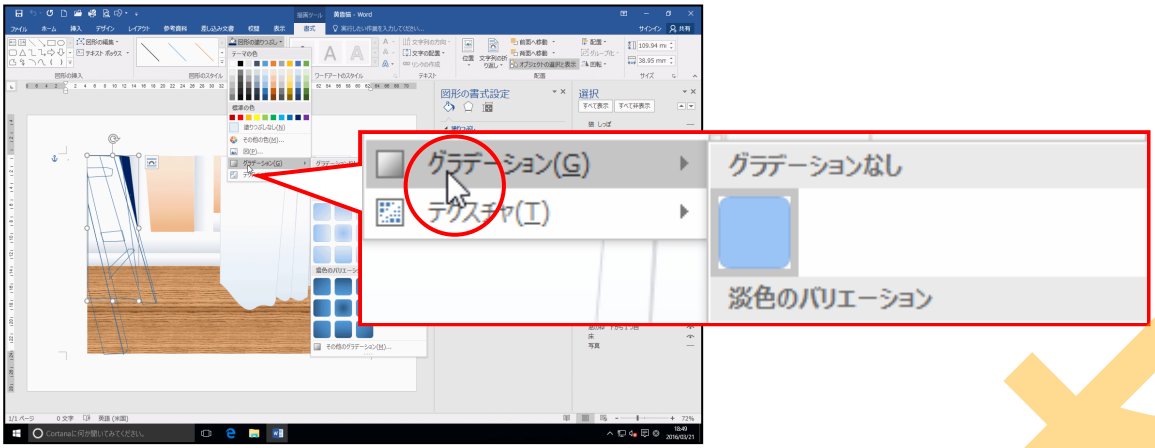
［選択］ウィンドウ内の、「濃いカーテン」を選択します。



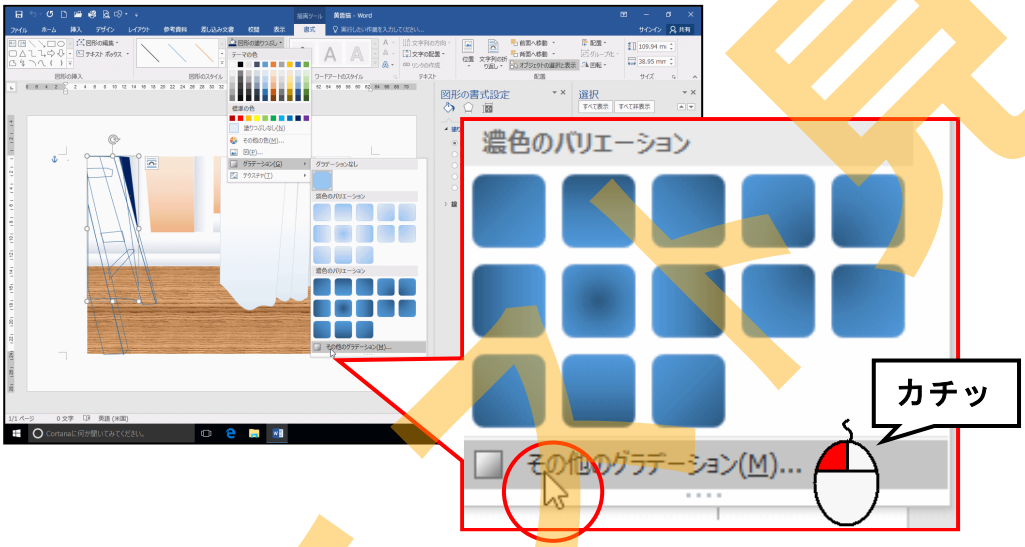
［図形のスタイル］グループにある 図形の塗りつぶし ［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。



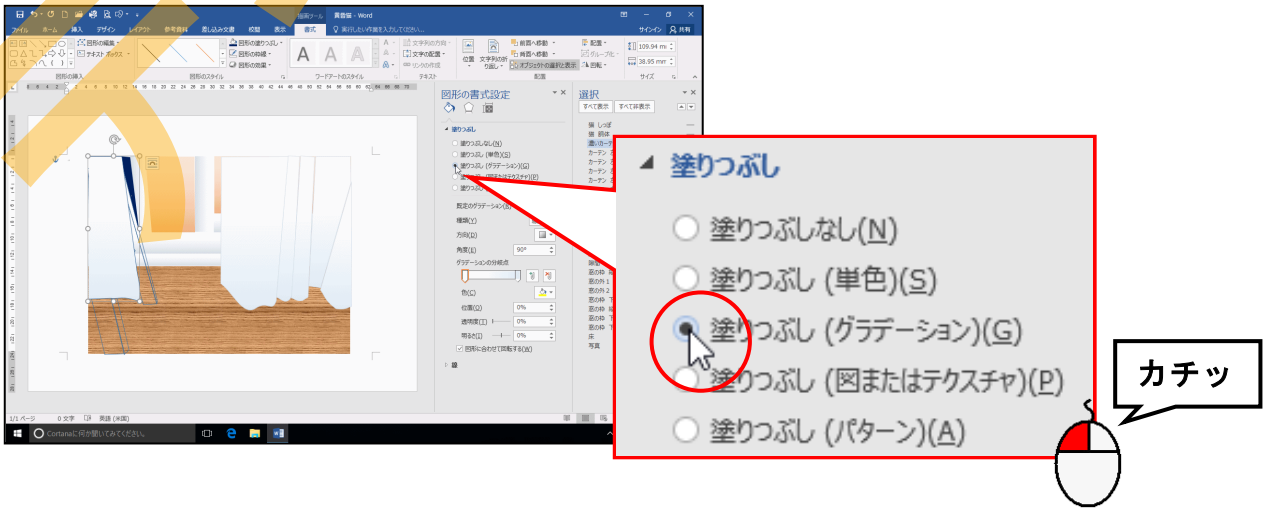
表示された一覧から［グラデーション(G)］にポイントします。



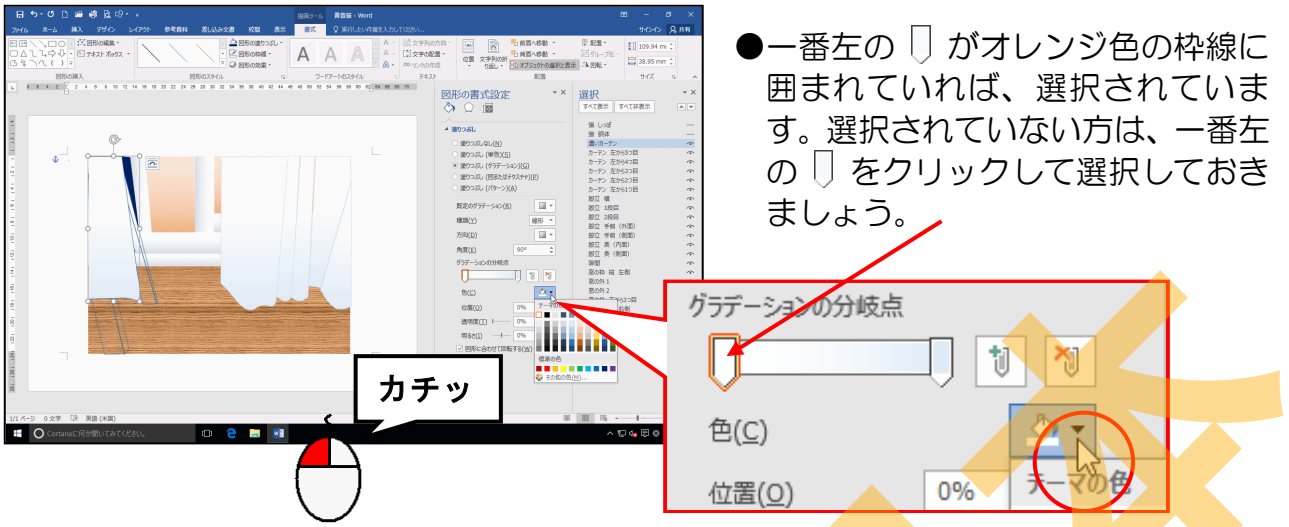
右側に表示された一覧から［その他のグラデーション(M)...］にポイントし、クリックします。



［図形の書式設定］ウィンドウで、［塗りつぶし(グラデーション)(G)］のチェックボックスにポイントし、クリックします。

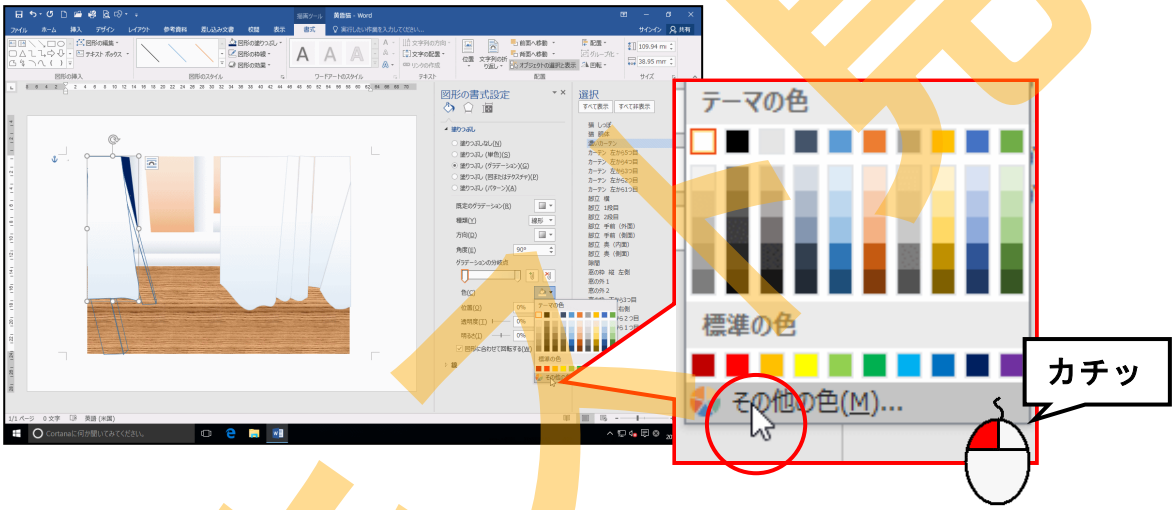


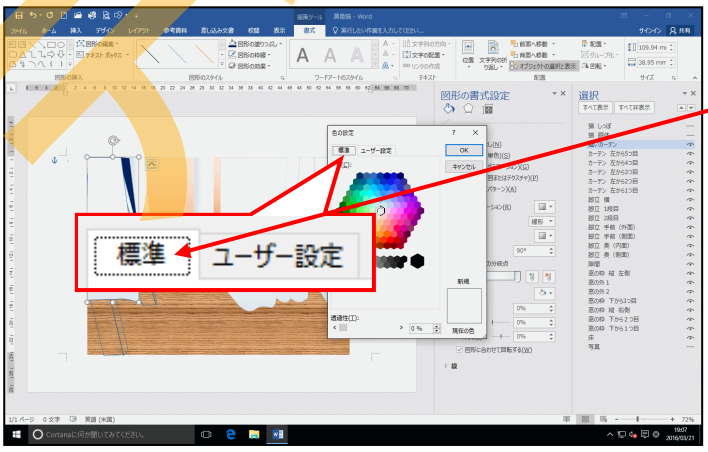
［グラデーションの分岐点］で、一番左の が選択されていることを確認し、［色］ボタンにポイントし、クリックします。



●一番左の がオレンジ色の枠線に囲まれていれば、選択されています。選択されていない方は、一番左の をクリックして選択しておきましょう。

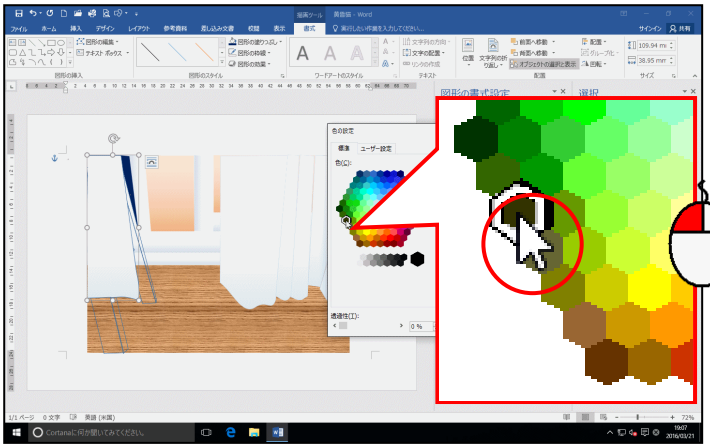
［その他の色(M)...］にポイントし、クリックします。





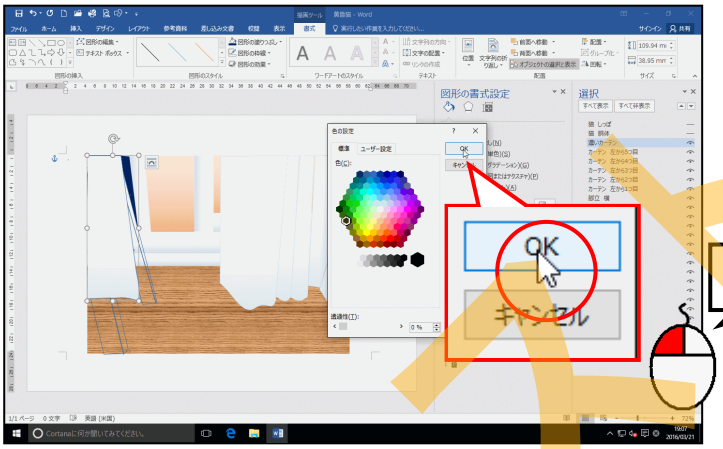
●［**その他の色**(M)...］をクリックすると、左のように［**色の設定**］**ダイアログボックス**の［**標準**］**タブ**が表示されます。
［**標準**］**タブ**が選択されていない方は、［**標準**］**タブ**をクリックして選択しておきましょう。

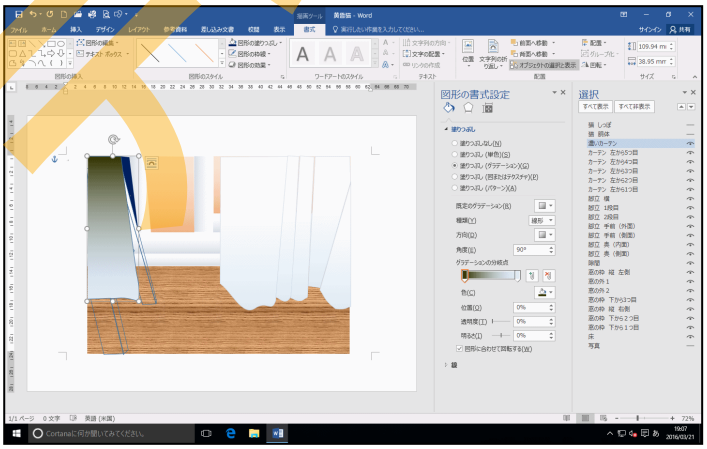
下図のマウスポインターの指す色をクリックします。



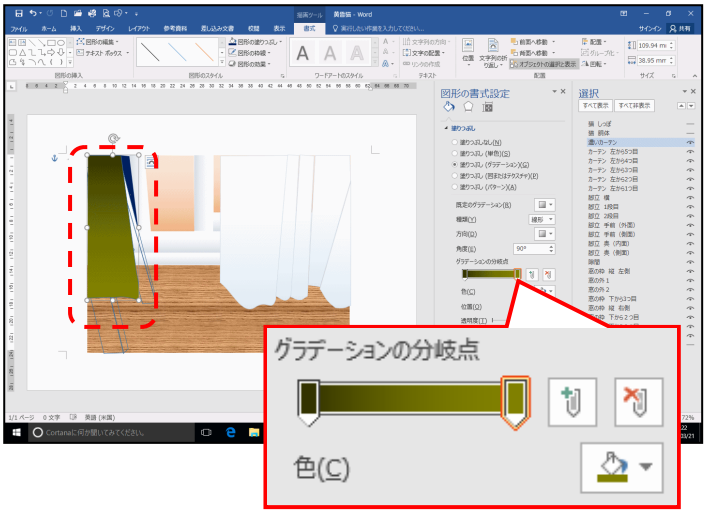
その他の色についての補足説明 P226

［ＯＫ］ボタンにポイントし、クリックします。



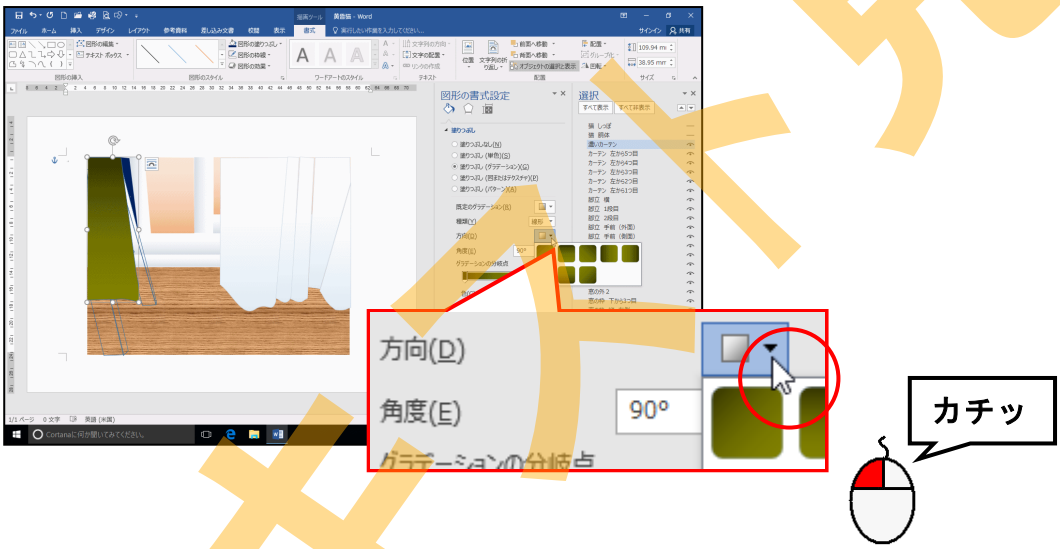


同様にして、グラデーションの分岐点右端の色を、右図で示す色に設定しましょう。

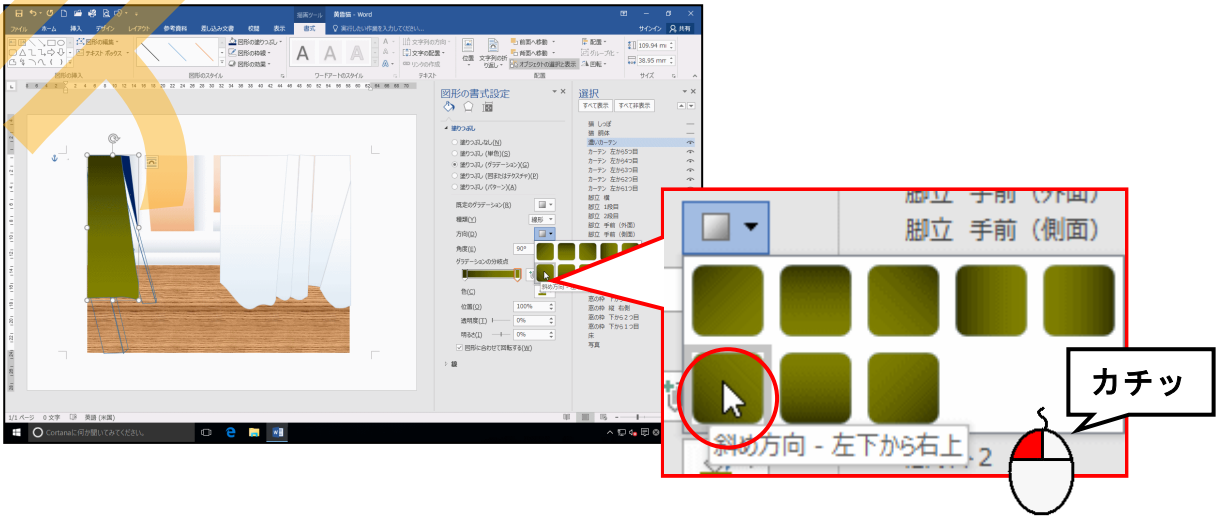


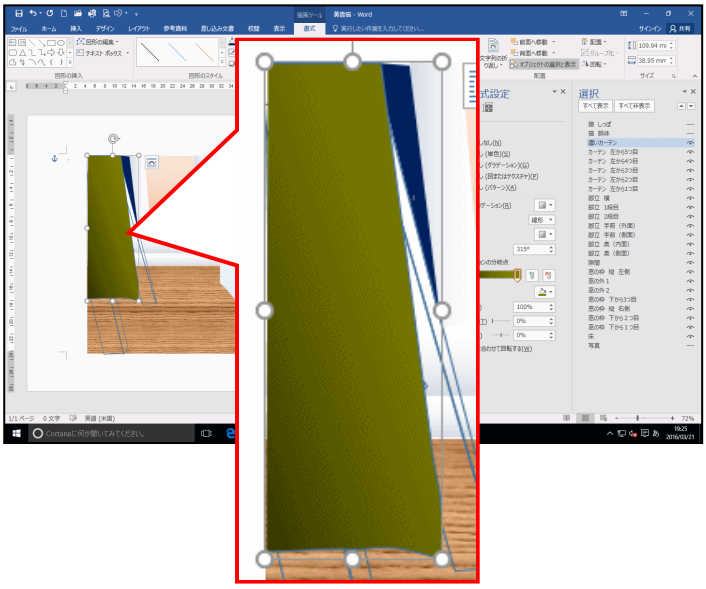


［方向(D)］ボタンにポイントし、クリックします。



表示された一覧から［斜め方向－左下から右上］にポイントし、クリックします。





●カーテンの色が塗られました。

線の色を「線なし」にしておきましょう。

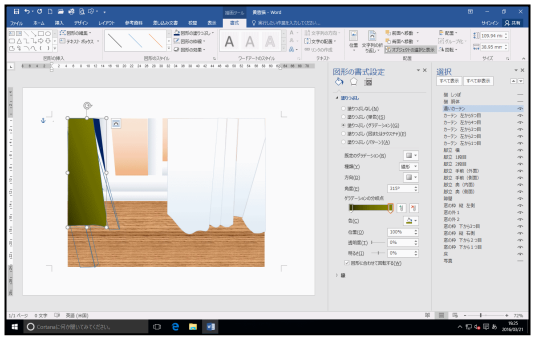
本試験レベル

③ グラデーションの分岐点の追加

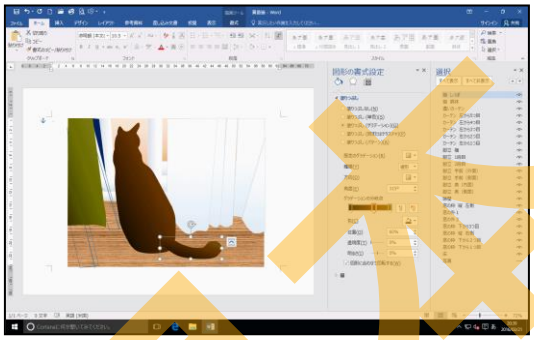
ここでは、猫に塗りつぶしを設定していきます。テキストの流れでは、現在グラデーションの分岐点が２つになっています。分岐点を削除する方法はすでに説明しましたが、今度は分岐点を追加してみましょう。

◆グラデーションの分岐点を追加する方法をマスターしましょう。

操作前

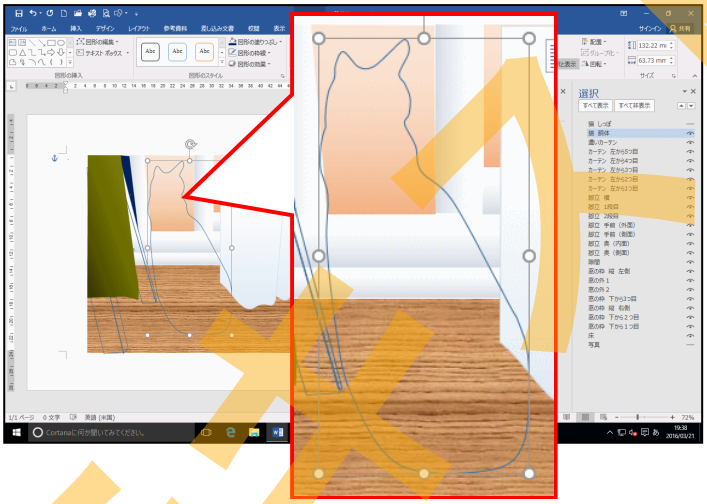


操作後

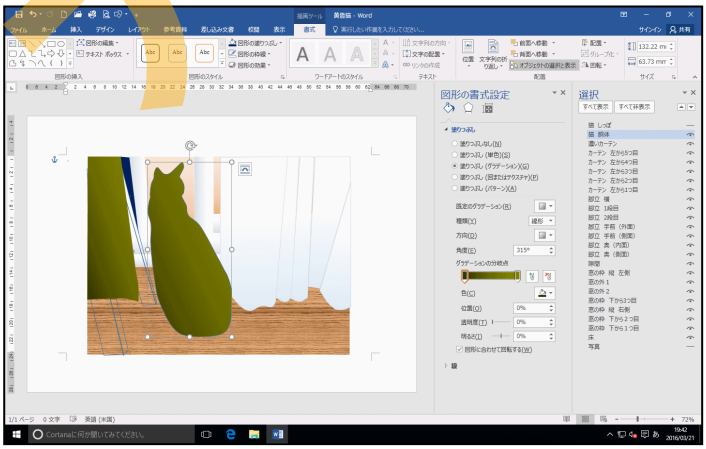




［選択］ウィンドウ内の「猫　胴体」を再表示して選択します。

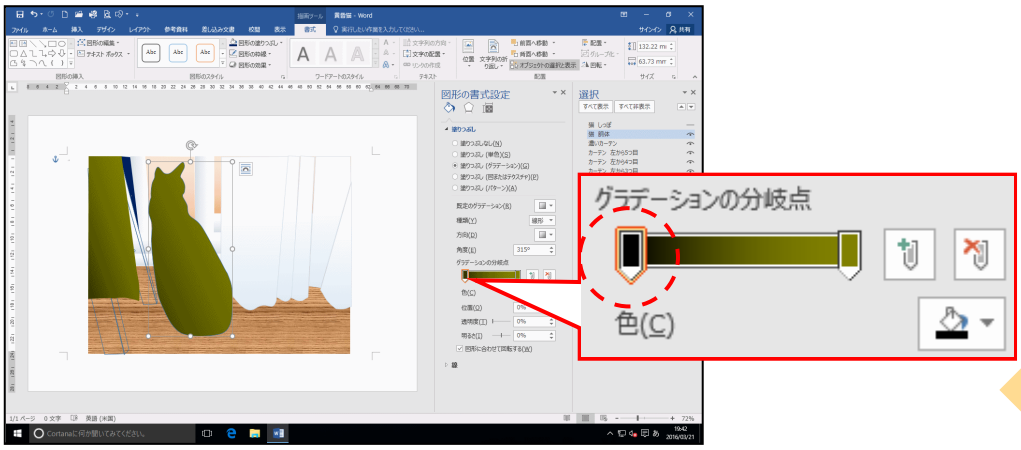


グラデーションを設定するので、［塗りつぶし（グラデーション）(G)］のチェックボックスをオンにします。

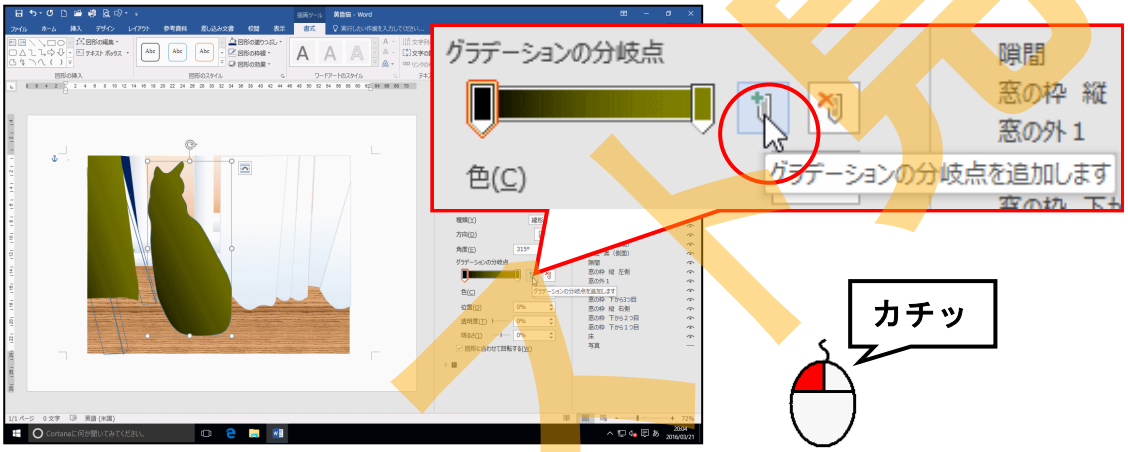


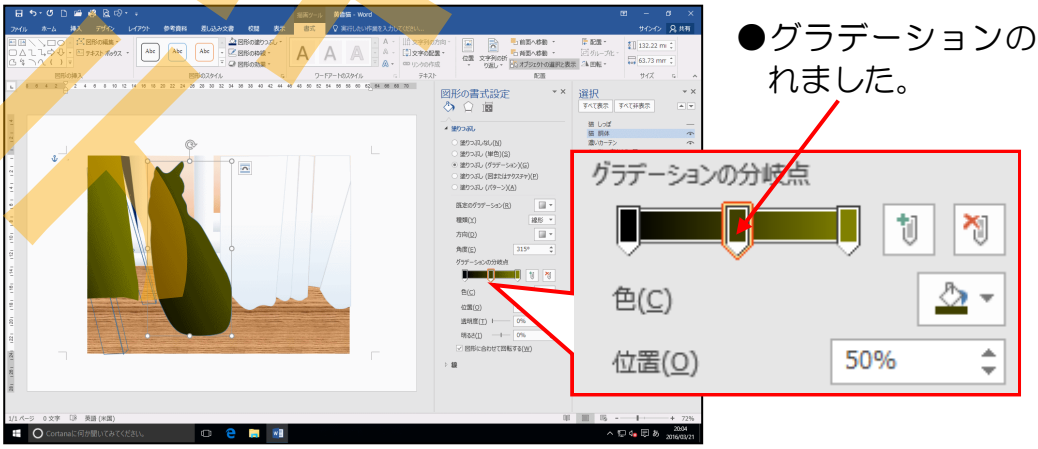
●直前に濃いカーテンのグラデーションを設定したので、猫も濃いカーテンと同じ色になりました。

グラデーションの分岐点の左端を、「黒、テキスト１」に設定しましょう。



にポイントし、クリックします。

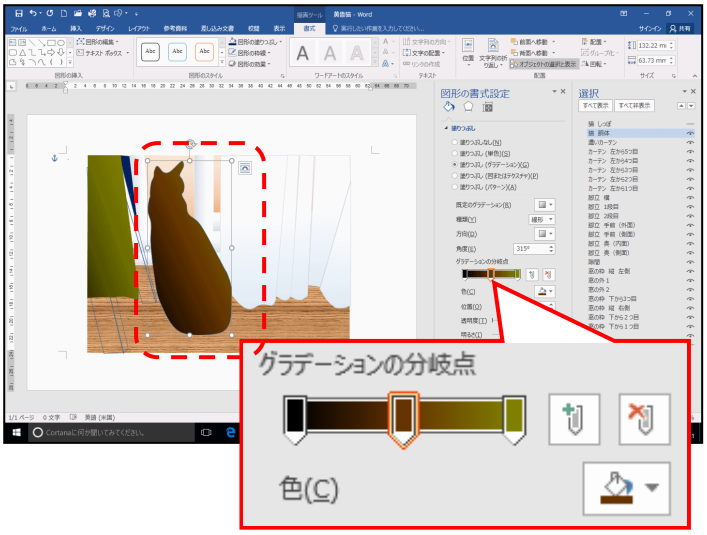




●グラデーションの分岐点が追加されました。

体験版

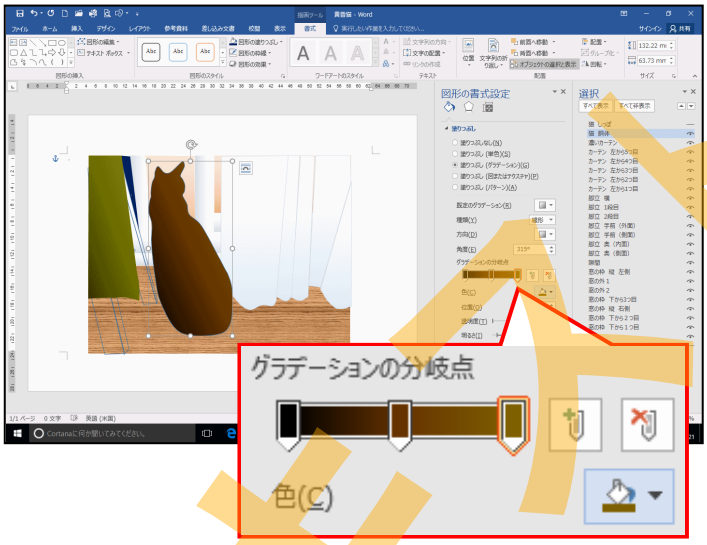
追加した分岐点の色を、その他の色から右の色に設定しましょう。



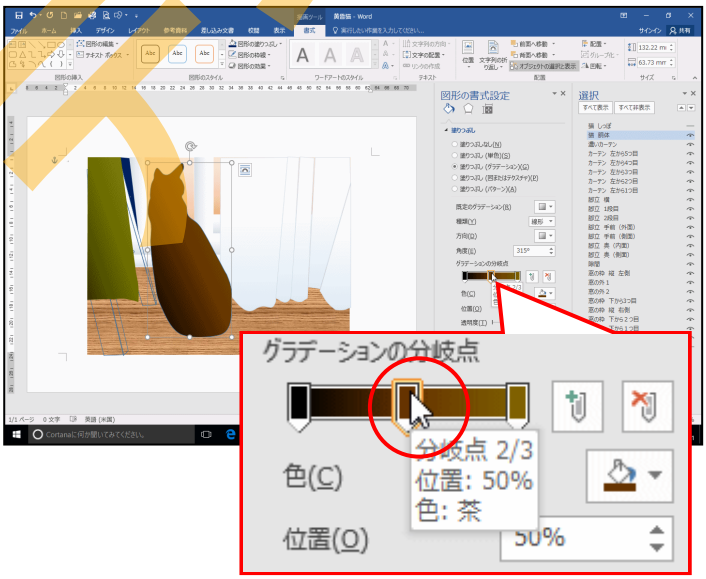
●その他の色の設定方法を忘れた方は、P205～P206 を参照してください。



グラデーションの分岐点の右端を、「ゴールド、アクセント 4、黒＋基本色 50%」に設定しましょう。

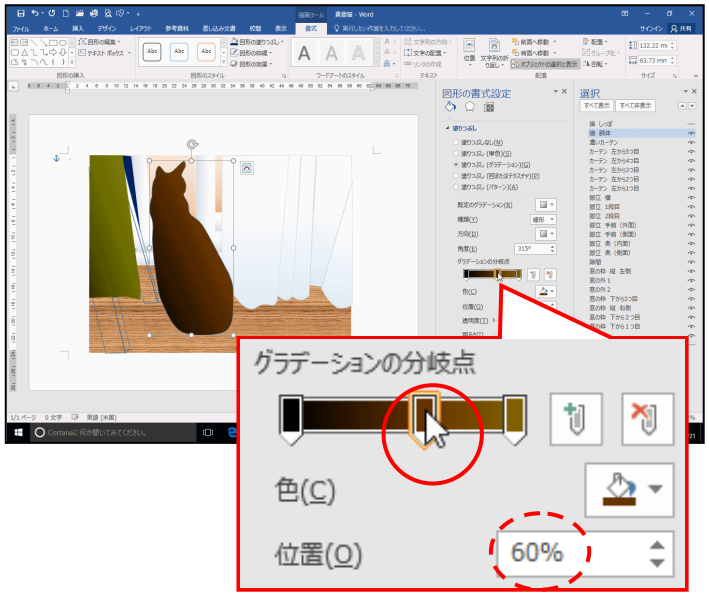


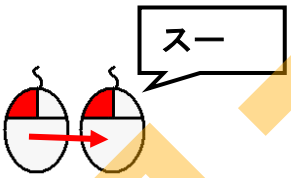
追加した分岐点を選択します。



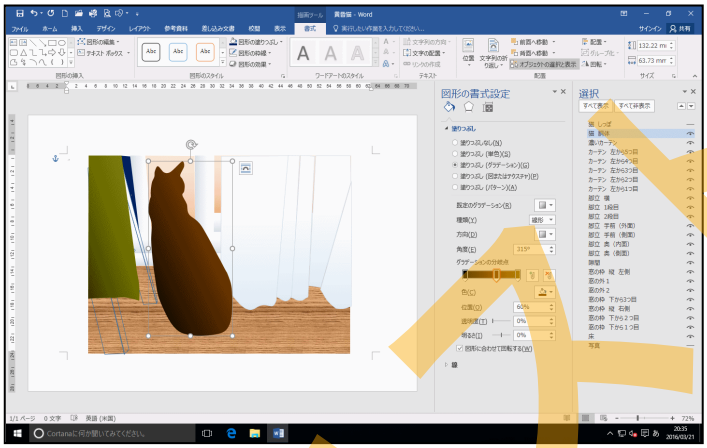
不許可

そのまま、位置が「60%」になるまでドラッグします。

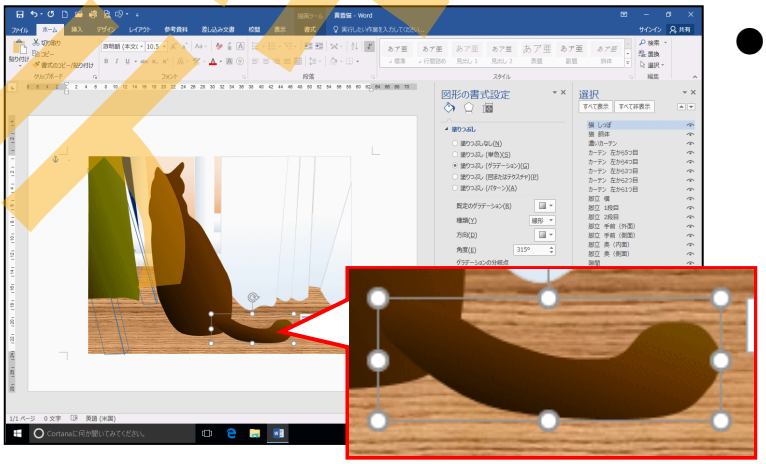




線の色を「線なし」に設定しましょう。



「猫　胴体」の書式を「猫　しっぽ」にコピーしましょう



●書式のコピーを忘れた方は、P102 ②**書式のコピー**を参照してください。

［図形の書式設定］ウィンドウを閉じておきましょう。

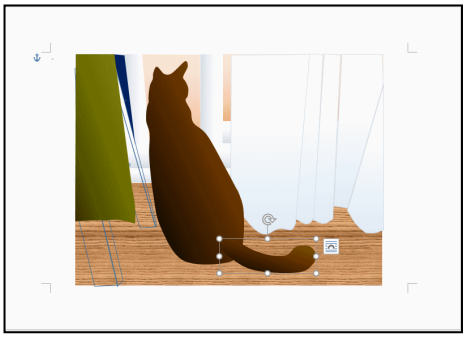
本試験対策

④ その他の色を利用して塗りつぶす

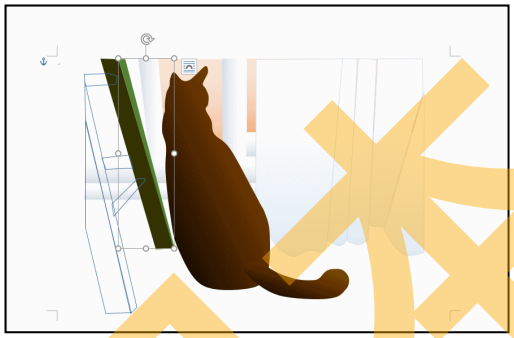
グラデーションで塗りつぶす際に、グラデーションでのその他の色を利用する方法を説明しましたが、ここでは単色に塗りつぶす場合のその他の色を設定する方法を説明します。

◆その他の色で塗りつぶす方法をマスターしましょう。

操作前

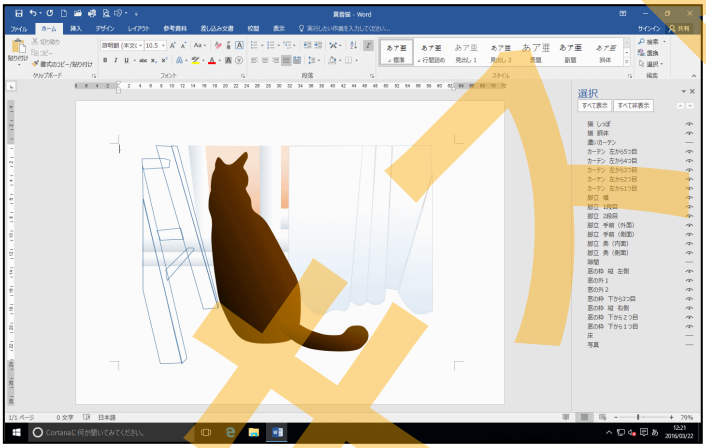


操作後





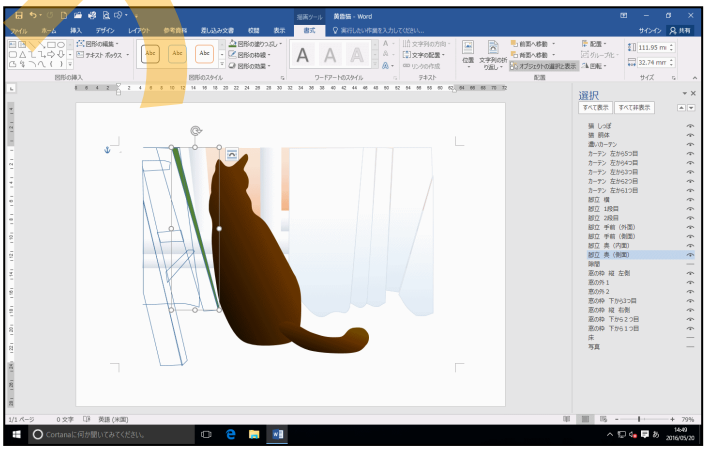
「濃いカーテン」、「隙間」、「床」を非表示にします。



●**「脚立」**を塗りやすくするために、**「脚立」**の周辺のオブジェクトを非表示にします。

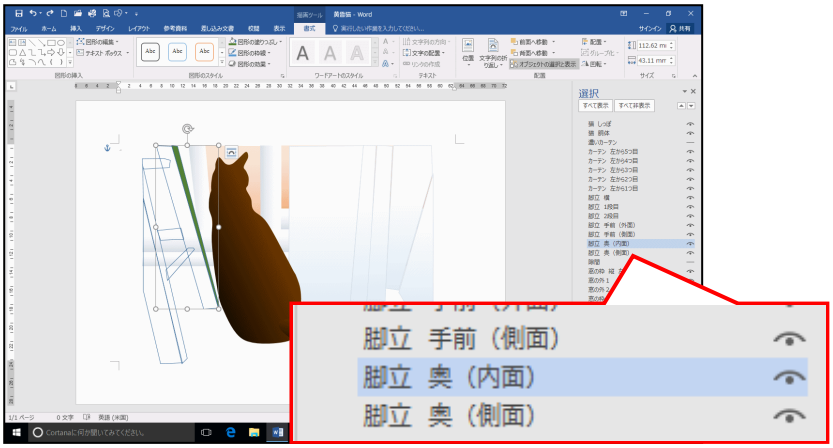
●オブジェクトの非表示を忘れた方は、**P175** を参照してください。

［選択］ウィンドウ内の「脚立　奥（側面）」を選択し、塗りつぶしの色を、「緑、アクセント６、黒+基本色 25%」にします。

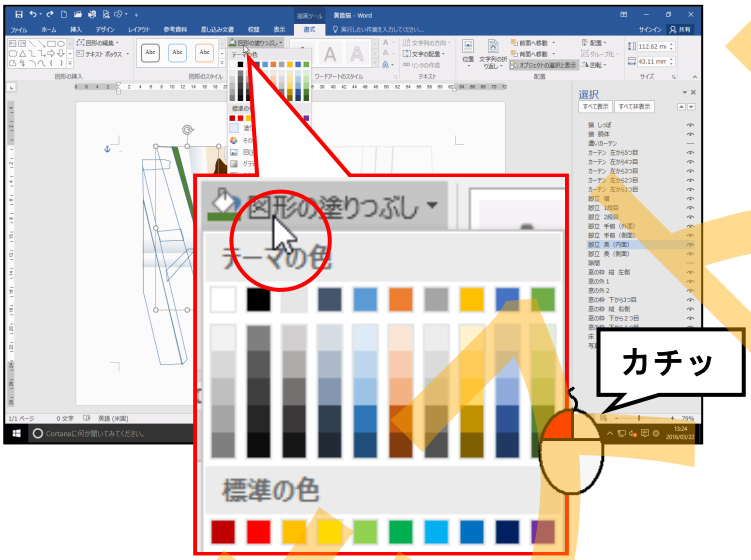


体験版

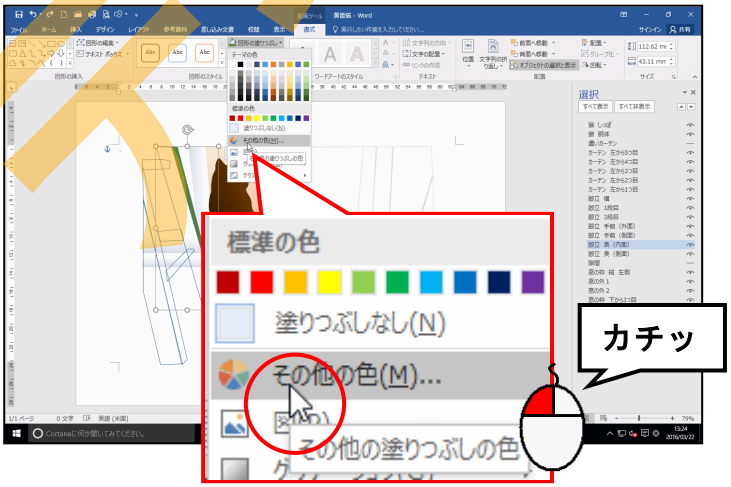
「脚立　奥（内面）」を選択します。



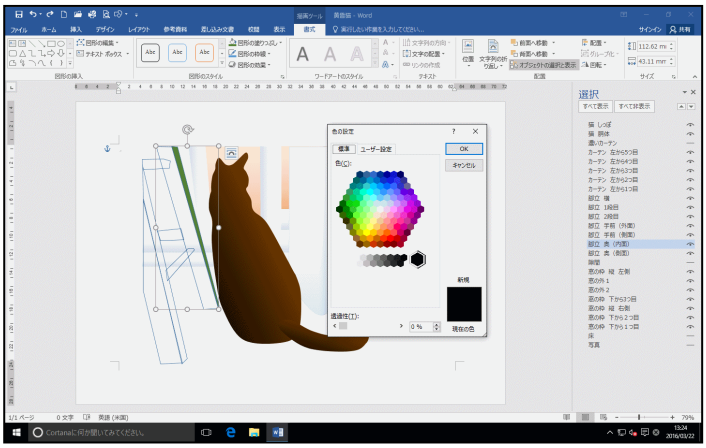
図形の塗りつぶし［図形の塗りつぶし］ボタンにポイントし、クリックします。



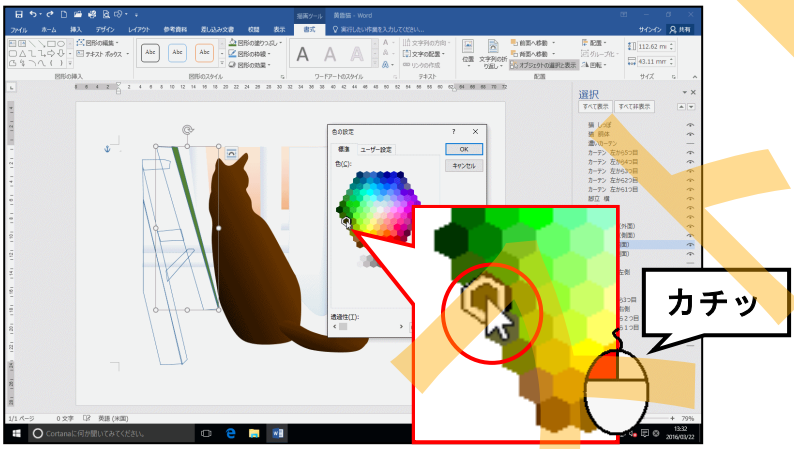
下に表示される一覧から［その他の色(M)...］ボタンにポイントし、クリックします。



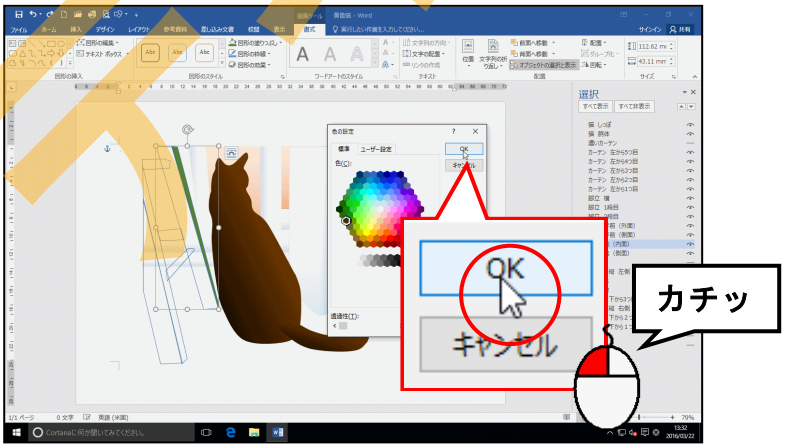
本紙



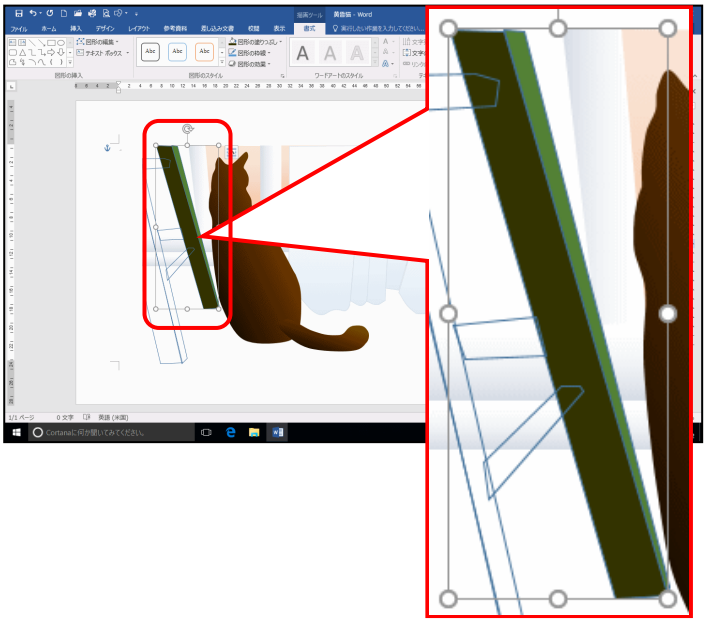
下図のマウスポインターの指す色をクリックします。



［色の設定］ダイアログボックス右上にある［ＯＫ］ボタンにポイントし、クリックします。

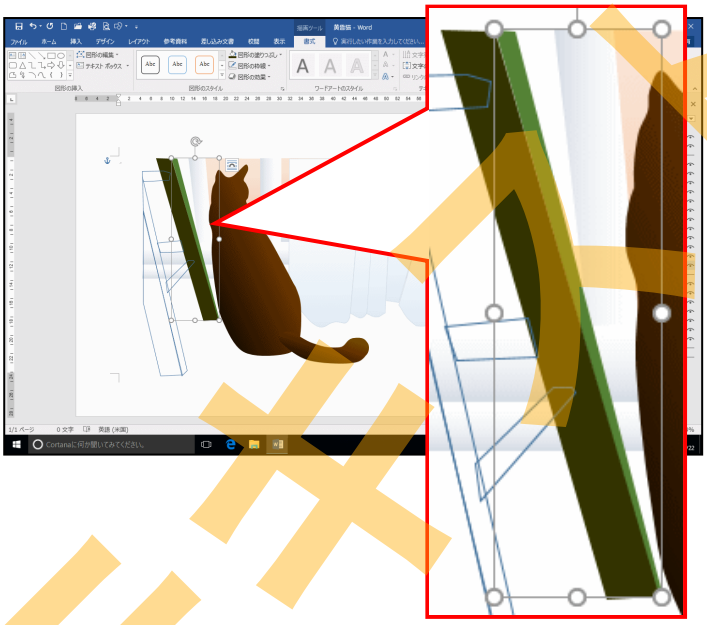


本番イメージ



●**「脚立　奥（内面）」**の色が変わりました。

「脚立　奥（内面）」、「脚立　奥（側面）」の線の色を「線なし」に設定します。



本書サンプル

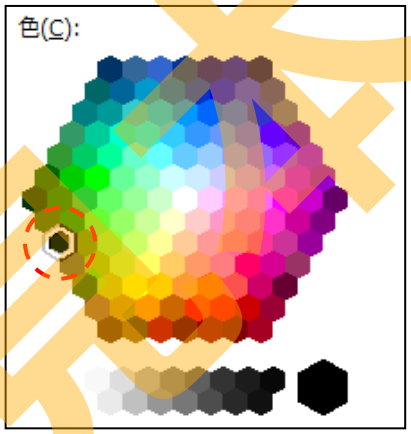
●操作の復習と、次の操作の準備として・・・

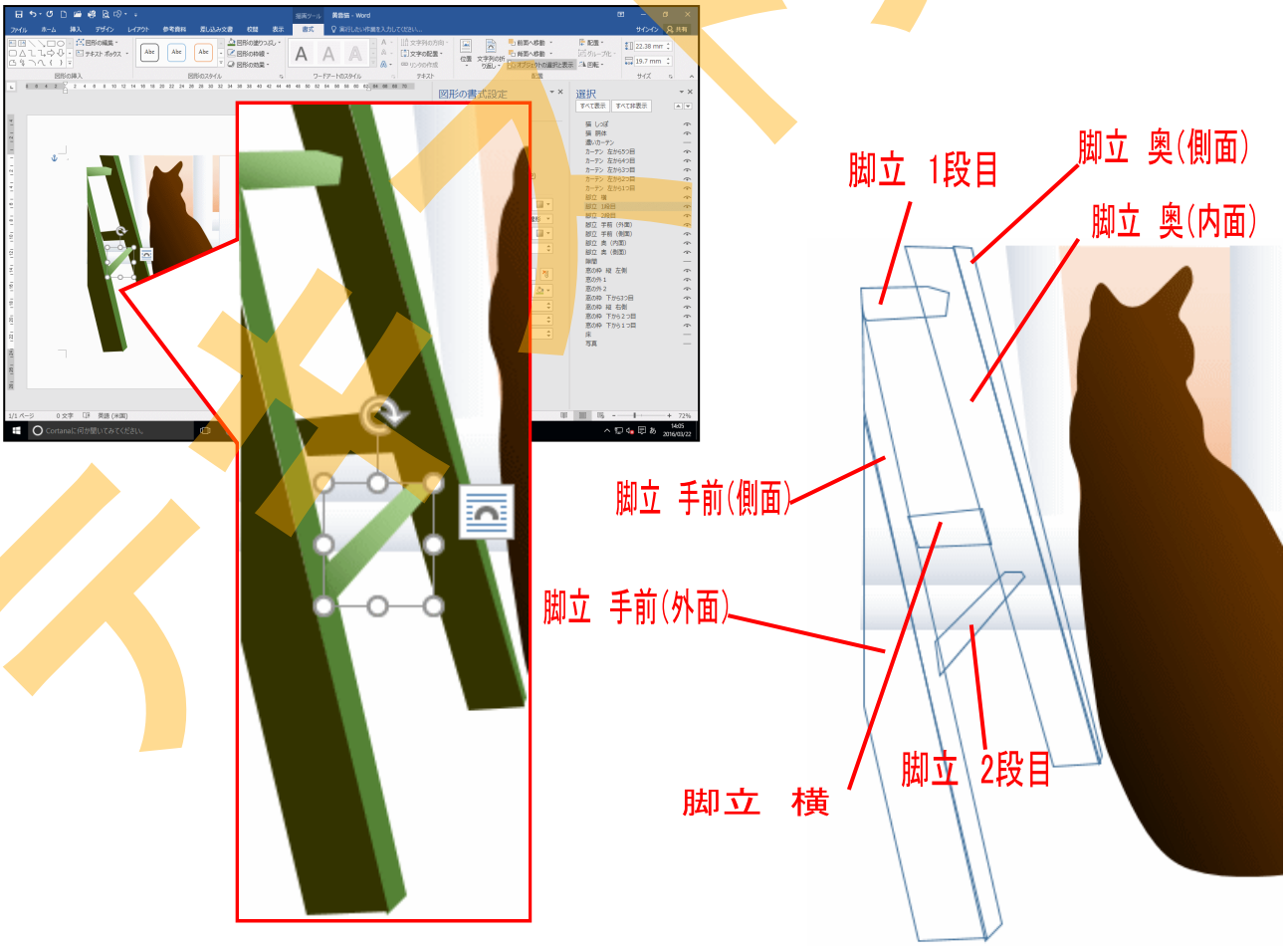
残りの脚立のオブジェクトに、下記の設定をしましょう。

塗りつぶしの色

- 「脚立　手前（側面）」:**「緑、アクセント６、黒+基本色 25%」**
- 「脚立　手前（外面）」:**その他の色**（右下図）
- 「脚立　１段目」
  グラデーション：分岐点左側→**「緑、アクセント６、白+基本色 40%」**
  分岐点右側→**「緑、アクセント６、黒+基本色 25%」**
  方向→**「斜め方向　右上から左下」**
- 「脚立　２段目」：１段目と同じ
- 「脚立　横」:**その他の色**（右下図）

図形の枠線：**線なし**





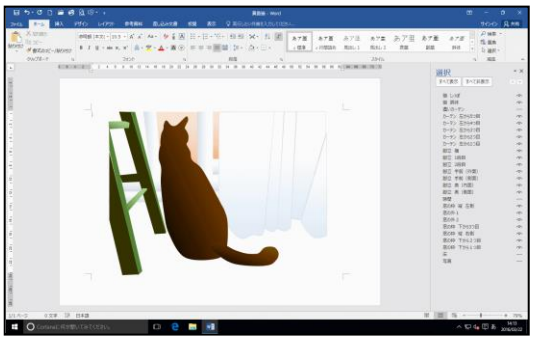
次の操作のために、オブジェクトの選択を解除し、[図形の書式設定] ウィンドウを閉じましょう。

（５）仕上げ

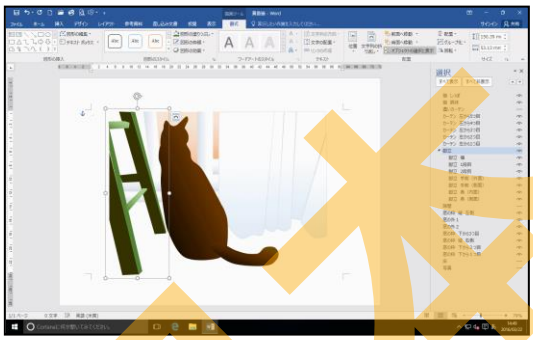
①　［選択］ウィンドウを活用してグループ化する

◆［選択］ウィンドウ内のオブジェクトをグループ化する方法をマスターしましょう。

操作前

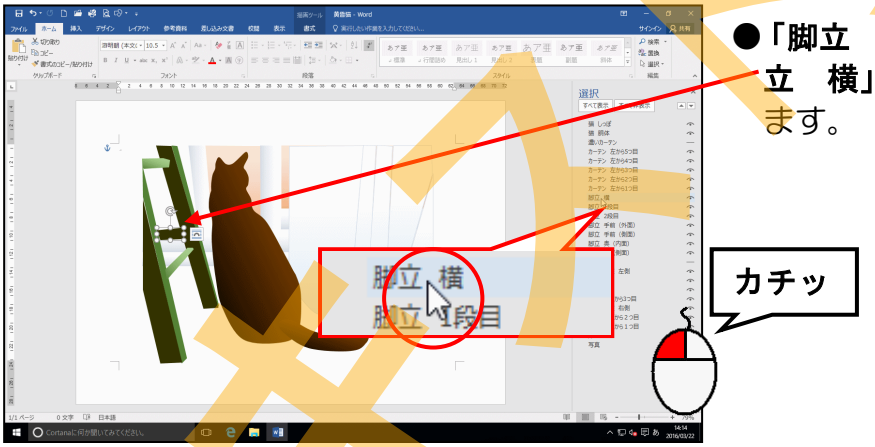


操作後



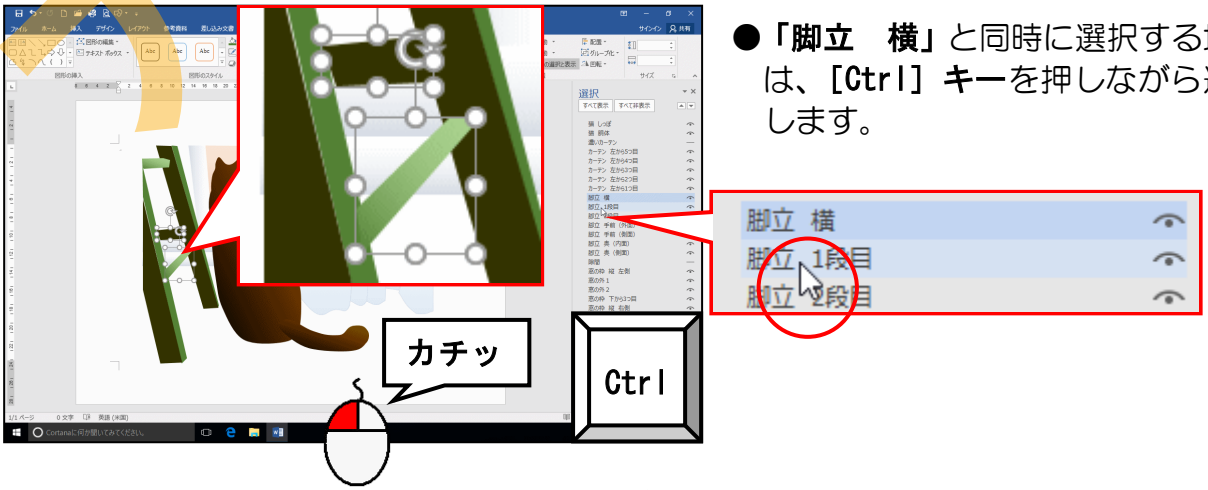


［選択］ウィンドウ内の、「脚立　横」にポイントし、クリックします。



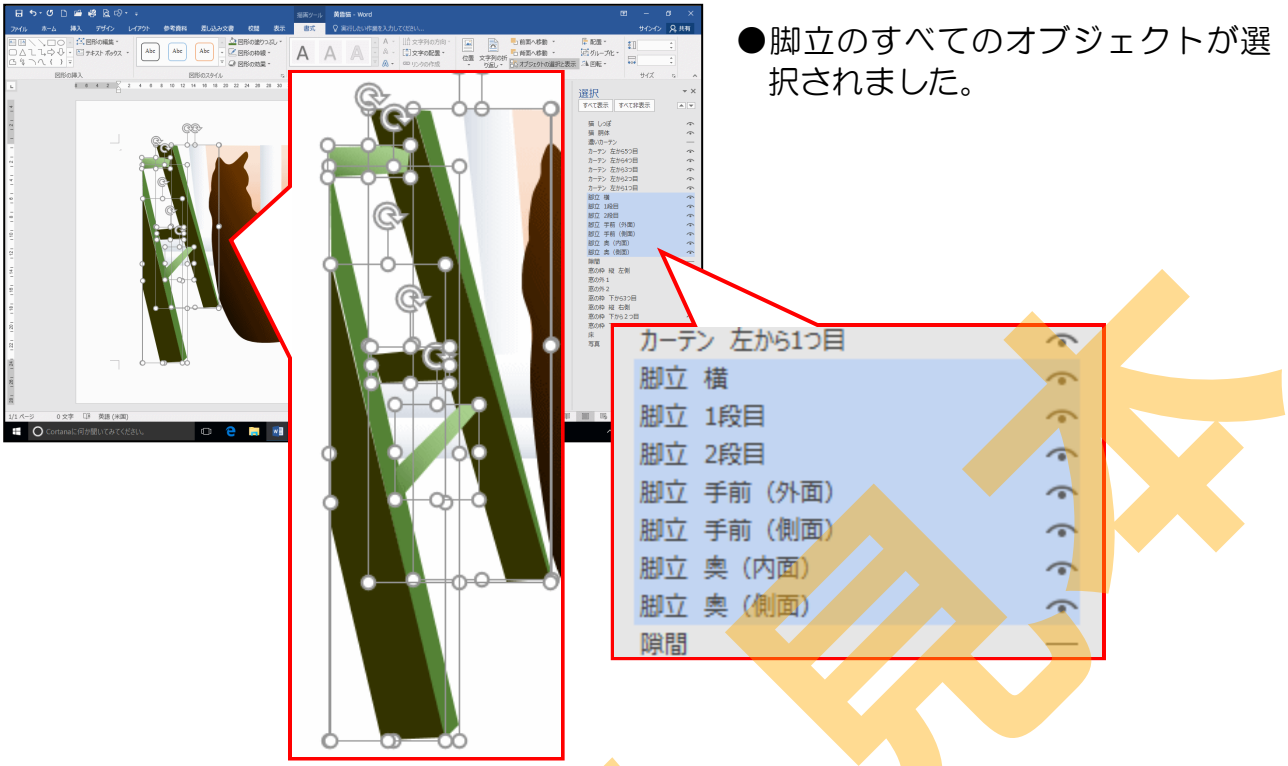
●**「脚立　横」**をクリックすると、**「脚立　横」**のオブジェクトが選択されます。

［Ctrl］キーを押しながら、［選択］ウィンドウ内の「脚立　１段目」にポイントし、クリックします。



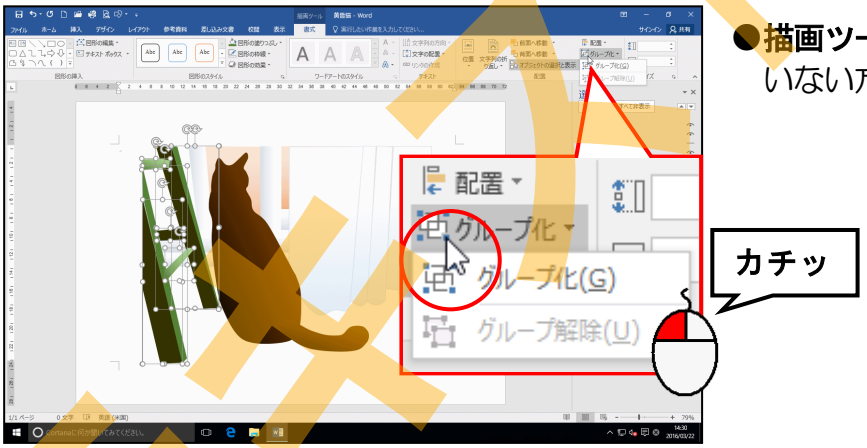
●**「脚立　横」**と同時に選択する場合は、**［Ctrl］キー**を押しながら選択します。

同様にして、「脚立　2 段目」～「脚立　奥（側面）」の脚立のオブジェクトをすべて選択します。



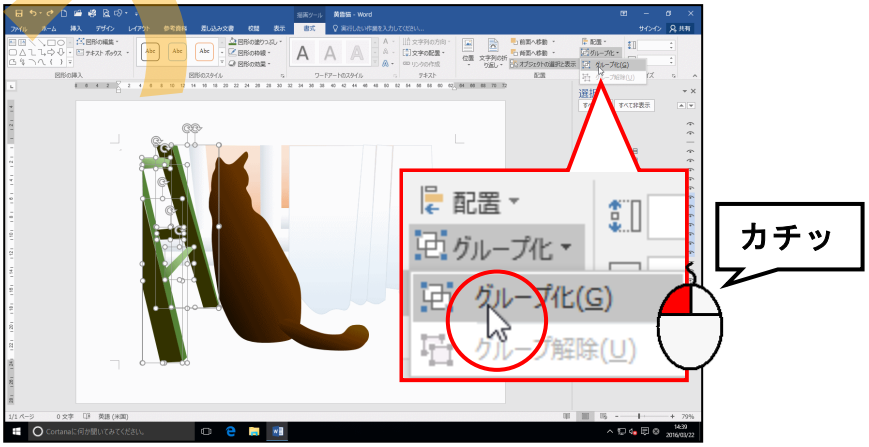
●脚立のすべてのオブジェクトが選択されました。

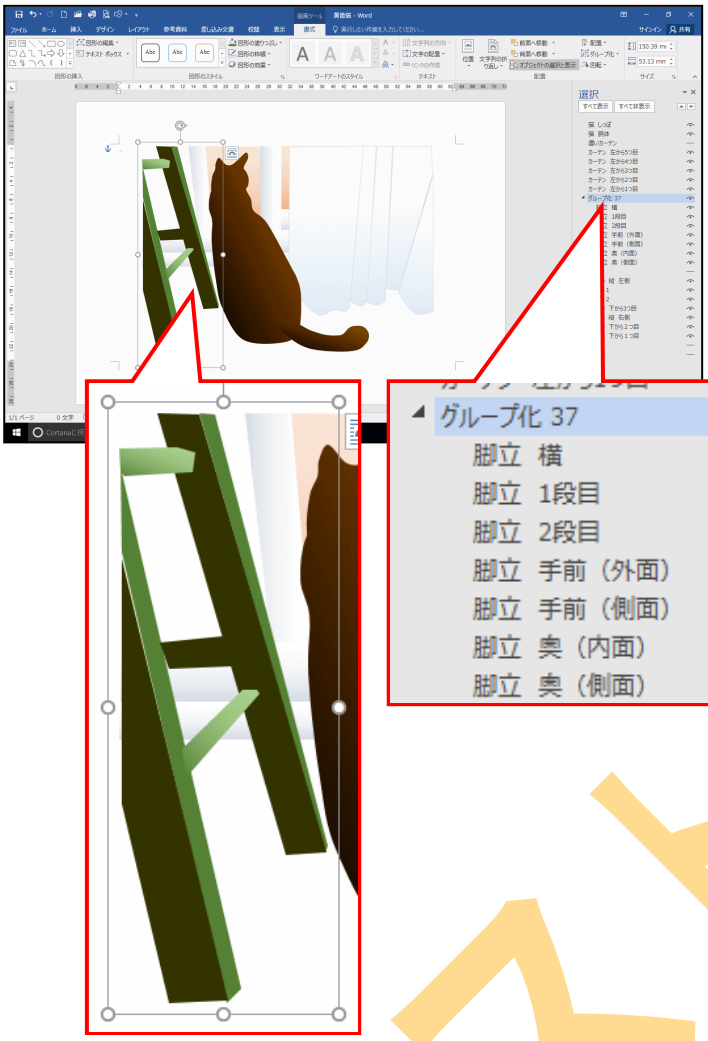
［配置］グループの［グループ化］ボタンにポイントし、クリックします。



●**描画ツール［書式］タブ**が選択されていない方は、選択しておきましょう。

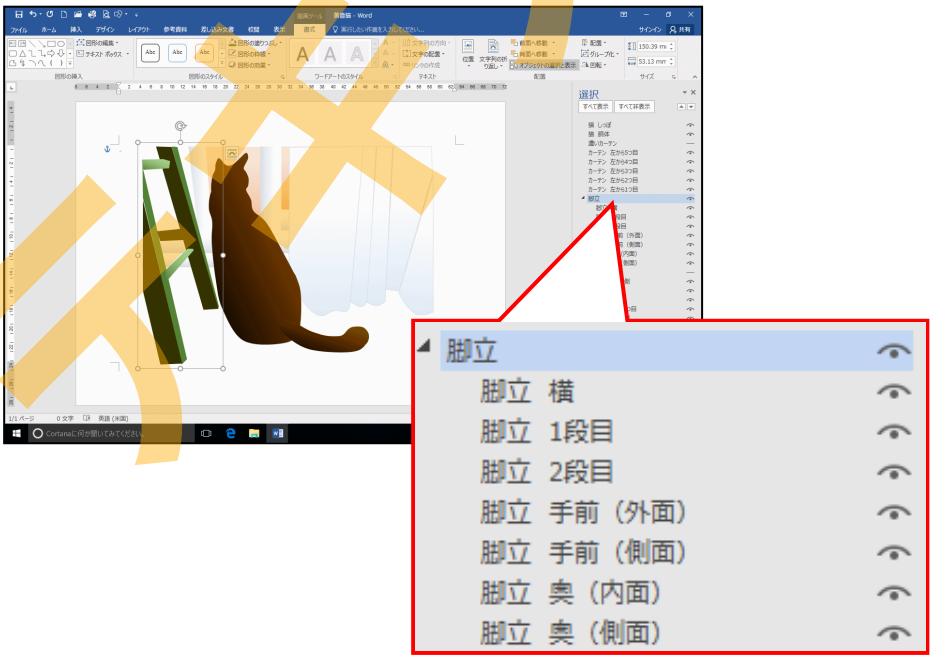
表示される一覧から［グループ化(G)］にポイントし、クリックします。





●脚立のオブジェクトがグループ化され、「**グループ化 37**」と名前が付きました。皆さんのグループ化されたオブジェクトがテキストと同じ番号とは限りません。

「グループ化 37」を「脚立」という名前に変更しましょう。



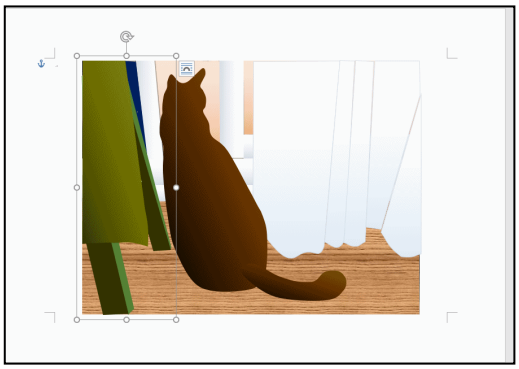
次の操作のために、すべてのオブジェクトを表示しておきましょう。

テキスト見本

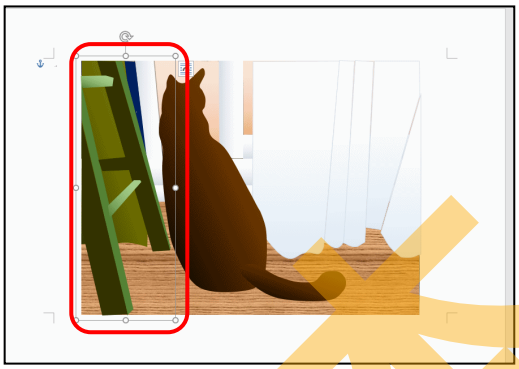
②　［選択］ウィンドウを活用して図形を入れ替える

◆[選択]ウィンドウを活用して図形を入れ替える方法をマスターしましょう。

操作前

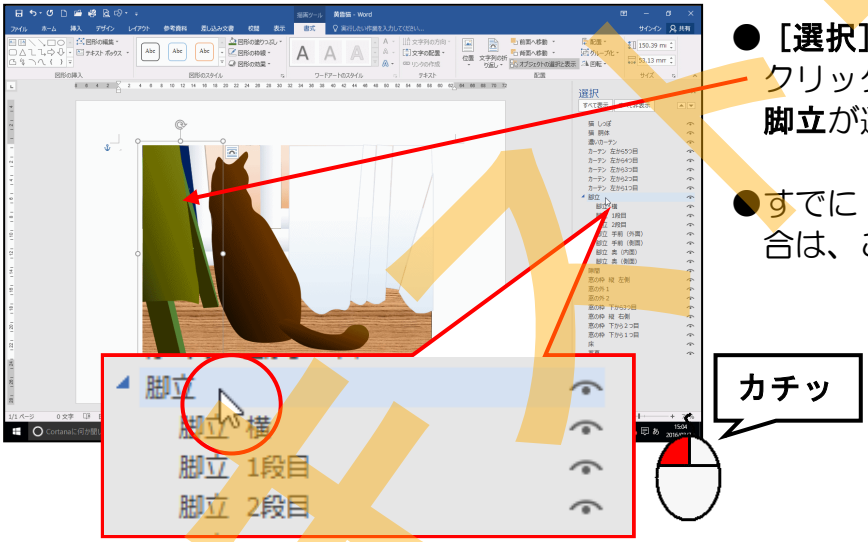


操作後





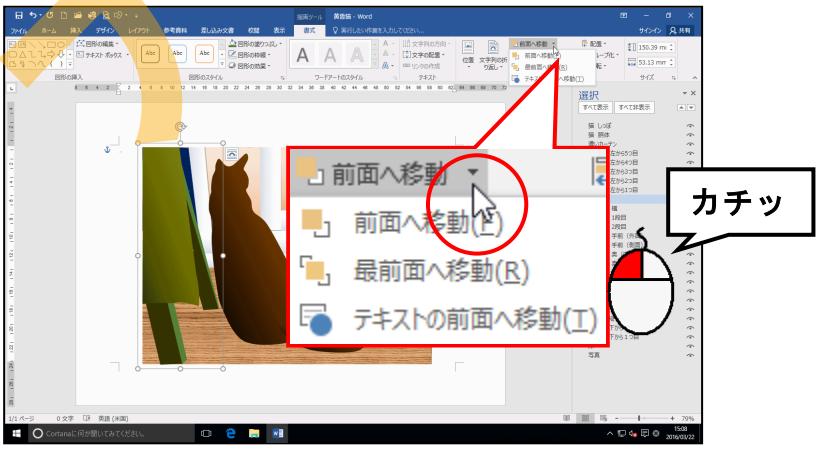
［選択］ウィンドウ内の、「脚立」にポイントし、クリックします。



●［選択］ウィンドウ内の「脚立」をクリックすると、グループ化された脚立が選択されます

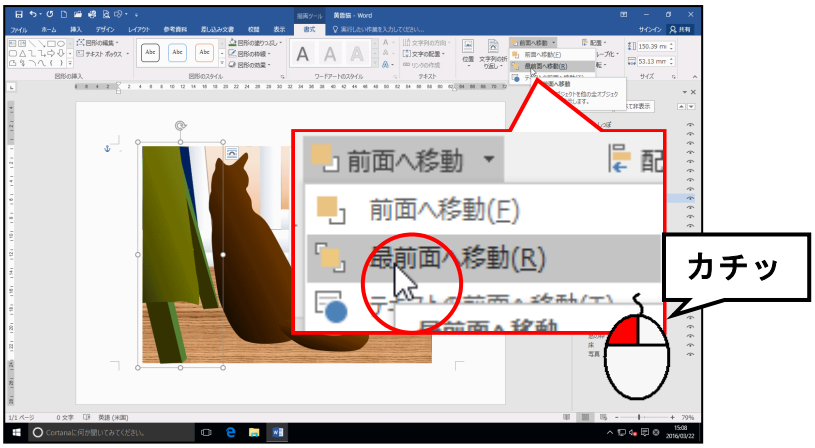
●すでに「脚立」が選択されている場合は、この操作は必要ありません。

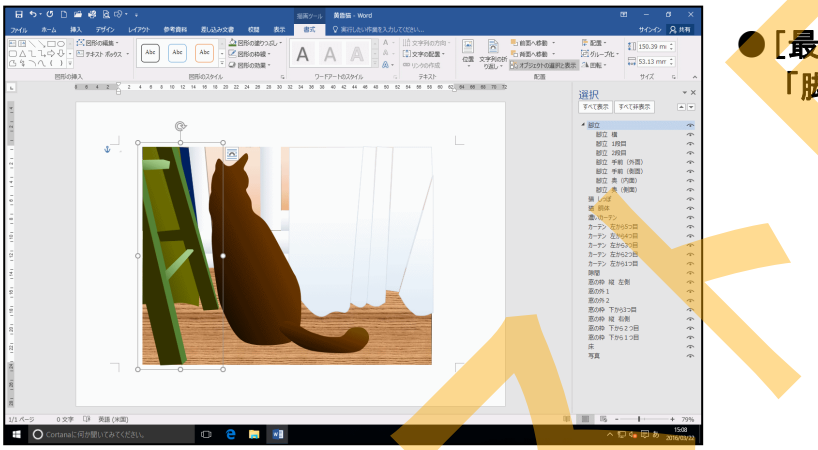
［配置］グループ内の、［前面へ移動］の右にある▼にポイントし、クリックします。



非売品

表示される一覧から［最前面へ移動］にポイントし、クリックします。





●［**最前面へ移動**］をクリックすると、「**脚立**」が一番前に移動しました。

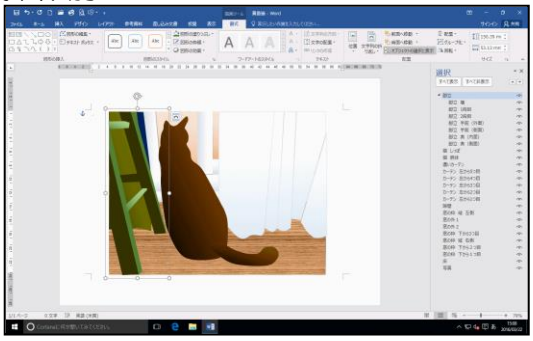
本見本

③ 挿入した写真を削除する

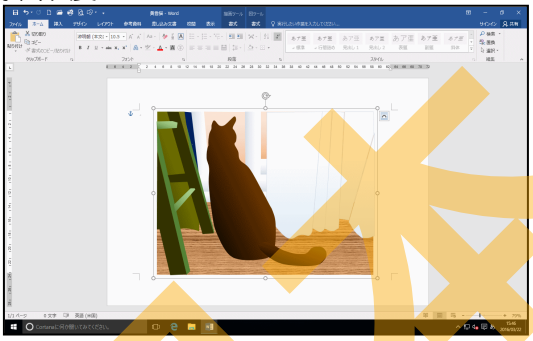
描いた図形をすべてをグループ化して保存する前に、一番初めに挿入した**「猫」**の写真を削除しましょう。

◆挿入した写真を削除する方法をマスターしましょう。

操作前

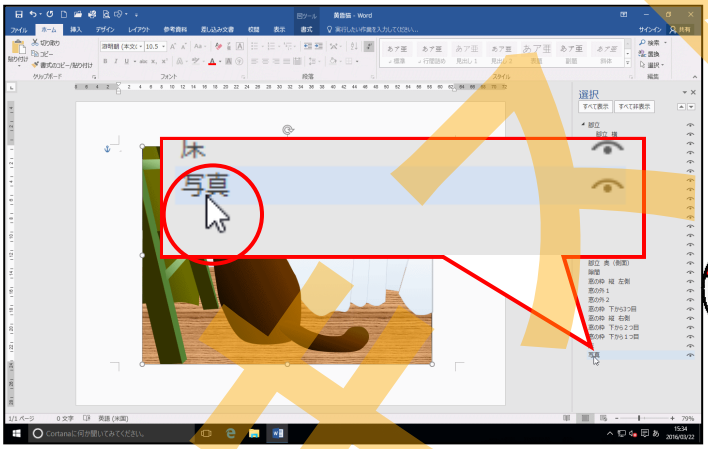


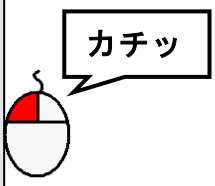
操作後

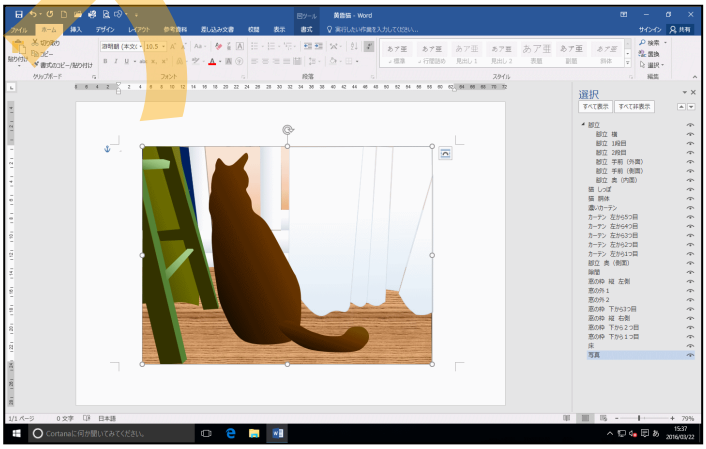




［選択］ウィンドウ内の、「写真」にポイントし、クリックします。

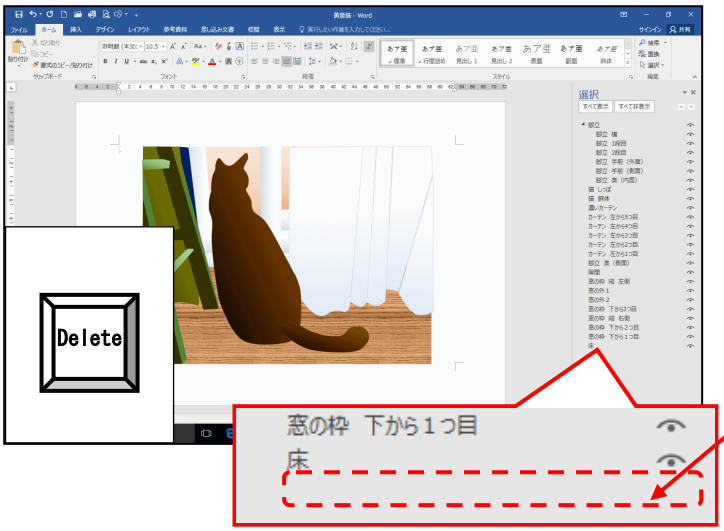






●写真が選択されました。

［Delete］キーを押して、「猫」の写真を削除します。

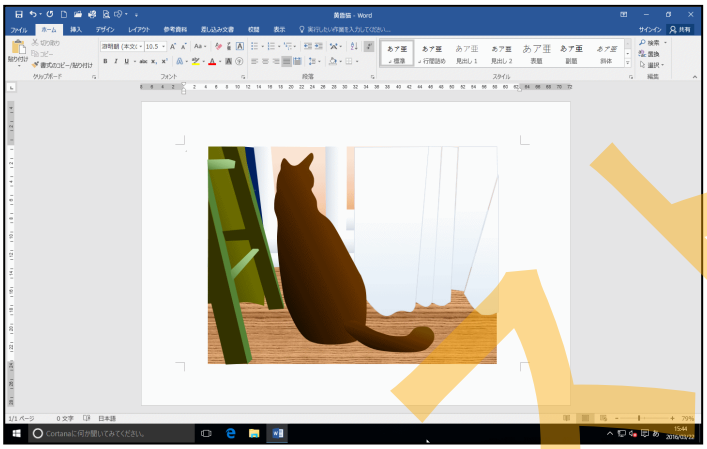


注意！

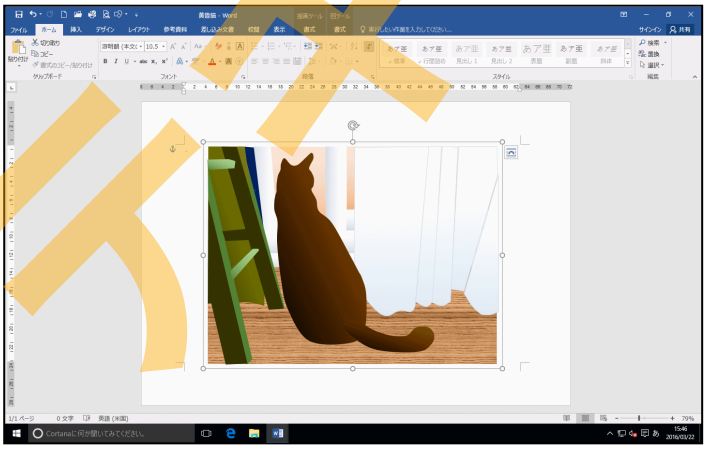
●「**写真**」を選択した際に表示されていた ○（**サイズ変更ハンドル**）が［**Delete**］**キー**を押して消えたことで、「**猫**」の画像が削除されたことが確認できます。

●［**Delete**］**キー**を押すと、［**選択**］**ウィンドウ**から写真が削除されました。

［選択］ウィンドウを閉じます。



すべてグループ化しておきましょう。



●今回は、［**オブジェクトの選択**］**ボタン**を使用して、グループ化をしましょう。

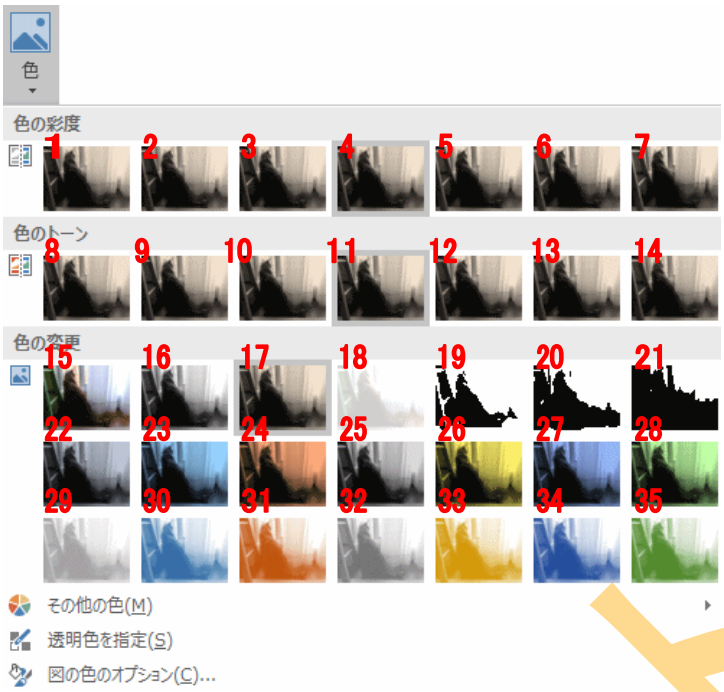
上書き保存をした後に、画像を PNG 形式で、「猫（画像）」という名前で USB メモリーに保存しましょう。

☆☆ここまでくれば練習問題 5 で理解度を試してください。☆☆

●補足説明（その４）P225～P226

●P160　色調の種類一覧

挿入した図に**色の彩度**や**色のトーン**、**色の変更**を設定する場合、色調を変更したい図を選択し、**図ツール**の［**書式**］**タブ**の［**調整**］**グループ**から［**色**］**ボタン**をクリックし、表示される種類から選択します。



色の彩度

1. 彩度 0%
2. 彩度 33%
3. 彩度 66%
4. 彩度 100%
5. 彩度 200%
6. 彩度 300%
7. 彩度 400%

色のトーン

8. 温度 4700K
9. 温度 5300K
10. 温度 5900K
11. 温度 6500K
12. 温度 7200K
13. 温度 8800K
14. 温度 11200K

色の変更

15. 色変更なし
16. グレースケール
17. セピア
18. ウォッシュアウト
19. 白黒：25%
20. 白黒：50%
21. 白黒：75%
22. ブルーグレー、テキストの色２ 濃色
23. 青、アクセント１（濃）
24. オレンジ、アクセント２（濃）
25. 50%灰色、アクセント３（濃）
26. ゴールド、アクセント４（濃）
27. 青、アクセント５（濃）
28. 緑、アクセント６（濃）
29. 25%灰色、背景色２ 淡色
30. 青、アクセント１（淡）
31. オレンジ、アクセント２（淡）
32. 50%灰色、アクセント３（淡）
33. ゴールド、アクセント４（淡）
34. 青、アクセント５（淡）
35. 緑、アクセント６（淡）

本試験対策

●P206　その他の色についての補足説明

●その他の色の設定方法について

その他の色の設定方法には、本テキスト内の操作方法以外に、**［ユーザー設定］タブ**を使う方法があります。

図形を選択した状態で、**［書式］タブ**の**［図形のスタイル］グループ**にある　**［図形の塗りつぶし］ボタン**から、**［その他の色(M)...］**をクリックします。
表示された**［色の設定］ダイアログボックス**で、**［ユーザー設定］タブ**に切り替えると、下図のような画面になります。

①…目的の色をクリックします。
②…◀のスライダーを上下にドラッグし、色の濃度を決めます。(上に行くほど薄くなり、下に行くほど濃くなります)
③…**「現在の色」**は、今の図形の色を表しています。**「新規」**は① ②で選択した新しい色のことです。

［ＯＫ］ボタンをクリックすると、図形の色が、③の新規の色に変わります。



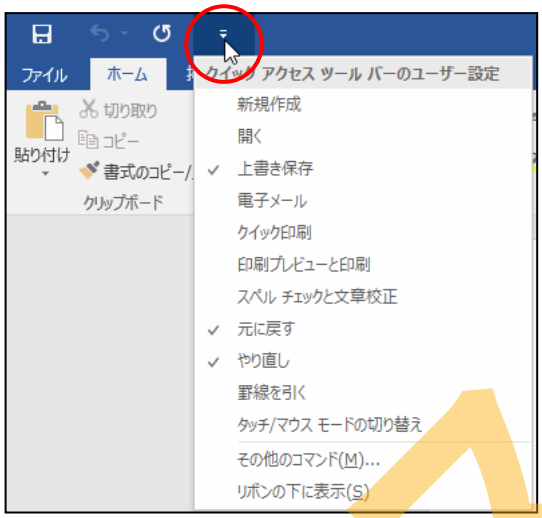
◆クイックアクセスツールバーにボタンを追加・削除する

本テキストでは、前提条件として［クイックアクセス］ツールバーは［新規作成］、［開く］、［クイック印刷］、［印刷プレビューと印刷］という非常によく使う４つのボタンが追加された状態でした。
ただし、一番最初にワード 2016 を開いた場合、初期状態として［上書き保存］、［元に戻す］、［繰り返し］（［やり直し］になることもあります）の３つしか表示されません。
ここでは、［クイックアクセス］ツールバーにそのほかのボタンの追加方法と削除方法について説明します。

■［クイックアクセス］ツールバーにボタンを追加する

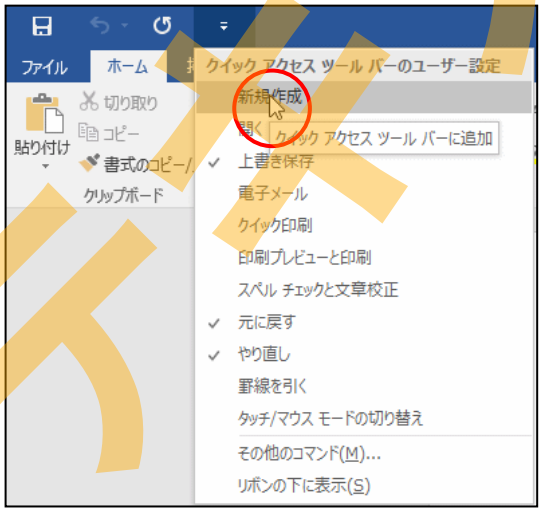
ここでは、［クイックアクセス］ツールバーに［新規作成］ボタンを追加してみましょう。

［クイックアクセス］ツールバーの右側にある［クイックアクセスツールバーのユーザー設定］ボタンにポイントし、クリックします。



をクリックすると、［クイックアクセス］ツールバーに追加できるボタンの一覧が表示されます。
現在表示されているボタンには名前の左側に ✓ が表示されます。

「新規作成」にポイントし、クリックします。



［クイックアクセス］ツールバーに［新規作成］ボタンが追加されました。

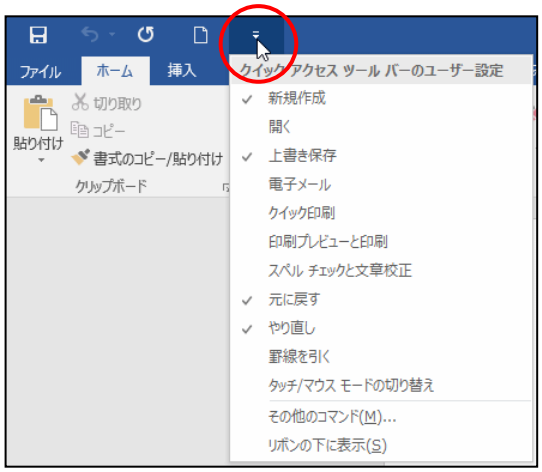


「新規作成」をクリックすると、左のように［クイックアクセス］ツールバー内に［新規作成］ボタンが追加されます。

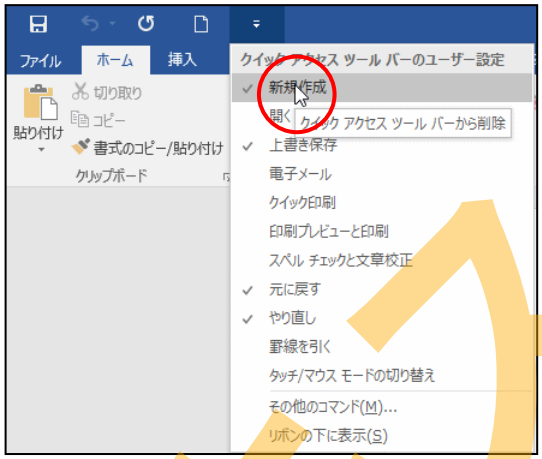
■［クイックアクセス］ツールバーのボタンを削除する

先ほど追加した［新規作成］ボタンを削除してみましょう。

［クイックアクセス］ツールバーの右側にある［クイックアクセスツールバーのユーザー設定］ボタンにポイントし、クリックします。



「新規作成」にポイントし、クリックします。



［新規作成］ボタンが［クイックアクセス］ツールバーに表示されているため「新規作成」の左側には ✓ が表示されています。

［クイックアクセス］ツールバーから［新規作成］ボタンが削除されました。



「新規作成」をクリックすると、左のように［クイックアクセス］ツールバー内の［新規作成］ボタンが削除されます。

他の［クイックアクセス］ツールバーのボタンも同様の操作で追加と削除することができます。

本テキスト

◆リボンの表示オプションの変更

ワードでいろいろと操作をしているうちに、下のようにリボンが非表示になる場合があります。リボンが非表示になると、ボタンも押せなくなってしまうため、文字の書式設定やページ設定など様々な設定を行うときに大変不便です。

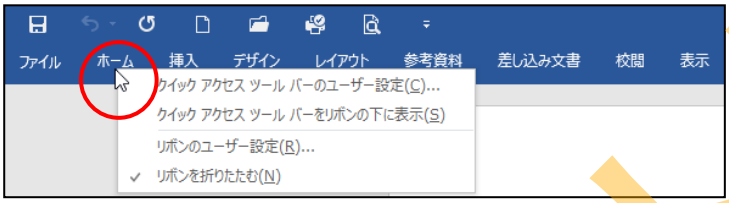
■非表示になったリボン



リボンが表示されないため、
ボタンも表示されません

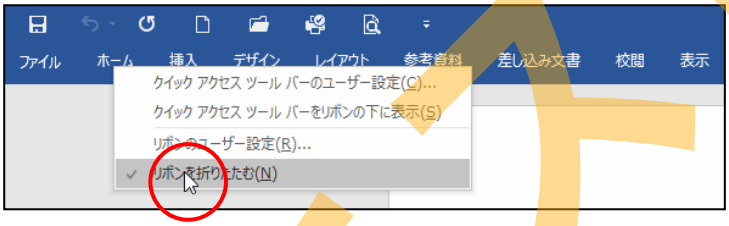
非表示になったリボンを元に戻すには、次のように操作します。

タブにポイントし、右クリックします。

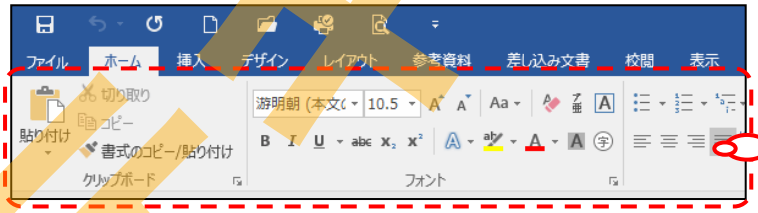


右クリックするタブは、どのタブでも構いません。

表示された一覧から［リボンを折りたたむ(N)］をクリックします。



リボンが表示されました。



リボンが復元され、ボタンが表示されます

余裕があれば読んでね

下記のようにタブにポイントし、ダブルクリックする方法でも、リボンは表示されます。
（ダブルクリックするタブは、どのタブでも構いません。）





テキスト原本

◆テキストの手引き

練習問題や実際にワードを使っていて、テキストで覚えたあの機能は何ページに書いてあったっけ？ と迷われた時のためにテキスト内の成果物と機能についての該当ページを記載しています。

●「テントウムシ」完成版



図形の変形 P28～

図形の挿入 P6～
図形の移動 P9～
図形の削除 P11～
元に戻す P13
図形の塗りつぶし P14～
図形の枠線 P16～
図形のコピーP19～
図形の回転 P21～
図形のサイズ変更 P25～
図形の枠線の太さ P32～
図形のグループ化 P34～
図形の順序 P38～

ワードの保存 P42～
画像を PNG 形式で保存 P47～
図形を描きやすくする方法 P54

●「テントウムシ」アート効果つき 完成版

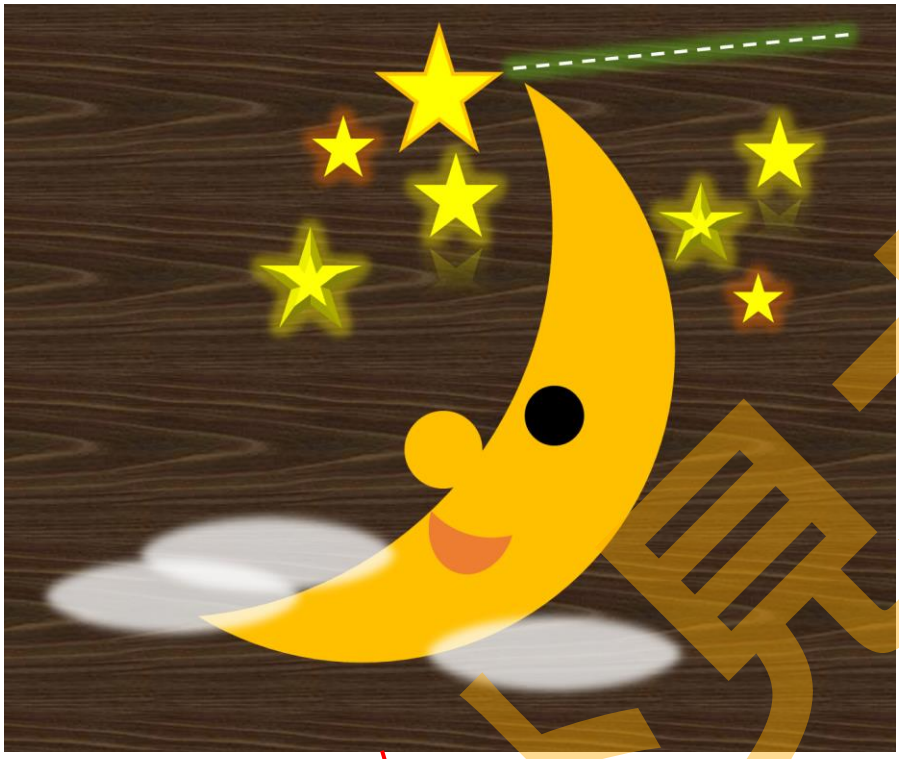


画像の挿入 P56～
画像にアート効果を設定する P60～
ワードアートの挿入 P64～
ワードアートにアート効果を設定する P70～
アート効果一覧 P75

赤ページは本編のページを示しています。
青ページは補足説明のページを示しています。

サンプル

●「月と雲」完成版



画面の設定 P77～
背景色の設定 P80～
お月さまを描く P82～
ぼかしの設定 P89～
透明度の設定 P91～
図形の効果の設定 P95～
書式のコピーP102～
背景を入れる（テクスチャ）P109～

赤ページは本編のページを示しています。
青ページは補足説明のページを示しています。

本文イラスト

●「なすび」完成版



赤ページは本編のページを示しています。
青ページは補足説明のページを示しています。

体験版

●「猫」完成版

写真の挿入 P157～
図形の既定値の変更 P164～
始点と終点をつなげる（閉じたパス）P169～
写真を非表示にする P174～
カーテンを描く（頂点を中心にスムージングする）P179～
カーテンを描く（頂点の位置をずらす）P183～
オブジェクトに名前を付ける P190～
[選択]ウィンドウを活用して塗りつぶす P198～
その他の色（グラデーション）を利用して塗りつぶす P203～
グラデーションの分岐点を追加 P209～
その他の色を利用して塗りつぶす P213～

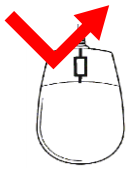
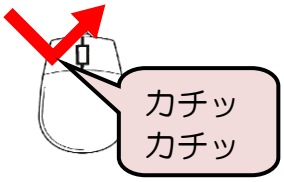
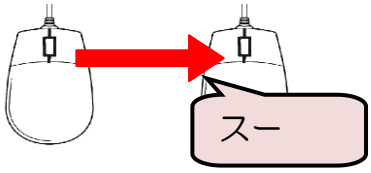
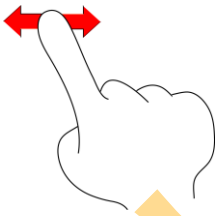
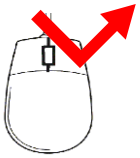
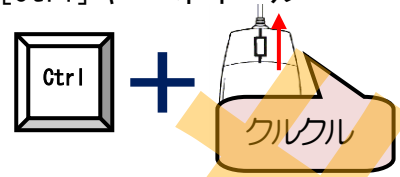
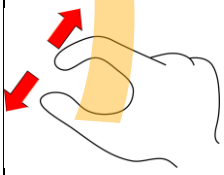
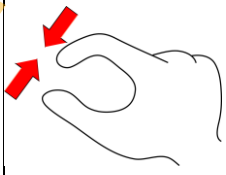
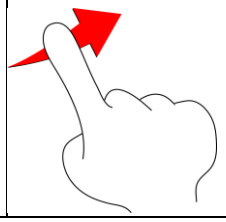


[選択]ウィンドウを活用してグループ化する P218～
[選択]ウィンドウを活用して図形を入れ替える P221～
挿入した写真を削除する P223～
色調の種類一覧 P225
その他の色についての補足説明 P226

赤ページは本編のページを示しています。
青ページは補足説明のページを示しています。

◆タッチパネルの基本操作

■タッチパネルの操作において、マウスに相当する操作との対応表になります。

マウスに相当する操作	タッチパネルの操作	説明
クリック 		マウス操作におけるクリックに相当し、画面を指で軽く叩く操作。
ダブルクリック 		画面を指で軽く叩く「タップ」操作を２回繰り返す操作。
ドラッグ 		タッチしたまま、目的の場所まで指をすべらせる操作。
右クリック 		長押しする操作で、長押しして指をはなすとショートカットメニューが表示されます。
[Ctrl]キー+ホイール 		画面上の操作対象を広げるように２本の指を離していき、画面を拡大させる操作。
[Ctrl]キー+ホイール 		画面をつまむようにして２本の指を近づけ、画面を縮小させる操作。
フリックに該当するマウス操作がないため、表記していません。		画面に触れた指を少しだけスライドさせる操作で、指で画面上を押してから、さっとはじくように動かす操作。

※上記のタッチパネル操作名は、様々な名称がありますが、本テキストではこの名前で表記しています。

テキスト用

◆索引

あ行

アート効果 ・・・・・・・・・・・・・・・ 60
アート効果一覧 ・・・・・・・・・・・・・ 75
お月さまを描く ・・・・・・・・・・・・・ 82
オブジェクトに名前を付ける ・・・・ 190
オブジェクトの再表示 ・・・・・・・・ 176
オブジェクトの非表示 ・・・・・・・・ 175

か行

回転ハンドル ・・・・・・・・ 24、84、87
画像の挿入 ・・・・・・・・・・・・・・ 56
画像を PNG 形式で保存・・・・・・・・ 47
画面の設定 ・・・・・・・・・・・・・・ 77
曲線（なすびを描く） ・・・・・・・・ 117
グラデーションの設定 ・・・・・・・・ 141
グラデーションの分岐点の追加 ・・・ 209
グラデーションの分岐点を削除 ・・・ 146
グリッド線 ・・・・・・・・・・・・・・ 54
光彩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
コピーについての注意点 ・・・・・・・ 20
コントロールポイント ・・・・・・・・ 129

さ行

色調の種類一覧 ・・・・・・・・・・・ 225
始点と終点をつなげる（閉じたパス） 169
写真を左右中央揃えにする ・・・・・ 162
写真を非表示にする ・・・・・・・・・ 174
写真の挿入 ・・・・・・・・・・・・・ 157
書式のコピー ・・・・・・・・・・・・ 102
図形の移動 ・・・・・・・・・・・・・・ 9
図形の回転 ・・・・・・・・・・・・・・ 21
図形の既定値の変更 ・・・・・・・・・ 164
図形のグループ化 ・・・・・・・・・・ 34
図形の効果の設定 ・・・・・・・・・・ 95
図形の効果（光彩）・・・・・・・・・・ 96
図形の効果（反射）・・・・・・・・・・ 100
図形の効果（面取り）・・・・・・・・・ 98
図形のコピー ・・・・・・・・・・・・・ 19
図形のサイズ変更 ・・・・・・・・・・ 25
図形の削除 ・・・・・・・・・・・・・・ 11
図形の順序 ・・・・・・・・・・・・・・ 38
図形の挿入 ・・・・・・・・・・・・・・ 6
図形の塗りつぶし ・・・・・・・・・・ 14
図形の変形 ・・・・・・・・・・・・・・ 28
図形の枠線 ・・・・・・・・・・・・・・ 16
図形の枠線の太さ ・・・・・・・・・・ 32
図形を描きやすくする方法 ・・・・・・ 54
セピア ・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
選択ウィンドウの表示方法 ・・・・・・ 174
選択ウィンドウを活用してグループ化 218
選択ウィンドウを活用して
　図形の入れ替え ・・・・・・・・・・ 221
選択ウィンドウを活用して
塗りつぶす ・・・・・・・・・・・・・ 198
挿入した写真を削除する・・・・・・・・ 223
その他の色の設定方法・・・・・・・・・ 226
その他の色を使う ・・・・・・・・・・ 213
その他の色（グラデーション）・・・・ 203

た行

頂点についての補足説明・・・・・・・・ 155
頂点を基準にする ・・・・・・・・・・ 131
頂点を表示する ・・・・・・・・・・・ 121
頂点を中心にスムージングする・ 127、179
頂点の位置をずらす ・・・・・・・・・ 183
頂点の削除 ・・・・・・・・・・・・・ 138
頂点の追加 ・・・・・・・・・・・・・ 136
テクスチャ ・・・・・・・・・・・・・ 109
透明度の設定 ・・・・・・・・・・・・ 91
閉じたパス ・・・・・・・・・・・・・ 169

な行

なすびの形を変更（頂点を使用）・・・ 121
なすびのじくを描く（頂点の追加）・・ 136
なすびのへたを描く（フリーフォーム） 124
なすびのへたをなめらかに描く（頂点を基準
　にする）・・・・・・・・・・・・・・ 131
なすびのへたをなめらかに描く（頂点を中心
　にスムージングする）・・・・・・・・ 127
なすびを描く（曲線）・・・・・・・・・ 117

は行

背景を入れる（テクスチャ）・・・・・ 109
背景色の設定 ・・・・・・・・・・・・ 80
パターンで塗りつぶす・・・・・・・・・ 154
反射 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
PNG 形式 ・・・・・・・・・・・・・・・ 47
フリーフォーム ・・・・・・・・・・・ 124
ぼかしの設定 ・・・・・・・・・・・・ 89
保存（PNG 形式）・・・・・・・・・・・ 47
ボタンの登録 ・・・・・・・・・・・・ 114

ま行

面取り ・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
元に戻すボタン ・・・・・・・・・・・ 13
文字列の折り返し ・・・・・・・・・・ 61

わ行

ワードアートにアート効果を設定する・・ 70
ワードアートの挿入 ・・・・・・・・・ 64
ワードの保存 ・・・・・・・・・・・・ 42

試用版

ワードでおえかき

２０１６年５月２７日　　初版　　第１刷発行

本書の無断複写複製(コピー)は、特定の場合を除き、著作者の権利侵害になります。

連絡先

●Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
●その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
●テキストに記載されている内容、仕様は予告なしに変更されることがあります。
●本文中では、®や TM などのマークは省略しています。
●本文中での挿絵は、フリーイラスト素材集「GATAG」または「Pixabay」の、パブリックドメインのライセンスのものを利用しています。